

# DAILY<sup>®</sup> PROGRAM

## 大学受験デイリープログラム80日

高校3年

日本史

《見本》

1

時代別48日間—原始・古代11日間

第1日	先土器～古墳時代の社会と文化	4
第2日	古代国家の形成と対外関係	16
第3日	律令国家の形成と律令制度	28
第4日	律令政治の変容と対外関係	40
第5日	摂関政治と院政	51
第6日	古代社会の変容	64
第7日	古代の仏教	75
第8日	古代の文化	87
第9日	古代の史料	99
第10日	総合問題	110
第11日	論述問題	116

時代別48日間—中世9日間

第12日	中世の政治と対外関係 1	120
第13日	中世の政治と対外関係 2	133
第14日	中世の社会	145
第15日	中世の産業経済	155
第16日	中世の仏教	165
第17日	中世の文化	176
第18日	中世の史料	188
第19日	総合問題	199
第20日	論述問題	206

# TRAINING PAPER®

大学受験デイレプログラム高校日本史

## 効果的な使い方

### ♣日本史の受験対策をこのプログラムで完成させます

- 日本史大学受験デイレプログラムは、これまでの入試問題を徹底的に分析し、厳選した良問を収録した実戦演習形式の入試対策プログラムです。全5巻80日間は、次の構成になっています。(詳しい構成は左の表を参照してください)

#### 第1巻～第3巻…前編

時代別48日間 原始・古代、中世、近世、近現代の4章に分けて、単元別に学習します。

#### 第4巻～第5巻…後編

部門別20日間 政治史・対外関係史・社会経済史・文化史・地域史に分けて、テーマ別に学習します。

観点別7日間 ここからは、仕上げの段階です。まず、人物・事績・系図、地図と地名、年表と年代など、型に焦点をしばって入試の応用力を高めます。

総合演習5日間 実際の入試に近い構成にしてあります。本番の入試のつもりでとりくんでください。

- 第5巻の末尾には、付録として、総仕上げチェックが5回分あります。読み取り、書き取り、作者と作品など、まちがえやすいことがらに的をしばってあります。入試では思わぬミスをしがちです。入試直前の短時間チェックで正確な答ができるようにしておきましょう。

### ♣1日の学習を効果的に進めるために

- 全80日の各日の解答は各巻の巻末にまとめてあります。
- 全80日の各日の構成は大きく2つに分かれます。
- チェック問題ではじまる日

#### チェック問題

その日を理解する上でたいせつな事項のチェック問題です。1つ1つの事項を正確に答えられるようにしましょう。

◇1つ1つの事項をきちんと覚え、弱点をなくしておこう



#### 例題

チェック問題の最後にある問題です。入試問題の中から重要な問題を選んであります。解説もよく読んでください。

◇例題は完全にマスターしよう



#### 類題トレーニング

入試問題の中から重要なテーマを選び、小テーマから大テーマ、標準的な問題から応用問題へと、順を追って実戦力を高めます。

◇入試に十分な実戦力を身につけていこう



#### 用語チェック

その日を理解する上で重要な歴史用語の解説です。チェックや類題トレーニングの途中で見てもかまいません。

◇用語解説をよく読んで理解を深めよう

## ●入試問題ではじまる日

チェック問題・用語チェックのない構成の日で、直接入試問題にあたって実戦練習を深めます。総合演習5日間以外は類題トレーニングがついています。

### 時代別総合問題の日

時代別の学習の仕上げとしてとりこんでください。余裕があれば、類題トレーニングにもチャレンジしましょう。

### 時代別論述問題の日

論述問題は1日4題～5題で構成してあります。重要テーマを重点的に選んであるので、自分の知識の整理をすることにも役立ちます。

### 観点別第74日～第75日

入試では図表を使った問題、時代・部門にとらわれない総合問題も出題されます。ここではその実戦練習をします。力だめしのつもりでとりこんでみましょう。類題もぜひ解いてください。

### 総合演習5日間

最後の5日間です。入試本番に近い形で問題を構成してあります。また、1日ごとに入試傾向を意識して特色をもたせてあります。

## ♣効果的な使い方と入試問題を解くためのアドバイス

●プログラムにそって学習を進めるときに、次のような工夫をするとより効果的です。

- ① チェック問題と用語チェック(用語解説)には、□のチェック欄がついています。できなかったもの、不安なものには印を付け、何度も練習しておきましょう。
- ② 問題には解答を書き込めるようにしてあります。語句記述や文章記述は特に正確に書く習慣を身につけてください。
- ③ 類題トレーニングの中にはむずかしい設問も含まれています。解説に難問などと記してあるものは、無理に覚える必要はありません。また、一度ですべて完全に覚える必要もありません。まちがえたところ、不安なところに印を付け、あとでまたチャレンジしてください。
- ④ できごと、人物と事績などの事項を1つ1つきちんと正確に覚えるようにし、教科書程度の事項内容を十二分に把握しておくことが何よりもまずたいせつです。

●入試問題を解く上でのアドバイス

- ① 一見むずかしそうな問題でも、たいてい文中にヒントとなることばがでてくるものです。問題をよく読む習慣を身につけてください。
- ② 入試レベルでは、単なる暗記でなく、5W1Hとして理解しておくことがのぞまれます。問題を解いたり解説を読む際には、因果関係なども意識しながらとりくむようにしましょう。
- ③ 史料問題では、史料の中にキーワードがでてくるものです。重要な史料には日頃から慣れしておくようにするとともに、キーワードとなる語句を見逃さないようにしてください。
- ④ 正確な読み書き、作者と作品の結び付け、類似語句の峻別などは、案外つまずきやすいものです。答え合わせはていねいにしましょう。付録の総仕上げチェックは、こうしたケアレスミスを生じやすいものを集中的に集めてあります。入試直前はもちろん、それ以前でも何度もとりこんでください。
- ⑤ 実際の入試は、標準レベルの問題(設問)を確実に解いてください。一部の高度な難問に時間をとられて、確実に得点できるものを逃さないことです。

♣第1巻は時代別 原始・古代、中世 20日間です。さつそくはじめましょう。

# 時代別 原始・古代 11日間

単元別 第1日～第8日

史料問題 第9日

総合問題 第10日

論述問題 第11日

# 第1日 先土器～古墳時代の社会と文化

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

## 1 (0101) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)岩宿遺跡で黒曜石の石<sup>せきぞく</sup>鏃片をはじめて発見したアマチュア考古学者。〔 〕
- (2)1877年、東京近郊で大森貝塚を発見したアメリカの動物学者。〔 〕

## 2 (0102) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項－先土器～縄文時代〉

- (1)氷河期と間氷期がくり返され、人類が発生した地質学上の時代区分。〔 〕
- (2)約1万年前に始まり、新石器文化の段階に進んだ地質学的時代名。〔 〕
- (3)縄文文化に先行する文化で、無土器文化などともいわれる。〔 〕
- (4)握<sup>にぎりつち</sup>槌・尖頭器<sup>せきじん</sup>・石刃など、石を欠いて使用した石器の総称。〔 〕
- (5)表面に押形文様・隆起線文などをつけた黒褐色で厚手の土器の総称。〔 〕
- (6)打製石器に対し、沖積世(完新世)になってはじめて作られた石器の総称。〔 〕
- (7)地面を少し掘り下げ、その上に柱と屋根を仕かけた簡単な住居。〔 〕
- (8)食物のごみすて場として設けられたもので、人骨なども出土する。〔 〕
- (9)安産や豊穡などを祈願してつくったとみられる土人形。東日本に多い。〔 〕
- (10)成年式のために行ったとみられる呪術的な習慣。犬歯などを抜いた。〔 〕
- (11)死者の靈魂を封じ込めるため、死体を折り曲げる形で埋葬する方式。〔 〕
- (12)長野県和田峠や熊本県阿蘇山などに産する石。交易にも使用された。〔 〕

〈事項－弥生～古墳時代〉

- (1)弥生時代、大陸から伝わった青銅器や鉄器の総称である。〔 〕
- (2)畿内を中心に分布する青銅器。樂器とも祭祀用具ともいわれる。〔 〕
- (3)低湿地の深田に入るときに用いたとみられる木製農具である。〔 〕
- (4)実った穀物の穂をつみとる際に用いたとみられる半円形の石器。〔 〕
- (5)弥生時代、穀物を貯蔵した倉庫で、登呂遺跡などで確認された。〔 〕
- (6)弥生時代、北九州の一部にみられた南朝鮮の影響をうけた墓制。〔 〕
- (7)死者の両脚を伸ばして埋葬する形式。弥生時代中期以降に発達した。〔 〕
- (8)班固<sup>はんこ</sup>が編纂した漢(前漢)の史書(正史)の一部。紀元前1世紀の倭の様子を記す。〔 〕
- (9)後漢の正史の一部で、なかには奴国王の朝貢記事が含まれている。〔 〕
- (10)1784年、福岡県志賀島で発見された金印に刻まれていた5文字。〔 〕
- (11)邪馬台国の女王卑弥呼が239年、魏に使者を派遣して得た称号。〔 〕
- (12)陳寿が著した三国時代の正史の一部。邪馬台国についてふれている。〔 〕
- (13)中国吉林省にたつ碑。倭が391年、高句麗と交戦したと刻まれている。〔 〕
- (14)中国史書にみえる、讚・珍・濟・興・武の5人の大王の総称。〔 〕
- (15)前部が方形、後部が円形の特異な外形をした高塚式古墳である。〔 〕
- (16)前・中期の高塚式古墳にみられる石室。封土の周囲を葺石<sup>ふきいし</sup>で覆った。〔 〕
- (17)勾玉<sup>まがたま</sup>や鏡、馬具など、古墳内部などに遺体とともに埋葬する品々の総称。〔 〕

- (18) 後期の高塚式古墳にみられる石室で、羨道と玄室から構成される。 [ ]
- (19) 6世紀～7世紀にかけて、小規模な墳墓が密集してつくられた。 [ ]
- (20) 弥生式土器の流れをくむ土器。大和時代、土師部が製作した。 [ ]
- (21) 朝鮮系の新技術で製作された土器で、祝部土器などともいわれる。 [ ]
- (22) 熱湯に手を入れて、火傷の有無によって真偽を確かめる神判。 [ ]
- (23) 鹿の骨を焼いて、その割れ具合によって今後の策をうらなう方法。 [ ]

**3 (0103) 重要事件・事項チェック**

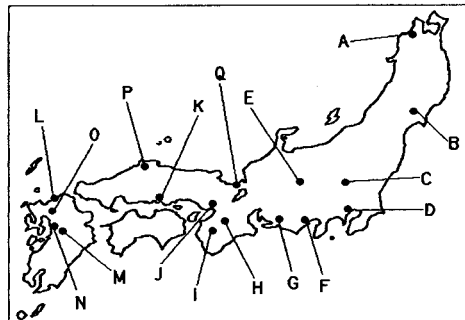
各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項〉

- (1) 新潟県姫川流域などで産出し、大珠や勾玉などに用いられた。 [ ]
- (2) 弥生時代、田に青草などの肥料を踏みこむために用いた木製農具。 [ ]
- (3) 弥生時代、糸をつむぐために用いた直径約4～5 cmの円形器具。 [ ]
- (4) 弥生時代に発達した墓。2つの土器を合わせて使用した。 [ ]
- (5) 弥生後期～古墳前期に発達した墓。八王子市の宇津木遺跡で発見。 [ ]
- (6) 『魏志』倭人伝にみえる風俗。当時の婦人の服装と考えられている。 [ ]
- (7) 毎年、春にその年の五穀の豊穡を祈願して行われる儀式・祭祀。 [ ]
- (8) 毎年、秋にその年の五穀の豊穡を感謝して行われる儀式・祭祀。 [ ]

**4 (0104) 最重要地名チェック**

ことがらにあてはまる記号を地図から選んで答えなさい



- (1) 岩宿遺跡(先土器文化発見のきっかけ) [ ]
- (2) 座敷乱木遺跡(3万年以前の前期旧石器時代の存在を証明) [ ]
- (3) 大森貝塚(わが国での貝塚調査の端緒) [ ]
- (4) 亀ヶ岡遺跡(縄文晩期の注口土器を発掘) [ ]
- (5) 津雲貝塚(160体余の人骨が出土) [ ]
- (6) 和田峠(黒曜石の産地) [ ]
- (7) 鳥浜貝塚(淡水湖畔の生活で丸木舟や植物性遺物が出土) [ ]
- (8) 志賀島(「漢委奴国王」の金印が出土) [ ]
- (9) 登呂遺跡(弥生後期の代表的遺跡) [ ]
- (10) 吉野ヶ里遺跡(邪馬台国などのクニの中心部を思わせる大集落) [ ]
- (11) 江田船山古墳(出土大刀銘) [ ]
- (12) 唐古遺跡(弥生前期の代表的遺跡) [ ]
- (13) 隅田八幡神社(隅田八幡宮ともいう、人物画像鏡) [ ]
- (14) 阿蘇山(黒曜石の産地) [ ]
- (15) 出雲大社(大国主神・大社造)、東には荒神谷遺跡(銅剣358本が大量出土) [ ]

5 (0105) 重要地名チェック

ことがらにあてはまる地名・遺跡名・古墳名などを答えなさい

- (1)1949年、洪積地層中に石器の存在が確認された群馬県の遺跡。〔 〕
- (2)1931年、兵庫県のこの地で粘土層のなかから人骨の一部が発見された。〔 〕
- (3)1957年、石灰岩のなかから上腕骨片が発見された愛知県豊橋市の町。〔 〕
- (4)1958年、石灰岩採石場から化石人骨7片が発見された静岡県の町。〔 〕
- (5)千葉県市川市にある縄文中～後期の貝塚。人骨や住居址などが発見された。〔 〕
- (6)1877年、アメリカ人モースが発見。わが国初の発掘調査が行われた。〔 〕
- (7)岡山県にある縄文時代後～晩期の貝塚。160体以上の人骨が出土した。〔 〕
- (8)青森県にある縄文時代晩期の遺跡で、注口土器などが多く出土した。〔 〕
- (9)奈良県にある弥生時代前期の遺跡で、土器や木製農具が出土した。〔 〕
- (10)弥生時代後期水田址や農耕集落址などが発掘された静岡県の遺跡。〔 〕
- (11)358本もの大量の銅剣がまとまって出土した出雲地方の遺跡。〔 〕
- (12)漢の武帝が、真番・臨屯・玄菟の3郡とともに朝鮮半島に設けた郡。〔 〕
- (13)1784年、一農夫がここで「漢委奴国王」と刻まれた金印を発見した。〔 〕
- (14)紀元1～2世紀ごろ、福岡県の博多地方にあったといわれる小国。〔 〕
- (15)望楼・高床倉庫・甕棺・墳丘墓などを含む弥生時代の大塚集落遺跡。〔 〕
- (16)後漢時代の末期、楽浪郡の南部を分割して新たに設けられた郡。〔 〕
- (17)朝鮮半島の北部を広大に占める国で、のち唐・新羅に滅ぼされた。〔 〕
- (18)辰韓諸国を統一して生まれた国で、935年、高麗に滅ぼされた。〔 〕
- (19)馬韓諸国を統一して生まれた国で、660年、新羅に滅ぼされた。〔 〕
- (20)4世紀中ごろから日本の勢力下にあった地域。日本府が設置された。〔 〕
- (21)仁徳陵古墳が中心的位置を占める大阪府堺市の古墳群。〔 〕
- (22)大規模古墳として有名な応神陵古墳がある大阪府<sup>はびきの</sup>羽曳野市の古墳群。〔 〕
- (23)この古墳から出土した大刀は、漢字使用を示す最古の例として有名。〔 〕
- (24)この地にある神社は大国主神をまつる。本殿に大社造の跡が見られる。〔 〕

6 (0106) <青山学院大> 旧石器時代～古墳時代の考古学

次の各文の( )のなかに、適当な語句をいれ、且つ下線をほどこした部分について、下記の問に答えなさい。

- 人類が地球上に始めて現れたのは、地質学でいう1( )の初期であったといわれている。最初に現れたのは猿人とよばれ、次に原人、旧人、新人の順に現れた。これらの人類がつくり出した文化を2( )という。日本にも、1この時代の人類がいた事が明らかにされてきている。この時代につゞく時代を、地質学では3( )といふ、考古学では、その文化を4( )と呼んでいるが、農耕が行われ、人類の生活に革命的な進歩をもたらされた。
- 日本で初めて土器をつくる様になったのは、2縄文時代になってからである。彼らの生活の様子は、海岸や湖沼のそばで発見される5( )などから見つかる遺物から知ることが出来るが、そこからは6( )を主とした埋葬人骨も発見される事がある。
- 3弥生文化は水稲耕作を特徴の一つとする。7( )は収穫のために用うる石器であるが、同じ様な物は中国大陸でも多く発見されている。又当時の墓制の一つである8( )は朝鮮半島から中国東北地方の墓制にもつながるものであるといわれ、注目されるものである。
- 弥生時代につゞく時代を4古墳時代という。古墳には円墳、方墳、前方後円墳などがあるが、

その埋葬施設には、大きく分けて9( )と10( )がある。後者はその源流が朝鮮半島，中国にあるともいわれ，注目されるものである。

問1. 次の〔 〕の中から正しいと思われるものをえらびなさい。〔 〕

愛知県牛川などで発見されたこの時代の人骨については，色々な説があるが，牛川人骨について有力なものは〔(イ)猿人 (ロ)原人 (ハ)旧人 (ニ)新人〕に属するという説である。

問2. 次のなかから，縄文時代の遺跡でないものをすべてえらびなさい。〔 〕

イ. 三ヶ日遺跡    ロ. 津雲遺跡    ハ. 尖石遺跡    ニ. 夏島遺跡  
ホ. 唐古遺跡    ヘ. 姥山遺跡    ト. 亀ヶ岡遺跡

問3. 次のなかから縄文時代，弥生時代の両方に共通しているものをすべてえらびなさい。

イ. 竪穴住居址    ロ. 紡錘車    ハ. 大足    ニ. 握槌

問4. 次のなかから古墳時代に属するものをすべてえらびなさい。〔 〕

イ. 銅鐙    ロ. 貨泉    ハ. 条里制    ニ. 神獸鏡    ホ. 屯倉



## 類題トレーニング(6010)

### 1 (6011) <学習院大> 先土器文化と縄文文化

次の文章を読み、空所に適当な語を記しなさい。

人類が地球上にはじめて出現したのは、今から200万年以上も前のことで、地質学でいう(1)( )の初期に当たる。この時期は(2)( )時代ともよばれ、寒さのきびしい氷期と比較的温暖な(3)( )がくり返された。人々は岩陰や天然の洞穴などを利用して住み、石を打ちかいたり、剥片を加工したりして作った(4)( )を道具として生活に役立てるようになった。この時代を考古学では(5)( )とよんでいる。

日本列島が現在のような形を整えたのは、今からほぼ(6)( )年前であるが、人類がこの土地に住むようになったのは、それよりかなり古いことである。その頃、日本列島はアジア大陸と陸続きであったから、人々は北からは(7)( )象、南からは(8)( )象などを追いながらやって来たものと考えられる。当時の化石人骨は愛知県の(9)( )・静岡県の(10)( )や浜北などの遺跡から発掘されている。

日本には縄文文化より古い文化は存在しない、したがって縄文人より古い人類も存在しない、というのが第2次大戦前の人類学・考古学界の常識であった。ところが1949年、相沢忠洋氏が群馬県の(11)( )で(12)( )の地層から石器を発見したことから、戦前の常識は一挙に崩れ去った。この時期の文化は(13)( )を伴わないので(14)( )とよばれる。石器も長い間には次第に改良され、はじめの頃の打撃用の(15)( )から石刃・尖頭器などを経て、(16)( )をつけた槍のような鋭利な組合せ器へと進歩しており、(17)( )の技術もそれにつれて発達していったことが知られる。

やがて、寒い(2)( )時代が終って海水面が上昇する(18)( )になると、大陸と地続きであったこの国土は、海進によって切りはなされ、アジア大陸の東縁に点在する列島となった。その気候は今日とほぼ同じになり、人々を取り巻く自然環境も大きく変った。大型の動物にかわって(19)( )・イノシシ・ウサギなどの中小形の動物が多くなり、弓矢の発明で獲物の入手も容易になり、人口は次第に増えていった。また(13)( )が発明されたことも、この時代の大きな特色である。人々はこれによって食料の運搬・保存・煮沸などの便宜を得ることができ、生活は豊かになった。とはいっても、自然にあるものを手に入れる生活では、食料難に陥る場合も珍しくなく、人々は飢えと隣り合せに住んでいたといっってよい。人々の平均寿命が男女平均で(20)( )歳くらいと推定されているのは、それを証明するものであろう。

### 2 (6012) <聖心女子大> 弥生～古墳文化

次の文の空欄に適当な語句を入れ、下線の部分について後の問に答えなさい。

紀元前3～2世紀のころ、イ( )を中心に弥生文化がおこった。この文化はしだいに東方にひろまり、後期には、寒冷なロ( )にまでおよんだ。

この新文化の著しい特色は、金属器の使用と水稻栽培である。当時、青銅の武器や鏡が中国・朝鮮から輸入されるとともに、日本でも生産され、また、銅鐸が国産されるようになった。これらのうち、銅剣・銅鉾・銅戈はハ( )を中心に分布し、銅鐸はニ( )を中心に分布する。また、輸入された青銅の武器が細身で鋭利な実用品であったのに対し、(a)日本製のものは扁平大形で実用性を失っている。

この時代の稲作は、低湿地を利用して行われた。土地は木製の鋤・鍬で耕やされ、稲は実ると石ホ( )で穂首刈りされ、へ( )に貯蔵された。後期には、静岡市の登呂遺跡にみられるような大規模な水田がつくられた。

農耕が発達すると、大きな集落が現れるようになる。やがて、いくつもの集落が有力な指導者のもとに統合されて、小国家がつくられる。「夫れ榮浪海中に倭人有り、分れて百余国をなす。」という(b)中国の史書の記述は、このころの日本の政治的状況を伝えたものである。

3世紀後半か4世紀のはじめごろ、ト( )の墓として古墳がチ( )を中心に現れ、リ( )の勢力の伸展にともなって各地にひろまっていった。古墳には種々の外形があったが、なかでも前方後円墳は特異な形のものである。墳丘の表面には葺石が敷かれ、埴輪が立て並べられ、また、内部には、はじめ又( )石室や粘土槨がつくられ、鏡・玉・剣などが副葬された。

4世紀末から5世紀にかけて、大規模な古墳がつくられるようになった。(c)副葬品にも変化がみられ、このころ、馬具・甲冑・金銀製装身具などがおさめられた。また、新技法によるル( )とよばれる硬質の土器が現れたのも、5世紀ごろからである。

6世紀になると、一地域に多数の小古墳がかたまって存在する、(d)いわゆるヲ( )が全国各地に現れた。古墳内部の形式にも変化がみられ、大陸の墓制の影響を受けたワ( )石室が一般的となった。このころから古墳の外形はしだいに小規模になり、権力を示す手段としての古墳の意義は失われていった。

〔問〕

(a) これらの青銅器は、どのような性格や機能をもっていたと考えられるか。(30字程度)

\_\_\_\_\_

(b) この史書の名をあげなさい。また、これは何世紀に書かれたか。

[ ] [ ]

(c) このころ、被葬者の立場や性格に、どのような変化がおこったと考えられるか。(60字程度)

\_\_\_\_\_

(d) これが現れるにいたった社会的背景を簡略に述べなさい。(60字程度)

\_\_\_\_\_

**㉔** (6013) 〈早稲田大〉 魏志倭人伝

次の史料の下線の部分に関する設問(A～C)に答えなさい。解答は最も適当なもの一つを選び、その番号をマークしなさい。

「倭人はA( )の東南大海の中に在り、山島に依りて国邑を為す。旧百余国。B漢の時朝見する者有り」という記述ではじまるC「魏志倭人伝」は、弥生時代後期のわが国の政治や文化の状態を伝える貴重な史料である。

問A. 空欄にあてはまる語句はどれか。 [ ]

1. 弁韓 2. 楽浪 3. 韓国 4. 帯方 5. 臨屯 6. 馬韓 7. 高句麗

問B. 西暦57年に後漢に朝貢したと他の史料に記録されている、弥生時代のわが国にあった原始的小国の国名は、その史料では何と記載されているか。 [ ]

1. 一支国 2. 末盧国 3. 狗奴国 4. 不弥国  
5. 倭奴国 6. 投馬国 7. 邪馬台国

問C. この史料の記述内容にはないものはどれか。 [ ]

1. 当時の倭人社会には下戸・大人とか奴婢といった身分序列があった。  
2. 後漢の安帝のとき朝貢した倭国では、そののち桓帝・靈帝のころに大乱が勃発した。  
3. 倭国の大乱は、鬼道につかえていた邪馬台国の卑弥呼が女王として共立されることでおさまった。  
4. 当時倭国では、稲や麻が栽培され、養蚕も行われていた。  
5. 男子を王とする狗奴国は女王国に属さず、両国は対立抗争していた。  
6. 卑弥呼は魏に朝貢し、「親魏倭王」の称号と金印紫綬を授与された。  
7. 倭人の習俗として、入れ墨、一夫多妻婚、骨を焼くト占などの風習があった。

4 (6014) <早稲田大> 先土器文化から古墳文化まで

次の文章中の①～⑨の空欄に、下記の語群中より最も適切な語句を選び、頭書の符号を記入しなさい。

洪積世の日本列島は、アジア大陸と陸続きだったから、マンモスなど大型の動物を追って人びとも往来し、列島各地に①( )などを特徴とする先土器文化の遺跡を残した。

続く縄文文化は、数千年間にわたり、列島内ではほぼ均一のゆるやかな展開をとげたが、その晩期、紀元前②( )のころになると、中国大陸の秦・漢帝国成立の余波をうけて、九州北部に水稻耕作・金属器・③( )、それに薄手で赤褐色の土器などを特色とする弥生文化が成立し、農耕社会が生まれた。

この弥生時代には、九州北部の有力集団の首長たちが特権的に大陸と交渉をもったらしい。紀元前2世紀ごろには各地に小国を分立させていた倭人たちが定期的に④( )へ使者を送った。また⑤( )によれば倭の奴国王が光武帝のもとに朝貢し、印綬を受けている。その後、邪馬台国の女王卑弥呼も、魏の皇帝に使者を送り、親魏倭王の称号とともに金印・⑥( )・絹織物などを得ている。

大和国家の成立とあい前後して始まる古墳時代では、とくに4世紀末から5世紀にかけて⑦( )古墳のような巨大な古墳が作られ、その副葬品に馬具・武具をはじめ冠・金銀製装身具、鉄製武器・農具などが多くなることから、北方騎馬民族の渡来を考える説もある。一方、⑧( )によれば、このころ大和朝廷は朝鮮半島に進出して百済を援助していたことがわかる。日本へ渡来、移住してくる人びとによって、漢字をはじめ土木建築などの新技術が伝えられ、やや遅れて⑨( )や暦などももたらされた。7世紀以降になると遣隋使・遣唐使によって積極的に新文化が摂取されることになる。

- 〔語群〕 ㉔楽浪郡 ㉕3世紀 ㉖4世紀 ㉗倭王武の上表文 ㉘『宋書』倭国伝  
 ㉙『後漢書』東夷伝 ㉚『漢書』地理志 ㉛好太王碑文 ㉜高松塚  
 ㉝仁徳陵 ㉞椿井大塚山 ㉟儒教 ㊱景教 ㊲銅鏡 ㊳鈴鏡  
 ㊴生口 ㊵石庖丁 ㊶石匙 ㊷帯方郡 ㊸ナイフ形石器

5 (6015) <慶應義塾大> 縄文～弥生時代の日本

次の文章を読み、下記の〔A〕、〔B〕および〔C〕の設問に答えなさい。

中国大陸では、すでに紀元前5～4世紀頃に鉄製農具が使用され、牛耕が行なわれていた。こうした高度の中国大陸の文化が、紀元前3世紀頃日本列島に及び、開花したものが弥生文化である。この水稻農耕文化が渡来したことにより、これまで縄文文化のもとにあった日本列島は、大きな変革を経験することになった。水稻農耕が発展するにともない、集落の規模が拡大し、農業共同体を成立させるとともに、集落の中に貧富の差がもたらされ、(1)財力、武力をもつ共同体の指導者が首長となって地域的な政治集団を形成することになったのである。こうして、弥生文化が(2)東日本にも伝播した紀元1世紀頃には、日本列島には百余りの小国の分立をみるようになった。そして、この頃から、これら小国の中には中国王朝と接触するものが現われ、日本列島のことが中国史書にも記されるようになったのである。(a)ある中国史書によれば、(b)建武中元2年に倭国の使者が光武帝に朝貢して印綬を受けたという。また、(c)別の史書には、「……其の国、本亦男子を以て王と為す。……(3)景初3年(原文は景初2年)6月、倭の女王、大夫難升米を遣はし、(4)郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを求む。……」とあって、紀元3世紀頃には日本列島に(5)地域的統一国家が成立したことが記されている。その後、その(d)女王卑弥呼が中国王朝に遣使し、「親魏倭王」の称号と金印紫綬を賜ったことが記されている。その後、中国大陸は分裂状態となり、朝鮮北部が高句麗に併合されたこともあって、(6)中国王朝との交渉がとだえ、以後、(7)1世紀半あまり日本列島の動きは、中国側の記録から姿を消すことになる。この間、日本列島は、(8)大和朝廷による国土統一がすすめられ、古墳文化とよばれる新しい文化段階を迎えることになった。

〔設問〕〔A〕以下の文章は、(イ)「縄文」(ロ)「弥生」(ハ)「古墳」の各文化に関するものである。( )の中にあてはまる適当な語を記入しなさい。

- (イ) 遠賀川式土器初期の遺跡とされる(あ)( )遺跡の水田遺構は、縄文(い)( )期に稲作があったことを示すものである。当時、西日本は、口縁に(う)( )

)文をもつ文様の少ない単純な器形の土器が普及し、東日本と異なる文化圏を形成していた。

(ロ) わが国で青銅器がつくられるようになったのは、弥生(え)( )期からであるが、それ以前は、中国や朝鮮から渡来したもので、卑弥呼が魏から賜った(お)( )は、前期古墳の副葬品と関係があるといわれている。

(ハ) 後期古墳の副葬品に(か)( )が多くなるのは、(き)( )天皇の頃渡来した、秦造の祖とされる(く)( )や漢直の祖の(け)( )らによって伝えられた窯業技術が普及したことによると考えられる。古墳は、大化2年に発布された(こ)( )による墳墓規制を一つの契機として急速に減少していった。

[B] 下線(a)～(d)については、それぞれの設問の答を記入しなさい。

(1) (a)の史書の編者名を答えなさい。 [ ]

(2) (c)の史書の書名を答えなさい。 [ ]

(3) (a), (c)の史書から知ることが出来る、当時の倭国の階級構成を答えなさい。

(あ)( )-(い)( )-(う)( )-(え)( )・奴婢

[ ]

(4) (b), (d)に見るように、なぜ、倭国の王は中国王朝に朝貢したのか。中国王朝が周辺民族の朝貢国に対し、爵位、称号を授ける政治秩序と関連させて80字以内で述べなさい。

---

---

---

[C] 下線(1)～(8)については、各設問の答をそれぞれの語群から選び、その番号を記入しなさい。

(1) このことを推定しうる弥生中期に多く見られる豊富な副葬品をもつ墓制を何というか。

[ ]

1. 甕棺墓 2. 支石墓 3. 箱式石棺墓 4. 墳丘墓 5. 方形周溝墓

(2) それまで東日本文化圏を形成していた文化の土器型式を何というか。

[ ]

1. 遠賀川式土器 2. 勝坂式土器 3. 亀ヶ岡式土器  
4. 御領式土器 5. 夜臼式土器

(3) この中国年号は、西暦何年のことか。

[ ]

1. 107年 2. 239年 3. 247年 4. 248年 5. 266年

(4) この郡は、何郡のことか。

[ ]

1. 玄菟 2. 弁韓 3. 帯方 4. 洛陽 5. 楽浪

(5) この統一国家の位置について、(c)の史書にもとづくところと行程、距離の点で難があるとされるのは何説か。

[ ]

1. 畿内大和説 2. 北九州説

(6) 中国王朝との交流がとだえる前の最後の遣使について記してある史料は何か。

[ ]

1. 晋書 2. 三国史記 3. 宋書 4. 南齊書 5. 梁書

(7) 1世紀半後遣使が再開されたが、宋の順帝に上表文を送った天皇は誰か。

[ ]

1. 安康天皇 2. 允恭天皇 3. 反正天皇 4. 雄略天皇 5. 履中天皇

(8) 大和朝廷の朝鮮進出について記してある日本書紀の記事(百濟記から引用)に対応した銘をもち、肖古王と関係深い史料は何か。

[ ]

1. 石上神宮七支刀銘 2. 稻荷山古墳出土鉄剣銘 3. 江田船山古墳出土大刀銘  
4. 広開土王碑銘 5. 隅田八幡宮人物画像鏡銘

# 第1日 先土器～古墳時代の社会と文化

## ●重要用語●

### □洪積世（こうせきせい）

地質時代の時代区分の1つで、更新世ともいい、新世代の第4紀の前半(約200万年前～約1万年前)。地球上は、寒冷な気候になって氷河が発達したり(氷河期)、またそれが衰退したり(間氷期)した。氷河期には、日本列島は大陸と陸続きで、人類も住み、石灰岩の地層から洪積世の化石人骨が発見されている。

### □旧石器文化（きゅうせっきぶんか）

人類の文化史を石器・青銅器・鉄器時代に分けたときの最古の文化段階。地質学では洪積世(更新世)に相当する。人類は磨製石器を知らず、打製石器や骨角器を使用し、狩猟・漁撈や採集を主とする生活を営んでいた。日本では、前(先)縄文文化時代にあたると考えられる。代表的な遺跡は群馬県の岩宿遺跡など。最近では、より古い馬場壇、<sup>さざらぎ</sup>座散乱木遺跡も報告されるようになっている。

### □新石器文化（しんせっきぶんか）

石器時代の最も発達した段階の文化。地質学でいえば沖積世(完新世)に相当する。土器や磨製石器を使用し、農耕・牧畜による生産経済に移行した。また、巨石墳が築造された。日本では縄文文化にあたるが、ヨーロッパやアジアと異なり、農耕・牧畜は行われず、狩猟・漁撈を主とする採集経済の段階にとどまっていたと考えられている。しかし、生産や生活の技術はかなり進歩し、人口も増加した。

### □先土器文化（せんどきぶんか）

土器をとまわず、石器のみを用いた時代の文化。無土器文化ともいう。関東ローム層など洪積世(更新世)の地層から発見された石器には、握槌(ハンドアックス)・石刃(ブレイド)・尖頭器(ポイント)・細石器など、旧石器・中石器時代のものが見られる。石槍などから狩猟方法の大きな進歩もうかがえる。

### □縄文時代（じょうもんじだい）

縄文(式)土器が使用されていた時代で、前1万年ごろから前300年ごろをさす。農耕・牧畜は行われず、狩猟・漁撈などの採集経済の段階であった。人々は竪穴(式)住居に住み、打製・磨製石器を用い、土偶に示されるような呪術的色彩の濃い生活を行っていたが、無階級社会であった。貝塚によって、その当時のありさまがうかがえる。なお、縄文時代晩期には原始農耕が始まっていたと考えられる遺跡も発見されている。

### □弥生時代（やよいじだい）

弥生(式)土器が使用されていた時代で、紀元前3～紀元後3世紀ごろまでをいう。弥生文化は土器の形式から前・中・後期に区分され、前期には九州から近畿地方、中期には北海道を除く北日本一帯に広がった。特徴として水稻耕作の発達、金属器の使用、部落国家の出現、支配階級の発生などがあげられる。なおこの時代、北海道では鮭・鱒などの食料に依存する独特の続縄文文化が、沖縄では貝類などの食料採集を行う独特の南島文化が展開していた。

### □竪穴住居址（たてあなじゅうきよし）

縄文時代から古墳時代にかけて普遍的に見られた住居。地面を30～100cm掘り下げて床面

をつくり、数本の柱を立て、上部に屋根をかけた。平面形は径が数mの方形・円形などで、床面に炉・竈跡、柱穴・貯蔵穴があり、壁ぎわに溝がめぐっているのが普通である。奈良時代、山上憶良の『貧窮問答歌』に記された住居も竪穴(式)住居であり、平安時代に至っても東北地方の僻地で見られた。

#### □漢書(かんじょ)

漢(前漢)代(前202～08年)を記した中国の正史で、1世紀末に班固が編纂。その地理志燕地の条に「夫れ楽浪海中に倭人有り。分れて百余国を為す。歳時を以て来たり献見すと云う」とあって、当時の日本には小国家が分立し、楽浪郡との間に往来のあったことを記している。これは日本についての最古の記録。

#### □後漢書東夷伝(ごかんじょとういでん)

後漢書は、范曄が後漢の歴史を紀伝体で記した120巻の正史で、東夷伝は巻115。紀元57年に倭の奴国王の使者が首都洛陽に赴き、光武帝に朝貢して印綬を受けたと記されている。この「漢委奴国王」と刻された金印が1784年に福岡県志賀島で発見されたことから、奴国は西日本に分立していた小国の1つとみられている。

#### □魏志倭人伝(ぎしわじんてん)

中国の正史『三国志』(陳寿の著)のうち、「魏志」第30巻中の「東夷伝」にある倭人に関する記録。俗に倭人伝といわれ、3世紀末の撰とされる。朝鮮の帶方郡から倭国(日本)に至る道程、倭国の地理・風俗・物産・政治・社会や、邪馬台国の女王卑弥呼など、3世紀ごろの日本について記されている。

#### □邪馬台国(やまたいこく)

『魏志』倭人伝に記録された日本の古代国家。3世紀ごろ30か国からなる連合国家の中心となった国で、その位置については北九州説と畿内説とがある。神がかりして神意を伝える女王卑弥呼が統治し、239年、魏に使者を送った。3世紀中ごろに卑弥呼が死ぬと、後嗣争いがおこり、血縁にあたる臺与(壹与)が女王を継いだ。

#### □楽浪郡(らくろうぐん)

漢の武帝が前108年に朝鮮に設置した4郡の1つ。政庁は平壤にあった。日本は弥生期に楽浪と通交して大陸文化を吸収したとされる。かなり高度な楽浪文化をもったが、313年、高句麗に滅ぼされた。

### ●発展用語●

#### □岩宿遺跡(いわじゅくいせき)

群馬県笠懸町岩宿にある先土器文化の遺跡。1946年に関東ローム層より打製石器が発見され、一躍クローズアップされた。アマチュア考古学者相沢忠洋のこの発見により、日本の先土器(無土器)時代の存在が確認された。

#### □亀ヶ岡式土器(かめがおかしきどき)

青森県西津軽郡木造町の亀ヶ岡遺跡で発見された縄文時代晩期の土器。低湿地から壺・注口形の土器や土偶が出土した。器形が複雑で、変化に富んだ文様をもち、土偶は目が極端に誇張されている遮光形土偶なのが特色。

□板付遺跡（いたづけいせき）

福岡市博多区にある古代の遺跡。縄文晩期・弥生前期の水田址、弥生時代の竪穴群・井戸・周溝・甕棺などが発見されている。ここで発掘された弥生(式)土器は遠賀川式土器ともいわれ、同系の土器の分布は福岡・長崎・佐賀および山口県西部に及び、弥生時代の生活を知るうえで貴重な遺跡である。

□登呂遺跡（とろいせき）

静岡市にある弥生時代後期の集落・水田遺跡。1943年に発見されて以来、47～50年の発掘調査によって畦畔を築いた水田址や竪穴(式)住居址・高床(式)倉庫址のほか、農耕具などの木製品や装身具が出土した。

□江田船山古墳出土大刀銘（えたふなやまこふんしゅつどたちめい）

熊本県菊水町の江田船山古墳から出土した鉄剣に銀象嵌された銘文。最初にある「治天下獲□□□鹵大王世…」の大王は反正天皇、雄略天皇の両説があるが、現在は稻荷山古墳出土鉄剣銘と同じく雄略天皇説が有力である。5世紀後半に日本で漢文で書かれた最古の金石文の1つとされる。

□土偶（どぐう）

主として縄文土器にともなって出土する土製人形。縄文後期・晩期に多くつくられ、東日本に多く分布する。女性をかたどったものが多く、豊穡を祈る原始宗教や呪術に関係があるものと考えられている。

□屈葬（くっそう）

縄文時代の一般的な葬法。遺体の手足を折り曲げた姿勢で埋葬した。この風習の理由については、胎児の姿勢をとり再生を願った、自然の休息の姿をとった、などの諸説がある。弥生時代以降は伸展葬となった。

□石庖丁（いしぼうちよう）

弥生時代の遺跡から出土する磨製石器の1種。西日本に多く分布する。長方形・半円形・楕円形の平たい石器で、片方に刃がつき、ひもを通すための1～2個の孔がある。手のひらに包み込むようにしてもち、稲の穂をつんだ。つまり根刈り以前の穂首刈りの道具。

□渡来人（とらいじん）

古代、大陸から移住した人びと。4世紀朝鮮半島の楽浪・帶方郡の滅亡以後は漢人らの渡来が多く、先進文化を伝えた。飛鳥時代前後の文化に大きな貢献をし、漢氏など朝廷の豪族となった者も多い。7世紀の百濟・高句麗滅亡時にも韓人多数の渡来があり、以前からの渡来人とともに天平文化の担い手となった。

□紡錘車（ぼうすいしゃ）

糸を紡ぎ、撚りをかける器具の部品。弥生時代にさかんに使用された。土製と石製とがある。円盤の中央に孔をあけ、軸棒を通して回転させ、これに糸を撚りながら巻きつけるしくみになっている。

□方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）

弥生時代後期から古墳時代前期にさかんにつくられた墓。遺体を埋葬する土壇のまわりに方形の溝をめぐるしている。副葬品をともなうものもある。1964年、東京都八王子市にある宇津木遺跡の発掘によって知られた。

#### □支石墓（しせきぼ）

弥生時代，九州北部で行われた墳墓の1形式。大型偏平の石を数個の石塊で支え，下部に箱式石棺，甕棺を埋葬した。朝鮮半島南部の支石墓の影響のもとに成立したと推測される。

#### □高地性集落（こうちせいしゅうらく）

弥生時代，高地に出現した集落。弥生中期には瀬戸内沿岸の高地に，後期には畿内の高地に集落が発生，やがて消滅した。それは石鏃が大型化・武器化したのち，消滅するのと時期を一にする。この地域に抗争があり，のろし・監視所などを設ける必要から，一時的に高地に集落が営まれたと考えられている。

#### □化石人骨（かせきじんこつ）

化石として発見される洪積世(更新世)人類の骨。これまでに発掘されたものでは<sup>あかし</sup>明石人骨(兵庫県明石市，最近の研究では沖積世(完新世)のものとする意見が強い)・<sup>うしかわ</sup>牛川人骨(愛知県豊橋市牛川町)・<sup>くすう</sup>葛生人骨(栃木県安蘇郡葛生町)・<sup>みっかび</sup>三ヶ日人骨(静岡県引佐郡三ヶ日町)・<sup>はまきた</sup>浜北人骨(静岡県浜北市)・<sup>ひじりだけ</sup>聖岳人骨(大分県，聖岳洞窟)・<sup>みなとがわ</sup>港川人骨(沖縄県島尻郡具志頭村港川)などがある。なお長野県の野尻湖の湖底発掘調査では，1973年ナウマン象の化石と打製石器が同一地層から発見され，洪積世人類との共存が証明された。

#### □縄文草創期（じょうもんそうそうき）

縄文時代は，縄文(式)土器の形態変化や出土層位をもとに，大きく早期・前期・中期・後期・晩期の5つに区分されるが，最近では早期の前に草創期を加えて考えることが多い。この草創期の土器は豆粒文・隆起線文・瓜形文などの文様をもち，世界的にみても最古に属するとされる。なお縄文土器の形態は，この後，早期(尖底深鉢が主)→前期(平底が一般化)→中期(装飾的)→後期(形が多様化，注口土器も一般化)→晩期(器形・文様がさらに複雑化，亀ヶ岡式土器が代表的)といった傾向があるとされる。

#### □稲の伝播（いねのでんぱ）

アジアの稲の種類にはインデカ種(長粒米)とジャポニカ種(短粒米)，ジャポニカ種(大粒米，ジャワ型)がある。日本への伝来はほとんどジャポニカ種で，伝来ルートは長江(揚子江)下流域より山東半島・朝鮮半島経由か，または直接北九州へかの2つが考えられている。したがって華南が北限のインデカ種は日本にはなく，最近，ジャポニカ種が琉球諸島経由で伝来したケースも知られるようになった。なお稲作は前3世紀北九州にはじまり，本州最北端に達したのは3世紀ごろと推定されていたが，1981年青森県<sup>いなかだて</sup>田舎館村の<sup>たれやなぎ</sup>垂柳遺跡で，弥生時代中期(1世紀ごろ)の水田跡が発掘され，86年には弘前市の砂沢遺跡で弥生前期(前200年ごろ)の水田跡が発見された。

#### □吉野ヶ里遺跡（よしのがりいせき）

佐賀県神埼郡(筑紫平野の中央部)に位置する弥生時代最大の環濠集落と墳墓群とからなる大規模遺跡。約25haの規模，『魏志』倭人伝の記述(楼観・城柵・邸閣)を裏付けるような遺構・遺物，最大級の墳丘墓，2100基もの甕棺など，その質と量において全国的にも注目をあつめている。華麗な副葬品を伴った歴代首長の墳丘墓には原始的国家(クニ)の実態を鮮明にみることができる。



## 第2日 古代国家の形成と対外関係

⇒類題トレーニング  
⇒用語チェック

### 1 (0201) 最重要年代チェック

{ }にあてはまる年代と語句を答えなさい

- (1){ }年……奴国王，後漢に朝貢——「漢委奴国王」
- (2){ }年……倭国王帥<sup>すいしやう</sup>升ら，後漢<sup>せいこう</sup>に生口を献上
- (3) 239年……{ }，魏に難升米を派遣
- (4){ }年……倭軍，朝鮮に出兵——高句麗好太王碑文
- (5){ }年……倭王武(雄略天皇)，宋に朝貢——上表文
- (6) 512年……{ }，任那4県を割讓
- (7){ }年……筑紫国造{ }が反乱する
- (8){ }年……任那日本府{ }に滅ぼされる
- (9) 587年……{ }，物部守屋を滅ぼす
- (10) 592年……{ }が暗殺される
- (11){ }年……聖徳太子，推古天皇の摂政となる
- (12) 603年……{ }を制定——人材登用策
- (13){ }年……十七条憲法を制定
- (14){ }年……小野妹子を隋に派遣
- (15) 608年……小野妹子，{ }とともに帰国
- (16){ }年……第一回遣唐使派遣——犬上御田歆

### 2 (0202) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)倭王武に比定される大和政権の大王。478年に宋に遣使上表した。 { }
- (2)応神朝に渡来，『論語』や「千字文」をもたらす。西<sup>かわちのふみうじ</sup>文氏の祖。 { }
- (3) 6世紀，蘇我氏が擁立した天皇。治世中に仏教公伝があったとされる。 { }
- (4)継体天皇を擁立したが，6世紀初頭，任那4県を百済に割讓，のち失脚した。 { }
- (5)中臣氏らと仏教の受容に反対，587年に蘇我馬子と戦い敗北した。 { }
- (6)蘇我<sup>いなめ</sup>稲目の子。587年に対立する物部氏を倒し，法興寺を建立した。 { }
- (7)蘇我氏が東漢直駒<sup>やまどのあやのあたごま</sup>をそそのかし，そのために暗殺された天皇。 { }
- (8)蘇我氏や聖徳太子らと政治改革に尽力した，わが国最初の女帝。 { }
- (9)607年，遣隋使として対等外交要求の国書を持参して大陸に渡った。 { }
- (10)隋の皇帝で，607年に遣隋使が持参した国書に対し怒りを表明した。 { }
- (11)608年，遣隋使にしたがって隋に渡った僧。帰国後に国博士となる。 { }

### 3 (0203) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

- <事件>
- (1)筑紫国造が新羅と結び，527年，朝廷からの救援軍の渡海を阻止した。 { }
- <事項>
- (1)大和政権の政治的身分秩序。中央・地方豪族を中央集権的に整序。 { }

- (2)大和時代における血縁共同体ともいうべき同族の集団の呼称。 [ ]
- (3)大和時代において、出自や職能など身分序列を示す称号のこと。 [ ]
- (4)5世紀頃にあらわれた姓の1つで、<sup>おみ</sup>臣姓の最有力者が就任した。 [ ]
- (5)大和朝廷の地方官。おもに地方豪族が任命され、大化改新で廃止。 [ ]
- (6)大和朝廷の直轄地のことで、軍事的用途としては「<sup>みやけ</sup>官家」と記す。 [ ]
- (7)大和時代における朝廷の私的所有民。天皇近侍の職名を冠した。 [ ]
- (8)大和政権に対して、職業的技術集団である品部を率いて奉仕した。 [ ]
- (9)大和時代、各豪族が私的に所有した直轄地。<sup>かきべ</sup>部曲が耕作した。 [ ]
- (10)朝廷に直属し、特殊な職業的技術で奉仕した部民。伴造が引率した。 [ ]
- (11)大和政権の財庫である<sup>いみくら</sup>齋藏・<sup>うちつくら</sup>大藏・<sup>うちつくら</sup>内藏の総称。蘇我氏が管理した。 [ ]
- (12)奈良県明日香村にある、蘇我馬子の墓と伝えられる横穴式の古墳。 [ ]
- (13)603年、聖徳太子らによって制度化された、人材登用のための政策。 [ ]
- (14)604年に制定されたもので、中央集権国家樹立の基本精神となった。 [ ]
- (15)7世紀初期に日本と大陸とを往来した、わが国の外交使節のこと。 [ ]
- (16)7世紀、魏徴らによる隋の正史の一部。聖徳太子外交の記事も含む。 [ ]

#### 4 (0204) 重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)応神朝に来朝し、養蚕や機織の技術を伝えたといわれる。<sup>はたうじ</sup>秦氏の祖。 [ ]
- (2)応神朝に来朝して帰化。文筆にすぐれ、<sup>やまとのあやうじ</sup>東漢氏の祖となった。 [ ]
- (3)6世紀はじめ、大伴氏によって北陸から迎えられて即位した天皇。 [ ]
- (4)欽明天皇期の<sup>おおおみ</sup>大臣。朝廷の財政を司り、<sup>おおむらじものべのおこし</sup>大連物部尾輿と対立した。 [ ]
- (5)608年、遣隋使に対し、隋の<sup>ようたい</sup>煬帝が答礼使として派遣し、来日した。 [ ]
- (6)608年に隋に渡り、のち国博士となったが、654年入唐し、客死した。 [ ]
- (7)608年に入隋した僧で、帰国後、中大兄皇子らに外典を教え示した。 [ ]

#### 5 (0205) 重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事 件〉

- (1)463年、任那国司の<sup>きびのたさ</sup>吉備田狭が百済でおこした反乱である。 [ ]

〈事 項〉

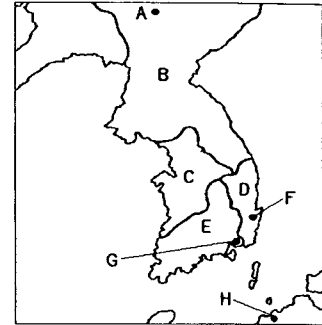
- (1)<sup>しんやく</sup>沈約が編纂した南朝宋の歴史書の一部。倭の五王の遣使記事を含む。 [ ]
- (2)大和政権は天皇氏を中心とする大陸渡来民族により成立したという説。 [ ]
- (3)皇室から分派した氏や地方豪族に与えられた姓。のち公に統一される。 [ ]
- (4)大和政権に服属した地方豪族である<sup>くにのみやつこ</sup>国造に統一的に与えられた姓。 [ ]
- (5)大和政権下で、渡来人の子孫や地方の<sup>とものみやつこ</sup>伴造などに与えられた姓。 [ ]
- (6)美濃・尾張以西の、大和朝廷の直轄領などにおかれた地方官である。 [ ]
- (7)大和朝廷の直轄地である<sup>みやけ</sup>屯倉や<sup>みた</sup>屯田を朝廷の管理のもとで耕作した。 [ ]
- (8)連姓の最有力者が就任し、大臣とならんで大和朝廷の政治の一翼を担った。 [ ]
- (9)大和時代にあって、<sup>あがためし</sup>国造や<sup>あがためし</sup>県主らとならび、地方を支配した。 [ ]

- (10)天皇にかわって実際の政治をとる地位。推古朝の聖徳太子らが著名。〔 〕  
 □(11) 7世紀初頭,聖徳太子が蘇我馬子らとともに編纂した歴史書である。〔 〕

6 (0206) 最重要地名チェック

ことがらにあてはまる記号を地図から選んで答えなさい

- (1)高句麗(4世紀,好太王のとき最盛期) 〔 〕  
 □(2)新羅(4世紀中ごろ,辰韓からおこる) 〔 〕  
 □(3)百濟(4世紀中ごろ,馬韓からおこる) 〔 〕  
 □(4)好太王碑(倭軍,朝鮮に出兵) 〔 〕  
 □(5)筑紫国造磐井の反乱 〔 〕  
 □(6)任那日本府(新羅に滅ぼされる) 〔 〕



7 (0207) <立命館大> 中国史書と古代の日本

次の〔1〕～〔8〕の問いに答えなさい。

- 〔1〕1・2世紀の九州北部の首長は,朝鮮半島にあった後漢の郡に通じ,時には王都にまで遣使したこともあった。韓人や倭人の種族形成,またそれらの政治的・社会的形成に大きな役割を果たした後漢の郡の名を記しなさい。〔 〕
- 〔2〕3世紀の倭人社会は,30ばかりの小国が,「親魏倭王」を中心に宗教的,政治的,経済的に結合しており,朝鮮南部の小国とも盛んな交流があった。このようなことは『三国志』に書かれているが,この史書の著者はだれか。〔 〕
- 〔3〕4世紀後半,百濟王は戦勝によって高句麗王の支配下から独立し,東晋の皇帝に冊封された。8世紀初めの政治理念による造作がいちじりしい『日本書紀』は別として,このころ百濟王が倭王との間に交渉を開いたことを示す文字史料(金石文)として,何があげられるか。〔 〕
- 〔4〕王の勲績を顕彰するため,王が平定する前の自国に不利な状況を誇張しているのが解釈には注意を要するが,4世紀末から5世紀初めに,倭人が朝鮮半島の政治的状況に介入していたことがわかる文字史料(金石文)は何か。〔 〕
- 〔5〕倭の讃・珍・濟・興・武の五王は,中国南朝の宋にしばしば使者を派遣した。これらの王の遣使目的が朝鮮半島で軍事的に活動できる資格を得ることであったのは,彼らが承認を要請した称号に示されている。倭王武の場合「使持節, A □ 倭・百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国 B □, 安東大將軍, 倭国王」と自称した。A・Bに入る語句を記しなさい。  
 A〔 〕 B〔 〕
- 〔6〕5世紀後半には戦火や社会不安をのがれて,朝鮮南部から多数の人々が渡来してきたと考えられている。それらの人々がもたらした生産諸技術は,その後倭人の社会を大きく変えていったが,中には有力な政治集団もいた。そのような集団の一つで,阿知使主<sup>あちのおみ</sup>を祖先とするものは,後に何氏とよばれたか。〔 〕
- 〔7〕6世紀前半は倭王と百濟王との友誼が史上もっとも厚かった時期で,中国南朝系統の思想・文化が次々に伝えられた。百濟王の目的は,新羅の進出に対抗して加羅諸国<sup>から</sup>を支配下におくため,倭王の軍事力を利用することであった。このような情勢下でおきた倭王権の九州統一戦争ともいふべき事件を何というか。〔 〕
- 〔8〕推古朝は十二階の冠位を制定するとともに『天皇記』『国記』をまとめ,朝廷の貴族集団とその内部序列とを初めてはっきりさせた。『隋書』倭国伝が記している倭国の遣隋使の目的は二つである。一つは君臣秩序をはっきりさせる礼制の獲得であるが,貴族集団を権威づけるためのもう一つの目的は何か。〔 〕

## 類題トレーニング(6020)

### 1 (6021) <西南学院大> 大和政権の伸長と外交

次の文は古代の政治・外交に関係がある。これを読み、( ) (a～o)に最も適当な語または数字を下語群(あ～も)から選んで、その記号を記入しなさい。

大和朝廷の成立の時期を考える場合、問題になるのは大和朝廷とa( )の関係である。もし、両者が同一であるとすれば、大和朝廷はb( )世紀には成立していることになる。いずれにしても大和朝廷は、c( )世紀の中ごろまでには、西は北部九州から東はd( )あたりまでを統一したと考えられている。一方、そのころ朝鮮半島でも、高句麗・新羅・百済の各国内の統一が進行中で、この世紀の後半には、大和朝廷は半島に進出し、その南部の地域e( )の諸国を領有した。大和朝廷が求めたものは、この地のf( )資源と新しい技術であった。大和朝廷はさらに百済・新羅を圧迫し、北方の高句麗とも兵を交えており、そのころの事情はg( )中流北岸に残っているh( )碑文に伝えられている。そしてその後、中国が南北朝時代に入ると、百済や高句麗はi( )に入貢して、それぞれ鎮東大將軍・征東大將軍の地位を認められた。j( )に記載されている倭の五王の入貢記事も同性質のもので、倭王珍と済は安東將軍倭国王の地位を授けられた。これらの史実は要するに中国の皇帝の權威によって、自国の政治的立場を有利にしようとしたことを示すものである。倭の五王のうち讚・珍については異説があるが、済・興・武は、それぞれk( )・l( )・m( )の各天皇に相当すると考えられている。しかし6世紀に入ると、当時の大連n( )の外交上の失敗が原因となって、わが国の勢力は半島から後退し始め、562年には任那の官家<sup>みやげ</sup>はo( )に滅されてしまった。

〔語群〕 (あ)東北 (い)伊都国 (う)物部尾輿 (え)鉄 (お)馬韓 (か)邪馬台国  
 (き)中部・関東 (く)雄略 (け)豆満江 (こ)蘇我馬子 (さ)弁韓 (し)北朝  
 (す)3 (せ)4 (そ)5 (た)鴨緑江 (ち)安康 (つ)百済 (て)金  
 (と)「宋書」 (な)允恭 <sup>いんぎょう</sup> (に)新羅 (ぬ)南朝 (ね)武烈 (の)安閑  
 (は)「魏志」 (ひ)辰韓 (ふ)聖明王 (へ)大伴金村 (ほ)仁徳 (ま)奴国  
 (み)好太王 (む)銀 (め)欽明 (も)「晋書」

### 2 (6022) <専修大> 古代の氏姓社会

次の文章の( )内に入れるのに最も適した語句を考え、記入しなさい。

畿内の最も有力な豪族である1( )家を中心に諸豪族が連合した大和政権は、国内統一の進行にともない、各地の豪族を2( )制度という政治組織の中にくみ入れた。

同族集団である氏は、首長である3( )と、一般構成員である4( )からなる。3( )は4( )をひきいて、大和政権につかえるとともに、5( )とよぶ田地、部曲(部民)・6( )とよぶ農民・奴隸を支配した。1( )はこれらの氏に、その家柄や職業に応じて、臣・連・君・直・造・首などの身分を示す7( )をあたえ、その地位と職業を世襲させた。また、臣・連の中の有力者を8( )・9( )とし、これに国政を担当させ、地方の豪族には国造・10( )の地位をあたえ、それぞれの地方を支配させるとともに、生産物の貢納にあたらせた。1( )家は子代・11( )とよばれる直属の部民と、12( )とよぶ直轄地を地方豪族の領域に制定し、地方に対する直接支配を強めた。皇室の祭祀や警備など、さまざまな職務は、伴造に分担させた。伴造は13( )とよばれる世襲的な職業団体や14( )とよばれる職業部民をひきいて奉仕した。

大和政権に服属した豪族は、それぞれの氏神をもち、氏神の信仰を通じて同族集団としてのまとまりをもっていた。諸豪族の氏神や氏に関する伝承は、のちに古事記や日本書紀が編纂されるとき、史料となったといわれる15( )や16( )にとり入れられたと考えら

れる。この両者はともに、6世紀の中ごろまでにまとめられたと思われるが、前者は皇室の皇位継承の記録であり、後者は古代の神話・伝承を記録したものである。

氏では、穀物の豊作を神にいのる春の17( )祭や、収穫を神に感謝し新穀を神にささげる秋の18( )祭をおこなった。また、祭にさいしては禊・祓をおこなって罪やけがれをはらったり、鹿の骨を焼いて吉凶を占う19( )や、熱湯に手を入れ、被疑者の罪の有無、訴訟当事者の主張の真否を判断する20( )などの呪術的な風習もおこなわれた。

㉓ (6023) <中央大> 蘇我氏と物部氏の対立抗争

次の文章の( )に入れるのに最も適切な語を考え、指定された字数の正確な漢字または算用数字で記入しなさい。また、下記の設問についても記入しなさい。

(注) A・C・D・F・G・I = 2字, B = 1字, E・H・J = 4字

(1)物部氏は、大和朝廷において(A )氏と並んで軍事面をつかさどる有力な豪族であった。(B )世紀の前半、(C )天皇のときに、九州で筑紫国造(D )が起こした反乱を、物部麁鹿火が大將軍として平定する功績を立てたことなどによって、さらにその勢力を拡大した。その後、(2)物部尾輿らは、任那をめぐる(3)政策の失敗を責めて、大連(E )を失脚させ、大連の地位を独占したが、『日本書紀』によれば、(F )天皇のときに百濟から伝来した仏教の受容をめぐる(4)蘇我氏と対立を深め、さらに皇位継承についての抗争もあって、尾輿の子(G )は、(5)大臣(H )らによって亡ぼされた。この事件によって、物部氏の勢力は大きく後退したが、全く滅びさったわけではなく、その一族はなお中央政界に残り、奈良時代の初期には左大臣にまで昇った人物を出したこともあり、奈良時代後期に文人として聞こえ、わが国における最初の私設公開図書館といわれる(I )を設立した大納言(J )もその流れをくむ一人であった。

[設問]

- (1) 豪族はそれぞれ姓(かばね)をもっていたが、当時、物部氏の姓はどのようなものであったか、正確な漢字で書きなさい。 [ ]
- (2) 「物部尾輿」の普通の読み方をひらがなで示しなさい。 [ ]
- (3) 具体的にはどのようなことであったのか、簡明にしるしなさい。
- 
- (4) 物部氏が軍事面をつかさどったというが、蘇我氏は大和朝廷でどのような役割を分担したといわれているか、簡単に示しなさい。 [ ]
- (5) 「大臣」はこの場合には普通どのように読むか、ひらがなで示しなさい。 [ ]

㉔ (6024) <松山商科大> 聖徳太子の新政

次の文章を読み、設問に答えなさい。

(1)朝鮮半島の経営に失敗後、衰退の一途をたどった大和朝廷も、6世紀の末から7世紀の初めにかけて現われたa( )太子の力によって興隆の気運を回復した。太子は(2)女帝推古天皇の皇太子となり、内政・外交の両面にわたり新政を展開した。当時、内政面で注目されるのは、冠位と憲法の制定である。制定された冠位には、b( )の徳目の名をとった小智から大徳にいたるc( )階があり、朝廷に仕える人々の新しい身分秩序となった。その特徴は、これまでの氏に伝わるd( )がその性格上固定的なものであったのに対し、(A)冠位を個人に属するものと改め、かつ昇進できるものとした点にあるといえよう。また憲法はわずかe( )条の簡単なものであるが、太子がその新政のもう一つの精神的基礎を仏教に求めたことは、第2条に(3)「篤く三宝を敬へ」との一文を挿入したことからもうかがえる。太子は高句麗の僧、惠慈を師として仏教を学んだといわれるが、自ら宮中において仏教の講義を行い、(4)経典に関する注釈書をあらわすほか、難波のf( )寺、斑鳩のg( )寺などの建立をすすめて、仏教の教えを広めようと努力した。外交面にあつては、東

南アジアの国際情勢を判断し、h( )との国交をひらくべく、607年にi( )を派遣した。翌年、答礼使、裴世清が来日、太子はその目的の一半を達成したが、(B)太子の外交姿勢はj( )倭国伝の記載などから有名である。

〔設問〕

(1) 文中の空所 a～j に最も適当な語句あるいは数字を入れなさい。

(2) 文中の下線部分(1)～(4)、および(A)、(B)について、下記に答えなさい。

(1) その象徴的事件である562年の出来事は何か。

{ }

(2) 太子は天皇になることなく政治を担当したが、そのような太子の役割は何と呼ばれるか。

{ }

(3) 三宝とは何か。

{ }

(4) 今日に伝わるこの注釈書は何と呼ばれるか。

{ }

(A) このような変更の目的は何か。30字程度で述べなさい。

\_\_\_\_\_

(B) 太子の外交姿勢を30字程度で述べなさい。

\_\_\_\_\_

5 (6025) 〈青山学院大〉 大和～飛鳥時代の政治と対外関係

次の各問題文について、設問に答えなさい。

- 『興死して弟武立つ。自ら使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七国諸軍事安東大將軍倭国王と称す。……』と(a)( )倭国伝にある。この「武」とは(b)( )天皇のことであるといわれている。この頃、日本は古墳時代(c)( )に当たり、大きな前方後円墳がつくられ、金銅装の(d)( )や甲冑、冠などのほか、大量の鉄製武器が副葬された。
- 『治天下獲□□□齒大王世……』と象嵌された銘文をもつ大刀が、熊本県の(1)( )古墳から発見されている。これまで、この銘文は「復□□□齒大王」と読んで(e)( )天皇のことを指すといわれていた。ところが近年、埼玉県の(2)( )古墳から『辛亥年七月中記……獲加多支齒大王……』と象嵌された銘文をもつ鉄剣が発見され、この大王が(f)( )天皇のことを指すという説が有力になったため、前者の銘文も読み改められるようになってきている。
- 『建武中元二年、倭の奴国、貢を奉りて朝賀す。……』と(g)( )東夷伝にある。この頃、日本は弥生時代(h)( )に当たり、北九州地方では当時の甕棺から、中国より舶載された(i)( )が多数発見されることがある。
- 中国吉林省輯安県の鴨緑江畔には、高句麗の(3)( )王の一代の事績を記した巨大な石碑がある。そこには『百濟と新羅はもともと高句麗の属民であったが、倭が辛卯年に海を渡って来て、百濟や新羅などを臣民としてしまった。そこで王がみずから軍隊をひきいて戦った。……』というようなことが書いてある。この石碑の銘文に関してはいろいろな議論があるが、(j)( )世紀末頃、倭が海を渡って朝鮮半島へ攻め込んだことを裏付けるものであるという説がある。
- 『大業三年、其の王多利思比孤、使を遣はして朝貢す。……其の国書に曰く「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無きや云々」と。……』と(k)( )倭国伝にある。この頃、日本では(1)( )天皇の時代であったが、実際の政治は摂政の(4)( )が行っていた。当時は仏教の信仰がようやく盛んとなって来て、有力な豪族によって各地に氏寺が作られた。半跏思惟像で有名な京都の広隆寺は(m)( )の氏寺であると伝えられている。
- 『二十一年夏六月……近江毛野臣、率衆六万、欲往任那……於是、筑紫国造磐井陰謀叛逆、……』と日本書紀にある。これは(n)( )世紀前半代のことであり、日本書紀では(o)( )天皇の時のこととしている。この天皇は当初、北陸地方にいたが、大連(5)( )によって中央に迎えられたという。

設問1. 各問題文中の(a)から(o)までの空欄に該当するものを、下記の語群から選びなさい。同じものを2回選んでも良い。

イ. 武烈    ロ. 継体    ハ. 前期    ニ. 中期    ホ. 馬具    ヘ. 魏志    ト. 用明  
チ. 5    リ. 後漢書    ヌ. 7    ル. 旧唐書    ヲ. 隋書    ワ. 反正    カ. 宋書  
ヨ. 6    タ. 推古    レ. 後期    ソ. 銅鏡    ツ. 銅劍    ネ. 秦氏    ナ. 3  
ラ. 漢氏    ム. 4    ウ. 雄略

設問2. 各問題文中の(1)~(5)までの空欄に適するものを答えなさい。

6 (6026) <青山学院大> 遣隋使

次の文章の1, 2……5の所に、最も適当な語句を下記の語句群から選び、その符号を記なさい。またa, b……gの所に、最も適当と思う語句を、漢字で記しなさい。また下記の問いに答えなさい。

西暦1( )年に、日本では推古天皇が即位した。この天皇の時代には、大臣a( )と聖徳太子とが、天皇のもとで政治を行なった。東アジアでは、西暦2( )年に隋が中国を統一し、近隣の諸国を威圧しはじめていた。聖徳太子は推古15年〔西暦3( )年〕に、小野妹子を遣隋使として派遣した。そのときの国書に、「日出づる処のb( ), 書を日没する処のc( )に致す、恙なきや」という語句があったので、隋のd( )は無礼であると怒った。

妹子の帰国に際して隋の皇帝は、妹子と共に4( )を国使として日本に派遣したが、その一行が日本に来ると、非常な歓待を受けた。当時、大陸から日本に来る使節は、瀬戸内海を東に航し、その突き当たりのところにあるe( )の港から上陸し、5( )を船でさかのぼって飛鳥に着くのが普通であった。

その後、f( )が国使となり、第三回の遣隋使が派遣されたが、その頃、隋はg( )との戦いなどで国内が混乱していたので、その遣隋使の一行はほとんどなす所なく、空しく帰国した。

〔語句群〕 ア 589    イ 592    ウ 597    エ 607    オ 味摩之  
カ 観勒    キ 裴世清    ク 大和川    ケ 淀川

問1 聖徳太子の時代より以前の、倭の五王の時代に、日本と中国との外交上の関係はどのようなものであったか。次の三つのうちから、正しいと思うものを一つ選び、その符号を記しなさい。

(ア) 日本は中国の属国で、中国の皇帝の権力に服従し、その指図に従って政治をしなければならなかった。

(イ) 日本は中国と全く対等の立場に立っていた。

(ウ) 日本の国王は、中国の皇帝から日本国王に任命されていたが、それは名目上のことに過ぎず、実際にはその指図に従って政治をするということではなかった。

問2 聖徳太子の時代の、東アジアの国際状況や日本の立場について、次の三つのうちから正しいと思うもの一つを選び、その符号を記しなさい。

(ア) 日本は高句麗・百済と親しくし、いくたびか新羅征討の軍をおこした。

(イ) 日本は隋と親しくし、新羅・高句麗を敵視した。

(ウ) 隋と高句麗は同盟関係にあり、日本は百済や新羅と結んで、これに対抗しようとした。

問3 推古天皇の皇居はどこにあったか。次の四つのうちから正しいものを一つ選び、その符号を記しなさい。

(ア) 小墾田宮    (イ) 斑鳩宮    (ウ) 藤原宮    (エ) 飛鳥浄御原宮

## 第2日 古代国家の形成と対外関係

### ●重要用語●

#### □聖徳太子(しょうとくたいし) 574~622

用明天皇の皇子。593年、叔母推古天皇の摂政となり、国政の刷新にあたった。603年、冠位十二階の制を定め、翌04年には憲法十七条をつくった。また蘇我馬子とともに『天皇記』『国記』などの歴史書の編纂にあたったといわれる。07年には小野妹子を遣隋使として隋につかわし、大陸文化の摂取につとめた。さらに仏教の興隆につとめ、『三経義疏』を著し、法隆寺・四天王寺を創建した。

#### □十七条憲法(じゅうしちじょうけんぽう)

聖徳太子が制定し、604年に発布された日本最初の成文法。仏教・儒教・法家思想の強い影響のもとに、官吏・貴族の守るべき政治倫理・服務上の訓戒が17条の漢文で説かれている。天皇中心の中央集権国家の形成を意図したもので、大化改新における政治的理念となり、後代の法典にも影響を与えた。

#### □冠位十二階(かんいじゅうにかい)

603年、聖徳太子によって制定された日本最初の位階制度。徳・仁・礼・信・義・智の6種をそれぞれ大小に分けて12階としたもので、冠の色を順に紫・青・赤・黄・白・黒とし、大小はそれぞれの色の濃淡と飾りで区別した。個人の能力や功績に応じて与えられたもので、豪族の世襲的地位とは別のものである。

#### □遣隋使(けんずいし)

推古天皇は聖徳太子を摂政として内外に積極政治を展開した。対中国関係では、隋に使節を4回(1-600年, 2-607年, 3-608年, 4-614年)派遣した。2・3の大使は小野妹子、3には高向玄理ら留学生・学問僧8名も同行、文化摂取や大化改新などの政治面にも大きな影響があった。日本の国書は対等の礼をもって記された。08年には隋の煬帝の答礼使として派遣された裴世清が来日した。

#### □物部氏(もののべし)

大和政権の豪族。軍事を職務とした。姓は連。6世紀はじめに活躍した麁鹿火の時代からとくに勢力を得て、やがて大連になり、大臣の蘇我氏と勢力を競った。587年、皇位継承・仏教受容をめぐる争いで、物部守屋は蘇我馬子らに滅ぼされた。物部氏の一部は壬申の乱で復活し、石上氏として奈良朝で活動した。

#### □蘇我氏(そがし)

古代の有力な豪族。姓は臣。大和政権の財務・外交を担当し、仏教受容にも尽力した。6世紀に稲目が大臣となり、以後は馬子・蝦夷・入鹿と権勢をふるい、大連の同伴・物部氏を抑えた。645年の大化改新の際に中大兄皇子らにより滅ぼされたが、傍系が石川氏をなおり、八色の姓の制定によって朝臣となった。



#### □好太王碑文（こうたいおうひぶん）

高句麗の好太王（<sup>こうかいど</sup>広開土王）の功績をたたえる石碑の4面に刻まれた漢文。とくに391年に日本（倭）が新羅・百済を破ったという記事は、当時の日本と朝鮮半島との関係を知る貴重な史料とされている。

#### □倭の五王（わのごおう）

中国古代の史書『宋書』とその前後の『晋書』『南齊書』などによると、413～502年の間、<sup>さん</sup>讚・<sup>ちん</sup>珍・<sup>せい</sup>濟・<sup>こう</sup>興・<sup>ぶ</sup>武の倭の5代の王が、中国の王朝に遣使奉貢して、朝鮮を含む自己の支配圏の確認を求めた。この五王と、日本の記紀の天皇との比定は一定せず、<sup>おうじん</sup>讚→<sup>おんじん</sup>応神・<sup>にんとく</sup>仁徳・<sup>りちゅう</sup>履中、<sup>はんぜい</sup>珍→<sup>はんぜい</sup>仁徳・<sup>いんぎょう</sup>履中・<sup>あんこう</sup>反正、<sup>いんぎょう</sup>濟→<sup>いんぎょう</sup>允恭、<sup>あんこう</sup>興→<sup>あんこう</sup>安康、<sup>ゆうりやく</sup>武→<sup>ゆうりやく</sup>雄略などの諸説があるが、武→雄略天皇はほぼ定説になっている。

#### □大和政権（やまとせいけん）

大和地方とその周辺の豪族が皇室を中心として結集した古代政権。4世紀中葉ごろまでに成立したと思われる。中部地方以西の西日本を統属していたが、5世紀には東北地方を除く日本全土が支配下に入った。6世紀になると諸豪族の氏姓制度の上に世襲の王権が確立、7世紀の大化の改新によって国家機構が整備された。

#### □氏姓制度（しせいせいど）

<sup>うじ</sup>氏と<sup>かばね</sup>姓とによって秩序だてた、大和政権の政治的・社会的支配制度で、5世紀を中心に成立した。<sup>うじのかみ</sup>氏は氏上を首長とした同族集団で、職能的なものと、地名をなめる地域の首長的存在とがあった。大和政権は、各氏の地位・家柄・職掌などに即して<sup>おみ</sup>臣・<sup>むらじ</sup>連・<sup>きみ</sup>公・<sup>あたい</sup>直・<sup>みやつこ</sup>造などの姓を与えて、政治的な秩序のなかに組み込んだ。大和政権の王は、それら群小の王たちの上に大王として君臨する体制をとった。

#### □磐井の乱（いわいのらん）

『日本書紀』に記載される古代九州での反乱。強大な勢力をもった筑紫国造の磐井が、527年に新羅の要請を受けて筑前・豊後を中心として兵をあげ、大和政権の任那救援軍の進軍を妨げたもので、九州北部にまたがる大反乱となった。<sup>けいたい</sup>継体天皇は<sup>おおとものかなむら</sup>大伴金村・<sup>もののべのあらかひ</sup>物部麁鹿火を派遣して、これを鎮圧させた。

#### □任那（みまな）

4世紀の後半、大和政権は朝鮮半島南部の伽耶（加羅）を支配下において任那と称した。その西方は<sup>くだら</sup>百済、東方は<sup>しらぎ</sup>新羅、北方は<sup>こうくり</sup>高句麗で、5世紀には攻防がくりかえされた。6世紀に入ると、任那は新羅・百済に圧迫されるようになり、562年には完全に滅亡した。任那経営の拠点を日本府とよんだという。任那および日本府については異説もある。

#### □百済（くだら）

古代朝鮮南部の国家。4世紀中葉に馬韓の1国から勢力を拡大して建国。当初から日本と結んで高句麗に対したが、任那滅亡後は衰え、唐・新羅の連合軍に敗れて660年に滅亡した。日本とは関係が深く、仏教をはじめとする多くの文物を日本に伝えた。また戦乱中や滅亡後に多数の百済人が渡来し、日本文化の発展に寄与した。

#### □新羅（しらぎ）

4世紀中葉、朝鮮半島南部に成立した国。唐と結んで660年に百済を、68年に高句麗を滅ぼし朝鮮を統一した。また63年には、唐と連合して白村江の戦いで日本軍を破った。935

年，高麗王朝に倒された。

#### □高句麗（こうくり）

中国東北部・朝鮮に勢力を有した満州系の王朝。紀元前後に満州東部におこって朝鮮へ勢力を伸ばし、4世紀の広開土王(好太王)のころ最も栄えた。5世紀には平壤に遷都し、新羅・百済と勢力を競った。だが7世紀に入るとたびたび隋や唐に攻められ、668年ついに唐と新羅の連合軍に滅ぼされた。建築・古墳の遺跡が残る。

### ●発展用語●

#### □稻荷山古墳（いなりやまこふん）

埼玉県行田市にある前方後円墳。500年前後の築造とされる。出土した鉄剣から「辛亥年七月中記…獲加多支鹵大王…」の銘文が1983年に発見され、この大王が雄略天皇をさすとの説が、大いに論議をよんだ。

#### □宋書倭国伝（そうじよわこくでん）

宋書は中国南朝の宋の歴史書で、100巻からなる。巻97 夷蛮伝倭国の条に、讚・珍・済・興・武の倭の五王が朝貢したことが記されている。済以下の王は、記紀にみえる允恭・安康・雄略の各天皇が比定される。

#### □隋書倭国伝（ずいしょわこくでん）

中国の隋時代を扱った歴史書『隋書』のなかの日本に関する条項。『隋書』は唐の魏徵らが636年に編集を終えた隋朝の正史で、そのなかの倭国伝では当時の日本の実情が述べられている。遣隋使小野妹子の派遣、「日出づる処の天子…」の聖徳太子の国書、煬帝の裴世清日本派遣などが記されているのはこの書である。

#### □蘇我馬子（そがのうまこ） ?～626

蘇我稲目の子。敏達朝から推古朝まで父を継いで大臣となる。仏法を信奉し、聖徳太子と結んで、587年に排仏派の大連物部守屋を滅亡させた。92年には崇峻天皇を殺害させ、妹の産んだ子を推古天皇に擁立した。以降天皇と摂政の聖徳太子に協力し、推古朝の刷新政治に貢献した。飛鳥寺は馬子が建立したものと伝えられている。また石舞台古墳は馬子の墓といわれる。

#### □推古天皇（すいこてんのう） 554～628

最初の女帝。欽明天皇の第3皇女。在位592～628年。母は蘇我稲目の娘堅塩媛。576年、敏達天皇の皇后となり、92年に崇峻天皇が蘇我馬子に暗殺されると、推されて即位し、聖徳太子を皇太子・摂政とした。その治世に太子と馬子は協力して国政の刷新にあたり、仏法の興隆、冠位十二階と憲法十七条の制定、国史の編纂、隋との国交などが行われ、法隆寺などを中心に飛鳥文化が花開いた。皇統譜33代。

#### □小野妹子（おののいもこ） 生没年不詳

飛鳥時代、『日本書紀』に見える日本最初の遣隋使として、「日出づる処の天子…」に始まる国書を隋の煬帝に献じた。08年、隋使裴世清をともなって帰国した。裴世清帰国のときに再び遣隋使となり、留学生の高向玄理、学

問僧の南淵 請安・(僧)曇らをともなって隋に渡り、翌年帰国した。

#### □国造 (くにのみやつこ)

大化改新以前、大和朝廷がおいた地方官。多くは朝廷に服属した地方豪族が任ぜられた。国造には臣・連・直などの姓が与えられた。大化改新で廃止されたが、律令制度下の郡司には、旧来の国造が優先的に任ぜられた。なお国造の名は1国1名くらい残されたが、平安中期にはそれもなくなった。

#### □県主 (あがためし)

大化改新以前の県の支配者。大和朝廷の直轄地や国造の下にある地方組織の長で、多くは大和朝廷に服属した地方の小国家の首長が任ぜられた。大化改新で廃止され、のち姓の1種となった。

#### □屯倉 (みやけ)

大化改新以前に発達した古代的な土地所有の形態。はじめは穀物を収納する倉庫をさしたが、のちに耕地・耕作民をも含む名称となった。耕作民は田部とよばれた。田部の戸籍をつくる屯倉もあらわれたが、これは大化改新以後の班田制、戸籍による中央集権的な公地公民制への先駆的役割を果たすことになった。

#### □田荘 (たどころ)

大化改新前の豪族の私有地。奴婢や部曲に耕作をさせ、農民に小作させて収入を得た。その形態は屯倉と大差なく、農民の窮乏・奴隷化という点で弊害が大きかった。大化改新で屯倉とともに廃止された。

#### □大臣 (おおおみ)

令制以前の朝廷で、大連とならぶ最高官。臣を姓とする氏のなかの最有力者で、葛城・平群・巨勢・蘇我氏が歴任、のちには蘇我氏が独占して力をふるった。大化改新で廃止され、以後左・右大臣がおかれた。

#### □大連 (おおむらじ)

大和朝廷の律令制以前の最高官。5世紀中葉より、連を姓とする最有力者の大伴・物部両氏が世襲し、臣の最有力者である大臣とともに国政を担当した。6世紀中葉、大伴金村が朝鮮半島経営の失敗で失脚したあとは物部氏が独占した。587年に物部守屋が蘇我氏に滅ぼされてから大連はおかれず、大化改新で廃止された。

#### □部曲 (かきべ)

大化の改新より前代における豪族の私的な領有民。古訓では「かきのたみ」ともいわれた。各氏領有の田荘の耕作などに従事したとされる。大化の改新(645年)で公地公民制がうち出され、その後一度は豪族私有民が認められたが、675年(天武4)完全廃止の詔が出て、国家の土地・人民支配体制が推進・徹底されていった。

#### □氏上 (うじのかみ)

古代における氏の首長。氏上は氏を代表し、氏の成員である氏人を率い、部民や奴婢を従属させていた。それぞれ世襲的な職業を通して大和朝廷に仕え、また氏の神の祭祀を行った。大化の改新以後は朝廷によって任命されるようになった。平安時代には氏上にあたる者を氏長者とよぶようになる。

□品部（ともべ）

「しなべ」とも読む。氏姓制度下で伴<sup>とものみやつこ</sup>造に率いられ、職能・技術をもって大和政権に仕えた。海部・山部・馬飼部・舎人部などがあり、それぞれの産物を貢納したり、賦役に従ったりした。身分は良民に属したが、実質的には賤民に近い。

□盟神探湯（くか(が)たち）

古代に行われた裁判方法の1つ。審理の決しにくいとき、被疑者に熱湯のなかの小石を取らせ、手がただれるか否かで真偽正邪を裁いた。『日本書紀』に例がある。室町時代にも類似のことが行われた。

## 第3日 律令国家の形成と律令制度

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (0301) 最重要年代チェック

[ ]にあてはまる年代と語句を答えなさい

- (1)[ ]年……大化改新——蘇我入鹿らが討たれる
- (2) 646年……[ ]4か条を發布
- (3)[ ]年……白村江の戦——唐・新羅連合軍に完敗
- (4) 667年……[ ]に遷都
- (5)[ ]年……壬申の乱
- (6) 694年……[ ]に遷都
- (7)[ ]年……大宝律令が完成
- (8) 718年……[ ]が制定される

### 2 (0302) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)推古天皇のあと即位した天皇。第1回遣唐使を派遣した。 [ ]
- (2)在位中、飛鳥板蓋宮<sup>あすかいたぶさのみや</sup>で蘇我氏暗殺のクーデターがおこったため退位。 [ ]
- (3)蘇我馬子のあとを受けて大臣となったが、645年に自害した。 [ ]
- (4)国政に専権をふるい、645年、中大兄皇子や中臣鎌足らに暗殺された。 [ ]
- (5)中臣鎌足と大化改新を推進し、のち称制を終え天智天皇となった。 [ ]
- (6)大化改新の中心人物の1人。改新政府では内臣<sup>うちつおみ</sup>として活躍した。 [ ]
- (7)齐明天皇の時、船団をひきいて蝦夷・肅慎<sup>みしはせ</sup>を征したといわれる。 [ ]
- (8)天智天皇の皇子で太政大臣となったが、壬申の乱で敗れて自殺した。 [ ]
- (9)壬申の乱に勝利し、飛鳥浄御原宮で即位して天武天皇となった。 [ ]
- (10)天武天皇死後3年の称制を終えて即位し、飛鳥浄御原令を施行した。 [ ]
- (11)文武天皇の命で律令編纂の総裁となり、701年大宝律令を完成させた。 [ ]

### 3 (0303) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項—律令制度〉

- (1)646年、孝徳天皇が4か条にまとめて公布した改新政治の基本構想。 [ ]
- (2)中臣鎌足らが中心となって編纂し、668年に完成したわが国初の令。 [ ]
- (3)天武天皇が編纂した令22巻で、689年、持統天皇のときに施行された。 [ ]
- (4)670年、天智天皇のもとで作成された、わが国初の完備された戸籍。 [ ]
- (5)684年、身分秩序を再編成するために天武天皇が制定した8種の姓<sup>かばね</sup>。 [ ]
- (6)701年、刑部親王や藤原不比等によって編纂された基本的法典。 [ ]
- (7)今日の刑法にあたり、五刑・八虐の規定などを含む法典。 [ ]
- (8)法典のうち、今日の民法・商法・行政法に相当する諸法令の総称。 [ ]
- (9)718年、藤原不比等らが中心となって編纂し、757年に施行された法典。 [ ]
- (10)律令官制の中での最高の地位で、「則闕の官」ともいわれる。 [ ]

- (11)八省の中で、天皇の側近として詔勅の起草などを司る最も重要な省。〔 〕
- (12)律令官制の1つ。役人の監察を行うため太政官とは別に設置された。〔 〕
- (13)律令官制の1つで、京内の巡察や宮城の警備するために設けられた役所。〔 〕
- (14)大和・山城・摂津・河内・和泉の五国の総称で、都をとりまく要域。〔 〕
- (15)古代の地方行政区域。都を中心に7つに区分され、官道でもあった。〔 〕
- (16)律令国家における地方役人。中央貴族などが任期4～6年で赴いた。〔 〕
- (17)国司の支配下にあり、郡の民政一般や裁判を司った役人。〔 〕
- (18)答・杖・徒・流・死という律令で定められた5つの刑罰の総称。〔 〕
- (19)律令官制における役所・役人の階級。長官・次官・判官・主典で構成。〔 〕
- (20)律令官制において、官職と位階が相当して定められる制度のこと。〔 〕
- (21)律令制下で、五位以上の子、三位以上の孫などに認められた特典制度。〔 〕
- 〈事項－班田収授法〉
- (1)氏姓の台帳、また班田収授の台帳として6年ごとに作成された。〔 〕
- (2)庸・調を賦課するための基本台帳で、毎年作成された書類のこと。〔 〕
- (3)律令制下の賤民で、りょうこ・かんこ・くぬひ・けにん・しめひ 陵戸・官戸・公奴婢・家人・私奴婢の総称。〔 〕
- (4)唐の均田法をもとにした土地制度。6歳以上の男女に口分田を班給した。〔 〕
- (5)官職に応じて与えられた土地で、郡司の土地以外は不輸租。〔 〕
- (6)土地を碁盤目状に区画し、南北を条、東西を里で表示した制度。〔 〕
- (7)田地に課される税で、段別2束2把の稲束を納める。収穫高の約3%。〔 〕
- (8)歳役10日の代償として、正丁1人あたり布2丈6尺を納めた税のこと。〔 〕
- (9)絹・糸・鉄・海産物など、諸国の特産物を朝廷に納めた税のこと。〔 〕
- (10)年間60日を限度に、国司の監督のもとで地方の土木工事に従事した。〔 〕
- (11)春に種粉を貸し付け、秋の収穫時に利息とともに返還させた制度。〔 〕
- (12)正丁3～4人に1人の割合で徴兵される、古代律令制下の軍事制度。〔 〕
- (13)古代軍事制度の1つ。訓練された兵士が1年任期で宮門を警備した。〔 〕
- (14)古代軍事制度の1つで、3年を任期として北九州に配備された兵士。〔 〕
- (15)21歳～60歳までの成年男子のことで、戸籍区分上用いられる。〔 〕

#### 4 (0304) 重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)聖徳太子の子で、のち蘇我入鹿にそがのいるか斑鳩宮を攻められて自害した。〔 〕
- (2)大化改新で改新政府の左大臣となって活躍した、旧豪族の長老。〔 〕

#### 5 (0305) 重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事 件〉

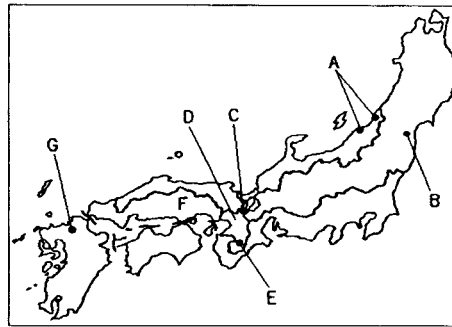
- (1)663年、百濟救援に赴いた日本水軍が、唐・新羅連合軍に敗れた事件。〔 〕
- (2)天智天皇死後の皇位継承をめぐる、大友皇子と大海人皇子の対立。〔 〕

〈事 項〉

- (1)646年の改新の詔で表明された、土地・人民支配に関する基本方針。〔 〕
- (2)八省の中で最も民衆に接近した業務を営み、戸籍などを司った役所。〔 〕
- (3)郷戸の中に含まれる小家族で、直系家族を中心に構成された。〔 〕
- (4)正丁は年間10日を限度として都での労働に服した。庸はその代償。〔 〕
- (5)毎年、粟などを出しあって蓄え、凶作に備えた制度。〔 〕
- (6)庸や調を中央政府まで運ぶ農夫のこと。道中の食料も自弁であった。〔 〕

6 (0306) 最重要地名チェック

ことがらにあてはまる記号を地図から選んで答えなさい



- (1)畿内(五畿) [ ]
- (2)近江大津宮(中大兄皇子が遷都) [ ]
- (3)藤原京(持統天皇が造営) [ ]
- (4)大宰府(九州に置かれた地方官庁) [ ]
- (5)淳足・磐舟柵(蝦夷に対する前線基地) [ ]

7 (0307) 重要地名チェック

ことがらにあてはまる地名・宮都名などを答えなさい

- (1)645年, 蘇我蝦夷・入鹿らが討たれたときの宮都。飛鳥地方にあった。 [ ]
- (2)古代軍事上の要請からおかれた関所。近江国と美濃国の境にあった。 [ ]
- (3)古代軍事上の要請からおかれた関所。伊勢国と近江国の境にあった。 [ ]
- (4)古代軍事上の要請からおかれた関所。越前国と近江国の境にあった。 [ ]
- (5)667年, 中大兄皇子が遷都した近江の都で, 滋賀の都ともいわれる。 [ ]
- (6)大海人皇子は壬申の乱後, 672年に遷都し, ここで即位した。 [ ]
- (7)畝傍山・耳成山・天香山の3山に囲まれた宮都。持統天皇が造営した。 [ ]
- (8)古来, 北九州におかれていた大和朝廷の出先機関であったところ。 [ ]

8 (0308) <同志社> 大化改新と律令国家の成立

次の文中の空欄1~6には適当する人名(天皇以外は姓・名ともに)を, 8および10~12には適当する語句を, 7と9には適当する数字をそれぞれ記入しなさい。ただし, 数字以外は漢字で記しなさい。また, 下線部分について設問に答えなさい。

620年代に聖徳太子や(1 ), また(2 )天皇があいついで没すると, 朝廷では(3 )が他氏族の有力者たちを抑えて実権を握った。しかし, 一方では中大兄皇子や(4 )にひきいられた改革派が慎重に動きはじめ, この改革派の人びとはa 隋・唐の大陸文化を直接学んで帰国したばかりの助言者たちと深く接触した結果, 制度の根本的な改革のためには, 自分たちの側でなんらかの直接行動をとらなければならないとおもうようになった。643年に(3 )の子が(5 )の一族をせめほろぼしたことが一つの導火線ともなって645年6月に中大兄皇子らによるクーデターが断行された。中大兄皇子は(6 )天皇をたててみずからは皇太子の地位にとどまり, b あくる年の元旦に政治秩序の改革的な再編成を宣言する詔が出された。この詔は, 中国の先例にしたがって, 田荘の廃止や氏族社会を支えていた部民制の廃止を要求し, また全国の土地資源にたいする天皇の支配権を主張した。詔はまた, 恒久的な首都や国・郡・里の制度による全国的な行政制度の設置を要求し, かつc 人口調査を行うこと, および土地を完全に調査して品等を定め, d 基準をもうけてこれを耕作者に割り当てることを命じた。そして租税が規則によって課せられ, 上級階層は官職に任命されて, 位階と身分とに応じて俸給を受けるべきものとされた。

このような内容をもつ「改新の詔」がはたして645年当時のものか, あるいはe 689年以後の「令」の条文によってのちに述作されたものかについては論議のあるところだが, 『日本書紀』は649年

には八省百官が創設されたと伝え、それはまだ完全なものではなかったにせよ、8世紀の初めまでには律令官制の機構は整えられた。中央政府の機構は二官八省からなり、国の政治は太政官の公卿が決定して天皇の裁許を仰ぎ、それを施行する政務は八省それぞれが分担した。その八省とは、詔書の作成や侍従の職務、図書の管理や国史の編集までもを担当する中央書記局とでもいうべき役所、文官の人事や朝廷儀式の実施などを担当する役所、貴族や僧侶の身分を扱い、仏事や外国使節の接待などに当る役所、f 主として土地・戸籍・税務を管理する役所、武官の人事を扱い、軍事に当る役所、裁判・刑罰などのことを取り扱う役所、財政を担当する役所、宮中の事務を担当する役所、の八つである。各省の下には、職・寮・司の名をもった下級官庁が属した。また、八省とは独立して g 一台・五衛府 が置かれ、五衛府は大内裏の警護や京中の巡察に当った。

地方政治の区画は、首都を左右に分けた行政にはじまり、国に及んだ。8～9世紀にはその国数は(7 )余であった。それぞれの国は中央から一定の任期で派遣され国府に駐在する国司によって治められた。国は郡に分けられ、郡は里に細分されたが、郡司には中央官人ではなしに、大化改新以前の(8 )クラスの豪族が世襲的に任命された。農民には課税のほかに兵役の負担があり、成年男子の約(9 )分の一が兵士として諸国の軍団に交替で勤務した。兵士はその国の軍団に勤めるだけでなく、その一部は(10 )として都で軍務についてたり、(11 )として北九州の警護に当たったりした。しかし、徴兵によるこれらの軍団の質はしだいに低下し、平安時代の初めにはこの軍団を廃止し、郡司などの子弟で弓馬にたくみなものを(12 )として採用した。

〔設問〕

- a. この助言者たちとはだれか。そのうちの1人をあげて、その名を漢字で記しなさい。 [ ]
- b. この時、都はどこにあったか。漢字2字で記しなさい。 [ ]
- c. 最初の全国的な戸籍がつくられたのは、西暦何年か。 [ ]
- d. これによって6歳以上の男子には2反、女子にはその三分の二が与えられたが、女子に与えられたのは何反何歩か。 [ ]
- e. 689年に定められた「令」は何か。漢字で記しなさい。 [ ]
- f. この省の名称を漢字で記しなさい。 [ ]
- g. 一台とは何か。その名称を漢字で記しなさい。 [ ]



## 類題トレーニング(6030)

### 1 (6031) <成蹊大> 改新政治の展開

次の文を読み、問に答えなさい。

「大化改新は、国内的にはA( )氏の横暴を排して天皇中心の中央集権体制を確立し、対外的には、B( )と提携して朝鮮半島の統一を推し進めようとしていたC( )の脅威に対抗できる強力な支配体制を持つ国家を樹立しようとするものであった。その具体的な政策としては、D( ), E( )の制を廃してF( ), G( ), H( )を置くという政府機構の整備のほか、次のような改革が行われたといわれている。

- ① 名代、子代、屯倉、部曲、田所などの私地、私民を収公し、天下の土地、人民を天皇・国家の直接支配とするI( )の制をとった。
- ② 全国を国、郡、里の行政区画に分け、そのおのおのに国司、郡司、里長を置き、また関塞、斥候、J( ), 馱馬、伝馬などの軍事・交通の施設を設けた。
- ③ I( )の制にのっとり、天下の人民を掌握するため戸籍・計帳をつくり、かつ、班田収授の法を実施した。
- ④ 租、K( ), 調の税制を定めた。

しかし、このような改革については反対の勢力も少なくなく、その不満をなだめるため、食封の制を認め、奴婢を廃止せず、郡司には国造などの豪族を任命するなどの妥協が行われた。とくに、L( )をきっかけとして、対馬、壱岐、筑紫にはJ( ), 烽を配置し、筑紫に水城を築き、長門国や大宰府などに城を設けるなどの国防対策を強化するとともに、(1)冠位26階を制定し、氏上を決定して民部、家部を設定した。この間、大化改新の中心人物であったM( )皇子は、斉明天皇の病死後皇位空白の期間中、皇太子のまま軍事、政治をみっていたが、都を近江大津に遷した668年に即位して天智天皇となった。」

「N( )の原因は天智天皇死後の大海人皇子と大友皇子の皇位継承争いであり、その政治的背景には新政府に対する豪族や民衆の不満があった。勝者として即位したO( )天皇は、天皇親政の下に有力氏族の政治介入を最小限にとどめ、皇族を政治の中心に配置した。これを皇親政治という。そして、天皇の権威確立を背景として大化改新の政策を徹底するために、(2)民部を廃止し、飛鳥浄御原令の編修に着手し、八色の姓を定め、冠位を改正した。さらに、国家意識を高め、天皇の権威を強めるために、国史の編修を開始した。」

問1. A～Oに、それぞれ該当する文字を入れなさい。

問2. 下記(1)～(3)の設問に答えなさい。

- (1) 飛鳥浄御原令以前にも近江令が制定されたといわれているが、飛鳥浄御原令の後、奈良時代の終わりまでに編修された律令を2つ挙げなさい。  
[ ] [ ]
- (2) 奈良時代に完成された国史2つを挙げなさい。  
[ ] [ ]
- (3) 奈良時代に、諸国の産物、伝説などを記した地誌の編修が命じられたが、これらの地誌を総称して、何とよぶか。 [ ]

問3. 下線部(1)は、どのような目的で行われた政策か。30字以内で答えなさい。

問4. 下線部(2)の改革は、大化改新のどのような政策を徹底させたものか。10字以内で答えなさい。

[ ]

2 (6032) <中央学院大> 律令の地方制度と官制

次の文の( ) (a~f)に、最も適切な語句を、語群(1~20)中より選び出し、その頭書の番号を記入しなさい。なお、問A・問Bにも答えなさい。

国家は全国を畿内と七道に分け、それをさらに分けて国・郡・里とし、それぞれ国司・郡司・(イ)( )をおいた。国司は中央から派遣されたが、郡司はその地方の豪族が任命された。(イ)は里内の住民の中から任ぜられ、徴税・行政の職務を行ったのである。さらに都には、a( )・b( )、難波にはc( )、九州にはd( )がおかれた。

このような地方行政機構に対し、天皇の統治は、中央に太政官・神祇官をおき、前者の下に八省をおいた。

諸官庁には長官・次官・(ロ)( )・(ハ)( )の四等官があり、その下に多くの下級官吏がいたのである。官吏は功勞により、位階を進められ、位階に相当する官職に任命されるのが原則で、官位に応じてe( )・田地・絹・布などの俸禄が与えられた。官吏養成のために、中央に大学、国ごとにf( )があったが、特権の多い上級の官吏の地位を中央の有力な氏族がほとんど独占し、中小氏族や地方豪族の子弟が高い官位にのぼることは珍しいことであった。

- [語群] 1. 儒学 2. 右京職 3. 九州探題 4. 修理職 5. 摂津職  
6. 出挙 7. 私学 8. 防人司 9. 大宰府 10. 中宮職  
11. 墾田 12. 左京職 13. 国学 14. 乗田 15. 勸学院  
16. 東宮職 17. 鎮西奉行 18. 大膳職 19. 弘文院 20. 封戸

問A. 文中の(イ)( )・(ロ)( )・(ハ)( )にも適当な語を、それぞれ一般的な漢字二字で記しなさい。 (イ){ } (ロ){ } (ハ){ }

問B. 下線部分のような制度を普通何というか。 { }

3 (6033) <中央大> 律令制と農民

次の文章を読んで、設問について答えなさい。

律令体制下では、農民は一般に20人前後の親族や非血縁者をもって1戸を形成し、戸は2~3世帯からなるといわれ、50戸をもって(1)里を構成していた。農民は身分差・性別・年齢によって、異なる大きさの口分田を授けられており、(2)租庸調や雑徭などの税負担があった。さらに兵役義務もあり、(3)正丁の3分の1が徴集されて地方軍団に配属されたが、なかには1年間都にのぼって(4)皇居や京内の警備にあたる者や、3年間防人となって九州の警固につくものもあった。

[設問]

1. 里を後になんと呼んだか、漢字で書きなさい。 { }  
2. (ア)租、(イ)庸、(ウ)調、(エ)雑徭はそれぞれ(地)地方国徭と(中)中央政庁のどちらに対するものであったか、(地)または(中)の記号で答えなさい。  
(ア){ } (イ){ } (ウ){ } (エ){ }  
3. 正丁は最初は何歳から何歳まででしたか。 { }  
4. このような警備にあたる者を何とよぶか、漢字で書きなさい。 { }

4 (6034) <慶應義塾大> 大宝・養老令下の班田収授

次の(一)の文中の(1~5)に最も適切な語句を記入し、かつ(二)の質問A・Bに答えなさい。

(一) 大宝・養老令の規定によれば、班田収授法により、(1 )歳以上の男女に田が与えられた。これを(2 )という。その面積は、男子が(3 )段、女子はその(4 )分の(5 )であった。

(二) 奈良時代において、ある戸の戸主は現在66歳、その妻は60歳、長男は40歳、長女32歳、次男27歳、長男には37歳の妻と13歳の女の子、7歳の男の子、3歳の男の子があり、戸主の母は去年82歳で死んだ。3年前には令の規定通りに班田収授がおこなわれている。この戸が現在もっている田について、(問A)男子のもっている田の面積の合計、(問B)女子のもっている田の面積の合計を記しなさい。 問A{ } 問B{ }

5 (6035) <明治大> 班田農民の負担

次の養老令の史料を読んで、下記の設問に答えなさい。なお、1の設問には数字で、2～6の設問には漢字で記しなさい。

- A. (戸令) 凡そ戸はa( )戸を以て里と為よ。里毎に長一人を置け。(中略)  
 凡そ戸籍はb( )年に一たび造れ、十一月上旬より起して、式に依り勘へ造れ。(後略)
- B. (田令) 凡そ口分田を給はんことは、男にc( )段、女は三分の一を減ぜよ。五年以下には給はざれ。(後略)
- C. (賦役令) 凡そ㊷( )の絹・緇・糸・綿・布は、並に郷土の所出に随へ。(中略)  
 凡そ正丁の歳役は十日、若し㊸( )を取るべくんば布二丈六尺。(中略)  
 凡そ令条外の㊹( )は、人毎に均く使へ、総て六十日を過ぐることを得ざれ。(後略)
- D. (軍防令) 凡そ兵士の上番せむは、(1)京に向はむは一年、(2)防に向はむはd( )年、行程を計へず。(後略) (令義解)

[設問]

1. 上記史料の空所(a～d)に適當する数字を記しなさい。
2. 戸籍とは別に、毎年租税を徴取するためにつくられた台帳を何というか。  
 { }
3. 口分田を班給して残った田地を何というか。  
 { }
4. 租税の一種として、政府は凶作のとき農民に春稻を貸しつけ、秋に利息とともに租税を徴取する制度を何というか。  
 { }
5. 史料C(賦役令)の空所(㊷～㊹)に、租税に関する適當な用語を入れなさい。
6. 史料D(軍防令)の下線部(1)と(2)に向う人たちをそれぞれ何と呼んだか。  
 (1){ } (2){ }

6 (6036) <慶應義塾大> 奈良時代の律令制

[A]( )内にあてはまる答を、また[B]下線をひいた箇所に関する設問の答をそれぞれ記入しなさい。

日本書紀につぐ時代をあつかっている官撰の正史は、(1)イ( )である。(2)この中の一節に、「三品口( )親王、正三位藤原朝臣ハ( )、(中略)、をして(3)律令を撰定せしむ、是に於て始めて成れり。大略、淨御原朝廷を以て准正とす。」(原漢文)とあるように、ニ( )天皇以来進められてきた皇親政治体制の整備はここに一つの完成をみた。同じ頃中国では、ホ( )皇帝治下のいわゆる盛唐期を迎えようとしていた。したがって体制の模範を中国に求めたのは自然であった。しかしもとより両国の間では社会の発展度が異なっていたので、形式的類似性の背後には、さまざまな相違点が存在していた。「律令」という同じ語を使用しながらも、中国ではヘ( )を基本法とみなしていたのに対し、(4)日本ではト( )こそが重要と考えていたことなどはその一例といえよう。このような輸入制度ではあったが、律令は時々の子( )、リ( )と呼ばれる(5)修正法令、施行細則を加えながら機能していった。律令体制の当初、天皇——貴族——下級官吏——ヌ( )——(6)品部、雑戸——ル( )の身分秩序は厳然としており、身分間の生活格差も著しかった。(7)官吏はそれぞれの位階に応じて官職についた。彼らは課役を免除されたのに加えて、官位に応じてヲ( )、田地、禄を与えられていた。官吏養成のため中央にワ( )、地方にカ( )が設けられていたが、これもヨ( )位以上の貴族の子、あるいは孫などに自動的に位階を授けるタ( )の制によって骨抜きにされていた。これと反対に、大多数の人々は、重い税負担、さらには防人、レ( )などを含む兵役を課せられ貧困であった。万葉集に収録の(8)歌の一節に、「伏塵の曲塵の内に直土に藁解き敷きて」とあるように、彼らはソ( )住居に暮していたと思われる。

[設問] (1) a. これは、何天皇の時代から記述を始めているか答えなさい。

{ }

- b. これら10世紀初めまでの官撰の正史を総称して何と呼ぶか答えなさい。 [ ]
- (2) これは何年についての記事か年代(西暦)を答えなさい。 [ ]
- (3) 律令は、それぞれ今日の何にあたるものが説明しなさい。  
律[ ] 令[ ]
- (4) このことが律令の内容を解明する史料の残存状態にも反映している。当時の律令の内容を今日知るために重要な史料を2つあげなさい。  
[ ] [ ]
- (5) これらを知る上で重要な10～11世紀に成立した史料は何か答えなさい。  
[ ]
- (6) 彼らはどのような人々であったか説明しなさい。  
[ ]
- (7) この制度は何と呼ばれているか答えなさい。 [ ]
- (8) a. この歌の作者は誰か答えなさい。 [ ]  
b. この歌の題名を答えなさい。 [ ]

## 第3日 律令国家の形成と律令制度

### ●重要用語●

#### □大化改新の詔（たいかのかいしんのみことのり）

646年(大化2)1月1日、大化改新の基本方針を示した詔。公地公民制、国・郡・里などの地方行政組織の整備、戸籍の作製と班田収授法の実施、租・庸・調を中心とした税制確立などの4項目からなる。

#### □天智天皇(中大兄皇子)（てんじてんのう(なかのおおえのおうじ)） 626～671

舒明<sup>じよめい</sup>天皇の皇子、母は皇極<sup>こうぎよく</sup>(齐明<sup>さいめい</sup>)天皇。名は中大兄。645年、中臣鎌足<sup>なかとみのかまたり</sup>らとともに蘇我蝦夷<sup>そがのえみし</sup>・入鹿<sup>いるか</sup>父子を倒した。皇太子となり、年号を初めて定めて大化とし、功臣・博士らを登用して改新政治を推進、即位<sup>てんじ</sup>して天智天皇となった。在位668～71年(称制661～68)。63年に百濟救援の軍が白村江で敗れてから内治に専念した。67年、都を近江大津に遷し、氏上<sup>うじのかみ</sup>などの制定、庚午年籍<sup>こうごねんじやく</sup>の作成、近江令<sup>おうみりょう</sup>の編纂などを行った。皇統譜38代。

#### □壬申の乱（じんしんのらん）

大化の改新を行い、都を近江大津に定めた天智天皇<sup>てんじ</sup>は、弟の大海人皇子<sup>おおあま</sup>をさしおいて子の大友皇子<sup>おおとも</sup>を後継者にした。このため大海人は吉野に隠棲したが、天智の死後、朝廷が動揺すると、大海人は吉野を出て東国美濃・尾張の軍を動員し、大和の大伴氏<sup>おおとも</sup>もこれに呼応して立った。激戦1か月で近江方は敗れ、大友(弘文天皇<sup>こうぶん</sup>)は自殺した。672年、壬申の年におこった皇位継承をめぐる皇族・豪族の抗争であり、古代の一大戦乱であった。大海人は即位<sup>てんむ</sup>して天武天皇となった。

#### □八色の姓（やくさのかばね）

684年に天武天皇<sup>てんむ</sup>が改定した新しい姓の制度。八姓は真人<sup>まひと</sup>・朝臣<sup>あそみ</sup>(あそんともいう)・宿禰<sup>すくね</sup>・忌寸<sup>いみき</sup>・道師<sup>みちのし</sup>・臣<sup>おみ</sup>・連<sup>むらじ</sup>・稻置<sup>いなぎ</sup>。各氏の伝統・門地や功績を考慮して再整備し、皇親を重視し、天皇中心体制の確立をはかった。

#### □藤原京（ふじわらきょう）

4年余を費やして694年(持統8)に完成。大和三山に囲まれた地(現橿原市)に中国の都城制にならった左京・右京各12条・4坊の条坊制の地割が設定された。持統<sup>じとう</sup>・文武<sup>もんむ</sup>・元明<sup>げんめい</sup>3代(694～710年)の帝都となり、律令国家の成立を象徴する都城であったが、711年に焼失。なお発掘により木簡など多数の資料が発見されている。

#### □大宝律令（たいほうりつりょう）

701年(大宝元)に完成した、わが国で最初の行政・刑罰に関する統一基本法。文武天皇<sup>もんむ</sup>が刑部親王<sup>おさかべ</sup>・藤原不比等<sup>ふじわらのふひと</sup>らに命じてつくらせたもので、唐の律・令を範とし、わが国の実情・慣行に適應させた。律は刑法にあたるもので6巻、令は行政法などにあたるもので11巻からなる。全文は現存しないが、これを継承した養老律令(757年施行)と『令集解』によって、その内容をほぼ知ることができる。

#### □養老律令（ようろうりつりょう）

元正天皇の養老2年(718)、藤原不比等らが作成。その前の大宝律令(701年)は現存しないが、この2つの律令はほとんど内容の変更がなかったとされる。国家統治の成文法が、ここにほぼ完成し、律令時代は10世紀なかばまで続いた。律は現在の刑法、令は行政法・民法などにあたる。実施は757年。

#### □庚午年籍（こうごねんじゃく）

670年(天智9、庚午の年)に作成された日本最初の全国的規模(関東から九州まで)の戸籍。氏姓を正す根本台帳として重んじられ、永久保存とされた。なお一部の屯倉では6世紀に戸籍がつくられたという。

#### □国郡里制（こくぐんりせい）

律令制下の地方行政制度。全国を58か国に分け、それぞれの国を郡に、さらに郡を里(1里50戸)に分けた。また国・郡・里には、それぞれ国司、郡司、里長をおいた。9世紀には66か国に拡大されたが、やがて荘園制の発達でその機能は失われた。

#### □国司（こくし）

律令制度下、中央から交代で赴任した地方官。守・介・掾・目の4等級(四等官)がある。また、その役所は国衙、国衙のあるところは国府とよばれた。国司は郡司の上級官として、1国内の民政・軍事・裁判などの全権を掌握し、律令国家が中央集権の実をあげるための重要な役割を担った。国司の制度は、荘園の発達、武士の興隆などによってしだいに崩れ、鎌倉幕府の守護地頭の設置によって有名無実となった。

#### □四等官（しとうかん）

律令制における各官庁の4等級からなる職員のこと。事務を統轄する長官、補佐役の次官、一般事務をとる判官、書記の主典の4等級があった。官庁によって用字は異なるが、読み方は同じで、職掌もほぼ同様であった。

#### □条里制（じょうりせい）

古代律令制時代の土地区画の制度。6町を1辺とする正方形を単位とし、その1辺を条、他辺を里とよぶ。さらに各辺を1町ごとに区切って36坪に細分し、条里坪ごとに千鳥式や平行式に番号をつけて田地所在を明示した。面積の単位は歩(約1.8m四方)、段(360歩)、町(10段)、里(36町)。条里制は8世紀の初頭にはほぼ全国的に行われ、班田収授法の実施と深い関係にあった。

#### □班田収授（はんてんしゅうじゅ）

古代、律令制度の基盤となった土地制度。土地を国有とし、人民に一定の土地を分け与える。唐の均田法を範とし、645年の大化の改新で取り入れられた。以後何度か手直しはあったが、6年おきに調査して戸籍をつくり、良民男子に2段、女子にはその3分の2、賤民のうち家人・私奴婢には良民男女それぞれの3分の1の土地が与えられるのが基本となっていた。平安時代にはいと、荘園制の発達につれて、10世紀中ごろには行われなくなった。

#### □軍団（ぐんだん）

律令制下、諸国に設置した軍隊。正丁の3分の1を兵士とし、10日交代で勤務させた。1000人以上、600人以上、500人以下の大・中・小団で編成され、一部は衛士・防人をつとめた。792年に奥羽・九州を除き、健児制に変更された。

●発展用語●

□持統天皇（じとうてんのう） 645～702

<sup>てんじ</sup>天智天皇の第2皇女。<sup>てんむ</sup>天武天皇の皇后。在位690～97年。天武天皇在位の間から、政務をよくしたが、天武天皇・皇太子<sup>くさかべ</sup>草壁皇子があいついで没したため、690年に自ら即位して、飛鳥浄御原令の施行、藤原京遷都などを行い、律令体制の整備をはかった。孫の文武天皇に譲位後も太上天皇として政務をとり、大宝律令を完成させた。和歌にもすぐれ、『万葉集』にも歌が収められている。皇統譜41代。

□藤原鎌足（ふじわらのかまたり） 614～669

<sup>なかとみ</sup>中臣氏出身で中臣鎌子ともいう。藤原氏の祖。645年、<sup>なかのおおえ</sup>中大兄皇子らと計り、<sup>そのえみし</sup>蘇我蝦夷・<sup>いるか</sup>入鹿父子を滅ぼし、大化の改新にのりだした。改新政府では<sup>うちつおみ</sup>内臣として皇太子である中大兄皇子をたすけて律令体制の基礎を築いた。臨終に際して<sup>てんじ</sup>天智天皇(中大兄皇子)より大織冠の冠位と藤原朝臣<sup>あそみ</sup>の姓を贈られた。

□白村江の戦（はくすきのえのたたかい）

唐と新羅に攻撃された百済<sup>しらぎ</sup>の救援要請を受けて、皇太子<sup>なかのおおえ</sup>中大兄皇子は661年(齐明7)に朝鮮出兵を実行した。当初は優勢であったが、63年に朝鮮半島南西部の白村江で唐の海軍と戦って大敗し、日本はほぼ完全に朝鮮半島から後退した。百済滅亡は60年、68年には高句麗<sup>こうくり</sup>も滅亡し、76年に新羅が朝鮮半島を統一した。

□租庸調（そようちょう）

律令制下で行われた税制。租は田地に課せられた税で、田1段の定収穫量を72束とし、その約3%2束2把を国衙に納めた。庸は労務提供の代わりに歳役10日分にあたる麻布などの物品を中央政府に納めた。調は諸国の産物を中央政府に納めるもので、絹・糸・綿・鉄・鉄・海産物など34種類の品目が指定されていた。

□雑徭（ぞうよう）

古代の律令制下で国司が農民に課した<sup>せいてい</sup>労役。正丁(21～60歳の良民男子)が、年間60日以内の範囲で土木工事などに使われたが、農繁期の徴用は禁止されていた。国司の私的使用も多く、農民には最も重い負担となっていたため、のちに日数が半減された。

□大宰府（だざいふ）

律令制度のもとで筑前国におかれた地方官庁。九州および壱岐・対馬の2島の行政とともに外交・国防の任務をもった。外国使節を接待するための鴻臚館や、対外防備にあたる防人を統率する防人司などがおかれた。大宰府がその機能を最も果たしたのは8世紀で、平安時代になると防人司も廃止され、唐宋商船との私貿易の中心となった。遺跡は福岡県太宰府市にあり、礎石などを残す。

□防人（さきもり）

起源は不詳。大化改新の詔に見える。古代律令制下に諸国の兵士から選び、3年交代で九州の警備にあてた。兵部省に属し、装備や往復の食糧は自弁であった。730年からは東国の兵士だけを徴用するようになり、のち改廃を経て10世紀前半まで続いた。大宰府に防人司があって兵士を管理した。『万葉集』には約100首の防人歌がある。

□運脚（うんきやく）

奈良～平安時代，中央政府へ徒歩で貢納物をおついで運搬した人夫。当時唯一の運搬方法。正丁になると，国司の指導で調・庸を都に運んだ。往復の食料は自己負担だったため帰路に餓死するなど，農民疲弊の一因となった。

□木簡（もっかん）

古代中国で，文字を小木札に記したものを木簡，竹小札のものを竹簡という。日本でも古代には簡単な文書，出納記録，荷札，習字などに用いられた。基本的には高価な紙の代用であったが，荷札の例のように紙よりすぐれた素材として使用されることも多かった。平城京・藤原京の遺跡から大量に発見されたのをはじめ，長岡京・大宰府や多賀城，諸国府などの遺跡からも発見され，史料的な価値が高い。

□出挙（すいこ）

古代に行われた農民への稲その他の利息付き貸し付け制度。政府の公出挙は<sup>く</sup>年利5割で貧農救済が本来の目的であったが，強制貸し付け，利稲徴収で租税化し，年利10割の私出挙とともに農民を苦しめた。

□駅鈴（えきれい）

律令制によって行われた駅制で，官吏の公用のしるしに与えられた鈴。中央官庁と地方国衙に備えられ，鈴には使者の位に応じたしるし（剋数）が付され，剋数によって人馬を調達し，往来した。



## 第4日 律令政治の変容と対外関係

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (0401) 最重要年代チェック

[ ]にあてはまる年代と語句を答えなさい

- (1)[ ]年……和同開珎を鑄造——皇朝十二銭のはじめ
- (2) 710年……[ ]に遷都
- (3)[ ]年……蓄銭叙位令を發布——錢貨の流通を促進
- (4) 718年……[ ]を制定——施行は757年
- (5)[ ]年……三世一身法を制定
- (6) 724年……陸奥国に[ ]を設置
- (7) 729年……[ ]の変——皇親政治が終焉
- (8)[ ]年……藤原広嗣の乱——大野東人らが鎮定
- (9) 743年……[ ]を發布——初期荘園成立
- (10) 757年……[ ]の変(乱)——藤原仲麻呂政権が確立
- (11)[ ]年……藤原仲麻呂([ ])の乱
- (12) 792年……[ ]の制を実施
- (13)[ ]年……平安京に遷都——山背(城)国
- (14) 810年……[ ]所を新設——令外官

### 2 (0402) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)舒明天皇の630年、第1回遣唐使の大使に任命され入唐した。 [ ]
- (2)藤原鎌足の子で、大宝律令・養老律令の制定に参画した人物。 [ ]
- (3)天智天皇の皇女。708年に和同開珎鑄造、710年に平城京遷都。 [ ]
- (4)藤原不比等の子で、いわゆる南家藤原氏の祖となった人物。 [ ]
- (5)藤原不比等の子で、いわゆる北家藤原氏の祖となった人物。 [ ]
- (6)藤原不比等の子で、いわゆる式家藤原氏の祖となった人物。 [ ]
- (7)藤原不比等の子で、いわゆる京家藤原氏の祖となった人物。 [ ]
- (8)文武天皇の皇子で724年即位、仏教に深く傾倒して政治を推進した。 [ ]
- (9)藤原不比等の子。仏教に帰依、社会事業に尽力した人臣最初の皇后。 [ ]
- (10)法相宗の僧。政界に進出し、藤原仲麻呂の台頭で筑紫に左遷された。 [ ]
- (11)藤原四子政権の後、右大臣・左大臣として政権をにぎった。 [ ]
- (12)玄昉とともに橘諸兄政権を支えた、岡山県地方出身の学者政治家。 [ ]
- (13)式家藤原氏の出身で、大宰少弐となり、740年、北九州で挙兵した。 [ ]
- (14)橘諸兄の子で、757年、藤原仲麻呂を除こうとして失敗した。 [ ]
- (15)藤原仲麻呂に擁立された天皇。764年の恵美押勝の乱で配流された。 [ ]
- (16)光明皇后の信任が厚く、官職を唐風に改めるなどの政治を行った。 [ ]
- (17)765年、太政大臣・禪師となった法相宗の僧。のち皇位をねらって失敗した。 [ ]
- (18)奈良朝最後の天皇で、道鏡を下野に流し、緊縮財政を推進した。 [ ]
- (19)平安朝最初の天皇。794年、平安京遷都を断行。勘解由使を設置した。 [ ]
- (20)式家藤原氏で、長岡京の造営長官となったが、のち暗殺された。 [ ]
- (21)桓武天皇のとき征夷大將軍となり、鎮守府を多賀城から胆沢城に移した。 [ ]

〔 〕  
□(22)桓武天皇の皇子で、葉子くすこの変に際して蔵人所など令外官を設置した。〔 〕

**3** (0403) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

- (1)天皇の居所や朝堂・諸官庁を含む区域。都の中央北部に設けられた。〔 〕  
□(2)708年、わが国で最初の鑄造貨幣。皇朝十二銭のはじめである。〔 〕  
□(3)銭貨の流通を促進するため、711年に政府が発布した法令である。〔 〕  
□(4)庸や調をのがれるために、女性の数を増すなど戸籍を偽造すること。〔 〕  
□(5)723年、開墾条件によって期限付きの土地私有を認めた法令。〔 〕  
□(6)729年、長屋王が藤原氏の密告により邸宅を囲まれ自殺した事件。〔 〕  
□(7)740年、玄昉・吉備真備を排するために九州でおこった事件。〔 〕  
□(8)741年、諸国に僧寺・尼寺を建てるため、聖武天皇によって発布された。〔 〕  
□(9)743年に発布された法令。これよりしだいに荘園が増加した。〔 〕  
□(10)743年、仏教の鎮護国家思想により、大仏を造るために発布された。〔 〕  
□(11)764年、藤原仲麻呂が道鏡を除こうとして乱をおこし、敗死した。〔 〕  
□(12)桓武天皇の時、国司交代における不正を防ぐために新設された官職。〔 〕  
□(13)桓武天皇の時に改革された軍制。郡司の子弟から有志的に徴兵した。〔 〕  
□(14)蝦夷征討の際の長官で、794年初任。坂上田村麻呂らが任命された。〔 〕  
□(15)奈良時代～平安時代に新設された、令の規定にない官職の総称。〔 〕  
□(16)810年に設けられた官職で、天皇の機密文書などをとりあつかった。〔 〕  
□(17)嵯峨天皇が設けた令外官で、従来の警察機能の大部分を吸収した。〔 〕  
□(18)嵯峨天皇の時に成立した法典で、藤原冬嗣らによって編纂された。〔 〕  
□(19)10世紀前半の醍醐・村上天皇の親政。のち天皇政治の理想とされた。〔 〕

**4** (0404) 重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)8世紀初頭、唐に留学して玄宗皇帝に仕え、かの地で死去した。〔 〕  
□(2)光仁天皇を擁立し、和氣氏らとともに道鏡を失脚させた人物。〔 〕  
□(3)大隅に配流されていたが、道鏡左遷後に復帰し、平安遷都を建議した。〔 〕

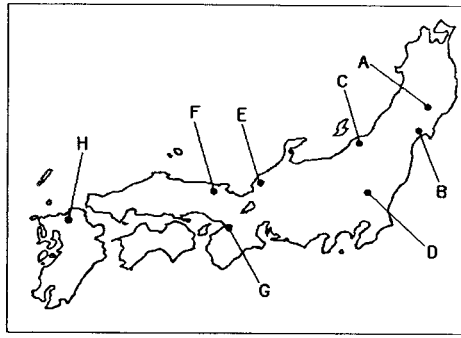
**5** (0405) 重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

- (1)律令国家の重税をのがれて他国に流浪し、庸も調も納めないこと。〔 〕  
□(2)和同開珎から平安時代の乾元大宝まで鑄造された官銭の総称。〔 〕  
□(3)平城京・平安京に設けられた官設の市。正午から日没まで開かれた。〔 〕  
□(4)口分田不足をおぎなうために、722年、政府が立案した膨大な計画。〔 〕  
□(5)奈良時代、陸奥国多賀城に設けられた、蝦夷征討のための役所。〔 〕  
□(6)醍醐天皇の命で藤原時平らが編纂した法典。10世紀初期に成立した。〔 〕  
□(7)三代格式のうち、重要な格だけを集め、分類・集成した法典。〔 〕  
□(8)清原夏野らによって編纂された、令の公式的・統一的注釈書である。〔 〕  
□(9)惟宗直本これむねのなほもとが編纂した私的注釈書。令の解釈の集大成。〔 〕  
□(10)1019年、沿海州地方に住んでいた女真族が、突然対馬方面を襲撃した。〔 〕

**6** (0406) 最重要地名チェック

ことがらにあてはまる記号を地図から選んで答えなさい



- (1) 藤原広嗣の乱(玄昉・吉備真備に対し反乱) [      ]
- (2) 道鏡を左遷(藤原百川・和氣清麻呂らによる) [      ]
- (3) 多賀城(鎮守府・国府を併置) [      ]
- (4) 胆沢城(坂上田村麻呂, 鎮守府を移す) [      ]

**7** (0407) 重要地名チェック

ことがらにあてはまる地名・宮都名などを答えなさい

- (1) 都城を営むにあたって模範となった唐の市街区画制。 [      ]
- (2) 712年, 東北日本海側に築かれた国。最上川流域に柵を設けた。 [      ]
- (3) 陸奥の国府・鎮守府がおかれたところ。724年の設置とされている。 [      ]
- (4) 藤原広嗣の乱を機に740年末, 聖武天皇は宮都をこの地に移した。 [      ]
- (5) 742年に聖武天皇はこの地に離宮を建て, 大仏を造立しようとした。 [      ]
- (6) 道鏡は, この神社の神託を利用して皇位を望んだが失敗した。 [      ]
- (7) 道鏡は藤原百川や和氣清麻呂により, この国の薬師寺に左遷された。 [      ]
- (8) 桓武天皇が784年に遷都したが, 造営長官の暗殺で工事は中止された。 [      ]
- (9) 794年, 桓武天皇は和氣清麻呂の建議に基づいてここに遷都した。 [      ]
- (10) 7世紀末に建国し, 沿海州地方に栄えたツングース族の国。日本と通交した。 [      ]
- (11) 802年, 坂上田村麻呂が築いた城で, 鎮守府がこの地に移動された。 [      ]

**8** (0408) <立教大> 奈良・平安初期の政治と外交

次の文1～6を読み, 下記の設問A～Eに答えなさい。

1. この年八月(i                      )は上表文を提出し, 玄昉と吉備真備の排斥を主張し, 国政の刷新を要請した。
2. 729年春(ii                      )に対して国家反逆罪が宣告された。五衛府・中衛府の兵が王宅を包囲し, 一方, 1 三閔が閉鎖された。
3. 2この法令が編纂・施行されたのは新しい世紀に入ったばかりの時であった。(イ)律令を国家統治の基本法とする国家史が始まった。
4. 天平九年, 朝鮮半島から帰国した3使節団は, 都に二つの不幸をもちこんだ。天然痘の流行と戦争の不安がそれである。
5. (iii                      )は, 武力で反対勢力を倒し権力の保持をはかろうとしたが失敗した。この4押勝の乱以降の政治過程は(ロ)新しい時代への移行期である。
6. 事件ののち, 聖武天皇は, 5これまでの帝都には戻らなかった。近江国から山城国に入り新京に到着した。

A. 文中の空所 i～iiiそれぞれにあてはまる人名をしるしなさい。

B. 上記の文1～6を古いものから時代順に正しく並べたものを, 次のa～dから1つ選び, その符号をマークしなさい。 [      ]

- a. 3-1-2-4-6-5      b. 3-2-4-1-6-5
- c. 3-4-2-1-6-5      d. 1-3-2-5-6-4

C. 文中の下線部1～5にそれぞれ対応する次の問1～5に答えなさい。解答は、各問に与えられたa～dから1つずつ選び、その符号をマークしなさい。

1. 三関のうち越前の国に設置された関の名は何か。 [ ]  
a. 鈴鹿 b. 愛発 c. 不破 d. 白河
2. 「この法令」が施行された年の年号は何か。 [ ]  
a. 白雉 b. 大宝 c. 養老 d. 大化
3. この使節団が派遣された国はどこか。 [ ]  
a. 百済 b. 唐 c. 新羅 d. 渤海
4. この時期の天皇は誰か。 [ ]  
a. 聖武 b. 孝謙 c. 光仁 d. 淳仁
5. 「これまでの帝都」の名称は何か。 [ ]  
a. 恭仁京 b. 紫香楽京 c. 平城京 d. 難波京

D. 文中の下線部(イ)に関連して、律令国家の村落支配の特質を示す制度上の用語を3つしるしなさい。 [ ] [ ] [ ]

E. 文中の下線部(ロ)の「新しい時代への移行期」の中から桓武新体制が確立したが、その時代は、「軍事と造作で天下苦しむ」といわれた。桓武新体制を特色づけるこの「軍事」とは何を指しているか。その名をしるしなさい。 [ ]

## 類題トレーニング(6040)

### 1 (6041) <早稲田大> 奈良時代の藤原氏の勢力

下記の文を読み、下線の部分に関する設問に答えなさい。

①藤原不比等の死後、その②四子は光明子の立后を成功させ、藤原氏の隆盛をはかったが、737年相ついで死去したので、③新しい政権のもとで唐から帰国した人々が勢力をふるった。これに対し藤原広嗣は九州で④反乱をおこした。⑤国分寺建立の詔が発せられたのは飢饉や疫病の流行するなかでこうした戦乱がおこったことにもよる。ついで⑥大仏建立の詔が発せられたが、この頃から藤原仲麻呂が勢力をふるいはじめた。しかるに仲麻呂はその後孝謙上皇や道鏡と対立し、⑦反乱をおこして敗死したので、藤原氏の勢力は一時おとろえた。

問1. 藤原不比等らが編纂した養老律令が施行されたのはいつか。下記のうちから符号で答えなさい。 [ ]

A. 養老2年 B. 藤原四子が勢力を拡大した時 C. 藤原仲麻呂が権力をふるっていた時  
D. 大仏建立の詔がでた年 E. 藤原百川らが光仁天皇を擁立した年

問2. 四子のうち北家の祖となったのは誰か。 [ ]

問3. 新しい政権下で勢力をふるった僧は誰か。 [ ]

問4. この反乱ののち都を何度も遷したが、その最初に遷した都を何というか。 [ ]

問5. この僧寺の正式の名称を何というか。 [ ]

問6. 大仏の開眼供養が行われた前年にできたとされる文学作品名をあげなさい。 [ ]

問7. この乱平定後、戦死者の霊をなぐさめるため、南都の十大寺に納められたものを何というか。 [ ]

### 2 (6042) <中央大> 平安時代前期の政治と文化

次の文章の( )に入れるのにもっとも適切な語を考え、[ ]に示した字数で、正確な漢字または算用数字で、記入しなさい。

8世紀の末、((A) ) [2字]天皇は、前代の光仁天皇のあとをうけて、政治の刷新をはかり、大寺院の勢力が強い平城京から、都を((B) ) [2字]国の((C) ) [2字]京に移した。しかし、造都の中心人物であった((D) ) [4字]の暗殺などの事件が起こり、和気清麻呂の建議によって((E) ) 年に、さらに((F) ) [2字]京に遷都した。

この時代は律令政治の行きづまりが表面化し、社会の様相も大きく変わりつつある時期で、それに対応するいくつかの政策が打ち出された。すなわち、地方行政に当たる国司・郡司の監督を強め、国司の交替の際の不正・紛争を勘検するために((G) ) [4字]をおき、また班田の実施につとめ、6年ごとに収授することが困難になった実情をふまえて、((H) ) 年ごとに班田を行うことにするといった修正をくわえて制度の維持をはかった。公民の重い負担となっていた兵制について、辺要の地を除いて諸国の兵士を停廢し、((I) ) [2字]の子弟を兵庫・国府などの守衛にあてる((J) ) [2字]の制を採用した。さらに、雑徭の期間を半減し、出挙の利率を引き下げるなど、庶民の負担を軽減する措置もとられた。

いっぽう、前代から引きつづいて動揺し、不安定な東北地方の情勢に対する対策もこの時代の大きな課題であったが、数次にわたって征討軍を派遣し、征夷大將軍((K) ) [6字]の遠征によって胆沢・志波の地方までほぼ平定することに成功した。そして、胆沢城を築いて鎮守府をそれまでであった((L) ) [2字]城からここに移した。しかし、造都と征夷の二大事業は、きわめて大きな負担となって国力を疲弊させたために、藤原緒嗣の進言によって、ともに途中で中止せざるを得なかった。

なお、仏教界の肅正・刷新のために、僧侶・寺院の統制を強化するとともに、最澄・空海を登用

して入唐・研学させた。帰国ののち最澄は比叡山に延暦寺を建てて天台宗を樹立し、空海は高野山((M) ) [3字] 寺や京都の((N) ) [4字] 寺(東寺)によって真言宗を開き、その後の日本仏教に大きな影響を与えた。また、歴史書の編さんが行われ、『日本書紀』のあとをうけて、文武朝から延暦10年までを取めた正史『((O) ) [4字]』が撰進されたのもこの時代である。

3 (6043) <関西学院大> 律令格式の制定

次の文を読み設問に答えなさい。

イ) 大宝律令の施行後ほどなくして養老律令の編纂がロ) ( ) 主宰のもとに開始された。短期間にあいついで律令が編纂されたのは、ハ) 隣国の律令編纂の事業にならったのであろうが、この律令はその後長く放置され、施行にうつされたのはニ) 約40年後のことであった。このように施行の遅れたのは未完成であったためであり、時の政権担当者であるホ) ( ) が、祖先を顕彰する意味も含めて、未完のままにあえて施行したのだといわれている。大宝律令施行後、その部分的修正法であるへ) ( ) が頻繁に発令されたり、あるいはト) 令外宣がしばしば新設されているにもかかわらず、それが養老律令になんら含まれていないことなどをみると、その意見は充分考慮に値する。この律令の修正法や施行細則は、後に嵯峨天皇のときのチ) ( )、清和天皇のときのリ) ( )、そしてヌ) ( ) 天皇のときの延喜の、それぞれの時代にまとめられ施行されるにいたった。

[設問]

- イ) この律令の完成した西暦年を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 701年 2. 702年 3. 710年 4. 712年 5. 720年
- ロ) ここに入れるべき人物を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 藤原鎌足 2. 大友皇子 3. 舍人親王 4. 藤原不比等 5. 橘諸兄
- ハ) その王朝名を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 北魏 2. 南齊 3. 唐 4. 新羅 5. 高句麗
- ニ) この律令の施行された西暦年を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 741年 2. 743年 3. 745年 4. 752年 5. 757年
- ホ) ここに入れるべき人物を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 藤原不比等 2. 藤原仲麻呂 3. 藤原房前 4. 橘奈良麻呂 5. 淡海三船
- へ) ここに入れるべき語を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 宣命 2. 例 3. 格 4. 式 5. 宣旨
- ト) 令外官を次の中より1つ選びなさい。 [ ]  
 1. 太政大臣 2. 中納言 3. 宮内省 4. 衛士府 5. 摂津職
- チ) ここに入れるべき年号を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 宝亀 2. 延暦 3. 大同 4. 弘仁 5. 天長
- リ) ここに入れるべき年号を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 大同 2. 弘仁 3. 天長 4. 貞観 5. 寛平
- ヌ) ここに入れるべき天皇を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 平城 2. 文徳 3. 宇多 4. 醍醐 5. 村上

4 (6044) <青山学院大> 古代の対外関係

次の各文の( )の中に、下記の語群からもっとも適当なものを選び、かつ設問に答えなさい。

- A. 大陸への使節の派遣は、唐の建国後もおこなわれ、1) ( )年に、2) ( )が派遣されたのをはじめとして、前後15回にもおよび、3) ( )年に、1)4) ( )の提言により停止されるまでつづけられた。
- B. 2) 遣唐使の廃止後も、大陸の商人が西日本に來航し、5) ( )の鴻臚館などで交易がおこなわれた。また、聖武天皇の頃から始まった6) ( )との交渉は、10世紀までつづいたが、その目的ははじめは唐に接近した7) ( )を背後から牽制しようとしたのではないといわれるが、その後は貿易になっていった。この国は結局926年、8) ( )のために滅された。

C. 唐の滅亡後、大陸では9)( )がおこった。その頃には公的関係はなかったが商人の来航は多く、日本では10)( )がとくに積極的に(3)貿易を進める政策をとり、11)( )を修築し、航路の安全を図り、巨利を得た。

D. 11世紀に入ると、沿海州地方に住んでいた12)( )が我が国に来寇したが、大宰権帥13)( )の率いる九州の武士が、これを撃退した。

[語群] イ. 元 ロ. 菅原道真 ハ. 藤原純友 ニ. 北宋 ホ. 平清盛 ヘ. 契丹  
ト. 630 チ. 平忠盛 リ. 高句麗 ヌ. 838 ル. 渤海 ヲ. 藤原隆家  
ワ. 坊ノ津 カ. 大輪田泊 ヨ. 犬上御田歟 タ. 女真 レ. 大宰府  
ソ. 南淵請安 ツ. 南宋 ネ. 新羅 ナ. 博多 ラ. 門司 ム. 894

問1. これが停止された理由について、次のうちで正しいと思われるものをすべてえらびなさい。  
[ ]

- イ. 唐によって歓迎されず拒否されてきた。
- ロ. 唐には黄巢の乱などの内乱がおこり、中央権力が衰えた。
- ハ. 我が国が必要とする物品が十分に入ってくるようになった。
- ニ. 遣唐使の派遣は実質的には朝貢なので、我が国の国威がそこなわれると判断されてきた。

問2. 遣唐使の通ったルートには、朝鮮半島の沿岸を通る北路と、東シナ海を通る南路があったというが、次のうち正しいものをすべてえらびなさい。  
[ ]

- イ. 南路は距離は遠いが、海が安定して航海が楽であった。
- ロ. 使は、はじめ北路をとったが、新羅との関係が悪化してからは南路をとるようになった。
- ハ. 使は、はじめ南路をとったが、後には航海の楽な北路をとるようになった。

問3. 次の品物の中から当時の貿易品をえらび、それを大陸から輸入されたもの(a)と、日本からの輸出品(b)とに分けなさい。(a)[ ] (b)[ ]

- イ. 銅銭
- ロ. 砂金
- ハ. 硫黄
- ニ. 陶磁器
- ホ. 刀剣
- ヘ. 象牙
- ト. 香料
- チ. 砂糖

5 (6045) <同志社大> 貨幣経済のはじまり

次の文中の空欄 a ( ) ~ e ( ) にもっとも適当な語句を、漢字で記入しなさい。

慶雲5年正月、a ( ) 国は自然銅を献じ、年号もそれにちなんで「和銅」と改められた。そして、従五位上多治比真人三宅麻呂が貨幣製造をつかさどる b ( ) の役に任ぜられた。このときにつくられた貨幣は c ( ) と銅銭の2種類であった。翌年からは、このうち銅銭がもっぱらつくられた。しかし、多くの人々は貨幣を使用しなかったので、和銅4年には d ( ) 令を出して、政府はその流通をはかった。また、畿内には輪調銭を課した。政府の努力により、その後、貨幣はいくぶん流通をみるようになり、平安時代のなかばまでに、後世 e ( ) と総称される貨幣がつくられた。

## 第4日 律令政治の変容と対外関係

### ●重要用語●

#### □平城京（へいじょうきょう）

710～84年の都。現在の奈良市西方一帯にあたる。元明天皇が藤原京から遷都したもので、唐の長安城を模し、東西約4.2km、南北約4.7kmの方形。一時、恭仁京に遷都したほか、長岡京に遷都するまで70余年間、天平文化の中心地として栄えた。西大寺・唐招提寺・薬師寺・大安寺等が京内にある。

#### □平安京（へいあんきょう）

794年(延暦13)に桓武天皇が開いた都。山城国葛野郡宇太村、現在の京都市。以後明治維新まで日本の都となった。桓武天皇は奈良仏教の政治介入を断ち切るため、和気清麻呂の意見を入れ、長岡京からここに都を移した。平城京と同じく条坊の制にのっとりながら、平城京より大規模で東西約4.2km、南北4.95km。中央を南北に通る朱雀大路で左京・右京に分け、北部中央に大内裏(皇居)をおいた。

#### □遣唐使（けんとうし）

遣隋使に続いて唐に派遣された公式の使節。制度・文化の輸入を目的とした。630～894年停止されるまでに15回の渡航が行われ、大使以下、留学生・留学僧らが入唐した。新羅との関係悪化で、従来の北路から南路への航路の変更があり、難船もしばしばおこった。菅原道真の建議によって、唐朝の衰退、民間外交の発達などを理由に中止。吉備真備・玄昉・最澄・空海などの留学生・留学僧の活躍もあり、日本に大きな影響を及ぼした。

#### □聖武天皇（しょうむてんのう） 701～756

奈良時代の天皇。在位724～49年。文武天皇の第1皇子。母は藤原宮子。皇后は藤原不比等の娘光明子。唐の文物を取り入れ、天平文化を現出した。仏教の信仰が深く、諸国に国分寺・国分尼寺の建立をはかり、東大寺を建て諸国総国分寺とした。このため出費も多く、国家財政は窮乏した。皇統譜45代。

#### □桓武天皇（かんむてんのう） 737～806

光仁天皇の第1皇子。在位781～806年。最大の事績は奈良仏教の政治介入の弊害除去と、律令政治の建て直しであり、平安遷都により奈良仏教の勢力を退け、班田収授の期間を6年から12年に延長するなど現実的対応をした。また坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命し、律令国家の東北への拡大をはかった。平安京は平城京よりも大規模で、以後明治維新まで千年以上の間、日本の都となった。皇統譜50代。

#### □藤原不比等（ふじわらのふひと）

大化改新の功臣藤原鎌足の次男。希有の政治家の1人とされ、大宝律令(701年)制定に参与し、ついで養老律令(718年)制定の中心となった。律令国家体制成立の軸となった人物で、4人の子が藤原四家を開き、娘の光明子が聖武天皇の皇后となるなど、藤原氏の長い繁栄の土台をつくった。



□長屋王の変（ながやおうのへん）

奈良前期，長屋王自殺の事件。729年，左大臣長屋王は「国家を傾けん」とする者として密告され，<sup>しょうむ</sup>聖武天皇の命で自殺に追い込まれた。この事件は<sup>ふじわら</sup>藤原氏が自家の勢力伸長のため画策したものと考えられている。

□藤原仲麻呂の乱（ふじわらのなかまろのらん）

764年9月，<sup>ふじわらのなかまろ えみのおしかつ どうきょう</sup>藤原仲麻呂（恵美押勝）が<sup>どうきょう</sup>道鏡を除くためにおこした乱。760年の<sup>こうみょう</sup>光明皇太后没後，絶大なる支持者を失い，権勢にかげりの生じた仲麻呂は，自身が擁立した<sup>じゅんにん</sup>淳仁天皇と<sup>こうけん</sup>道鏡を寵愛する<sup>こうけん</sup>孝謙上皇との対立を機に，権勢挽回のため道鏡打倒を謀った。しかし陰謀は発覚し，仲麻呂は近江に戦って敗れ，斬殺された。淳仁天皇も廃位されて淡路島に流され，<sup>しょうとく</sup>孝謙上皇が重祚して<sup>しょうとく</sup>称徳天皇となった。

□蓄銭叙位令（ちくせんじょいれい）

711年，貨幣の流通をはかる目的で出された蓄銭奨励法。当時は物々交換の時代で，貨幣使用が普及しなかったため，一定額の銭貨を蓄えた者に，その額に応じて位階の昇進を行った。しかし，当初の目的に反し，銭貨が死蔵され流通を妨げる結果となったため，800年にこの制度は廃止された。

□令外官（りょうげのかん）

律令制下における官職・官庁で，令に規定されていないものをさす。律令制の変化ともななって実質的な必要性から新設されたもので，平安期には令制官職の実権を奪うほどになった。蔵人・検非違使などが著名。

□蔵人（くろうど）

<sup>さが</sup>嵯峨天皇の810年，<sup>くすこ</sup>葉子の変を機に，天皇側近の機密文書の保持や，機密連絡のために新設された<sup>りょうげのかん</sup>令外官で，<sup>ふじわらのふゆつぐ</sup>藤原冬嗣らが蔵人頭に任じられた。役所は蔵人所という。このころ<sup>けびいし</sup>検非違使も新設された。

□検非違使（けびいし）

平安前期に設置された令外官の1つ。<sup>さが</sup>嵯峨天皇のとき主として京の治安維持のためにおかれたが，のちには訴訟・裁判も行なった。さらに諸国にもおかれるようになったが，武士の勃興により形骸化した。

□弘仁格式（こうにんきやくしき）

820年（弘仁11），<sup>さが</sup>嵯峨天皇のとき，<sup>ふじわらのふゆつぐ</sup>藤原冬嗣らにより編纂された。大宝令（701年）以来の天皇詔勅や太政官符による律令修正・補足の政令（格）や施行細則など（式）を格10巻，式40巻に集大成したもの。のちの『<sup>じょうがん</sup>貞観格式』（869～71年），『<sup>えんぎ</sup>延喜格式』（907～27年）と合わせて三代格式という。

□令義解（りょうのぎげ）

養老令の官撰注釈書。全10巻。令の解釈を統一し，その運用に万全を期すため<sup>きよはらのなつの</sup>清原夏野・<sup>すがわらのきよきみ</sup>菅原清公・<sup>おののたかむら</sup>小野篁ら12名が，官命によって編集した。833年完成。養老令は本書によって今日に伝わる。

## □令集解（りょうのしゅうげ）

平安時代初期にできた養老令の私撰注釈書。9世紀の中ごろ明法博士これむねのなおもと惟宗直本が、『令義解』完成後、既存の私撰注釈書が散逸するのを防ぐため20余種の注釈書を集めて編集した。30巻本と50巻本があり大部分が現存。そのなかには大宝令の注釈も含まれており、古代の法制を研究するための貴重な資料である。

## ●発展用語●

### □光明皇后（こうみょうこうごう） 701～760

ふじわらのふひと  
藤原不比等の娘で、母は たちばなのみちよ  
橘三千代。名は光明子。聖武天皇の皇后。729年に人臣出身として最初の皇后となり、藤原氏の地位は確立した。仏教の信仰が厚く、聖武朝の仏教興隆に貢献した。悲田院・施薬院を設けて老病貧者を救済したという。49年には皇后宮職を改めて紫微中台しびちゅうたいを設け、甥の藤原仲麻呂ふじわらのなかまろを長官とした。

### □坂上田村麻呂（さかのうえのたむらまろ） 758～811

渡来人系氏族の東漢氏出身の武人。やまどのあや征東副使として蝦夷征伐に武功をあげ、796年に鎮守府將軍、ついで征夷大將軍に任ぜられ、801年には蝦夷を討ち、胆沢城を築いて鎮守府をおいた。中納言となり、810年の葉子くすこの変でも功があった。東北経略の武名は高く、武門の尊崇を集めて征夷大將軍の職名を高めた。

### □藤原広嗣の乱（ふじわらのひろつぐのらん）

奈良中期、藤原広嗣が企てた反乱。大宰少弐に左遷された広嗣は、740年に中央政界を牛耳る たちばなのもろえ げんぼう きびのまさび  
橘諸兄と玄昉・吉備真備を排し、藤原氏の勢威を挽回するため1万余の軍勢で挙兵した。しかし反乱は短期間で終結し、広嗣は斬殺された。この乱による朝廷の動揺は大きく、聖武天皇は恭仁京へ遷都した。

### □橘奈良麻呂（たちばなのならまろ） ?～757

奈良時代の官人。橘諸兄の長子。父に代わって権勢を握った藤原仲麻呂ふじわらのなかまろの排除をはかった。757年に大伴・佐伯氏らと結んで、仲麻呂の擁立した皇太子大炊王の廃太子を計画したが、未然に発覚して一味は処罰された。

### □健児（こんでい）

792年に桓武天皇によって行われた兵制の1つ。全国（陸奥・出羽・佐渡および大宰府管内を除く）の軍団を廃止して、郡司・富裕者・功労者の子弟を各国およそ20～200人採用し、年間60日ずつ交代で国府の警備にあたらせた。これを健児というが、平安中期以後に消滅。九州では選士、陸奥では健士とよんだ。

### □道鏡（どうきょう） ?～772

河内出身。俗姓弓削氏。孝謙上皇（のち称徳天皇）の信任を得て政界に進出し、藤原仲麻呂ふじわらのなかまろと対立。764年の仲麻呂の乱鎮定後は太政大臣禪師から法王となって権勢をふるい、69年には皇位を望んだが、和氣清麻呂わけのきよまろに阻止されて70年に失脚し、下野に左遷された。この事件によって仏教政治は閉幕し、藤原百川ら貴族が政権を回復した。

### □橘諸兄（たちばなのもろえ） 684～757

奈良時代の大臣。皇族の出身であったが、臣籍に降下した。藤原不比等ふじわらのふひとの4子がいっ

いで疫病にたおれたのち右大臣に昇進，唐から帰国した玄昉・吉備真備と結んで政権の中心となった。藤原勢力の回復をはかる藤原広嗣の乱により，はじめて敵対勢力におびやかされることになり，さらに藤原仲麻呂の台頭によって地位が低下し，失意のうちに死去した。光明皇后の異父兄にあたる。万葉歌人でもある。

□和同開珎（わどうかいちん）

「わどうかいほう」ともいう。皇朝十二銭の1つで，708年に鑄造された日本最古の銭貨。銀銭・銅銭の2種があり，とくに銅銭はさかんに鑄造された。流通は畿内に限られたが，渤海の東京城遺跡からも発掘されている。

□玄昉（げんぼう） ?～746

奈良時代の法相宗の僧。717年に入唐，35年に帰国。興福寺で法相宗を広め，のち僧正となって，橘諸兄のもとで権力をふるった。国分寺の創設は玄昉の進言によるところが大きかったが，他の勢力の反感をかうことになった。40年におきた藤原広嗣の乱は，玄昉打倒を理由にしていた。藤原仲麻呂により失脚させられ，大宰府に追われた。

## 第5日 摂関政治と院政

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (0501) 最重要年代チェック

[ ]にあてはまる年代と語句を答えなさい

- (1)[ ]年……<sup>くすこ</sup>葉子の変(乱)—— 式家没落・北家台頭
- (2) 842年……[ ]—— <sup>どものこわみわ</sup>伴健岑・<sup>はやなり</sup>橘逸勢を配流
- (3) 866年……[ ]—— <sup>よしお</sup>伴善男・<sup>きのとよき</sup>紀豊城を配流
- (4)[ ]年……遣唐使停止の建議
- (5) 901年……[ ], 大宰府へ左遷
- (6) 939年……[ ]の乱(~40) —— 承平・天慶の乱
- (7) 939年……[ ]の乱(~41) —— 承平・天慶の乱
- (8) 1019年……[ ]の入寇
- (9)[ ]年……平忠常の乱(~31) —— 関東における平氏の没落
- (10) 1051年……[ ]の役(~62)
- (11)[ ]年……延久の荘園整理令発布
- (12) 1083年……[ ]の役(~87)
- (13) 1086年……[ ], 院政を始める

### 2 (0502) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)藤原内麻呂の子で、<sup>くすこ</sup>葉子の変に際し、最初の蔵人頭に任命された。 [ ]
- (2)唐風書家としても活躍したが、藤原氏により<sup>じょうわ</sup>承和の変で配流された。 [ ]
- (3)左大臣の<sup>みなもと</sup>源信と争い、866年の応天門の変で伊豆に配流された。 [ ]
- (4)藤原冬嗣の子。人臣最初の摂政となり摂関政治確立の道を開いた。 [ ]
- (5)光孝天皇の即位後、その関白となり、のち宇多天皇を牽制した。 [ ]
- (6)宇多天皇に遣唐使停止を建議。のち藤原氏により大宰府に左遷された。 [ ]
- (7)延喜の治を推進した天皇。902年、延喜の荘園整理令を発布した。 [ ]
- (8)醍醐天皇の皇子。969年、<sup>あんな</sup>安和の変で大宰員外帥として配流された。 [ ]
- (9)1018年、一家三立后を実現し、藤原氏の摂関政治全盛期を築いた。 [ ]
- (10)後一条から後冷泉天皇までの摂政・関白として活躍。宇治関白。 [ ]
- (11)10世紀前半、関東で反乱をおこして関八州を占領、のち鎮定された。 [ ]
- (12)伊予<sup>じょう</sup>掾として活躍後、西海で反乱をおこす。源経基らが鎮定した。 [ ]
- (13)1069年、延久の荘園整理令を出し、記録荘園券契所を設置した天皇。 [ ]
- (14)1086年、上皇として初の院政を行う一方、法勝寺などを建立した。 [ ]
- (15)平忠常の乱後、伊勢に土着し、伊勢平氏の基礎をつくりあげた。 [ ]
- (16)鳥羽上皇によって、昇殿を許された。また、日宋貿易にも尽力した。 [ ]
- (17)鳥羽法皇死後、弟の後白河天皇と対立、保元の乱をおこして失敗した。 [ ]
- (18)保元の乱後、平清盛と争い、平治の乱をおこしたが尾張で暗殺された。 [ ]

3 (0503) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

<事 件>

- (1)810年、藤原葉子と兄の仲成が、平城上皇の重祚と平城復都を企図した。 [ ]
- (2)842年、藤原氏によって、伴健岑や橘逸勢らが配流となった事件。 [ ]
- (3)866年、応天門炎上事件に際し、大納言伴善男らが排斥された事件。 [ ]
- (4)10世紀前半、東西でほぼ時を同じく発生した反乱。地方武士が鎮定した。 [ ]
- (5)969年、源満仲の密告により、左大臣源高明らが失脚した事件。 [ ]
- (6)1028年、下総でおこった反乱。首謀者は源頼信に降伏して鎮まった。 [ ]
- (7)1051～62年、陸奥の豪族安倍氏の反抗を源頼義らが平定した。 [ ]
- (8)1083年、清原氏の内紛に端を発した事件。源義家らが鎮定した。 [ ]
- (9)1156年、崇徳上皇と後白河天皇との間におきた院と朝廷の対立事件。 [ ]
- (10)保元の乱の勝利者同士の対立事件。平氏政権成立の契機となった。 [ ]

<事 項>

- (1)10～11世紀に展開した、北家藤原氏一門による私的な政治形態。 [ ]
- (2)国司に任命されても自らは赴任せず、目代などを派遣する在京国司。 [ ]
- (3)地方の国衙で、下級役人を監督しながら実際に政治をとった役人。 [ ]
- (4)実際に任地に赴き、徴税権を行使して巨富を貯えるようになった国司。 [ ]
- (5)10世紀頃、宮中を警固するために、清涼殿の北東に伺候した武士。 [ ]
- (6)1069年、後三条天皇が荘園整理のために、太政官内に設けた機関。 [ ]
- (7)白河上皇が、院の警固を強化するため、院の御所北面においた武士。 [ ]
- (8)興福寺や延暦寺などに数多くいた僧侶。自衛的に武装して強訴した。 [ ]

4 (0504) 重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)藤原基経の子で、901年、菅原道真を大宰権帥に左遷した。 [ ]
- (2)「受領は倒れるところに土をつかめ」と言ったという信濃国の受領。 [ ]
- (3)律令制再建のため、914年、醍醐天皇に「意見封事十二箇条」を提出した。 [ ]
- (4)別名 倭藤太ともいい、平貞盛と協力して、平将門の乱を鎮定した。 [ ]
- (5)988年、尾張国郡司百姓等解文によって、非法を訴えられた国司。 [ ]
- (6)藤原道長の甥で大宰権帥として赴任、1019年、刀伊の入寇を撃退。 [ ]

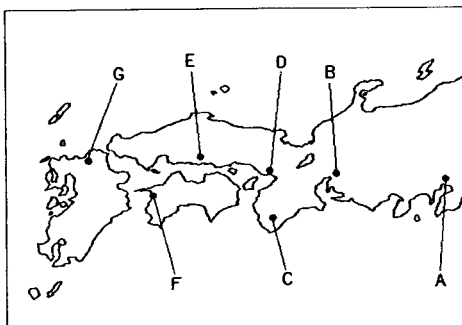
5 (0505) 重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

- (1)藤原基経が関白になる際、その勅書の内容が問題となり、橘広相を罰した。 [ ]
- (2)財物を納めて官職をうけること。平安時代中期以降に多くなった。 [ ]
- (3)1072年、後三条天皇が制定した標準枡(榊)。京枡の6合7勺に相当する。 [ ]
- (4)上皇の命令で、院から直接くだされる文書。私的性格が強い。 [ ]
- (5)特定の貴族・寺社に一国の行政権を与え、収入の大半を得させる制度。 [ ]

6 (0506) 最重要地名チェック

ことがらにあてはまる記号を地図から選んで答えなさい



- (1)尾張国(国司藤原元命<sup>もとなが</sup>の悪政) [ ]  
 □(2)熊野(白河上皇らがしばしば参詣) [ ]  
 □(3)大輪田泊(日宋貿易の要港) [ ]  
 □(4)刀伊の入寇(藤原隆家らが撃退) [ ]

7 (0507) 重要地名チェック

ことがらにあてはまる地名を答えなさい

- (1)901年, 藤原時平のために, 菅原道真がこの地に左遷された。 [ ]  
 □(2)この国の農民たちは, 郡司らと結び藤原元命の非法を朝廷に訴えた。 [ ]

8 (0508) <学習院大> 藤原氏の台頭

次の文章の中の空欄に適当と思われる語句を, 下記の語群の中から選び, 符号で答えなさい。

都が1( )に移るころから, 藤原氏の勢いが盛んとなり, しだいにその地歩を固めてきた。ことに藤原2( )は, 冬嗣が蔵人頭となってから勢力を得た。冬嗣の子良房は, 842年の3( ), 4( )の応天門の変などによって当時朝廷で勢力のあった伴・橘の二氏の勢いをくじき, 強大な勢力を宮廷に確立した。藤原氏の摂政もこの時にはじまったのであって, これには5( )の即位の年とする説と, 応天門の変の年とする説との二つがあるが, ともかくも6( )は, 自分の娘が生んだ清和天皇が幼少であるので, 外祖父として摂政となり, 天皇のかわりに政治を行った。ここに人臣摂政の例が開かれたのである。ついでその養子の基経は陽成天皇を廃して7( )をたてたが, 天皇は老齢であるにもかかわらず, 基経の推戴を得ようとして政治を基経にゆだねた。これが実質上関白のはじめである。関白はこのように天皇が幼少でなくても, かわって政治を行うものをいう。かくして藤原氏の8( )が摂関となる例が開かれたが, はじめのうちは常に摂関が置かれるとは限らなかった。宇多天皇に拔擢された9( )は, つぎの10( )の時には, 左大臣藤原時平と並んで11( )となっているし, 村上天皇のころまでは摂政・関白を置かなかった時が多かった。この時代には天皇親政の実質が残っていたわけで, 藤原氏がこれを助け, 文物制度の整った時代として, 12( )とよばれ, 後の時代の貴族たちから理想の世のように懐古された。藤原氏が代々摂関となるに至ったのは, 冷泉天皇のとき, 実頼が関白となってからである。しかも藤原氏はこのころ醍醐天皇の皇子13( )を退け, 準皇族の力を奪ったから, ここに政治の実権は名実ともに藤原氏に帰した。しかも藤原氏のなかでは11世紀前半に出た道長・14( )父子のときに, その栄華は全盛を極めた。摂関政治の時代には, 貴族・寺院の経済はおもに15( )の上に置かれていた。なかでも摂関家のものはすこぶる多く, 道長のごときは天下の土地ごとごとく一家の領となるといわれるほどであった。また律令の政治組織は有名無実となっていた。摂関家の政治を行う政所で国政は実質的に決せられ, 宮廷はほとんど16( )を行う場所にすぎなくなってしまった。官職は政治の機関というよりも, 貴族のための収入源となり, 17( )・売位がしきりに行われた。また地方の政治も乱れてきた。当時, 国府の実権は地方豪族によって占められ, これを18( )といったが, 国守に任せられた貴族は国府に19( )を派遣し, 自分は京都にとどまっていた。これを20( )とよんだ。また任地におもむくと, かれらは貴族の権威をかさにきて農民に重税を課し, 私腹をこやす者が多かった。

〔語群〕 イ. 桓武天皇    ロ. 儀式    ハ. 在庁官人    ニ. 菅原道真    ホ. 摂政  
ヘ. 京都    ト. 貞観時代    チ. 伴善男の変    リ. 国衙領    ヌ. 843年  
ル. 醍醐天皇    ヲ. 忠平    ワ. 安和の変    カ. 売官    コ. 関白  
タ. 荘園    レ. 北家    ソ. 嵯峨天皇    ツ. 清和天皇    ネ. 郡司  
ナ. 行政    ラ. 延喜天曆時代    ム. 866年    ウ. 氏長者    シ. 頼通  
ノ. 祭典    オ. 源高明    ク. 出挙    ヤ. 遙任    マ. 承和の変  
ケ. 檢非違使    フ. 平城京    コ. 光孝天皇    エ. 式家    テ. 目代  
ア. 預所    サ. 良房    キ. 受領    ユ. 右大臣    メ. 源満仲

# 類題トレーニング(6050)

## 1 (6051) <早稲田大> 藤原氏の摂関政治

次の文章を読み、下記の間1～2に答えなさい。

平安中期における藤原氏の閥族政治を摂関政治というが、いわゆる摂関時代とは967年に藤原1( )が関白となって、2年後の2( )の変で1)3( )を失脚させて藤原氏が権勢の座を確保し、1068年に4( )天皇が即位するまでの間を称している。この政治形態の例を開いたのはそれ以前であり、858年に2)藤原良房が摂政の職務に当り、884年に藤原5( )が関白になってからといえよう。

問1. 上の文中の空欄(1～5)に入れる最も適当な語句を下記の語群より選び、記号(い・ろ・は……)で答えなさい。

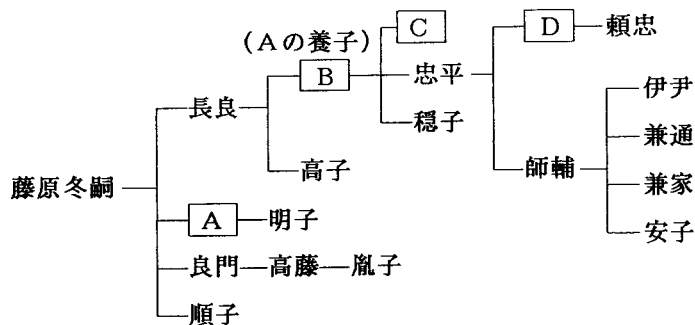
[語群] い. 安和      ろ. 応天門      は. 薬子      に. 後三条      ほ. 実頼  
           へ. 白河      と. 承和      ち. 菅原道真      り. 鳥羽      め. 信頼  
           る. 広嗣      を. 道長      わ. 源高明      か. 源満仲      よ. 基経

問2. 下線部分(1)・(2)につき次の問に答えなさい。解答は記号(イ・ロ・ハ・ニ)で答えなさい。

- (1) 次のうち、3( )に最も関係の深いものはどれか。 [ ]  
 イ. 大鏡      ロ. 西宮記      ハ. 新猿楽記      ニ. 北山抄
- (2) 次のうち、下線部分(2)に最も関係の深い人物で、弘仁格式を編さんしたのは誰か。 [ ]  
 イ. 宇多天皇      ロ. 巨勢野足      ハ. 藤原冬嗣      ニ. 藤原百川

## 2 (6052) <東洋大> 藤原氏の発展

次の系図は藤原氏関係の略系図である。この略系図にもとづき1～5の問いに答えなさい。



問1. 略系図中のA～Dの空欄にあてはまる人物名を下記の1～8の人物名中から選んで番号で記入しなさい。      A[ ]      B[ ]      C[ ]      D[ ]

1. 藤原実頼      2. 藤原教通      3. 藤原基経      4. 藤原道隆  
 5. 藤原時平      6. 藤原師実      7. 藤原良房      8. 藤原道長

問2. 上記空欄の人物中摂政・関白に任ぜられなかった人物が1名いる。その人物は誰か、問1の人物名のなかから選んで番号で記入しなさい。 [ ]

問3. 次のA～Eは藤原氏による有力な他氏の排斥を年代的に古い順から記したものである。これらのうち年代的に見て正しい順序を記したと思われるものはどれか、頭書の記号で記入しなさい。 [ ]

- A. 阿衡事件－応天門の変－安和の変－菅原道真の左遷  
 B. 安和の変－応天門の変－阿衡事件－菅原道真の左遷  
 C. 応天門の変－阿衡事件－菅原道真の左遷－安和の変  
 D. 阿衡事件－菅原道真の左遷－応天門の変－安和の変



E. 菅原道真の左遷－阿衡事件－安和の変－応天門の変

問4.

イ. 藤原冬嗣が天皇の厚い信任を得て「頭」に任命された令外官は下記の1～5のうちのどれか、番号で記入しなさい。 [ ]

1. 勘解由使庁 2. 檢非違使庁 3. 藏人所 4. 参議 5. 左右近衛府

ロ. 藤原冬嗣が信任を得た天皇は誰か、下記の1～5の天皇名中から1名選んで番号で記入しなさい。 [ ]

1. 清和天皇 2. 淳和天皇 3. 平城天皇 4. 嵯峨天皇 5. 仁明天皇

問5.

イ. 藤原忠平が摂政・関白のとき起った争乱を何というか、下記の1～5のなかから1つ選んで番号で記入しなさい。 [ ]

1. 壬申の乱 2. 藤原広嗣の乱 3. 平忠常の乱 4. 藤原薬子の変 5. 承平・天慶の乱

ロ. 藤原忠平が摂政・関白であった期間は西暦年代で次のうち該当するものはどれか、次の年代のうちから1つ選んで記号で記入しなさい。 [ ]

- A. 858～872 B. 872～890 C. 930～949 D. 967～970 E. 972～977

3 (6053) <札幌商科大> 院 政

次の文章の( )に適当な語句を記入し、下線部分の問いに答えなさい。

白河天皇は1086年(応徳3)に讓位してのち、上皇としてその御所である院において院政を開始した。院政がはじまると政権は(a) 上皇の役所である(1 )に移った。白河上皇ら(b) 3上皇はいずれも専制的な政治をおこなったが、それは上皇という比較的自由に制約の少ない立場から、(c) これまでの法や慣習にこだわらずに政治をおこなうことができたためであった。(d) 3上皇は仏教をあつく信仰し、出家して(2 )となり、その権勢と財力にまかせて多くの大寺や堂塔、仏像などをつくった。これらの費用の調達のために(3 )がますます活用された。一方、地方政治においても、(4 )の制度がひろまり、国衙領は貴族や国司の私領となるにいたった。また、これまで一部の荘園に認められていた(5 )権も一般化し、国家に対する荘園領主の自立性も強まることになった。

問(a)

(イ) この役所を警固するものをなんというか。 [ ]

(ロ) 院の独自の軍事力は鎌倉時代になってさらに増強された。それをなんというか。 [ ]

問(b) 3上皇のうち「梁塵秘抄」の撰は、だれによっておこなわれたのか。 [ ]

問(c) これまでの法のうち、718年に発布された法をなんというか。 [ ]

問(d) 院は、しばしば遠方の社寺に参詣した。その地名を1つあげなさい。 [ ]

4 (6054) <上智大> 国司制と平安時代

下記の文章を読み、空欄(1)～(10)をうめるのに最も適当と思われる語句を各語群のなかから選びなさい。もし該当するものがなければ、Xにマークしなさい。

律令制のもとで地方統治の中心となったのは国・郡司である。国司は中央から派遣されて一定の任期が終わると交替したが、郡司は国司の監督下におかれた律令官人で(1)( )のが原則であった。国司は中央政府の代表者として現地にのぞみ、(2)( )など諸方面で強大な権限を委ねられていた。それだけに権利の私物化による弊害がおこりやすかった。(3)( )天皇は(4)( )において国司の監督をきびしくしたが、その傾向は容易にあらたまらなかった。律令がゆるんでくると、官職を利権視する風潮が強まり、私財を出して朝廷や社寺の造営をたすけることによって国司などの官職を得る(5)( )や、国司に任ぜられても任地に赴かず収入だけを得る(6)( )などもめずらしいことではなくなり、また国司として任国に赴いて政務をとる(7)( )のなかには、あらゆる手段で私腹をこやすものも少なくなかった。(8)( )世紀の末頃、尾張国に赴任して苛

斂誅求をほしいままにした(9)( )などは著名である。院政期に入ると国政を私物化する傾向は一層はなはだしく、国司以外の公卿や上皇・寺社などに一国の行政支配の実権をまかせ、その収益のみを得させる(10)( )がひろまった。

〔語群〕

- (1) イ. 国司と同じく中央から派遣され、任期終了後都へ帰る  
 ロ. 国造など在地の名望家のなかから選ばれ、終身の任である  
 ハ. 地方在住の農民のなかから選ばれた政務に堪能なもので、任期終了後交替する
- (2) イ. 行政・財政    ロ. 行政・軍事    ハ. 軍事・裁判  
 ニ. 行政・財政・軍事・裁判・教育
- (3) イ. 桓武    ロ. 平城    ハ. 嵯峨    ニ. 醍醐    ホ. 聖武
- (4) イ. 節度使    ロ. 檢非違使    ハ. 勘解由使    ニ. 在庁官人    ホ. 藏人
- (5)・(6)・(7)・(10) イ. 知行国    ロ. 受領    ハ. 重任    ニ. 遙任    ホ. 権任  
 ヘ. 員外    ト. 成功    チ. 新補    リ. 榮爵    ヌ. 擬任
- (8) イ. 7    ロ. 8    ハ. 9    ニ. 10    ホ. 11
- (9) イ. 藤原陳忠    ロ. 藤原元命    ハ. 藤原成親    ニ. 藤原純友    ホ. 平将門

5 (6055) 〈青山学院大〉 記録荘園券契所の設置

次の史料を読み、次の問いに答えなさい。

〔史料〕 コノ後三条院位ノ御時、……延久ノ記録所トテハジメテヲカレタリケルハ、諸国七道ノ所領ノ宣旨・官符モナクテ公田ヲカスムル事、一天四海ノ巨害ナリトキコシメシツメテアリケルハ、スナハチ宇治殿ノ時、一ノ所ノ御領御領トノミ云テ、庄園諸国ニミチテ受領ノツトメタヘガタシナド云ヲ、キコシメシモチタリケルニコソ。(愚管抄)

- 問1. この史料に出てくる「延久ノ記録所」では、どういうことを行ったか。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]
- ア. 国司にゆだねて、基準にあわない荘園を整理しようとした。  
 イ. 荘園領主に文書を提出させ、朝廷で荘園領主と国司の両方の主張を厳正に裁決しようとした。  
 ウ. 荘園を整理しようとしたが、摂関家からは文書を提出させなかった。
- 問2. 「宣旨」とは何か。答えを、次の三つのうちから選びなさい。 [ ]
- ア. 天皇の命令を伝える公文書  
 イ. 政府の命令を伝える公文書  
 ウ. 皇太子の命令を伝える公文書
- 問3. 「官符」とは何か。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]
- ア. 太政官から諸司・諸国に下す文書  
 イ. 国司から部内に出す文書  
 ウ. 神祇官から太政官に出す文書
- 問4. 「宇治殿」とは誰のことか。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]
- ア. 藤原道長    イ. 藤原兼家    ウ. 藤原頼通
- 問5. 「一ノ所ノ御領」とは何か。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]
- ア. 摂関家の所領    イ. 天皇の荘園    ウ. 大臣の所領
- 問6. 「受領」とは何か。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]
- ア. 国司の別名    イ. 政府の役人で、給料を受取っているもの    ウ. 所領を持っている貴族
- 問7. 延久の記録所がおかれたのはいつか。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]
- ア. 1045年    イ. 1051年    ウ. 1069年
- 問8. 上の史料を記している愚管抄とは、どういう書物か。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]
- ア. 我国最初の歴史哲学書  
 イ. 仏教の教義を述べた書物  
 ウ. 儒教の教えを記してある書物
- 問9. 愚管抄の作者の名を、漢字で記しなさい。 [ ]

- 問10. 後三条天皇は楯の大きさを一定にした。その楯を何というか。その名を漢字で記しなさい。  
[ ]
- 問11. 東日本で、延久の記録所がおかれる18年前(または13年前)、14年後(または17年後)にそれぞれ戦乱が起っている。その二つの戦乱の名を記しなさい。  
[ ] [ ]
- 問12. 延久の記録所がおかれてから二百六十余年後に、また記録所がおかれた。そのときの天皇の名を漢字で記しなさい。  
[ ]
- 問13. 後三条天皇の次の天皇は、退位して上皇となってから新しい形態の政治を始めた。それを何というか。漢字で記しなさい。  
[ ]
- 問14. 後三条天皇の次の天皇が、上皇となってから新しい形態の政治を行った頃、その政治を支持する立場にあった中流貴族で、当代一流の学者でもあった人物がいる。その名を漢字で記しなさい。  
[ ]
- 問15. その新しい形態の政治を、鎌倉時代に行った三人の上皇の名を、漢字で記しなさい。  
[ ] [ ] [ ]
- 問16. その新しい形態の政治を行う役所で出した文書の名を、二つだけ漢字で記しなさい。  
[ ] [ ]

**6** (6056) <立教大> 摂関政治と院政

次の文を読み、下記の設問A～Cに答えなさい。

(あ)( )政治は律令制支配のわく内で現われた政治形態の一つであった。藤原氏は(1)8世紀のさまざまな政治的事件を契機として、政府内に有力な地位を得たが、律令制国家が(い)( )を神格化し、唯一絶対の統治者としている以上、その中で藤原氏が最高の権力を確保しうる道は(う)( )の(え)( )の地位を独占することであった。

(2)平安初期には次々と政治的事件がおこった。古来の豪族である大伴氏・紀氏・橘氏らは、藤原氏の画策の結果相ついで勢力を失ない、一方藤原氏のなかでも(お)( )が実権を握っていた。(か)( )は、(3)薬子の変後に冬嗣・良房が、さらに光孝天皇の時に基経が専権をふるい、その支配体制を確立した。醍醐・村上両天皇時代の緊張、(4)菅原道真の左遷、安和の変による源高明の失脚などを経て、(き)( )・(く)( )が常置されたことで、藤原氏の勢力は揺ぎないものとなった。その(5)全盛期は道長とその子頼通の時代であった。

しかし(け)( )関係のない後三条天皇が即位すると、藤原氏の権勢は急速に衰えていった。(6)後三条天皇は記録荘園券契所を設置し、(こ)( )に荘園が集中するのをおさえようとした。(7)後三条天皇と頼通の対立、本所領家と受領層の対立が激しさを増した。

しかしこの間に(8)田堵・開発領主らが着実に律令制の支配をはねのけていった。諸地域・荘園に勃興した武士団は土着国司などを棟梁とし、また武士団の主要な人物は、追捕使・押領使・檢非違使となり、さらに(9)滝口武士など護衛の武者となるものが現われた。既に承平・天慶の乱が武士の成長を示し、貴族層を動揺させていたが、(10)各地の武士団は源平両氏に結集して団結を強め、貴族にかわって新たな歴史をつくろうとしていた。保元の乱から平治の乱の3年間の激動は武家政権誕生の前夜となったのである。

[A] 文中の空所(あ)～(こ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるしなさい。ただし同じ語句を反復して用いてもよい。

[B] 下線部(1)～(10)それぞれに対応する次の問1～10に答えなさい。解答は、それぞれの問に与えられた語群から1つずつ選び、その符号をマークしなさい。

- この過程で道鏡をおさえて光仁天皇を擁立した人物の名を挙げよ。 [ ]  
a. 広嗣 b. 百川 c. 種継 d. 清河 e. 宇合
- 一連の陰謀事件に際し設置され、詔勅をつかさどった役所の名を挙げなさい。 [ ]  
a. 問民苦使 b. 勘解由使 c. 蔵人所 d. 檢非違使 e. 文章院
- 薬子たちがふたたび皇位につけようとした上皇の名を挙げなさい。 [ ]  
a. 桓武 b. 平城 c. 嵯峨 d. 淳和 e. 仁明

4. 道真の左遷について老人の昔話りの形をとって描いた史書の名を挙げなさい。 [ ]  
 a. 今鏡 b. 増鏡 c. 大鏡 d. 水鏡 e. 吾妻鏡
5. 威子立后について「一家三人立つは未曾有なり」と述べている書物の名を挙げなさい。 [ ]  
 a. 栄華物語 b. 御堂関白記 c. 小右記 d. 太平記 e. 神皇正統記
6. このことについて記述した編年体の書物の名を挙げなさい。 [ ]  
 a. 十訓抄 b. 古今童蒙抄 c. 百鍊抄 d. 禁秘抄 e. 歎異抄
7. 両者の対立について「延久ノ記録所トテハジメテオカレタリケレバ」とのべている著書の作者の名を挙げなさい。 [ ]  
 a. 鴨長明 b. 吉田兼好 c. 一条兼良 d. 慈円 e. 唯円
8. 永延2年国司を弾劾し朝廷に訴状を提出した郡司・百姓たちの国の名を挙げなさい。 [ ]  
 a. 長門 b. 丹波 c. 美濃 d. 尾張 e. 近江
9. 滝口武士が所属する官司の名を挙げなさい。 [ ]  
 a. 蔵人所 b. 押領使 c. 追捕使 d. 検非違使 e. 弾正台
10. 貴族社会の衰亡を予感していた貴族や僧侶の心をとらえた宗教ないし思想を挙げなさい。 [ ]  
 a. 神仏習合 b. 浄土信仰 c. 密教 d. 弥勒信仰 e. 鎮護国家
- [C] 文中の記述に関する次の問1・2に答えなさい。
1. 「諸地域・荘園に勃興した武士団は」とあるが、『今昔物語集』巻26に「いも粥をあきるほど食べたい」五位の侍の条がある。同条には、やがて武士団の指導者として新しく活躍していく人物像が描かれている。その人物の名をしるしなさい。 [ ]
2. 「保元の乱から平治の乱の3年間の激動は武家政権生誕の前夜となった」とあるが、この2つの乱の意義について10字以内でしるしなさい。 [ ]

## 第5日 摂関政治と院政

### ●重要用語●

#### □延喜・天曆の治（えんぎ・てんりやくのち）

10世紀の前期と中葉、醍醐・村上両天皇の治世。この時期は摂関がおかれず、格式の編集、貨幣の鑄造、班田の勵行、荘園の新立禁止、国史・勅撰和歌集の編纂など、積極的な天皇親政が行われ、後世聖代として尊ばれた。だがその反面、承平・天慶の乱などがおこって地方は乱れ、律令制が崩れ始めた時期でもあった。

#### □摂関政治（せっかんせいじ）

平安中期に行われた政治形態で、天皇の幼少時には摂政、成人後は関白が天皇に代わり政治を行ったことをいう。858年に藤原良房が摂政に、880年に藤原基経が関白になったのが始まり。967年、藤原実頼が関白になってからは摂関が常置されたが、11世紀後半の院政の開始で実権を失っていった。

#### □藤原道長（ふじわらのみちなが） 966～1027

平安中期の公卿。摂政。兼家の5男。兄の関白道隆・道兼の死後、一族の権力争いを抑えて政権を独占。彰子ら4人の娘を入内させ、一条・三条・後一条天皇の3代22年間にわたって権勢をふるった。とくに後一条天皇即位のとき、外祖父として摂政となり、藤原摂関政治の最盛期を現出させた。日記は『御堂関白記』。

#### □刀伊の入寇（といのにゆうこう）

1019年、中国東北部沿海州の刀伊(女真族)が北九州に来襲した事件。50余隻の船隊で対馬・壱岐・北九州を襲ったが、大宰権帥藤原隆家以下の大宰府官人は在地の武士を集めて、これを撃退した。

#### □院政（いんせい）

天皇が讓位して上皇(法皇)となり国政をとるかたちは、白河天皇(1053～1129年)が上皇となった1086年に始まるとされる。国政の実権は、摂政関白から上皇に移り、43年間の白河院政は鳥羽・後白河上皇に継承された。この通算約100年間を院政時代とよんでいる。上皇の御所を院、家政機関を院庁、役人を院司、命令を院宣・院庁下文とよんだ。院の警護に北面の武士を新設。院政は律令制崩壊を早めたといわれる。

#### □後三条天皇（ごさんじょうてんのう） 1034～1073

平安後期の天皇で、在位は1068～72年。後朱雀天皇第2皇子。藤原氏を外戚としなかったため、大江匡房らを登用し、天皇親政を行った。1069年(延久元)、荘園整理令を出して記録荘園券契所(記録所)を設け、また宣旨柙を定めた。その成果は十分ではなかったが、藤原氏の勢力衰退の因となった。皇統譜第71代。

#### □記録荘園券契所（きろくしょうえんけんけいしょ）

1069年(延久元)、後三条天皇が荘園整理を目的として設置したもので、令外官の1つ。記録所ともいう。荘園の証拠書類である券契を提出させ、1045年(寛徳2)以後の荘園と

証拠のはっきりしない荘園を停止した。

□白河上皇（しらかわじょうこう） 1053～1129

後三条天皇の皇子。天皇在位 1072～86 年。堀河天皇に譲位して上皇となり、1086 年、摂関家を抑えて院政を開始、堀河・鳥羽・崇徳天皇の 3 代 43 年間にわたって政治をみた。96 年に出家して法皇となった。仏教に熱心で、法勝寺などの造寺・造仏や、高野山・熊野をはじめとする寺社参詣などをさかんに行ったため国庫は窮乏した。皇統譜 72 代。

□受領（ずりょう）

平安中期から用いられた国司の別称。遙任国司に対する語で、任国へ赴任する国守（介）をいう。中・小貴族に多く、徴税権によって巨富を蓄え、政治的影響力を強めて、やがて院政政権の支持層となった。

□菅原道真（すがわらのみちざね） 845～903

平安中期の公卿・学者。宇多・醍醐両天皇の信任を得て、藤原氏の勢力抑制のために重用された。蔵人頭から右大臣になったが、901 年に藤原時平の策謀で大宰権帥に左遷され、当地で没した。遣唐使停止の建議は有名。また学問の神として信仰されている。編著書に『類聚国史』『日本三代実録』、漢詩や上奏文などを集めた『菅家文章』などがある。

□薬子の変（乱）（くすこのへん（らん））

嵯峨天皇の 810 年、平城上皇の信任厚い藤原式家の薬子は、兄の仲成とはかって、上皇の天皇復位と式家の勢力回復を計画し、奈良に兵を集めたが失敗に終わり、薬子は自殺、仲成は殺された。この事件のとき蔵人・檢非違使らの令外官が新設され、藤原冬嗣は蔵人頭となって藤原北家が繁栄する契機となった。

□承和の変（じょうわのへん）

842 年（承和 9）、伴健岑・橘逸勢らが、皇太子恒貞を奉じて反乱を企てたとして流罪となり、皇太子は廃された。代わって藤原良房の妹の子である道康親王（文徳天皇）が皇太子となった。藤原氏の陰謀とされる。

□応天門の変（おうてんもんのへん）

866 年におきた大極殿正門応天門の火災をめぐる疑獄事件。大納言伴善男は左大臣源信の責任としたが、太政大臣藤原良房の工作で不問に付された。その後、善男の子である中庸が放火犯人だとする告発にあい、父子は流罪、また関連の伴氏・紀氏も流され、藤原氏北家の勢力が増大した。

□安和の変（あんなのへん）

平安中期、藤原氏による他氏排斥事件。969 年（安和 2）、源満仲が冷泉天皇の皇太子を廃し、その兄為平親王の擁立を画策していると告発。そのため左大臣源高明（為平親王妃の父）が大宰府に左遷された。これは右大臣藤原師尹による高明失脚の陰謀とみられている。以後は摂政・関白が常置され、藤原氏が全盛期を迎えることになった。

●発展用語●

□藤原良房（ふじわらのよしふさ） 804～872

平安前期の公卿。冬嗣<sup>ふゆつぐ</sup>の2男。天皇家の外戚<sup>せいわ</sup>(娘は清和天皇の母)として権勢をふるい、太政大臣を経て858年の清和天皇即位とともに、臣下として最初の実質上の摂政となった。のち応天門の変で大伴・紀氏らを政界から追放、名実ともに摂政となり、藤原氏による摂関政治の基礎を築いた。

□藤原基経（ふじわらのもとつね） 836～891

藤原良房<sup>ふじわらのよしふさ</sup>の養子。876年に陽成天皇<sup>ようせい</sup>の摂政、80年に太政大臣となった。84年には光孝天皇<sup>こうこう</sup>を擁立して最初の関白となる。さらに87年の宇多天皇<sup>うだ</sup>即位のときにおこった阿衡事件により、正式に関白の地位を得た。関白の地位は90年に辞した。六国史の1つ『日本文徳天皇実録』<sup>せいわ</sup>を清和天皇の勅命により編修した。

□藤原冬嗣（ふじわらのふゆつぐ） 775～826

平安初期の公卿。内麻呂<sup>うちまろ</sup>の次男。嵯峨天皇<sup>さが</sup>の信任を受け、810年の葉子<sup>くすこ</sup>の変を機に設置された蔵人所の頭となった。以後も昇進を続け、25年には桓武天皇<sup>かんむ</sup>以来、欠官となっていた左大臣に就任した。娘順子<sup>じゆんし</sup>を正良親王<sup>まさら</sup>(のちの仁明天皇<sup>にんみょう</sup>)の妃とし、次子良房<sup>よしふさ</sup>の室に嵯峨天皇の皇女を迎えるなどして、北家興隆の基礎を築いた。『弘仁格式』を編纂し、藤原氏一族の子弟教育のため勸学院を創設した。

□藤原陳忠（ふじわらののぶただ） 生没年不詳

平安時代の受領。信濃守。平安後期の説話集『今昔物語』に登場する人物で、「受領は倒るる所に土をつかめ」の言葉で知られる。受領は徴税権などにより巨富を蓄える者が多かったが、陳忠は強欲な受領の典型とされる。

□北面の武士（ほくめんのぶし）

白河上皇<sup>しらかわ</sup>の院政(1086～1129年)のとき設けられ、院(上皇・法皇)の御所の警備にあたった。御所の北面に詰めていたのでこの名称がある。四～六位の中堅官僚武官がこれにあてられた。

□知行国（ちぎょうこく）

特定の人が一定期間の知行権を与えられた国。国司制度の変形で、知行国主は近臣などに国務を代行させ、その国の収益の大半を得た。10世紀末、皇族の院宮分国制に始まり、院政期には公卿にも拡大して増加、12世紀後半になると寺社・武家の知行国もできた。平氏は30余国、鎌倉幕府も関東御分国をもっていた。13世紀の知行国は全国の3分の2に及び、永代知行国も出現したが、荘園と武士の侵略で室町末期に消滅した。

□尾張国郡司百姓等解文（おわりのくにぐんじひやくせいらのげぶみ）

988年11月8日、尾張国の郡司・百姓らが、国司藤原元命<sup>ふじわらのもとなが</sup>の悪政横暴を31か条に列挙し、罷免を求めて朝廷に訴えた文書。この結果、元命は翌年、尾張守の任務を解かれることになった。不法な租税徴収、横領、怠惰な政務、一族郎党の横暴が書かれ、国司の非法を示す例として有名な史料。

□小右記（しょうゆうき）

平安中期の右大臣藤原実資<sup>ふじわらのさむすけ</sup>の日記。藤原道長<sup>みちなが</sup>・頼通<sup>よりみち</sup>の時代にあたる978年から1032年にかけて書かれたもので、道長の専横に対する批判などもあり、当時の政治・社会を知るうえで貴重な史料となっている。

#### □遙任（ようじん）

奈良・平安時代，国司が任国へ赴任せず，政務を目代にゆだねて収入のみを得ること。厳密には国務をとることを予定せずに任命された国司をいうが，律令制の崩壊とともに恒常化されるようになった。

#### □成功（じょうごう）

平安中期以降の売官の1つ。私費で国家の事業を行う者に朝廷が官を授けること。造営・造寺などがしきりに行われた院政時代にさかんになった。国費補充の策であったが，政治の混乱の原因となった。

#### □目代（もくだい）

平安・鎌倉時代，国司の代理になって任地に赴いた私設の役人。地方制度が乱れ，遙任がさかんに行われるようになると，国司の子弟・家人がその目代となって任国へ行き，在庁官人を率いて国務を執行した。地方で私利を追い，勢力を伸ばす者も多かったが，鎌倉時代以降の国司の衰えにともなって消滅した。

#### □宣旨枴（せんじます）

枴は楯とも書く。1072年，後三条天皇<sup>ごさんじょう</sup>によって定められた公定枴。延久宣旨枴ともいう。1升＝約1.2l。以後鎌倉時代まで全国的に使用され，室町時代に入って廃止された。おもに年貢収納のときに用いられた。

#### □国衙（こくが）

律令制における諸国の官庁で，国司が政務をとったところ。国庁ともいい，その所在地を国府という。政所・調所・税所などの事務所がおかれ，在庁官人とよばれる地方役人が実務にあたった。

#### □強訴（ごうそ）

要求を実現するために徒党を組んで訴えをおこす集団行動。平安時代後期，延暦寺・興福寺の僧兵が，神輿<sup>しんよ</sup>・神木を押し立て，朝廷に強請した事例は著名である。また，室町から江戸時代にかけて，農民が篋旗<sup>むしろ</sup>などを立て，年貢減免・代官罷免などを領主・幕府に迫った要求行動も同じく強訴という。



## 第6日 古代社会の変容

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (0601) 最重要年代チェック

[ ]にあてはまる年代と語句を答えなさい

- (1) [ ]年……百万町歩開墾計画——実施されなかった
- (2) 723年……[ ]発布——期限付きの私有
- (3) [ ]年……墾田永世(年)私財法発布
- (4) 893年……[ ]の武士を設置
- (5) [ ]年……延喜の荘園整理令を発布——醍醐天皇
- (6) [ ]年……平将門の乱おこる, 新皇と称す(~40)
- (7) 939年……[ ]の乱おこる(~41)
- (8) [ ]年……安和の変——以後摂関常置体制へ
- (9) 1028年……[ ]の乱おこる(~31)
- (10) [ ]年……前九年の役おこる(~62)
- (11) [ ]年……延久の荘園整理令を発布——後三条天皇
- (12) 1083年……[ ]おこる(~87)
- (13) 1095年……[ ]の武士を設置

### 2 (0602) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1) 桓武天皇の皇子の孫。平の姓を勅賜され, 上総介<sup>すけ</sup>となって土着した。 [ ]
- (2) 一族の婚姻・所領問題等から935年に反乱し, 関八州を占領した。 [ ]
- (3) 伊予<sup>じょう</sup>掾として赴任したが, のち西海で反乱し, 海賊行為に及んだ。 [ ]
- (4) 清和源氏の祖。941年, 西海での藤原純友の乱を平定した。 [ ]
- (5) 摂津国多田荘に土着。969年の安和<sup>あんな</sup>の変に際し, 源高明を密告した。 [ ]
- (6) 藤原道長に仕え, 甲斐守として平忠常の乱を平定した。河内源氏の祖。 [ ]
- (7) 前九年の役に際し, 陸奥守・鎮守府将軍として活躍し, 平定した。 [ ]
- (8) 後三年の役に際し, 陸奥守・鎮守府将軍として活躍し, 平定した。 [ ]
- (9) 後三年の役で源義家に協力し支配地を継承。平泉に中尊寺金色堂を建立した。 [ ]
- (10) 藤原基衡<sup>もとひら</sup>の子。奥州藤原氏の最盛期を現出。源義経を保護した。 [ ]

### 3 (0603) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

<事 件>

- (1) 935年に関東で平将門, 939年に西海で藤原純友が反乱した事件。 [ ]
- (2) 1028年に反乱して房総地方を占領したが, 源頼信に降伏した事件。 [ ]
- (3) 安倍頼時の中央への反抗に対し, 源頼義・義家らが鎮定した事件。 [ ]
- (4) 清原氏の内紛から発展し, 源義家らによって鎮定された事件。 [ ]

<事 項>

- (1) 722年, 政府が口分田の不足を補うため計画した大規模な開墾計画。 [ ]
- (2) 723年, 開墾奨励のため, 期限付きで私有を認める法令が出された。 [ ]

- (3)743年、墾田の永久私有を認めた法令。身分で所有面積に差があった。 [ ]
- (4)8世紀中期以降中世にかけて発達した私有地。有力寺社・貴族らが開墾・所有したのに始まる。 [ ]
- (5)10世紀ごろ出現、公領や荘園で請負耕作した有力農民。のち名主に発展。 [ ]
- (6)10世紀ごろから、荘園や国衙領のうち、自己の名を付して所有権を明示した田地。 [ ]
- (7)荘園や国衙領の中で、自己の名を所有地に付した名田の所有主。 [ ]
- (8)墾田永世(年)私財法により、貴族や寺社が開墾して取得した私有地。 [ ]
- (9)10世紀以降に発達した荘園。中央の権門勢家に名目上寄進されて成立した。 [ ]
- (10)官省符や国司免判で認められた、租を納入しなくてもよい権利のこと。 [ ]
- (11)国衙からの検田使や徴税使の荘園内立入りを拒否する権利のこと。 [ ]
- (12)不輸の権を得るために太政官や民部省の許可を得て、不輸租となった荘園。 [ ]
- (13)不輸の権を得るため、国司に認可権を委ねて成立した不輸租の荘園。 [ ]
- (14)領家から派遣されたり、地方の豪族などが任命された荘園の管理者。 [ ]
- (15)開発領主から寄進をうけ、その荘園の領主権をもった貴族や寺社。 [ ]
- (16)武士団のうち、田堵・名主の出身者。上級武士に従う下級の兵士。 [ ]
- (17)清和源氏の源経基のように、武士団の統率者となった貴族などの呼称。 [ ]
- (18)令外官の1つ。諸国の盗賊や反徒を平定するためにおかれた。 [ ]
- (19)押領使と同様に、諸国の盗賊や反徒を平定するためにおかれた。 [ ]

#### 4 (0604) 重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)平将門の反乱に対し、藤原秀郷とともに将門を討ち、乱を平定した。 [ ]
- (2)平貞盛とともに平将門の乱を平定した。俵藤太ともよばれた。 [ ]
- (3)追捕使として活躍し、藤原純友の乱を平定した。小野篁の孫にあたる。 [ ]
- (4)陸奥の俘囚長で、前九年の役で敗北。子に貞任・宗任らがいる。 [ ]
- (5)藤原清衡の子。奥羽地方の豪族。平泉に毛越寺を建立した。 [ ]

#### 5 (0605) 重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

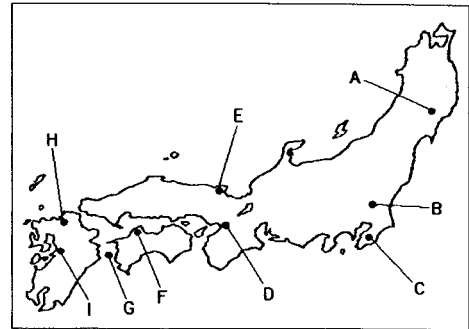
<事項>

- (1)8世紀以降、皇室の財源確保のため、勅旨によって設けられた土地。 [ ]
- (2)大宰府の管内におかれた直営田。地方官庁の財源確保策の1つ。 [ ]
- (3)国司が、土地の検査や徴税について調査するために派遣した役人。 [ ]
- (4)平安中期以降、公領が国衙の私有地のように転化したものこと。 [ ]

#### 6 (0606) 最重要地名チェック

ことがらにあてはまる記号を地図から選んで答えなさい

- (1) 鹿子木荘(寄進地系荘園の典型) [ ]
- (2) 日振島(藤原純友の乱) [ ]
- (3) 猿島(平将門の乱) [ ]
- (4) 平忠常の乱 [ ]
- (5) 公管田(地方財政の基盤確保策) [ ]
- (6) 平泉(奥州藤原氏の栄華) [ ]



**7** (0607) 重要地名チェック

ことがらにあてはまる地名を答えなさい

- (1) この地の公管田は823年、小野岑守の建議にもとづいて設けられた。 [ ]
- (2) この国にあった鹿子木荘は、寄進地系荘園の典型として知られる。 [ ]
- (3) 平将門は国府を攻略して、自ら新皇と称し、ここを内裏とした。 [ ]
- (4) 藤原純友はここを根拠に、瀬戸内海を中心に海賊行為をはたらいた。 [ ]

**8** (0608) <日本女子大> 荘園の歴史

土地制度について、後記の問いに答えなさい。

国家の繁栄のかけで、租税負担に苦しむ農民のなかには、偽籍・逃亡・浮浪人があらわれた。養老6年、太政官は国郡司による百万町歩開墾計画を推進し、さらに翌年「新たに溝池を造り、開墾を営む者あらば、多少に限らず給して㊶( )に伝へしめん、若し旧き溝池を逐はば、其の㊷( )に給せん」と奏上し、勸農と耕地の安定を計った。しかし、天平15年に㊸( )が公布された。

荘園の成立過程は様々であるが、9世紀ごろ多く設けられた初期荘園は㊹( )と呼ばれ、10世紀ごろから「権勢を借らんがため」地方の㊺( )から中央の権門勢家に寄進し、自らは㊻( )となって、実質的な支配権を確保しようとする傾向が増加した。このような荘園を㊼( )という。荘園領主は、その地位を利用して不輸の特権を得、国衙の検田使の立入りを拒否することのできる㊽( )の権も獲得した。このようにして荘園が発達するにつれ、国衙の支配する公領は狭められたが、荘園と同様に公領も国司の私有地のように扱われ、㊾( )と呼ばれた。このような律令国家体制の衰退に対して、荘園整理令を中心に国政改革が行われている。

やがて12世紀末、鎌倉幕府の成立とともに朝廷と幕府の二元支配が行われ、㊿( )では国司と守護、荘園では荘園領主と地頭との対立を生み出していく。やがて地頭はその武力を背景に、地頭請・㊽( )などによって、荘園の侵略を進めていった。

1. 上記の文章中、空欄にはいる最も適切な語を記しなさい。
2. 最初の荘園整理令は、何年に出されたか。次の中からえらび、その番号をマークしなさい。 [ ]

(1)723年 (2)743年 (3)801年 (4)902年 (5)1045年 (6)1069年

3. 延久の荘園整理令の後、荘園は院に集中し、皇室院領の増大を招いた。その代表的なものとして、長講堂領(a)、八条院領(b)があげられる。それぞれは誰が伝え、あるいは寄進しておいたものであるか。次の中からえらび、その番号をマークしなさい。 (a)[ ] (b)[ ]

(1)白河法皇 (2)堀河上皇 (3)鳥羽上皇 (4)崇徳上皇 (5)後白河法皇 (6)後鳥羽上皇

## 類題トレーニング(6060)

### 1 (6061) <法政大> 律令的土地制度の変質

次の文章の空欄に、下記の語群中より適当なものを選んで、記号をマークしなさい。

律令制の基本的土地政策は、土地の公有制であり、それにもとづく1( )であった。それを実施する基礎として2( )が必要であり、それらによって土地・人民共に一元的な国家支配が及ぼされることになった。当時、口分田は農民の再生産を保障するものとして国家から与えられるものであった。これは、一般的に改班されることなく、終身の用益が認められた。ただ、他人に3( )することは認められていた。

律令社会の進展は、この土地政策にも変化をもたらした。八世紀に入ってから、耕地の拡大政策がとられ、養老6年(722)には4( )がたてられ、翌年にも自発的開墾の策がとられた。これらの方向は、天平15年(743)の5( )と共に律令の原則を変改するものとなった。このような傾向に拍車をかけていくのは、貴族・寺院などの大土地所有への意欲であり、墾田の拡大・田地の兼併であった。一般農民の側でも、課役の負担などから逃れるために籍帳を偽ったり、本貫の地を離れて他所に移り住む浮浪・逃亡の民などを生み出すことになった。

九世紀初めからは、天皇の6( )、皇族の7( )などの設定もひろまり、皇室も大土地所有者に転化した。租・庸・調の取収が困難となった為、弘仁14年(823)にはその打開策として、大宰府管内では良田を選んで8( )を設け、公民に耕作させ、元慶3年(879)には畿内諸国で約4000町歩の9( )を設置し、それぞれの官庁の費用などの財源にあてようとした。このようにして、この制度は九世紀初めからは断続的にしか行なわれなくなり、10( )を最後として全国的に行なわれることはなくなった。

〔語群〕 イ. 出挙    ロ. 公営田    ハ. 延久元年    ニ. 墾田永世私財法    ホ. 戸籍  
ヘ. 荘園    ト. 良田百万町歩開墾計画    チ. 親王賜田    リ. 輪租田  
ヌ. 三世一身法    ル. 班田収授制    ヲ. 口分田    ワ. 譲与    カ. 計帳  
ヨ. 賃租    タ. 延喜2年    レ. 官田    ソ. 位田    ツ. 均田制  
ネ. 勅旨田    ナ. 職田    ラ. 功田    ム. 知行国

### 2 (6062) <成城大> 荘園の発達

次の文章の空欄に、もっとも適当な語句を記入し、下線部についての下記の問に答えなさい。

律令政府は田地を国有としたが、律令制定後まもなく、(a)農民に班給する田地の不足が生じてきた。そのため723年の三世一身法により墾田の開発を奨励したが、さしたる効果はあがらず、743年には、墾田永年私財法を発して墾田の私有を認めることになった。これを契機に、中央の有力貴族・寺院などによる荘園が各地に設置されていった。8・9世紀の荘園は、中央の荘園領主が直接経営にあたるのが一般的であり、荘園周辺の農民と1( )契約を結び、耕作にあたらせることが多かった。

10世紀に入ると、こうした荘園は労働力不足などから衰退し、かわって、在地の豪族が自己の開発した田地を中央の有力者に2( )することによって成立する荘園がふえていった。在地の豪族は荘官となり、(b)中央の有力者を領主とおおいだが、その荘園の所有権・経営権を放棄したわけではなかった。また荘園内の田地の耕作には、3( )と呼ばれる有力農民があたることが多く、(c)一つの土地からあがる収益に対して、得分権を有する者が幾重にも重なっていることに、荘園の特徴があった。

荘園は本来、租を納入する義務があったが、11世紀には、不輪租の特権を中央政府に要求し、太政官や4( )から公式に不輪を認められた荘園が成立するようになった。このような荘園を5( )と呼ぶが、その後、(d)国司の権限によって不輪を認められた荘園もあらわれた。そして、不輪の権を得た荘園領主は、さらに、(e)国司の荘園内への立ち入りを拒否する不入の権をも獲得するようになり、荘園は中央政府の支配から離脱していった。

- 問1.(下線部(a))この田地を何というか。 [ ]
- 問2.(下線部(b))この領主を何というか。 [ ]
- 問3.(下線部(c))この得分権を何というか。 [ ]
- 問4.(下線部(d))この荘園を何というか。 [ ]
- 問5.(下線部(e))国司が荘園内の田地を調査するために派遣した使いを何というか。 [ ]

3 (6063) <同志社大> 摂関政治と武士の台頭

次の文中の空白部分(a)～(j)のそれぞれに相当する名辞を、正確な漢字で記しなさい。

地方において律令制度が機能を果たさなくなった状況において、郡司や有力な農民たちは、その所領や財産を守るべく、家子・(a)とよばれる従者たちを組織して武装するようになった。彼らはまた、都において「滝口の武士」として宮中の警備に用いられたり、諸国の国司の文官的側面を補う武官として追捕使や(b)に任じられることもあり、だんだんと力をたくわえていった。そして、10世紀前半、東国と西国でほぼ同時におこった乱は、都の貴族たちに大きな衝撃を与えた。この(c)の乱において、東国では(d)が関東の大半を征服し、「(e)」と称したが、同じ東国の武士藤原秀郷らによって討たれた。また、1019年には、中国の沿海州付近にいた(f)が北九州へ来襲した。この時、これを撃退したのも、大宰権帥(g)に率いられた九州の武士団であった。全国にはさまざまな武士団が結成されていたが、その統率者は(h)とよばれた。

これらの事件は、いずれも、地方の武士の力をかりて解決されたものであった。しかし、都においては、道長とその子の(i)の2代にわたって藤原氏が摂関政治の全盛期を現出させ、彼らをとりにまわす貴族たちも含めて、これらの事件とその主体をなした武士のことは忘れ去られていた。その道長の栄華は、藤原実資の日記(j)にかきとめられた「此世をば我世とぞ思ふ望月のかけたる事も無しと思へば」という和歌によく表現されている。

4 (6064) <早稲田大> 武士団の台頭

次の文章の下線部に関する設問(A～C)に答えなさい。解答は最も適当なもの一つを選び、その番号をマークしなさい。

A 10世紀から11世紀にかけては、律令国家の権威が失墜する中で成長してきた武士団による反乱が、相次いでおこった。939年には、B平将門の乱があり、同じ武将の㉞( )がこれを鎮圧し、武士団の実力を世に示した。1028年には、平忠常の乱がおこったが、これを鎮圧したのは清和源氏の流れを汲む㉟( )であり、ここに源氏勢力の東国進出の基盤が築かれた。源氏はさらに11世紀後半におきた前九年・C後三年の役で他勢力を倒し、東国での勢力基盤を確固たるものとした。

問A. この時代の武士団の成長や中央政界への進出とかかわりのない事柄はどれか。 [ ]

1. 滝口の武士 2. 押領使 3. 西面の武士 4. 追捕使 5. 北面の武士

問B. 空欄㉞と㉟にあてはまる人物の組み合わせとして正しいものはどれか。ただし1～6の選択肢に示した人名の組み合わせは、㉞・㉟の順である。 [ ]

1. 藤原純友・源頼信 2. 平貞盛・源経基 3. 藤原純友・源頼義  
4. 藤原秀郷・源頼信 5. 平貞盛・源頼家 6. 藤原秀郷・源満仲

問C. この役ののち陸奥平泉の地を本拠として栄華を誇った奥州藤原氏に関する記述として正しいものはどれか。 [ ]

1. 藤原清衡は、一族であった安倍氏と内紛をおこし、源義家と結んでこれを倒し、奥州藤原氏全盛の礎を築いた。  
2. 当時浄土教の地方への広まりにより阿弥陀堂建立が盛行したが、藤原清衡の建立した白水阿弥陀堂と中尊寺金色堂は、その代表的遺構である。  
3. その中尊寺金色堂は、葬堂であり、そこには藤原基衡、秀衡、泰衡の三代の遺体が安置されている。  
4. 栄華を誇る藤原氏は、基衡が無量光院を、秀衡が毛越寺を建立し、都の文化を平泉に移植す

ることに努めた。

5. 藤原秀衡の子泰衡は、源頼朝の圧力に屈し、源義経を襲い死にいたらしめたが、そののち鎌倉勢によって滅ぼされた。

5 (6065) <明治学院大> 院政期の武士と保元の乱

次の文を読んで、次の問に答えなさい。

1. 次の文章の中にある地名・人名＝下線(イ)～(ヌ)には幾つかの誤りがある。その誤りを指摘して、それぞれの正しい地名または人名を漢字で書きなさい。

(A)院政時代にはいると、一時おとろえていた平氏の一族のうち、(イ)伊賀・(ロ)加賀を地盤とする一派が台頭し、(ハ)平忠盛は鳥羽法皇の信任をえて瀬戸内海の高橋の平定などによって重く用いられるようになった。いっぽう、(ニ)源氏は義家以後、一族の争いのため以前ほどの力はなくなったものの、平氏とともに用いられた。こうして源平二氏の(B)棟梁は、中央でも力をもつようになったが、1156年、院政をおこなっていた鳥羽法皇がなくなると、法皇にきらわれていた(ホ)順徳上皇・左大臣(ヘ)藤原信頼が乱をおこした。このとき朝廷方は、源氏では(ト)義朝、平氏では(チ)重盛らをまねき、上皇方は(リ)源為義らをまねいたが、朝廷方は機先を制して勝利をおさめ、上皇は(ヌ)佐渡に流され、(C)関係者は殺された。

2. 下線(A)の創始者はだれか。 [ ]  
3. 下線(A)の歴史的評価につき、正しいと思うものを次の(イ)～(ハ)のうちからひとつ選び出しなさい。 [ ]

- (イ) 天皇親政から摂関政治に移る契機となった。  
(ロ) 摂関政治における国政の私的専断をいっそう強くした。  
(ハ) 摂関政治における国政の私的専断を弱くした。

4. 下線(B)に関する次の文章の□の中に適当な漢字を入れなさい。

(イ)[ ] (ロ)[ ]

大武士団の統率者は棟梁とよばれた。かれらは(イ)□□として地方にくだったものの子孫で、現地に土着して地方豪族となったものが多い。なかでも、桓武平氏と清和源氏が有力であった。平将門は桓武平氏の一族で下総の(ロ)□□を根拠とする武士団の棟梁であった。

5. 下線(C)に該当する人物を次の(イ)～(ホ)のなかから選び出しなさい。 [ ]

(イ)藤原忠実 (ロ)平忠正 (ハ)源為朝 (ニ)藤原忠通 (ホ)藤原信西

6 (6066) <関西学院大> 武士の発生・台頭とその活躍

次の(A)～(J)の文の下線を引いた箇所について、全てが歴史的に正しい場合は0を、1箇所には誤りがある場合は1を、2箇所には誤りがある場合は2を、全てが誤っている場合は3をマークしなさい。

(A) 院政が行われるようになって社会の乱れがひどくなるにつれて、寺院も独自の武力として僧兵を組織するようになった。僧兵としては、下級僧侶、寺院の荘園から徴発した農民、寺に流れこんで来た浮浪人などがあつた。 [ ]

(B) 村上天皇の流れを汲む源氏は、最初は近畿に勢力を伸ばしていたが、10世紀の前半に関東におこつた平忠常の乱を平定してからは、もともと源氏の勢いの強かつたこの地方に勢力を確立するようになった。 [ ]

(C) 11世紀前半、源頼義・義家の父子が、前九年の役、後三年の役を平定してから、源氏の名声は大いにあがつた。この反乱の、前者は陸奥の安倍氏が国司に叛いておこした乱であり、後者は出羽の藤原氏の一族の争いから生じた乱であつた。 [ ]

(D) 平氏は、平忠常の乱後、関東の勢力をしいに失つたが、伊勢国にいた平氏の一派は、後三条天皇にとりたてられ、急速に中央で勢力を伸ばすに至つた。とくに平正盛は瀬戸内海の高橋を討ち武名をあげた。 [ ]

(E) 武士団の中には、各地の公領や荘園の郡司たちが、自己の土地・財産を守り、外部からの侵

略に備えて、一族の<sup>いへのこ</sup>家子や、支配下の農民や下人を郎党(郎等)として武装させたものがあつた。

[ ]

(F) 各地に生じた武士団を大きな勢力にまとめていったのは、院政の下で中央における出世の望みを失い、地方に下って土着した貴族であり、彼らはいくつかの武士団の頭の家と親戚関係や主従関係を結び、多くの武士団を率いることになった。

[ ]

(G) 平治の乱の3年後、この乱でともに後白河上皇方について勝利を取め功績を立てた平清盛と源為義が対立し、ふたたび兵乱が生じて後者は敗死した。この結果、平氏は中央政界に実権を振うに至つた。

[ ]

(H) 平清盛は宋との貿易を正式に開いて利益を得ようとした。そのため大輪田泊を修理整備し、音戸の瀬戸を切り開くなどの工事を行ったが、この間に畿内・東国の武士団との結びつきを深めていった。

[ ]

(I) 院政を行った上皇は、僧兵の強引な行動に対抗させ、また都の治安を維持するため、武士を重用して北面の武士として置き、朝廷の軍事力とした。この結果、地方で活躍してきた武士は都に常駐するに至り、中央で活躍するに至つた。

[ ]

(J) 平治の乱に勝利を取めた平清盛は、武士の出身としてはじめて征夷大將軍となり、高位高官に昇つた一族を率いて政治を行ったが、彼らの政治は律令政治や院政とほとんど変わらない性質のものであつた。

[ ]

7 (6067) <中央大> 奈良～平安期の土地制度

次の史料を読み、下記の設問に答えなさい。

(1) 詔して曰く、聞くならく(あ)は養老七年の(い)に依りて限満つるの後、例に依りて収授す。是に由りて農夫怠倦して、開ける地復た荒ると。今より以後は、任に私財と為し、三世一身を論ずること無く、咸悉くに永年取る莫れ。

(『続日本紀』原漢文)

(2) 一、当寺の相承は、(う)領主沙彌寿妙嫡々相伝なり。

一、寿妙の末流<sup>たかかた</sup>高方の時、權威を借らんが為めに、実政卿を以て領家と号し、年貢四百石を以て割き分ち、高方は庄家領掌進退の(え)職となる。

一、実政の末流の願西<sup>かんさい</sup>微力の間、(お)の乱妨を防がず、この故に願西領家の得分二百石を以て、高陽院内親王に寄進す。件の宮<sup>かやのいん</sup>薨去の後、(中略)美福門院の御計<sup>おんはからい</sup>として御室に進付せられる。これ則<sup>すなわち</sup>本家の始めなり。

(『東寺百合文書』原和様漢文)

(3) (か)ノ記録所トテハジメテヲカレタリケルハ、諸国七道ノ所領ノ宣旨・官符モナクテ(き)ヲカスル事、一天四海ノ巨害ナリトキコシメシツメテアリケルハ、スナハチ(く)殿ノ時、一ノ所ノ御領々々トノミ云テ庄園諸国ニミチテ(中略)タヘガタシナド云ヲ、キコシメシモチタリケルニコソ。

(『愚管抄』)

問1. 空欄(あ)に入る語句を選び、記号で答えなさい。

[ ]

イ. 墾田 ロ. 官田 ハ. 班田 ニ. 公田 ホ. 良田

問2. 空欄(い)に入る語句を選び、記号で答えなさい。

[ ]

イ. 法律 ロ. 律 ハ. 令 ニ. 格 ホ. 式

問3. 百万町歩開墾計画がだされたのは、養老7年の何年前か。算用数字で答えなさい。

[ ]

問4. 空欄(う)には、庄園の由来を示す語句が入る。それは何か。漢字で答えなさい。

[ ]

問5. 空欄(え)に入る語句を選び、記号で答えなさい。

[ ]

イ. 田堵 ロ. 肝煎 ハ. 別当 ニ. 名主 ホ. 預所

問6. 空欄(お)に入る語句を選び、記号で答えなさい。

[ ]

イ. 武士 ロ. 悪党 ハ. 国衙 ニ. 地頭 ホ. 守護

- 問7. 空欄( か )に入る語句を選び, 記号で答えなさい。 [ ]  
イ. 弘仁 ロ. 延喜 ハ. 長久 ニ. 延久 ホ. 建武
- 問8. 空欄( き )に入る語句を選び, 記号で答えなさい。 [ ]  
イ. 壱田 ロ. 官田 ハ. 班田 ニ. 公田 ホ. 庄園
- 問9. 空欄( く )に入る語句を選び, 記号で答えなさい。 [ ]  
イ. 右大将 ロ. 六波羅 ハ. 宇治 ニ. 法王 ホ. 御堂関白
- 問10. 下線部の記録所を設置した天皇は誰か。記号で答えなさい。 [ ]  
イ. 白河 ロ. 後白河 ハ. 後醍醐 ニ. 三条 ホ. 後三条



## 第6日 古代社会の変容

### ●重要用語●

#### □三世一身法（さんぜいっしんのほう）

723年(養老7), 律令政府が土地開墾奨励のために出した法令。新たに用水を設けて開墾すれば本人・子・孫または子・孫・曾孫3代の伝領を許し, 旧用水利用の開墾には本人1代の私有を認めた。ある程度の効果はあげたようであるが, 有力者の水田私有拡大の原因となり, 公地制崩壊の端緒となった。

#### □墾田永世私財法（こんでんえいせいしざいほう）

墾田永年私財法, 墾田永世私有令などともいう。律令政府は743年(天平15), 次の条件下で開墾した田地の永世私有を認めた。①身分による広さ制限, ②百姓の業を妨げない, ③国司の承認, ④許可後3年以内の開墾など。これにより公地制は崩れ, 社寺・貴族・豪族らの開発経営が急増し, 荘園制発達の契機となった。

#### □墾田地系荘園（こんでんちけいしょうえん）

初期荘園ともいう。古代, 荘園の開発が活発に行われていたころ, 領主自ら未開の荒野を占定・開墾し(自墾地系荘園), 私有地を買い取るなど(既墾地系荘園)して集積した荘園をいう。両方あわせて自墾地系荘園という場合もある。10世紀以降に行われた寄進地系荘園に対する呼称である。

#### □寄進地系荘園（きしんちけいしょうえん）

地方の豪族等が, すでに開発した所有地を, 中央の公家や寺社に寄進することによって成立した荘園。10世紀ごろから地方の豪族は, 国司の圧迫や課役をのがれるため, 競って土地を寄進し, 自分は荘官として, 土地の実質上の支配権を維持した。寄進された公家や寺社は領家とよばれ, さらに上級の有力者に寄進した場合, この領主を本家とよんだ。本家・領家は国家に申請して, 不輸・不入の権を得た。

#### □荘園整理令（しょうえんせいりれい）

平安期に荘園の増加を防ぎ, 国庫収入を確保するため, 新設および不正の荘園の整理を目的として公布された。902年(延喜2)以降, 84年, 1045年, 55年としばしば出されたが効果は少なかった。69年(延久元), 後三条天皇ごさんじょうが行った記録荘園券契所設置による審査整理は, かなりの成果を示した。1156年の整理令が最後という。

#### □不輸・不入の権（ふゆ・ふにゅうのけん）

10世紀後半以降, 荘園は田租を免除される不輸租の権利と, 検田のため領内に国司が立ち入ることを認めない不入の特権とを獲得するものがふえた。不入権はしだいに警察権をも拒否する権利になり, 不輸権は太政官符・民部省符, のちには国司免判で承認された。これにより荘園の治外法権化が進行した。

#### □承平・天慶の乱（じょうへい・てんぎょうのらん）

たいらのまさかど平将門ふじわらのすみともの乱と藤原純友さだもりの乱のこと。前者は関東で勢力を伸ばした将門が939年に諸国司を追放, 独立国を建設しようとしたもの。平貞盛ひでさとと藤原秀郷により鎮圧された。後者は瀬戸内付近で海賊行為をはたらいていた純友が, 939年に讃岐・淡路の国府を襲ったもの。みなもとのつねもと源経基ら武士の協力で平定された。ほぼ同時期におきた2つの反乱は, 中央政府を脅

かし、また平定にあたった地方武士の存在を認識させる結果となった。

#### □前九年の役（ぜんくねんのえき）

平安後期、陸奥の俘囚の長安倍氏あべがおこした反乱。安倍頼時よりときがそむいたため、1051年、朝廷は源頼義みなもとのよし・義家よしえ父子にこれを討たせた。頼時はいったん帰順したが、56年に再び乱をおこした。頼時の敗死後は、子の貞任さだとう・宗任むねとうらが抗戦。頼義らは出羽の豪族清原氏きよはらの助けを得て、62年に苦戦の末これを鎮定した。

#### □後三年の役（ごさんねんのえき）

平安後期、1083～87年にかけて続いた奥羽の豪族清原氏きよはらをめぐる乱。前九年の役後、鎮守府將軍として陸奥6郡に勢威をふるった清原氏一族の内紛によって始まった。86年に源義家みなもとのよしえが国司として介入し、藤原清衡ふじわらのきよひらを助けて清原家衡いえひら・武衡たけひらを金沢柵で討ち、乱を平定した。しかし朝廷はこれを義家の私闘とみなして恩賞を与えなかった。義家は私財をもって将兵をねぎらい、東国武士団の間に源氏の基盤を築いた。

#### □平忠常の乱（たいらのただつねのらん）

1028年、前上総介平忠常たいらのただつねが安房守平惟忠これただを殺したことに起因する東国の内乱。はじめ朝廷は平直方なおかたの追討軍をさし向けたが失敗、30年に源頼信みなもとのよりのぶを派遣すると忠常は戦わず帰順し、頼信の威信が東国に確立した。

#### □奥州藤原氏（おうしゅうふじわらし）

平安後期の奥州の豪族。藤原清衡きよひらは11世紀末の後三年の役で源義家みなもとのよしえに加勢して独立、平泉に館を構え、奥羽兩國を支配。以降、基衡もとひら・秀衡ひでひらと3代にわたって勢力を拡大維持し、秀衡は鎮守府將軍陸奥守となった。4代泰衡やすひらは源義経みなもとのよしつねを討ったが、1189年に源頼朝みなもとのよりのともに攻め滅ぼされた。3代にわたって中央文化を吸収し、清衡は中尊寺、基衡は毛越寺、秀衡は無量光院を建立した。3代の遺体は現在も中尊寺金色堂に安置されている。

#### □藤原秀衡（ふじわらのひでひら） ?～1187

平安末期、奥州藤原氏の第3代。「北方の王者」としての風格をもち、祖父清衡きよひら、父基衡もとひら以来の勢力の強化と文化の伸展につとめ、藤原3代の最盛期を迎えた。朝廷もその実力を認め、1170年に鎮守府將軍とした。源平争乱に際して、平氏は秀衡を陸奥守に任じ、味方に誘ったが応じなかった。晩年、源頼朝みなもとのよりのともと不和になった源義経みなもとのよしつねのよき庇護者となるが、やがて没した。遺体は中尊寺金色堂に現存する。

#### □源義家（みなもとのよしえ） 1039～1106

平安後期の武将。通称八幡太郎。頼義よりよしの長男。1083年に陸奥守兼鎮守府將軍となり、後三年の役を鎮定して源氏の勢力を東国に固めた。武名高く、信望厚く、諸国より田畑の寄進があいついだため、朝廷が禁じたという。

#### □棟梁（とうりょう）

平安末期から鎌倉時代にかけての武士団の統率者をいう。国司の子孫で、土着して地方豪族となった者も多く、とくに桓武平氏かんむと清和源氏せいわは著名。近世以降は建築職人の指導者をさすようになった。

## ●発展用語●

### □官省符荘（かんしょうふしょう）

律令制下、太政官符と民部省符により不輸租(免税)の特権を認められた荘園。平安初期に始まり、荘園としての特権が最も強かった。諸家・寺社は種々の口実を設け、この特権を得ようとした。

### □国免荘（こくめんしょう）

律令時代、官省符荘に対して、国司の免判のみで不輸租の特権を与えられた荘園。官省符荘の特権は官省符発行のときの田地に限られ、新しく開墾した土地はそのつど国司の免判を必要とした。この国司の権利が拡大され、しだいに国司の免判だけで不輸権が成立する荘園ができた。

### □検田使（けんでんし）

土地の検査や徴税のため、国司が輸租田に派遣した役人。これに対し、荘園領主はしだいに検田使が荘園内に立ち入るのを拒むようになり、政府から特権を取りつけて不入の権を確立していった。その後、荘園領主も自らの荘園の検注を行ったが、そのとき派遣された使も検田使とよばれた。

### □押領使（おうりょうし）

押領とは軍兵を率いる意味。押領使は奈良期の759年に初見。平安前期の878年以降は諸国におかれ、地方の反乱鎮定や盗賊逮捕などの任務にあたり、在地土豪・武士団棟梁などから任命された。10世紀なかばごろから常置の官となった。

### □領家（りょうけ）

古代末～中世、寄進契約によって名目的な荘園領主となった権門勢家。寄進地系荘園に見られるもので、領家は寄進者から一定の報酬を受け取るかわりに、不輸・不入権を確保するなどして国司の侵入を防いだ。領家が十分に機能しえない場合、領家はさらに上級の本家(本所)に名目的な寄進を行った。

### □預所（あずかりどころ）

荘園における荘官の1つ。<sup>げし</sup>下司・<sup>くもん</sup>公文などの下級荘官を指揮して、領主に代わって荘園の管理、年貢の徴収・送付を行った。領家から派遣する場合と、現地の土豪に委嘱する場合があった。寄進地系荘園では、寄進者である開発領主やその子孫が預所となり、従来の権利を留保することもあった。

### □荘官（しょうかん）

荘園領主に任命されて、年貢の徴収や荘園管理の職務を行う役人。荘司ともいう。荘園によって、<sup>あずかりどころ</sup>地頭・<sup>げし</sup>預所・<sup>くもん</sup>下司・公文などの呼称がある。荘官には給田・佃の保有の特権が認められた。

### □名田・名主（みょうでん・みょうしゅ）

10世紀以降、律令制の原則が崩壊すると、国司は有力農民に期限付きで田地の耕作を請け負わせ、かつての租・庸・調の変形した年貢・公事・夫役を課すようになった。有力農民のなかには田地を集積し、国衙・荘園領主の田地を請作契約で耕作を引き受ける者も現れた。これを田堵という。彼らはしだいに耕作権を強化してゆき、田地に自己の名を付して私有を強調するところから、その田地は名田と呼ばれるようになり、その所有者は名主と呼ばれるようになった。

## 第7日 古代の仏教

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (0701) 最重要年代チェック

[ ]にあてはまる年代と語句を答えなさい

- (1) 522年……仏教私伝, [ ]の結庵崇仏
- (2) [ ]年……仏教公伝, 戊午年, 『上宮聖徳法王帝説』など
- (3) [ ]年……仏教公伝, 壬申年, 『日本書紀』による
- (4) 594年……[ ]の詔——聖徳太子
- (5) 646年……[ ]——古墳の消滅
- (6) 805年……最澄[ ]を開く——円仁・円珍が密教化(台密)
- (7) 806年……空海[ ]を開く——密教(東密)
- (8) 10世紀の中期……[ ]が念仏行脚
- (9) 985年……源信[ ]を著す

### 2 (0702) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)百済国王で, 大和時代, 欽明天皇のもとに仏像や経論などを伝えた。[ ]
- (2)欽明天皇のもとで大臣として活躍。仏教の崇拜を主張した。 [ ]
- (3)欽明天皇のもとで大連として活躍。排仏を主張した。 [ ]
- (4)推古天皇のもとで, 蘇我氏とともに仏教興隆の政策を展開した。 [ ]
- (5)奈良時代, 諸国に国分寺や国分尼寺を建立する詔を發布した。 [ ]
- (6)奈良時代, 僧尼令に抵触する宗教活動を行ったが, のち大仏鑄造に尽力した。 [ ]
- (7)幾たびも渡航に失敗し, 盲目となって日本に渡り, 戒律を伝えた。 [ ]
- (8)804年, 遣唐使とともに入唐。翌年帰朝し, 天台宗を開いた。 [ ]
- (9)804年, 遣唐使とともに入唐。806年に帰朝し, 真言宗を開いた。 [ ]
- (10)10世紀中頃, 京都を中心に念仏行脚を行い, 社会事業に尽くした。 [ ]
- (11)恵心僧都ともいわれ, 985年『往生要集』を著し, 浄土教を広めた。 [ ]

### 3 (0703) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

<事 件>

- (1)仏教伝来後おこった, 蘇我氏と物部氏の間での仏教崇拜をめぐる対立。 [ ]

<事 項>

- (1)聖徳太子の伝記集で, 仏教公伝を538年のことと記している。 [ ]
- (2)六国史の最初の書物で, 仏教公伝の年次が552年と記されている。 [ ]
- (3)聖徳太子が物部氏との戦いの勝利を, 四天王に祈願して建立した寺。 [ ]
- (4)聖徳太子の建立と伝えられる寺。若草伽藍跡の発掘により再建説が有力。 [ ]
- (5)天武天皇が藤原京に創建し, 遷都で平城京に移転した。 [ ]
- (6)大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・法隆寺・元興寺・西大寺の総称。 [ ]
- (7)三論宗・成実宗・俱舍宗・法相宗・華嚴宗・律宗の6つの学問教団。 [ ]
- (8)鑑真が東大寺にはじめて築いた建物。僧侶に授戒するための式場がある。

- (9)奈良時代、写経や読経などにより国家の安泰をはかろうとした思想。 [ ]
- (10)従来の顕教に対し、大日如来を中心におく世界観をもつ教え。 [ ]
- (11)円珍によっておこされた天台宗の1宗派。園城寺を中心とする。 [ ]
- (12)日本に古来からあった信仰と、新たに入ってきた仏教信仰の融合。 [ ]
- (13)神は仏が仮に姿をかえてあらわれたとする、仏主神従の考え方。 [ ]
- (14)神前読経などの風潮にともない、神社の境内に建てられた寺のこと。 [ ]
- (15)10世紀以降流行した、阿弥陀如来の極楽浄土に往生するための教え。 [ ]
- (16)釈迦の死から2000年後、王法・仏法はともに滅ぶという悲観的予言。 [ ]

**4 (0704) 重要人物チェック**

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)6世紀に中国から帰化し、仏教を広めた。鞍作鳥は孫といわれる。 [ ]
- (2)百済の僧で、推古期(602年)に来朝し、暦法や天文地理などを伝えた。 [ ]
- (3)高句麗の僧。来日して聖徳太子に仏教を教示し、法興寺に住した僧。 [ ]
- (4)奈良時代、華嚴経を講説し、東大寺造営に尽力して初代別当となる。 [ ]
- (5)838年、実質上最後の遣唐使とともに入唐、帰朝後、山門派の祖となる。 [ ]
- (6)平安時代、天台座主として活躍し、天台修験道を創始、園城寺を復興。 [ ]
- (7)わが国最初の往生伝である『日本往生極楽記』の作者。 [ ]

**5 (0705) 重要事件・事項チェック**

各文にあてはまる語句を答えなさい

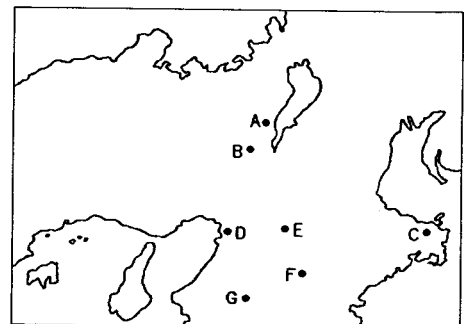
<事項>

- (1)聖徳太子の撰になる法華経・勝鬘経・維摩経の3経典の注釈書。 [ ]
- (2)秦河勝が京都の太秦に建立した秦氏の氏寺で、半跏思惟像で有名。 [ ]
- (3)法隆寺金堂や五重塔が創建当時のものかどうか、という論争。 [ ]
- (4)東大寺建立以前の官寺の筆頭。前身は聖徳太子の建立と伝えられる。 [ ]
- (5)20人の僧と金光明最勝王経がおかれた、諸国国分寺の正式名称。 [ ]
- (6)10人の尼と法華経が配置された、諸国の国分尼寺の正式な呼称。 [ ]
- (7)聖武天皇が743年に、紫香楽宮で鑄造しようとした大仏の正式名称。 [ ]
- (8)藤原氏の氏寺として、また法相宗の大本山として栄えた寺。 [ ]
- (9)律令の1つで、僧尼の布教活動などをきびしく取締まった法令。 [ ]
- (10)大乘戒壇設立にあたって、最澄が南都の反対派に対して著した書物。 [ ]
- (11)密教の儀式。口に真言陀羅尼を唱えながら災難の除去をはかること。 [ ]
- (12)823年、空海が嵯峨天皇から賜った寺で、東密の拠点となった。 [ ]
- (13)主に真言密教で説く宇宙観や世界観を、仏の配列の絵で示したもの。 [ ]

**6 (0706) 最重要地名チェック**

ことがらにあてはまる記号を地図から選んで答えなさい

- (1)東大寺(総国分寺) [ ]
- (2)比叡山延暦寺(天台宗・最澄) [ ]
- (3)教王護国寺(東寺・空海・嵯峨天皇) [ ]
- (4)高野山金剛峯寺(真言宗・空海) [ ]
- (5)四天王寺 [ ]



7 (0707) 重要地名チェック

ことがらにあてはまる地名・宮都名などを答えなさい

- (1)法隆寺や薬師寺、唐招提寺など多くの寺院がこの地に建立された。 [ ]
- (2)741年、聖武天皇が、全国に国分寺を建立せよとの詔を出した地。 [ ]
- (3)743年、聖武天皇は、この地で盧舎那大仏造立の詔を發布した。 [ ]
- (4)最澄は805年、この地に延暦寺を建て、天台宗の根本道場とした。 [ ]
- (5)空海は806年、この地に金剛峯寺を構え、真言宗の根本道場とした。 [ ]

8 (0708) <同志社大> 古代仏教の発展

次の(1)～(5)の文章の下線部分(イ)～(ヌ)について、それぞれの設問に答えなさい。解答は漢字または算用数字で記入しなさい。

- (1) 仏教公伝の年については、『日本書紀』と(イ)『上宮聖徳法王帝説』や『元興寺縁起』とでは相違があるが、いずれにしても6世紀半ばのことであった。つづいて7世紀ころになると、外国文化の導入も盛んとなり、暦をもたらしした観勒や、紙・墨・絵の具の製法をもたらしした(ロ)曇徴らの渡来が見られる。

〔設問イ〕『上宮聖徳法王帝説』及び『元興寺縁起』に記す仏教公伝の年は西暦何年にあたるか。  
[ ]

〔設問ロ〕曇徴はどここの国から来朝した僧か、その国名を記しなさい。 [ ]

- (2) 天武・持統期には仏教普及政策が進められ、ことに天武天皇の時代には、仏教は国家の保護をうけるに至った。天武天皇が皇后の病氣平癒を祈願して創建した(ハ)薬師寺は、8世紀になると南都七大寺の1つとして平城京の右京に移された。国家事業としての東大寺造立や(ニ)国分寺の建立は、鎮護国家のための仏教が完成したことを意味する。

〔設問ハ〕薬師寺は当初どここの都に創建されたか、その都の名称を記しなさい。  
[ ]

〔設問ニ〕国分寺建立の詔は西暦何年に出されたか。 [ ]

- (3) 天平文化の繁栄は、(ホ)遣唐使の派遣による中国文化の受容が大きな要因となっている。この時期の仏教は、東大寺や国分寺などの造営に見られるように、さらに国家仏教の傾向を強くしている。東大寺大仏は(ヘ)743年の詔によって造立された。

〔設問ホ〕遣唐使の派遣は9世紀の末に廃止が決定されたが、それを建議した人物の姓名を記しなさい。  
[ ]

〔設問ヘ〕743年、聖武天皇が最初に大仏の鑄造を開始した場所はどこか、その地名を記しなさい。  
[ ]

- (4) 平安初期の仏教は、中央において寺院や僧尼の統制、得度制度の改革が行われる一方、民間では最澄が、数多くの仏典の中から(ト)1つの経典を選んで、菩薩行を実践する天台宗を始めた。また空海は、嵯峨天皇から(チ)平安京に1つの寺院を賜って、真言宗の弘通に貢献した。

〔設問ト〕この経典の名称を記しなさい。 [ ]

〔設問チ〕この寺院の名称を記しなさい。 [ ]

- (5) (リ)末法思想の流行に見られるように、浄土教の流布は、この時期の人びとの社会・生活上の不安に起因するものであった。念仏の功德で浄土往生をとげた人たちを往生人というが、(ヌ)源信の『往生要集』は、このような浄土信仰を流布させるのに役立った最初の著作である。

〔設問リ〕平安時代には一般に永承7年から末法に入るといわれたが、この年は西暦何年か。  
[ ]

〔設問ヌ〕『往生要集』の成立した年を西暦で記しなさい。 [ ]

## 類題トレーニング(6070)

### 1 (6071) <早稲田大> 古代の仏教

次の文を読んで、下記の問いに答えなさい。

6世紀に、わが国に伝えられた仏教は、律令国家の発展にともなって、鎮護国家の宗教という性格を強めた。しかし、律令国家そのものの衰退がはじまると、仏教は朝廷や貴族の現世利益に奉仕する宗教となり、やがてその極楽往生を願うための宗教となった。浄土教の成立である。しかし、浄土教は同時に仏教の民衆化を大幅にすすめ、12、3世紀における民衆的仏教諸宗派出現の基盤となったといつてよい。わが国における仏教の定着・普及の過程に見られたもう一つの特徴は神に対する固有信仰との習合である。神仏習合は10世紀ごろになると本地垂迹説といわれる信仰理論を生み、それは時代とともに多様化していった。

問1. 天平13年3月の「国分寺建立の詔」は国分寺には一定数の僧侶を置けと命じているが、その数は下記のうちどれか、記号で答えなさい。 [ ]

イ. 20    ロ. 30    ハ. 50

問2. 国分寺の僧侶は、いわゆる護国経の読誦、写経に従ったが、中心となった護国経を何というか、正確な漢字で書きなさい。 [ ]

問3. 平城京には後に南都七大寺といわれる官立の大寺院がつくられた。七大寺は飛鳥から移建された寺と新建の寺とからなる。下記のうちには前者に属する寺が一つ含まれている。それはどれか、記号で答えなさい。 [ ]

イ. 元興寺    ロ. 西大寺    ハ. 大安寺

問4. 9世紀から10世紀前半にかけては、真言、天台の二宗が圧倒的な優位を占めた。真言宗は加持、祈禱を主とする密教として、朝廷、貴族の現世利益に奉仕した。天台宗も次第に密教的要素を取り入れはしたものの、ある経典を中心として、個人の魂の救済を追求し続け、のちの思想界に大きな影響を与えた。(A) 密教の教理を象徴的に示した図を何というか。(B) 天台宗の教理研究の中心となった経典は何か。それぞれ正確な漢字で書きなさい。

(A)[ ] (B)[ ]

問5. 10世紀後半、空也や源信などによって広められた浄土教は、まず貴族達の心をとらえ、藤原道長、頼通もその教えの影響のもとに氏寺を建立した。それらの寺の中心となった御堂は、今日平等院鳳凰堂として残っている。(A)中心となった御堂を一般的には何というか、正確な漢字で書きなさい。(B)道長はその死に当って、御堂の中で極楽往生を願ったといわれるが、その模様を記している記録はどれか、記号で答えなさい。(A)[ ] (B)[ ]

イ. 御堂関白記    ロ. 大鏡    ハ. 栄花(華)物語

問6. 浄土教の普及にともなって、各種の「往生伝」がつくられた。そのうちの一つ『拾遺往生伝』の作者は誰か、記号で答えなさい。 [ ]

イ. 三善為康    ロ. 慶滋保胤    ハ. 大江匡房

問7. 浄土教の普及の背景には末法思想がある。それによると、この世は二つの段階を経て末法の世になるとされている。二つの段階とは何と何か、順序に従って正確な漢字で書きなさい。

[ ] [ ]

問8. 院政期、歴代天皇は多くの寺院を建立し、仏教興隆に貢献したが、それはかえって既成教団の私的権力者化をもたらし、人びとの幻滅をさそった。

(A) 建立された寺はいずれも寺名に勝の一字が入っていたところから六勝寺といわれる。白河上皇が皇位にあった時に建立した寺は下記のうちのどれか、記号で答えなさい。 [ ]

イ. 尊勝寺    ロ. 法勝寺    ハ. 最勝寺

(B) 白河上皇は僧兵の横暴を嘆いているが、それを記している記録は下記のうちのどれか、記号で答えなさい。 [ ]

イ. 源平盛衰記    ロ. 保元物語    ハ. 平治物語

- 問9. 神仏習合を示すものの一つに僧形八幡神像がある。東大寺に所蔵される僧形八幡神像の作者は誰か、正確な漢字で書きなさい。 [ ]
- 問10. 本地垂迹説の一つに、大日如来の垂迹が天照大神であるとの説がある。この説を生む母胎となった仏教宗派は下記のうちのどれか、記号で答えなさい。  
イ. 華嚴宗    ロ. 天台宗    ハ. 真言宗    [ ]

**2** (6072) <同志社大> 古代の僧侶

次の僧侶名イ～ヨにかんする説明文を下記の1～15から選び、僧侶名に連結しなさい。解答は番号で答えなさい。

- イ. 観勒[ ]    ロ. 旻 [ ]    ハ. 曇徴[ ]    ニ. 玄昉[ ]  
ホ. 行基[ ]    ヘ. 良弁[ ]    ト. 鑑真[ ]    チ. 仏哲[ ]  
リ. 円仁[ ]    ヌ. 円珍[ ]    ル. 遍昭[ ]    ヲ. 良源[ ]  
ワ. 源信[ ]    カ. 空也[ ]    ヨ. 奄然[ ]

- 六歌仙の1人で、「大和物語」には小野小町との恋物語が面白く伝えられており、歌は「古今和歌集」におさめられている。
- 東大寺で三論を学び、宋の商人について入宋し、太宗に謁見し、経典・仏像を持ちかえり、嵯峨に清涼寺をたてた。
- 天台宗の僧で恵心僧都と通称され、「往生要集」を著わし平安時代の浄土信仰・浄土教美術に大きな影響を与えた。
- 最澄に師事し、入唐して密教を学び、帰朝後、第3世天台座主となって天台密教を完成し、山門派の祖となった。
- 百済の僧で推古10年に来朝し、曆本・天文地理書を伝え、仏法に通じ、元興寺に住した。
- 法相宗を学んで民間布教に従事し、その行動が僧尼令に違反するものとして禁じられたが、のちに東大寺大仏造立事業に参加した。
- 日本における律宗の開祖で、東大寺戒壇院を建立し、聖武上皇らに授戒した。その像は現存するわが国最古の肖像彫刻といわれている。
- 入唐して天台・法華・華嚴を伝承して帰朝し、延暦寺別院として園城寺をおこし、寺門派の祖となった。
- 阿弥陀念仏を唱えながら諸国をめぐり、橋の架設や井戸掘りなどの事業をおこない、阿弥陀聖・市聖と称され、また踊り念仏の祖といわれた。
- 入唐して法相を学び、帰朝後、朝廷の崇仏の気運に乗じて政界に権力をふるったが、藤原仲麻呂が台頭すると、九州へ左遷された。
- はじめ法相を学び、のち新羅の僧に華嚴を学んで、わが国に華嚴宗を広め、東大寺建立に尽力し、初代の別当となった。
- 小野妹子に従って渡隋し、仏教・易学を学び、帰朝後、大化改新に参加し、中央官衙機構を立案した。
- 安南の僧で唐を経て来朝し、大安寺に住んで梵語を教え、東大寺大仏開眼供養に参列した。
- 天台教学を学び、天台座主として活躍し、天台宗中興の祖といわれ、現在でも元三大師として信仰の対象とされている。
- 高句麗の僧で推古18年に高句麗の王の命令で来朝し、彩色や紙墨の製法を伝えたとされている。

**3** (6073) <慶應義塾大> 仏教伝来から鎌倉仏教まで

次の[A]～[C]の各文章について、(イ)～(ヲ)の中にあてはまる適当な語を下記の語群から選んで、その番号を記入し、かつ、下線部(1)～(2)の部分についての設問に答えなさい。

- [A] 日本の政治、文化に重要な影響を与えた仏教は、(1)「<sup>しきしまのすめらみこと</sup>志<sup>し</sup>癸<sup>ま</sup>嶋<sup>の</sup>天皇の御世の(イ)( )」の年十月十二日、百済の国主明王、始めて<sup>なら</sup>仏像<sup>を</sup>經教<sup>に</sup>并<sup>び</sup>に<sup>わた</sup>僧等<sup>を</sup>度<sup>し</sup>奉<sup>る</sup>」という形で(2)正式に伝わった。公伝当時、朝廷内は蘇我氏と物部氏が対立していたが、仏教の崇拜をめぐって両者の対



立は激しさを増し、587年に(ロ)( )が物部守屋を打倒するまでに発展した。蘇我氏が朝廷の覇権を握ると、その保護を得て、仏教は、急速に普及していった。そして、高句麗の僧惠慈に学び、(ハ)( )とよばれる注釈書を著すなど仏教に造詣深かった聖徳太子が、その新政の基盤に仏教を置き、仏教興隆の為に(3)造寺、造仏に力を注いだことにより、日本仏教の基礎が確立されるに至った。

〔設問〕

- (1) 公伝を裏づけるこの史書の書名を答えなさい。 [ ]
- (2) 公伝以前に仏教は渡来人によって私的に伝えられていたといわれている。これを裏づける「扶桑略記」に記されている渡来人の姓名を答えなさい。 [ ]
- (3) 聖徳太子が建立した百済式の伽藍配置をもつ寺の名称を答えなさい。 [ ]

〔B〕 奈良時代になると仏教は、律令政府がそれを鎮護国家の教法として用いた為に国家仏教として発展した。藤原不比等が、(4)その二人の娘を天皇の後宮に入れることに成功して以来、藤原氏と皇親勢力との間に政争が絶えなかった。(5)あいつぐ政変そして疫病の流行で社会は動揺し続けた。聖武天皇は、仏教による国家鎮護を求め、(ニ)( )年には河内の智識寺にて大仏建立を発願し、(ホ)( )年には、諸国に金光明四天王護国寺や(ヘ)( )を造る詔を発した。こうした聖武天皇の構想は、まさに仏教を政治の柱とし、仏教による中央集権的統一を意味していた。鎮護国家の任務を担って(6)南都六宗も盛んに研究された。しかし、これら国家仏教は、学術的で民衆との結びつきは少なく、だんだんと民衆への指導力を失っていった。民衆への普及は、国家仏教からはずれた立場にあった、たとえば(7)知識結によって寺院建立や社会福祉事業をしながら諸国を巡遊した(ト)( )らによって行われた。

〔設問〕

- (4) 二人の娘のうち、人臣立后したのは誰か、その娘の名を答えなさい。 [ ]
- (5) (a)藤原仲麻呂がその政権の基礎を固める契機となった事件の名称、および、(b)仲麻呂が淳仁天皇をたてた功績で賜った姓名を答えなさい。  
(a)[ ] (b)[ ]
- (6) 南都六宗のうち、芭蕉の句「若葉して御目の雫ぬぐはばや」と関連深い宗派の名称を答えなさい。 [ ]
- (7) 知識結とはどういうものか、30字以内で答えなさい。

〔C〕 国家仏教として発展した仏教は、8世紀後半になると(チ)( )らの僧侶政治を出現させ、腐敗と混乱を招くに至った。そこで、桓武天皇は、都を平安に移し、仏教勢力の政治介入を絶ち、仏教の刷新をはかって、新仏教興隆に努めた。比叡山に天台宗を開いた最澄は、(リ)( )の樹立を敢行した。その戒壇建立を願って(ヌ)( )や顕戒論を撰上したが、南都の反対に遭って叶えられず、死後、その勅許を得、延暦寺号を下賜された。こうして、他国と異なる形で発達を遂げる純日本仏教成立の基礎が確立することになった。一方(8)空海は、中国密教を日本的仏教として再組織し真言宗を開いた。高野山を開創し、また、823年に(ル)( )を勅賜され、この二寺を拠点として教団勢力を拡大した。その後、(9)天台宗にも円仁によって密教が取り入れられ、両宗とも加持祈禱の現世利益を求める貴族の受け入れられるところとなって、世俗化を強めていった。仏教信仰が人々の間にゆきわたるにつれ、日本の伝統と結びつき神仏習合思想が盛んとなり、神宮寺や(10)仏像に近い神像もつくられた。平安時代も後半になると、末法思想が広がり、その危機に対する救いとして新たに浄土教が台頭した。民衆に念仏を勧め歩いた空也、融通念仏を始めた(ヲ)( )、(11)「往生要集」を著わした源信らによって極楽浄土が説かれ、退廃した末法世界を救うものとして貴賤を問わず広く受け入れられ、この時代の信仰を代表するまでになった。こうして(12)鎌倉新仏教が誕生する土壌がつけられていった。

〔設問〕

- (8) (a)空海が創設した私学の最初といわれる民衆の為の学校の名称、および、(b)彼の能筆を示す最澄への書状を一巻にまとめた作品の名称を答えなさい。

- (a) [ ] (b) [ ]
- (9) 天台宗の密教のことを何と言うか、答えなさい。 [ ]
- (10) 薬師寺にある神仏習合を示す神像彫刻の名称を一つ答えなさい。 [ ]
- (11) 「往生要集」の教説を実践する為に寛和2年に結成された念仏結社の名称を答えなさい。 [ ]
- (12) 鎌倉新仏教に共通する特徴について80字以内で簡潔に述べなさい。

- 〔語群〕 11. 一遍 12. 円珍 13. 行基 14. 玄昉 15. 西行 16. 蘇我稻目  
 17. 蘇我入鹿 18. 蘇我馬子 19. 蘇我蝦夷 20. 道鏡 21. 道慈  
 22. 道元 23. 良忍 24. 良弁 25. 庚午 26. 壬申 27. 辛亥  
 28. 戊午 29. 737 30. 740 31. 741 32. 742 33. 743 34. 747  
 35. 749 36. 752 37. 悪人正機説 38. 紀伝道 39. 教行信証  
 40. 興禅護国論 41. 山家学生式 42. 三経義疏 43. 三教指帰  
 44. 小乗戒 45. 専修念仏 46. 大小経律論 47. 大乘戒 48. 明経道  
 49. 教王護国寺 50. 金剛峯寺 51. 神護寺 52. 大雲寺 53. 東大寺  
 54. 百万塔 55. 仏舎 56. 法華滅罪寺 57. 薬師寺 58. 六勝寺

4 (6074) 〈中央大〉 飛鳥～奈良時代の仏教

つぎの文章を読んで、下線部分についての(1)～(8)の設問に、それぞれ最も適切な語句を、下記の語群の中から選び記号で記入しなさい。

仏教は、最初蘇我氏ら豪族の間で私的に信仰されるにとどまったが、大化の改新の近づくころから、朝廷により公的信仰をうけることになった。舒明天皇の代においては百濟大寺が造営され、天武天皇は(1)この寺を移して、その名を改め、国家的法会・祈禱などはこの寺で営み、あるいはまた薬師寺を建てるなど、政府は仏教興隆のために全力をあげた。この興隆政策は、聖武天皇の時絶頂に達した。すなわち天皇は、(2)国ごとに国分寺および国分尼寺を建立することを命じ、ついで、平城京に、(3)(4)5丈3尺の大仏の造営をはじめ、これを本尊とする東大寺を建立して、その開眼供養は国家的行事として盛大におこなわれるに至った。このように朝廷が積極的に仏教信仰をおしすすめた理由は、たとえば(5)護国の功德を説いた経巻が最も尊重されたことから推測することができる。

一方、この時代の文化を仏教美術の面からみると、(6)(7)東大寺の大仏殿や大仏をはじめ、当時の第一級と思われる作品が現存しないので、評価はむずかしい。しかし、建築の面では、なお(8)寄棟の屋根の下に、前面に吹き放しの柱をもった寺院建築をはじめとして、彫刻などを含めると、盛唐時代の様式をもつ作品が多く残されている。

- 問(1) この寺の改めた名前をあげなさい。 [ ]
- 問(2) この建立の詔の出された年代をあげなさい。 [ ]
- 問(3) 「大仏」の正式の名称をあげなさい。 [ ]
- 問(4) 「大仏」造営の詔の出された年代をあげなさい。 [ ]
- 問(5) この「経巻」の名称を1つあげなさい。 [ ]
- 問(6)・(7) 「東大寺大仏殿」および「大仏」は、その後2回にわたり兵火にあっているが、その事件関係者2人の名前を、時代の古い方から(6)・(7)の順にあげなさい。

- [ ] [ ] [ ]
- 問(8) この「寺院建築」の名称をあげなさい。 [ ]

- 〔語群〕 (ア)正倉院宝庫 (イ)756年 (ウ)織田信長 (エ)松永久秀 (オ)弥勒菩薩  
 (カ)741年 (キ)阿弥陀経 (ク)金光明最勝王経 (ケ)中宮寺 (コ)722年  
 (サ)薬師寺東塔 (シ)薬師如来 (ス)大官大寺 (セ)無量寿経 (ソ)平重衡  
 (タ)木曾義仲 (チ)如意輪観音 (ツ)観音経 (テ)高師直 (ト)743年  
 (ナ)唐招提寺金堂 (ニ)金剛頂経 (ヌ)飛鳥寺 (ネ)足利直義 (ノ)盧舎那仏

5 (6075) <関西学院大> 平安初期の仏教

次の文を読み設問に答えなさい。

平安初期の仏教は、①最澄・②空海による新宗派の樹立によって新しい時代を迎えた。前者は比叡山の延暦寺を中心に天台宗をおこし、後者は京都の③キョウオウゴクジ、高野山の金剛峯寺などによって真言宗をひろめた。真言宗は仏法の呪力によって国家を鎮護するという密教の教義と、空海の才腕によってその勢力を速やかに伸ばすことができたが、最澄は延暦寺に理想的な教団を営み、社会を指導するに足るすぐれた僧侶を育成しようとした。そのため彼は奈良仏教の中心をなす④( )寺のそれとは別個に、延暦寺に⑤ダイジョウカイダンを設けようとして、奈良の諸寺院の反感を招き、にわかに勢力を拡大することができなかつた。天台宗が勢力を伸ばしたのは、⑥円仁・⑦円珍が出て、⑧天台宗に密教をとり入れてからであった。しかし円仁と円珍との仏教解釈に相違があったことから、その末流に教義による対立を生むことになり、円珍派は比叡山を下り、⑨三井寺に入って独立することになった。この一派を⑩( )といい、円仁を祖とする派と対立するに至つた。

〔設問〕 ① 最澄の著作を次の中より選びなさい。

1. 沙石集 2. 顕戒論 3. 性霊集 4. 唐大和上東征伝

[ ]

② 空海の著作を弟子が編集した書を次の中より選びなさい。

1. 性霊集 2. 文華秀麗集 3. 山家学生式 4. 沙石集

[ ]

③ 相当する漢字を次の中より選びなさい。

1. 教皇護国寺 2. 経王護国寺 3. 教王護国寺 4. 経応護国寺

[ ]

④ 適当な寺名を次の中より選びなさい。

1. 薬師(寺) 2. 唐招提(寺) 3. 東大(寺) 4. 法華(寺)

[ ]

⑤ 相当する漢字を次の中より選びなさい。

1. 台乗戒壇 2. 大乘戒壇 3. 台乗戒団 4. 大乘誠団

[ ]

⑥ 円仁の著作を次の中より選びなさい。

1. 入唐求法巡礼行記 2. 唐大和上東征伝 3. 吉備大臣入唐絵詞 4. 善隣国宝記

[ ]

⑦ 円珍の大師号を次の中より選びなさい。

1. 慈覚大師 2. 伝教大師 3. 智証大師 4. 弘法大師

[ ]

⑧ 天台宗の密教を通常何というか、次の中より選びなさい。

1. 叡密 2. 東密 3. 顕密 4. 台密

[ ]

⑨ 三井寺は俗称である、正式の名称を次の中より選びなさい。

1. 園成寺 2. 円城寺 3. 園城寺 4. 円成寺

[ ]

⑩ 適当な語を次の中より選びなさい。

1. 寺門派 2. 山門派 3. 三井寺派 4. 叡山派

[ ]

## 第7日 古代の仏教

### ●重要用語●

#### □鎮護国家（ちんごこっか）

仏教が国を安泰に護るという思想。中国・朝鮮を経て日本に渡来した仏教の教義のなかにこの思想があり、奈良時代の律令国家はここに着目して、支配体制を強化する目的で仏教を保護育成した。奈良時代末期には仏教の政治介入の弊害が増大し、この悪弊を断つために平安遷都が行われるに至った。

#### □往生要集（おうじょうようしゅう）

僧源信<sup>げんしん</sup>（942～1017年）の著。985年成立。ひたすら念仏（仏の御名）を唱えればだれでも極楽往生ができると説く。本書が基になって平安時代の浄土信仰が生まれた。また本書は宋に送られて広く読まれた。

#### □末法思想（まっぽうしろう）

一種の仏教的史観。釈迦<sup>しやか</sup>入滅後、仏教はしだいに衰え、正法・像法<sup>しょうぼう そっぼう</sup>の時代を経て、仏教の教えしか残らない末法の時代が1万年続くという説。日本では1052年（永承7）に末法に入るとされ、折からの社会不安から強い信仰を集め、鎌倉新仏教発生の要因となった。

#### □密教（みっきょう）

秘密教ともいい、仏教の1派。4～6世紀にインドでバラモン教をとり入れて発生し、中国に伝わり、9世紀、空海<sup>くうかい</sup>によって真言宗として日本に伝えられた。加持祈禱を行い、即身成仏・現世利益を説き、藤原氏<sup>ふじわら</sup>などの貴族階級に信仰された。画像や法具を中心に密教美術も生まれた。

#### □天台宗（てんだいしゅう）

中国の智顛<sup>ちでん</sup>が開いた仏教の1宗派。「法華経」を根本聖典とする。唐で学んだ最澄<sup>さいてい</sup>が、805年に延暦寺に伝え、翌年朝廷の公許を得て開宗。22年、南都諸宗からの大乘戒壇独立が実現し、名実ともに日本天台宗が成立した。また、唐に渡った円仁<sup>えんにん</sup>・円珍<sup>えんちん</sup>が密教を伝え、天台密教（台密）が大成したが、10世紀末、山門・寺門派に分裂し、以後対立が続いた。のちの鎌倉新仏教の発生に多大な影響を与えた。

#### □真言宗（しんごんしゅう）

平安初期に空海<sup>くうかい</sup>が入唐して学び、806年に日本に伝えた仏教の1宗派。密教ともいい、空海が東寺（教王護国寺）で始めたので東密ともいう。現実をそのまま大日如来のあらわれとみて、現実の欲望を充足させるための加持祈禱を行い、貴族社会に広まった。13世紀末、古義と新義とに分裂し、さらに各派に分かれた。

#### □南都仏教（なんとぶつきょう）

奈良を中心にして発達した仏教。奈良前期までの仏教は学問的な性格が強かったが、聖武天皇<sup>しょうむ</sup>以降、8世紀中葉から宗教性が強くなり、宗派ができ、教団が組織された。こうして三論<sup>じやうじつ</sup>・成実<sup>くしや</sup>・俱舎<sup>ほつそう</sup>・法相<sup>げごん</sup>・華嚴<sup>ぎやうき</sup>・律の南都六宗が成立する。行基<sup>ろうべん</sup>・良弁<sup>がんじん</sup>・鑑真らの高僧が出たが、政治と結ぶ傾向も生じた。

□空海（くうかい） 774～835

讃岐出身。諡号は弘法大師。はじめ大学に学び、『三教指歸』を著して出家。804年に留学僧として渡唐し、真言宗を学んで06年に帰国した。嵯峨天皇の帰依が厚く、16年(弘仁7)に高野山の金剛峯寺を開き、23年には京都の東寺(教王護国寺)を勅賜された。加持祈禱による現世応報、即身成仏を説いて、貴族や庶民の信仰を集め、真言密教を急速に発展させた。京都に庶民の学校綜芸種智院を開設。詩文にすぐれ、書道でも三筆の1人に数えられている。

□最澄（さいちょう） 767～822

近江出身。諡号は伝教大師。12歳で出家。804年(延暦23)、遣唐使とともに渡唐。天台宗を学んで翌年帰国し、06年に比叡山延暦寺で天台宗を開いて、奈良の旧仏教勢力に対抗した。18年(弘仁9)、「山家学生式」を定めて12年間の厳しい山林修行を説き、また身分にかかわらず人皆仏になり得ると説いた。延暦寺に大乘戒壇の設立を願い出て南都仏教に反対され『顕戒論』で反論、死後7日めに勅許された。

□行基（ぎょうき） 668～749

和泉の人、百濟渡来人の子孫という。諸国を巡って民衆に仏法を説き、道・橋・池・灌漑用水・布施屋(宿泊施設)をつくるなどの社会事業に活躍した。弾圧迫害を受けた時期もあったが、民衆の支持尊信が厚く、東大寺大仏造立にあたっては人々を勧誘して協力し、745年(天平17)に日本最初の大僧正に任ぜられた。

□鑑真（がんじん） 688～763

唐の僧。14歳で出家、揚州の大明寺で律を講じていたが、日本の僧普照の招請で渡日を決心。海難などで5度も渡航に失敗、その間失明しながらも754年に来朝した。東大寺に入り、日本ではじめての戒壇を設けて律を伝えた。759年に唐招提寺が建立されるとここに入り、僧正に任ぜられた。没後大僧正を贈位された。

□空也（くうや） 903～972

平安中期、阿弥陀仏信仰を説いた僧。民間浄土教の始祖。「こうや」ともいう。南無阿弥陀仏を唱えながら、諸国を遍歴、道を開き、橋を架けるなど社会奉仕に尽くし、民衆の間に念仏を広めた。また、洛中ではじめて踊念仏を行い、「市聖」とよばれた。京都東山に西光寺(のちの六波羅蜜寺)を建立。

□神仏習合（しんぶつしゅうごう）

神道と仏教を融合調和させようとする動き。神仏混淆ともいう。奈良時代に神宮寺が創建され、平安時代には本地垂迹説があらわれるなど、民衆の間に根強く浸透したが、明治初期の神仏分離令により消滅した。

□本地垂迹説（ほんじすいじゃくせつ）

本地である仏が、衆生救済のために迹を垂れて、仮りにわが国の神となってあらわれるとする神仏習合思想。この考えは奈良時代にめばえ、平安時代に説として定着し、ことに天台・真言両宗により教義化された。鎌倉時代には、神を本地とする反本地垂迹説もあらわれてくる。明治の神仏分離によって衰えた。

●発展用語●

□聖明王（せいめいおう） ?～554

百濟王。523～554年の在位中、百濟・新羅・高句麗・任那の対立に日本がからんで朝鮮半島は複雑な状況にあり、新羅との戦いで敗死した。6世紀前半、欽明天皇のとき、仏像・経典を大和政権に献じた。

□司馬達等（しばたつと） 生没年不詳

<sup>くらつくりのすぐり</sup>鞍部村主 司馬達等ともいう。鞍部氏の祖とされ、<sup>くだら</sup>百濟系の人で渡来は522年という。仏教公伝以前に大和国高市郡坂田原に草堂を建て、仏像を礼拝したと伝える。<sup>すいこ</sup>推古朝の仏師<sup>くらつくりのとり</sup>鞍作鳥はその孫。

□金光明最勝王経（こんこうみょうさいしょうおうきょう）

仏教経典。10巻。『金光明経』の漢訳。唐の<sup>まじょう</sup>義浄訳。この経典を所持する国王・人民を四天王が擁護すると説き、鎮護国家の経典として古代～中世にかけて重要視され、諸国の国分寺におかれた。

□顕戒論（けんかいろん）

平安初期、<sup>さいちよう</sup>最澄が著した宗論書。3巻。820年著。最澄が大乗戒壇の設立を朝廷に奏上したとき、南都諸宗が激しく反対した。最澄は本論によって、これに反駁し、大乗戒は経論で明示されていると主張した。

□戒壇院（かいだんいん）

僧尼に授戒する壇のある建物のこと。<sup>かんじん</sup>鑑真が754年に東大寺大仏殿前に築造し、翌年、常設の戒壇をもつ院が大仏殿西方に建てられたのが最初である。下野の薬師寺と筑紫の観世音寺とともに天下の三戒壇といわれ、地域ごとに授戒する寺が定められた。しかし、822年に<sup>さいちよう</sup>最澄が奈良仏教に対抗して比叡山延暦寺に戒壇院（大乗戒壇）を建て、南北朝期にはこれが各地に分置された。

□加持祈禱（かじきとう）

加持は仏を信仰する人に仏の慈悲を感得させることであり、祈禱は諸仏菩薩に除災や現世利益を祈り求めることをいう。おもに密教における秘法であり、平安時代には貴族の間でさかんに行われた。

□上宮聖徳法王帝説（じょうぐうしょうとくほうおうていせつ）

<sup>しょうとく</sup>聖徳太子の最古の伝記。1巻で作者不詳。現在みられる形の本が成立したのは、平安中期のことと考えられる。文中には記紀などにはない異伝が多くみられ（仏教公伝の年など）、太子のこのことのみならず古代史一般を研究するための重要参考文献とされる。

□東密・台密（とうみつ・たいみつ）

<sup>しゃか</sup>釈迦の教えをわかりやすく説く顕教に対し、密教は深遠な<sup>たいにちによらい</sup>大日如來の教えを中心とする。インドで4～6世紀にバラモン教をとりいれて成立して中国に伝えられ、日本には9世紀初頭、<sup>くわかい</sup>空海が伝えた。空海は神秘主義的の儀式をもつ現世利益の祈禱を主に真言密教（東寺が根本道場だから東密）を広めた。天台宗は<sup>さいちよう</sup>最澄のあと<sup>えんにん</sup>円仁・<sup>えんちん</sup>円珍が、9世紀中葉に密教をとりいれて台密とよばれた。平安期には密教芸術が開花した。

□飛鳥寺（あすかであら）

蘇我馬子<sup>そがのうまこ</sup>が、現奈良県明日香村に588年から609年にかけて造営したと伝えられる寺院。塔を中心に北と東西の三方に金堂をもつ日本最古の本格的伽藍で、高句麗<sup>こうくり</sup>などの寺址に類似する。瓦は百濟<sup>くだら</sup>様式。法興寺<sup>がんとくじ</sup>、元興寺とも称し、718年には平城京に新元興寺が建立された。606年に鞍作鳥<sup>くらつくりのとり</sup>（止利仏師）が製作したという丈六釈迦銅像（飛鳥大仏）が、旧地の安居院<sup>あんごいん</sup>に現存する。

□唐招提寺（とうしょうだいじ）

奈良市五条町にある律宗の総本山。759年、唐僧鑑真<sup>かんじん</sup>が戒律の道場として建立（鑑真没後、弟子建立説もある）、のちに定額寺（官寺）に加えられた。金堂は創建時のものが現存し、講堂は平城宮朝集殿が移築改造されている。鑑真和上像も天平期の彫刻。

□東大寺（とうだいじ）

8世紀中葉、天災や飢饉が続いて世情は騒然とし、政争があいつぐなかで、聖武天皇<sup>しようむ</sup>は仏教による国家の鎮護と繁栄を願って、741年（天平13）に国分寺建立の詔を出し、ついで43年、盧舎那大仏造立の詔を発した。良弁<sup>らうべん</sup>や行基<sup>ぎょうき</sup>らをはじめ、民衆の協力も求め、当時の国力を尽くして52年（天平勝宝4）、平城京東の現在地に完成、開眼供養が行われた。伽藍完成は84年ごろとされる。現存する大仏の坐高は約15m、大仏殿は木造建築としては世界最大である。

□興福寺（こうふくじ）

奈良市にある法相宗の大本山。南都七大寺の1つで藤原氏の氏寺。藤原鎌足<sup>ふじわらのかまたり</sup>の妻が創建した山階寺<sup>やましな</sup>に始まる。平城遷都で奈良に移り、興福寺と改称した。藤原氏隆盛につれて栄え、多くの荘園を所有した。また僧兵が春日神社の神木を奉じて朝廷に強訴するなど、勢力をふるい、延暦寺とともに南都北嶺と称された。戦国時代以降しだいに衰微。寺蔵の彫刻に「阿修羅像」「無著・世親像」「天燈鬼・竜燈鬼」などがある。

□薬師寺（やくしじ）

天武天皇<sup>てんむ</sup>が皇后（のちの持統天皇<sup>じとう</sup>）の病氣平癒のため発願し、持統天皇が遺志を継いで藤原京に創建した。平城遷都により718年、現在地（西ノ京）に移建。南都七大寺の1つで法相宗<sup>ほっそう</sup>大本山。本尊の薬師三尊像と東塔がつくられた年代については、白鳳期・天平期の2説がある。堂塔・寺宝など遺存するものが多く、白鳳・天平文化の宝庫とされる。

## 第8日 古代の文化

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (0801) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)法隆寺金堂釈迦三尊像をつくった仏師。渡来系氏族の子孫とされる。 [ ]
- (2)元明天皇の命で<sup>ひえだのあれ</sup>稗田阿礼の伝誦した歴史などを筆録し、『古事記』を献上した。 [ ]
- (3)天武天皇の皇子で、720年完成の『日本書紀』の編纂に尽力した。 [ ]
- (4)奈良時代に活躍した文人・学者で、わが国最初の私設図書館を開いた。 [ ]
- (5)奈良時代の万葉歌人。「貧窮問答歌」などを詠んだことで知られる。 [ ]
- (6)『古今和歌集』の撰者の1人。最初のかな日記『土佐日記』を著す。 [ ]
- (7)一条天皇の中宮<sup>しょうし</sup>彰子に仕え、『源氏物語』を著したことで知られる。 [ ]
- (8)一条天皇の皇后<sup>ていし</sup>定子に仕え、随筆の傑作『枕草子』を著した。 [ ]
- (9)平安時代中期に活躍した仏師。平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像の作者。 [ ]
- (10)三筆の一人で、その詩は真濟編纂の『性霊集』の中に収められた。 [ ]
- (11)平安時代中期に活躍した書家。「秋萩帖」は彼の作品といわれる。 [ ]
- (12)平安時代中期に活躍した書家で、世尊寺流の祖となった人物。 [ ]
- (13)平安時代末期の鳥羽離宮内の院の別当。「鳥獣戯画」の作者とされる。 [ ]
- (14)今様など平安時代末期の流行歌を分類・集成して『梁塵秘抄』を編纂した。 [ ]

### 2 (0802) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項-飛鳥～天平文化〉

- (1)法隆寺金堂の中にある北魏様式の仏像で、鞍作鳥の代表作。 [ ]
- (2)法隆寺にある長身の木像で、南梁様式でつくられた仏像である。 [ ]
- (3)法隆寺に納めてある工芸品。須弥座<sup>しゅみざ</sup>の絵は日本最古のものとされる。 [ ]
- (4)聖徳太子の死後、妃の<sup>たちばなのおおいらつめ</sup>橘 大郎女によって制作された刺繍絵画。 [ ]
- (5)奈良時代、称徳天皇の発願で造立された木製の<sup>だらに</sup>小塔で、陀羅尼經を収納する。 [ ]
- (6)律令国家の時代、官吏養成のために中央におかれた教育機関。 [ ]
- (7)律令国家の時代、官吏養成のために地方におかれた教育機関。 [ ]
- (8)712年、稗田阿礼が伝誦した神話・歴史を<sup>おおのやすまる</sup>太安万侶が編纂した。 [ ]
- (9)『日本書紀』から『日本三代実録』までの6つの国史の総称。 [ ]
- (10)諸国の産物や地名由来を記した地誌書。713年に撰進が命じられた。 [ ]
- (11)わが国最古の和歌集で、短歌・長歌など約4500首を収録している。 [ ]
- (12)わが国最古の漢詩集で、751年に成立。大津皇子らの詩を収める。 [ ]
- (13)東大寺境内にある<sup>あざくら</sup>校倉造の倉庫で、聖武天皇の遺品などを収蔵する。 [ ]
- (14)東大寺三月堂の本尊<sup>かんしつぞう</sup>で乾漆像。日光・月光菩薩像が脇侍。 [ ]



- (15)乾漆像の肖像彫刻。高僧の慈悲や高邁な精神がよく表現されている。〔 〕
- (16)釈迦の前世を述べた経文。奈良時代の制作。絵巻物の祖ともいわれる。〔 〕
- 〔 〕
- 〈事項－弘仁・貞観文化〉
- (1)空海が設けた庶民教育施設。仏教・儒教を教えたが空海の死後衰退。〔 〕
- (2)和気広世わけのひろよが設けた大学別曹で、一族の子弟教育が行われた。〔 〕
- (3)814年に成立したわが国初の勅撰漢詩文集で、小野岑守みおもりらが編纂した。〔 〕
- (4)821年、藤原冬嗣によって設けられた一族の子弟教育機関である。〔 〕
- (5)三筆の1人空海が最澄に送った書状3通を1つにまとめた書簡集。〔 〕
- (6)平安初期の真言宗の寺。女人高野ともいわれる。創建時の金堂ひわだぶきは檜皮葺。〔 〕
- (7)木像の彫像様式の1種。頭部と胴部を分離せず一木で仕上げる。〔 〕
- (8)木像彫刻の衣のしわを、波をひるがえした形で表現したもの。〔 〕
- (9)密教の世界を示したもので、金剛界と胎蔵界の2種。神護寺にある。〔 〕
- 〈事項－国風文化〉
- (1)平安時代初期に発達した文字。漢字を草体にくずして簡略化した。〔 〕
- (2)平安時代前期に活躍した歌人で、小野小町ら6人の名手の総称。〔 〕
- (3)905年、醍醐天皇の命で紀貫之らが編纂した、わが国初の勅撰和歌集。〔 〕
- (4)9世紀から10世紀にかけて成立した、わが国最初の物語。〔 〕
- (5)10世紀前半に成立のわが国最初の歌物語。在原業平ありわらのなりひらの恋愛談が中心。〔 〕
- (6)紫式部によって著された作品。王朝文学の最高傑作といわれる。〔 〕
- (7)清少納言の随筆の傑作で、四季の情趣などを鋭い感覚で描いている。〔 〕
- (8)紀貫之が著した、最初のかな日記文学。土佐から京までの紀行文。〔 〕
- (9)疫病や死霊のたたりを鎮める祭。北野神社・祇園社ぎおんじやなどで行われた。〔 〕
- (10)平安時代に発達した貴族住宅の建築様式。寝殿を中心にたいのや対屋を配置。〔 〕
- (11)1053年、藤原頼通が創建した建物で、阿弥陀堂建築の代表である。〔 〕
- (12)平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像のように、彫像各部を別々につくる様式。〔 〕
- (13)平安時代中期に発達した絵画で、日本風の画題で描かれたもの。〔 〕
- (14)平安時代中期に活躍した小野道風・藤原佐理・藤原行成の3人の総称。〔 〕
- (15)平安時代の服装。女性の正装で桂うちぎを重ね、単ひとえの上に着たもの。〔 〕
- (16)宇多天皇から堀河天皇までを記した、編年体の物語風の歴史書。〔 〕
- (17)藤原氏の栄華を批判的に記した物語風の歴史書で「四鏡」の1つ。〔 〕
- (18)平安時代末期に成立の説話集。本朝・天竺てんじく・震旦しんたんの3部門に分類する。〔 〕
- (19)わが国最初の軍記物で、平将門の乱について細かく記している。〔 〕
- (20)漢文で記された軍記物。前九年の役についての経過を描写している。〔 〕
- (21)12世紀のはじめ、藤原清衡が奥州平泉に創建した阿弥陀堂建築。〔 〕
- (22)浄土教の地方化にともない、九州豊後に建造された阿弥陀堂建築。〔 〕
- (23)平安時代末期に成立した絵巻物。応天門の変について描写している。〔 〕
- (24)鳥羽僧正かくゆづ覚猷が描いたという、平安時代末期から鎌倉時代初期の絵巻物。〔 〕
- (25)平家が一門繁栄を祈り、安芸厳島神社に奉納した法華経などの経典。〔 〕
- (26)平安時代末期、後白河法皇が編纂した今様など当時の流行歌謡集。〔 〕

3 (0803) 重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1) 語部かたりべの舎人とねり。天武天皇の命で『帝紀』『旧辞』を暗唱した。〔 〕
- (2) 大伴旅人おおとものたびとの子で、『万葉集』のなかに最も多くの歌を詠み残した。〔 〕
- (3) 平安時代初期の漢学者。『令義解』の編集に参加。遣唐使を拒否した。〔 〕
- (4) 六歌仙の1人で『伊勢物語』のなかでは主人公として描かれている。〔 〕
- (5) 夫との結婚生活を自叙伝風に描いた『蜻蛉日記かげろう』の著者。〔 〕
- (6) 父の任地上総から帰京する旅行記に始まる『更級日記さらしな』の著者。〔 〕

4 (0804) 重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項〉

- (1) 寺院の建物の配置様式のこと、四天王寺式や法隆寺式などがある。〔 〕
- (2) 白鳳文化を代表する建築。フェノロサは「凍れる音楽」と形容した。〔 〕
- (3) もと山田寺の本尊で、のち興福寺に移された。頭部のみが現存する。〔 〕
- (4) 1972年、奈良県高市郡明日香村で発見された古墳の壁画。〔 〕
- (5) 奈良時代の文人・学者である淡海三船おつみのみふねが著した唐僧鑑真の伝記。〔 〕
- (6) 奈良時代の文人石上宅嗣いそのかみのやかつぐが開設した、わが国初の私設図書館。〔 〕
- (7) 木材を井桁いげたに組み、通風性をよくした建築様式。正倉院などが代表例。〔 〕
- (8) 奈良時代後期、称徳天皇の発願で行われた吉祥悔過会きちじょうけかえの本尊画像。〔 〕
- (9) 観心寺にある密教彫刻の代表的遺品。華麗・豊満な作風で知られる。〔 〕
- (10) 高野山有志八幡講にある、阿弥陀来迎図の代表的なものである。〔 〕
- (11) 平安時代末期の絵巻物で、動的な線で庶民生活を描写している。〔 〕

5 (0805) 〈同志社大〉 古代仏教文化の変遷

次の(1)~(5)の文中にある( )の部分にもっとも適した語句を下記の語群から選び、番号で答えなさい。

また文中の下線部分について、下記の設問(イ)~(ヌ)に答え、漢字で記しなさい。

- (1) 飛鳥時代の文化は百濟を介して伝えられた仏教とともに開花したといわれるが、高句麗も飛鳥文化に多大の影響をあたえたようである。(a )天皇の時に来朝して、絵具と(b )・墨の製法を伝えた曇徴もその国の人であり、蘇我氏の建てた(イ)当時最大の仏教寺院の建物の配置も、高句麗の遺跡の例に一致するとみられている。そうしたところから、当時の代表的な仏像彫刻である(ロ)法隆寺金堂本尊像の顔や姿なども、中国の北朝から高句麗を経由してもたらされた形式だとする見方もある。
- (2) 大化改新の後、主として、天武・持統朝に栄えた文化を白鳳文化とよんでいる。この時代には(ハ)白鳳万葉とも称される万葉歌謡にみられるような我国独自の文化も育成されたが、一般的には主として初唐文化の影響が大きく、仏像彫刻では薬師寺東院堂の(c )像や、興福寺の仏頭などがその好例とされている。この仏頭は昭和12年に興福寺の東金堂で発見されたものであり、その際同時に見つかった墨書によって応永18(1411)年に東金堂が焼ける以前の**本尊**であったことが判明した。それ以前、興福寺は治承4(1180)年にも全焼している。その時東金堂には、(ニ)平安時代最高と称された**仏師**が万寿4(1027)年に作った本尊が安置されていたが、惜しくも堂とともに焼失した。建物は間もなく復興したが、本尊の制作がはかどらなかったため、飛鳥の山田寺にあった仏像を運んできて本尊とした。その像がまた火災にあい、その際に頭部だけがのこって現在の仏頭となったのである。
- (3) 白鳳につづく奈良時代の文化を、(d )朝の年号の名をとって天平文化とよんでいる。こ

の時代の仏教は朝廷の保護によってますます栄えたが、それは単なる個人の救済というよりは(e )の思想にもとづくものであった。仏像彫刻の制作もさらに増加し、その素材も金銅造や木造のほか、東大寺戒壇院の(f )像のように写実的な表現に適した塑造の彫刻が多かった。また絵画の面でも、壁画のほかに紙や布地にえがく技法が発達し、(ホ)仏画の名作ものこされた。

(4) 都が平安京に移ってから最初の約百年間を平安初期とするが、この時代には仏教教学に大きな変化があらわれた。最澄は比叡山中に草堂を建てて修行し、天台の教理にめざめたが、入唐のち一宗をたてて新しく独自の(g )を設立する許可を朝廷に願いでた。これは南都仏教の側から強い反対をうけたが、最澄は(h )などを書いて反論を加えた。(ヘ)空海もまた入唐して真言密教を学び別の(ト)一宗をたてた。彼らの新仏教では、その教理によって以前にはなかった如意輪観音とか不動明王といった仏像がつくられることになった。

(5) 9世紀の末に遣唐使が廃止された頃から、11世紀の末に院政がはじまる頃までの約二百年間が平安中期であるが、この時期には国風文化が大きく発展する。宇治の平等院は、寺院の中に(i )が大きくとり入れられ、美しい自然との調和がはかられるなど、奈良の寺院にはみられなかった要素が多く、阿弥陀如来を本尊とする鳳凰堂の建築も、庇(ひさし)を支える比較的細い柱の列を露出させて繊細な感覚を示している。鳳凰堂は(チ)阿弥陀如来のすむ仏国土への往生を願う(j )思想にもとづく建築で、三方の扉には聖衆来迎を主題とする絵画がえがかれているが、その表現には、(リ)従来の唐絵とは趣の違った(ヌ)大和絵の特色が発揮されている。

〔語群〕 1.天智 2.推古 3.聖武 4.元明 5.筆 6.紙 7.瓦 8.聖観音  
9.薬師如来 10.弥勒菩薩 11.四天王 12.百済観音 13.即身成仏  
14.鎮護国家 15.浄土教 16.密教 17.塔 18.戒壇 19.金堂  
20.池泉庭園 21.根本中堂 22.往生要集 23.三教指帰 24.顕戒論

〔設問〕

- (イ) この寺院は塔を中心として三方に金堂を配している。その寺院名を記しなさい。  
〔 〕
- (ロ) この仏像はある人物の冥福を祈願して作られた。その人物の名を記しなさい。  
〔 〕
- (ハ) 当時の歌人で大海人皇子と交わした相聞歌のある1人の女性の名を記しなさい。  
〔 〕
- (ニ) ここに記す仏師は法成寺造仏の功によって法橋(ほっきょう)の位をえている。その人物の名を記しなさい。  
〔 〕
- (ホ) この時代の仏画の名作が薬師寺に1点のこっている。それは何という仏の画像か、その尊名を記しなさい。  
〔 〕
- (ヘ) 空海はあらゆる人間に仏性(ぶっしょう)があるとする考えから、広く一般庶民を対象とする学校を設立した。その学校の名を記しなさい。  
〔 〕
- (ト) 空海は時の天皇から高野山を賜わって金剛峰寺を建立した。その天皇とは誰か、名を記しなさい。  
〔 〕
- (チ) ここにいう仏国土は何とよばれるか、その仏国土の名を記しなさい。  
〔 〕
- (リ) この時代には絵画が貴族の教養となり、廷臣の中からも一流の画家があらわれた。9世紀の廷臣で、自らは唐絵をえがいたと思われるが、のち大和絵の家系の祖となった人物の名を記しなさい。  
〔 〕
- (ヌ) この時代の大和絵として現存するものは意外に少ないが、幸いこの時代に成立した文学作品を絵画化した絵巻物によって、そのありさまを想像することができる。その絵巻物の名を記しなさい。  
〔 〕

## 類題トレーニング(6080)

### 1 (6081) <同志社大> 古代歴史書の成立過程

次の文中の空欄(1)～(10)にもっとも適当な語句または数字を、漢字または算用数字で記入しなさい。

『古事記』『日本書紀』の編纂以前に、聖徳太子と蘇我馬子が編集した歴史書に(1)と(2), および『臣連伴造国造百八十部并公民等本記』があったが、蘇我氏滅亡の時に大部分が焼失した。『古事記』『日本書紀』には、中国史書の影響があったといわれているが、両書の編纂完成時の中国は、すでに(3)王朝の時代であった。『古事記』は神代から(4)天皇までの、『日本書紀』は神代から(5)天皇までの、天皇系譜や皇室の伝承を中心に撰録したものである。天皇の皇位継承を主とした古代の伝承や歴史は(6)といわれ、古代の神話や伝承は(7)といわれ、『古事記』『日本書紀』編纂の拠り所となった。「六国史」は、『日本書紀』をはじめ全部で6つの勅撰された国史のことであるが、「六国史」のうちの第6番目の(8)は(9)世紀の初頭に成立した。「六国史」は編年体の体裁で書かれているが、そののち同じく編年体の形式をとりながらも、物語風の歴史書が現れた。藤原道長の全盛期を主に扱った(10)は、宇多天皇より堀河天皇までの約200年間を編年体で記述したものである。

### 2 (6082) <立命館大> 国学と大学

次の文章の空欄A( )～F( )に適当な語句を入れ、かつ(a)(b)の問いに答えなさい。

律令国家は官吏の養成機関として、中央に大学、諸国に国学を置いた。大学では、儒学を主とするA( )が正科とされたが、やがてB( )をおさめる文章道や史学を研究するC( )に中心が移った。こうした学問尊重の気風のもとで、各有力氏族はD( )を設けて一族の子弟を取容し、勉学の便宜をはかった。E( )氏の弘文院、藤原氏のF( )などがその著名な例である。

(a) 別に空海が、庶民教育のために開設した学校を何というか。 [ ]

(b) 空海が開いた仏教の宗派の名称と、高野山に創建した寺の名まえとを記しなさい。

[ ] [ ]

### 3 (6083) <明治大> 古代絵画史

次の文章の空欄に、もっとも適当な語を記入しなさい。

わが国の絵画の歴史は原始時代に始まるが、その本格的な遺品は、7世紀の飛鳥文化の展開を待たなければならなかった。この時代の代表的な遺品に、法隆寺の1( )の扉と台座に描かれた2( )がある。1972(昭和47)年に発見された奈良県高市郡明日香村の3( )の壁画は、7世紀末から8世紀初めごろのものと推定され、当時の絵画の貴重な遺品である。法隆寺金堂の壁画は、8世紀初期の製作と考えられるが、その技法は、グプタ朝インドの4( )の壁画に源流をもつとされている。この壁画は、1949(昭和24)年の失火で損傷した。この不幸な事件をきっかけに、翌1950(昭和25)年に5( )が制定された。

奈良時代には、前代にひきつづき、仏教が6( )の役割をはたすものとして政治に結びつき、造寺・造仏がさかんに行われた。この時代の絵画の遺品は少ないが、薬師寺の7( )や、正倉院の8( )には9( )の影響が強くみられ、それらに天平美人の理想像をみることができる。

平安遷都後、9世紀の末ごろまでを文化史上10( )・11( )期と呼ぶ。この時代の美術工芸には12( )の影響が強まり、神秘感がにじみでているも

の多い。絵画では、仏の世界を特異な構図で説明する13( )が発達した。平安時代の文化は、10世紀以後、そのおもむきが大きくかわっていった。これを国風文化または藤原文化という。美術工芸の面でも国風化の傾向が著しく、貴族の邸宅の屏風や絵巻物などには、前代の中国風の14( )にかわって、日本の風物を主題とし、はなやかな色彩とやわらかい線で描いた15( )が発達した。

4 (6084) <立命館大> 飛鳥・白鳳・天平文化

次の文章の空欄(1)( )～(30)( )に最も適切な語句を入れなさい。

任那地域への進出をめざす百済王は、6世紀初葉から中葉にかけて、日本に五経博士や(1)( )・易・曆などの諸博士を交替制で派遣し、中国南朝系統の高度な学術や思想を伝えた。『日本書紀』は百済の(2)( )王が日本の(3)( )天皇に仏教を伝えた年代を552年としているが、『法王帝説』(略称)や(4)( ) (略称)は538年としている。法隆寺金堂(5)( )像を作った止利仏師の祖父(6)( )は、伝承によれば、中国南朝の梁の人で、522年に渡来して仏教を広めたという。

中国から直接に仏教や礼式を学ぶため、推古朝が遣隋使(7)( )らを派遣したのは607年であった。中国の正史(8)( )によれば、時の皇帝(9)( )は、倭王が国際儀礼に無知な国書を出したことを怒ると共に、(10)( )を派遣して中国式の礼制を教えさせた。聖徳太子の自筆という現存の(11)( )など三経義疏は、このころ遣隋使が中国で入手したものとみられる。太子の仏教の師としては、飛鳥寺に止住した高句麗僧の(12)( )、(13)( )僧の惠聡が名高いが、彼らは太子の政治上の顧問でもあった。またこの時代に百済の(14)( )は暦法・天文・地理・遁甲・方術の書物をもたらした。

白村江での敗戦によって、百済から多くの王族や貴族が渡来してきた。当時の百済には南北朝時代の中国の文芸の影響が強かったので、宮廷では漢詩文をつくるのがさかんになり、751年に編纂された(15)( )には、天智天皇の子の(16)( )皇子や、天武天皇の子の(17)( )皇子の詩が収められている。古来の口誦歌謡も漢詩の影響を受けて句形が定まり、「君待つとわが恋ひをればわが屋戸のすだれ動かし秋の風吹く」などすぐれた抒情の歌を詠じた(18)( )のような女流歌人も現われた。

672年(19)( )の乱の後、天武天皇は、律令貴族を確定し一元的序列に編成する(20)( )を施行した。またこれと深い関連をもって、(21)( )皇子・忍壁皇子らに詔し、(22)( )および上古の諸事を記し定めさせた。(23)( )は元明天皇が(24)( )に詔して撰録させたものであるが、それは(25)( )が天武天皇の勅語で誦習していたものの撰録だとされていた。

律令制度の教育機関としては、中央には官吏養成のための大学が置かれ、地方には(26)( )の子弟であることを入学資格とする(27)( )が設けられた。貴族の間には中国の学問・思想に関する教養が高まり、8世紀後半には、(28)( )という図書館をつくった石上宅嗣と、『唐大和上東征伝』という(29)( )の事績を書き上げた(30)( )とが、文人の首と称された。

5 (6085) <青山学院大> 平安時代の文化

次の文の a, b……f の所に、最も適当と思う語句を漢字で記入しなさい。また 1, 2……6 の所に、最も適当な語句を、次の語句群から選び記号で記入しなさい。また問 1, 問 2, 問 3 に答えなさい。

藤原時代に貴族たちは、宮廷を中心として独自の優雅な日本的な文化を展開した。平安初期には漢文学が隆盛であったが、9世紀半ば過ぎには和歌に対する関心が高まり、六歌仙とよばれる名手が出現した。10世紀になると、和歌の重要性が増し、宮廷では(a )が行われ、和歌が社交の手段として用いられるようになった。この頃における文化の国風化をよくあらわしているのは、かなの発達である。万葉がなの草書体を簡略にして(1 )が、漢字の字形の一部分を

とって(2 )が表音文字として生まれてきた。

10世紀には社会の変動を背景として、阿弥陀如来に帰依し、弥陀の浄土に往生しようとする浄土教の信仰が発展してきた。(b )によって代表される、民間の布教者は、各地をめぐり熱心に念仏をすすめた。天台の学僧源信は(3 )を著わして、念仏の方法や救済の根拠を明らかにした。中下流の貴族にまず浄土教がうけいれられ、さらに上流貴族の間にも伝えられた。慶滋保胤は、毎年二回集まって念仏の行を行う(4 )という集会を始め、また念仏者の伝記を集め(c )という書物を著わした。また源信や保胤らは、叡山の横川に(5 )という念仏結社をつくった。藤原道長は京都に(6 )という寺をつくり、浄土教の信仰に入った。

当時の貴族の住宅は(d )とよばれる様式の建築で、広い部屋が屏風や几帳でしきられていた。その襖や屏風には(e )がえがかれた。それは四季の移りゆきをあらわす自然の景物を、花見などの年中行事のうちにえがき出したものである。室内の調度品にも、このころ日本独特の発達をとげた(f )の手法が多く用いられて、はなやかさを添えた。

〔語句群〕 ア. 往生要集 イ. 三宝絵詞 ウ. 教行信証 エ. 浄土論  
オ. 平がな カ. 片かな キ. 念仏会 ク. 二十五三昧会  
ケ. 勸学会 コ. 平等院 サ. 法成寺

問1. 六歌仙にはどのような人がいたか。次の三人のうちから一人を選んで答えなさい。 [ ]

ア. 紀貫之 イ. 壬生忠岑 ウ. 僧正遍昭

問2. 藤原時代における浄土教信仰の実態は、どのようなものであったか。次の三つのうちから、正しいと思うものを選んで答えなさい。 [ ]

ア. 加持祈禱により、浄土に往生しようとした。  
イ. ひたすら仏の名を称えることだけで、浄土に往生しようとした。  
ウ. 仏の姿を心の中に思い浮かべることを主として行い、浄土に往生しようとした。

問3. 源氏物語の作者紫式部は、どのような階層に属する人か。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]

ア. 藤原道長などと同じく、藤原氏出身の上流貴族に属する人であった。  
イ. 受領層の人であった。  
ウ. 京都に住む庶民であった。

## 6 (6086) <立命館大> 古代の文化

次の文章〔1〕～〔5〕を読んで(a)～(i)の問いに答えなさい。

〔1〕九州北部に発達した装飾古墳の絵画には、大型の船・貴人・中国の葬送思想を示すものなどがあり、各地の仏教伝来に関する伝説などとともに、このころの日本文化は海外文化の影響を強くうけていたことがわかる。

(a) 白鳳時代の壁画古墳が発見された。それは何という古墳か。 [ ]

〔2〕大和政権は、漢字の読み書きを身につけた中国・朝鮮からの渡来人を登用し、部民として組織していった。

(b) 朝廷の記録や外交文書作成を担当した部を何というか。 [ ]

(c) 財政の出納などにあたった部を何というか。 [ ]

(d) 6世紀後半に初めて田部の丁男の名籍がつくられた屯倉を何というか。 [ ]

〔3〕大和政権の首長は地方政治集団の首長に対して優越する地位を確立して、「大王」(おおきみ)と呼ばれていた。

(e) 5世紀中ごろから6世紀初めごろにかけての金石資料には、大和政権の首長を「大王」と記すものが3点ある。それらの金石資料の名称を記しなさい。

---

---

---

[4] 6世紀に伝えられた仏教は、初め渡来人や蘇我氏などによって信奉されていたが、蘇我氏が政権の中樞を掌握すると急速に発展し、大陸風の寺院が造立されていった。飛鳥寺は造営年次や経過の明らかな最初の寺院である。一度焼失した斑鳩大寺(若草伽藍)が白鳳時代以後に再建されたのが、いまの法隆寺である。寺院は本来、塔を中心とする建物であった。しかし塔はしだいに装飾的なものとなって、中心からは外に位置するようになり、本尊をまつる金堂が中心に配置されるようになった。

(f) 本来塔が伽藍配置の上で中心になっていたのはなぜか。

[ ]

(g) 四天王寺と東大寺とでは、どちらが金堂中心の伽藍配置になっているか。

[ ]

(h) 法隆寺式伽藍配置の特徴を、五重塔・金堂・中門の関係で説明しなさい。

[5] 大和絵や仏画を描いてきた人々が、絵と詞書を交互におりませず物語を展開する独特な絵巻物を生み出したが、その絵巻物には、地方の武士・名主層の館や農民の生活ぶりも描かれている。

(i) 平安時代末の、主として都市の庶民の生活ぶりを写實的に描いた絵がある。それは何の下絵になっているか。またそれを所蔵しているのは何という寺院か。

[ ]

7 (6087) <関西学院大> 古代の文芸・美術

次のA～Eの文を読み、それぞれの設問に答えなさい。答は下記の語群から選び、その頭書の記号をマークしなさい。

A. ①彼は奈良時代の代表的な自然詩人であり、有名な彼の歌「田子の浦ゆ打出でて見れば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける」は、②「万葉集」に収められている。

B. 唐招提寺の鑑真像や、興福寺の阿修羅像、三月堂の不空羂索観音像などは、この時代に発達盛行した③新技法によるものである。

C. 東大寺の大仏は、④大仏造立の詔が発せられて9年後に開眼供養の儀式が行なわれた。その儀式に用いられた道具は、聖武天皇の遺愛の品とともに⑤東大寺に献納され、正倉院御物として今日に伝えられている。

D. 弘仁・貞観期を中心とする平安前期の仏像彫刻は、新しい造像手法によるものが多くなる。⑥この手法の名称は、次の平安後期における⑦平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像などの造像法に対する呼称である。

E. 「五月雨のふりのこしてや光堂」の句は、芭蕉が「奥の細道」の中で詠んだものであるが、この華麗な堂の須弥壇の下には三代の人物のミイラが納めてある。その初代が⑧この堂の建立者であるが、彼はかつて源義家に協力して⑨清原氏の内紛を平定し、⑩三代の栄華の端をひらいた。

[設問] ① 彼とは誰のことか。 [ ]

② この歌集の代表的な編者として考えられている人は誰か。 [ ]

③ この技法によってできた像を何というか。 [ ]

④ この詔が発せられたのは何年か。 [ ]

⑤ 献納した人物は誰か。 [ ]

⑥ この名称を何というか。 [ ]

⑦ この像の製作者は誰か。 [ ]

⑧ この人物は誰か。 [ ]

⑨ この紛争を何というか。 [ ]

⑩ このなかで源義経を保護したのは誰か。 [ ]

[語群] a. 円空 b. 乾漆像 c. 751年 d. 743年 e. 741年

f. 山上憶良 g. 定朝 h. 金銅像 i. 藤原秀衡 j. 柿本人麻呂

k. 孝謙天皇 l. 円朝 m. 後三年の役 n. 源頼義 o. 大伴家持

p. 光明皇太后 q. 塑像 r. 一木造 s. 藤原基衡 t. 前九年の役

u. 額田王 v. 寄木造 w. 藤原清衡 x. 山部赤人 y. 藤原仲麻呂

## 第8日 古代の文化

### ●重要用語●

#### □飛鳥文化（あすかぶんか）

538年の仏教伝来のころから645年の大化改新まで、飛鳥を中心に発達した仏教中心の文化。中国六朝文化の影響がとくに強く、高句麗・百済・新羅の朝鮮半島の文化、遠くはインド・ペルシア・ギリシア文化の影響も認められる。代表的作品に法隆寺の堂塔や救世観音像・玉虫厨子、中宮寺の天寿国曼荼羅繡帳、中宮寺・広隆寺の半跏思惟像（弥勒菩薩像）などがある。そのほか儒学・天文学・暦学なども発達した。

#### □白鳳文化（はくほうぶんか）

645年の大化改新から710年の平城遷都までの文化。672年の壬申の乱を境に前・後期に分けられるが、前期は飛鳥文化の影響が強く、後期は初唐の影響を受け清新な趣がある。薬師寺の東塔・薬師三尊像、法隆寺の五重塔・金堂およびその壁画などが代表作とされる。また、この時期には柿本人麻呂・山部赤人などの万葉歌人が活躍した。

#### □天平文化（てんぴょうぶんか）

奈良時代中期、天平年間(729～66年)に絶頂期に達した文化。律令体制にもとづく国家権力、平城京を中心とする貴族文化、遣唐使がもたらした国際色豊かな大陸文化、国教として重んじられた仏教が、渾然一体となって形成された。法・医・書・算・天・暦などの学問が発達し、『風土記』『万葉集』が編纂された。東大寺法華堂(三月堂)・転害門、正倉院御物、諸大寺の建造物・仏像・仏画など、多数の天平文化の遺構・遺品が現存する。

#### □弘仁・貞観文化（こうにん・じょうがんぶんか）

平安初期の弘仁(810～24年)・貞観(859～77年)年間を中心とした文化。律令政治から摂関政治への移行のなかで密教が隆盛したため、密教を基調とした神秘的な美術作品が多く生まれた。代表作に、彫刻では神護寺の薬師如来像、絵画では高野山の「赤不動」、建築では室生寺五重塔などがある。

#### □藤原文化（ふじわらぶんか）

平安時代中期以後、摂関政治がさかんであった藤原氏全盛のころ発展した文化。唐風文化に対して国風文化ともいう。唐の衰えと遣唐使の廃止で、それまで唐から移入した文化が、宮廷を中心とする貴族生活を背景に和風化していったもの。仮名の発明、国文学や和歌、女流文学、書道、大和絵、浄土芸術の発達、寝殿造、衣冠束帯など、その範囲は芸術・生活全般にわたり、日本風の上流社会文化が形成された。

#### □平泉（ひらいずみ）

岩手県平泉町。後三年の役後の1094年、藤原清衡が居館を構えて以来、藤原氏3代の中心地として繁栄。京文化を移植し、清衡は中尊寺を建立、子の基衡は毛越寺を再建、孫の秀衡は無量光院を建立した。

#### □一木造（いちぼくづくり）

木像彫刻の1技法。奈良後期にさかんになり、弘仁・貞観文化時代の平安前期に頂点に達した。1本の木材から1体の仏像を丸彫りし、継ぎ目のないものをいうが、頭部と胴部が一木でつくられていれば、腕や脚部などが別木でも一木造とよぶ。平安後期の寄木造との



区別はこの点にある。全体に量感に富み、神秘的な趣をもち、神護寺の『薬師如来像』、観心寺の『如意輪観音像』などが有名である。

#### □寄木造（よせぎづくり）

木像彫刻の技法の1つ。平安中期、仏師<sup>じょうちよう</sup>定朝によって完成された。仏像の頭部と胴部を別々に彫刻し、内部をくりぬき、はぎ合わせてつくる方法。木材の大きさに制限されず、ひび割れを防ぐことができた。

#### □寝殿造（しんでんづくり）

平安時代の貴族の邸宅様式。中央に正殿を南面して建て、その東・西・北に対屋を配して、これらを渡殿（廊下）で結んだ。正殿は主人の住まいで、寝殿とよばれる、庭には池や築山をつくり、釣殿・泉殿を池に臨ませた。装飾として、すだれ・几帳・帳台などがある。京都御所清涼殿はその代表的な遺構である。

#### □法隆寺式（ほうりゅうじしき）

伽藍配置の様式の1つ。回廊内の左に塔を、右に金堂を並列する形式。飛鳥時代末から白鳳時代に盛行した日本独自のもので、法隆寺はその代表例である。これとは逆に塔が右、金堂が左に配置されているのが法起寺式。

#### □正倉院（しょうそういん）

本来は寺院の主要倉庫のある一画をいうが、現在は東大寺の正倉院をさす。とくに<sup>あざくら</sup>校倉造の宝庫が重要で<sup>こうみよう</sup>光明皇太后が東大寺に寄進した<sup>しやうむ</sup>聖武天皇の遺品や、大仏開眼会の献物や武器武具・文書類、東大寺の法会用具など、いわゆる正倉院の御物1万余点が収められた。工芸品のなかには唐はもちろん、インド・イスラム・東ローマの流れをくむものもみられ、天平文化の世界性を今日に伝えている。

#### □東大寺三月堂（とうだいじさんがつどう）

奈良東大寺法華堂の別称。奈良時代天平期につくられた正堂と、鎌倉時代につくられた礼堂が融和併存し複雑な形をなす。堂内には本尊の不空絹索観音像、梵天・帝釈天像など天平期の名彫刻が多数ある。

#### □平等院鳳凰堂（びやうどういんほうおうどう）

京都府宇治市にある平等院の阿弥陀堂。1053年に<sup>ふじわらのよりみち</sup>藤原頼通が建立した。中堂、左右の翼廊、尾廊からなり、その形が鳳凰が翼を広げた形に似ているので、この名がある。本尊は<sup>じやうちよう</sup>定朝作の阿弥陀如来座像で、壁画や壁間には飛天52体などを配する。この世に極楽浄土をあらわそうとしたもので、浄土教芸術の粋を集めている。

#### □中尊寺金色堂（ちゆうそんじこんじきどう）

岩手県平泉町の中尊寺にある阿弥陀堂。1124年、<sup>ふじわらのきよひら</sup>藤原清衡が自分の葬堂として建立、阿弥陀三尊像・二天・六地藏を安置した。堂の内外を黒漆で塗り、その上に金箔を押したため金色堂という。清衡・<sup>もとひら</sup>基衡・<sup>ひでひら</sup>秀衡の3代の遺体が納められている。

### ●発展用語●

#### □高松塚古墳（たかまつづかこふん）

奈良県高市郡明日香村にある円墳。1972年に発掘された。石室内に遺存状況のよい四神図・人物図・星宿図の極彩色壁画がある。高句麗・百濟・唐の壁画古墳に類似し、7～8

世紀の貴人の墓と推定される。

□太安万侶（おのやすまろ） ?～723

奈良時代の学者。民部卿。安麻呂とも書く。711年に元明天皇の勅命で、<sup>ひえだのあれ</sup>稗田阿礼が誦習した『帝紀』・『旧辞』を筆録し、翌12年に『古事記』3巻を完成して献上した。その序文は安万侶の手になる、六朝風の文体がよく駆使されている。20年の『日本書紀』の撰修にも<sup>とわり</sup>舎人親王とともに参加した。

□綜芸種智院（しゅげいしゅちいん）

828年、<sup>くわかい</sup>空海によって創設された私立学校。大学・国学に入ることのできなかった一般庶民を対象にした日本最初の教育機関である。仏教を中心に儒教も講じたが、空海の死後に廃絶した。

□貧窮問答歌（ひんきゅうもんどうか）

奈良時代の<sup>やまのうえのおくら</sup>山上憶良の歌。『万葉集』巻5に収録。ある貧者となお貧しい隣人との問答歌で、長歌・短歌それぞれ1首ずつからなる。当時の律令制下における悲惨な農民の生活がリアルに表現されている。

□絵巻物（えまきもの）

巻物に詞書を添えて描いた物語風の絵画作品。中国に起源をもつが、日本で独自の発展をとげた。平安時代に物語文学の発生とともに発達、『源氏物語絵巻』ができ、鎌倉時代には新旧仏教布教のための寺社縁起や名僧伝のほか、歌仙絵・戦記絵がさかんになったが、江戸時代になると稚拙な御伽草子などの絵巻が出て、絵画としては退歩した。著名な作品に「信貴山縁起絵巻」「法然上人絵伝」「蒙古襲来絵詞」などがある。

□大和絵（やまとえ）

平安時代中期からおこった名称で、中国伝来の唐絵に対して日本風の絵をさす。<sup>こせのかなおか</sup>巨勢金岡を祖とするといわれる。屏風絵や絵巻物などがその代表的なもので、土佐派・住吉派などともに日本画の源流となった。

□芸亭（うんてい）

<sup>いそのかみのやかづぐ</sup>石上宅嗣は大納言にまで進んだ奈良後期の貴族だが、文人でもあり、旧宅を寺として一隅に文庫を設け、多くの儒書を集めて自由に閲覧を許し、これを芸亭と称した。わが国で最初の私設図書館とされる。

□入唐求法巡礼行記（にっとうぐほうじゅんれいこうき）

平安初期、天台宗の<sup>えんにん</sup>僧円仁の日記。4巻。838年に入唐し、滞在約10年におよんだ円仁が、仏教関係の記事をはじめ、遣唐使一行の動向、唐の情勢などの見聞をつづったもの。日唐関係の貴重な史料である。

□大学別曹（だいがくべっそう）

平安時代の有力氏族が、大学に学ぶ一族子弟のために設けた寄宿寮。大学の寄宿施設（<sup>ぞうし</sup>曹司）が狭かったためである。<sup>ふじわら</sup>藤原氏の勸学院、<sup>わけ</sup>和気氏の弘文院、<sup>ありわら</sup>在原氏や皇親一族の奨学院などが有名。

□定朝（じょうちょう） ?～1057

平安中期の仏師。従来の一木造にかわる寄木造の手法を完成した。はじめて純日本風の定

朝様とよばれる作風をつくりだし、後世の造仏の規範となった。法成寺・興福寺などの仏像を多数製作したといわれるが、現存のもので定朝作と確認されているのは、平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像だけである。

□鞍作鳥（くらつくりのとり） 生没年不詳

飛鳥時代の仏師。鳥（止利）仏師ともいう。司馬達等<sup>しばたつと</sup>の孫。『日本書紀』には元興寺（飛鳥寺の別称）の本尊をつくり、金剛寺を建立したことが記されている。法隆寺の釈迦三尊の光背には彼の作という銘がある。

□百済観音像（くだらかんのんぞう）

法隆寺所蔵の飛鳥時代の仏像。くすのきの一木造。百済渡来という所伝からこの名称がある。像高6尺9寸(209cm)の長身で、流れるような垂髪、天衣のひるがえりなどに崇高な神秘性を漂わせている。

□法隆寺金堂釈迦三尊像（ほうりゅうじこんどうしゃかさんぞんぞう）

奈良県斑鳩町にある法隆寺の本尊で、飛鳥時代の代表的金銅仏像の1つ。623年、聖徳太子<sup>しょうとく</sup>の菩提を弔うため、鞍作鳥<sup>くらつくりのとり</sup>につくらせた典型的な北魏様式の仏像。古拙の微笑を浮かべ、杏仁の形の目をもつ。

□唐招提寺鑑真和上像（とうしょうだいじがんじんわじょうぞう）

奈良の唐招提寺を創建した唐僧鑑真の肖像彫刻。鑑真没後(763年)まもなくつくられたもので、天平時代の代表的乾漆像であると同時に、わが国に現存する最古の肖像でもある。唐招提寺開山堂に収蔵されており、毎年6月6日の開山忌には開扉される。

□百万塔陀羅尼（ひゃくまんとうだらに）

藤原仲麻呂<sup>ふじわらのなかまろ</sup>の乱(764年)後、称徳天皇<sup>しょうとく</sup>は戦死者の冥福を祈るため、道鏡<sup>どうきょう</sup>のすすめで南都十大寺に10万基ずつの三重小塔を寄進。この塔に収められた木版印刷(銅版ともいう)の陀羅尼は世界最古の印刷物といわれる。

## 第9日 古代の史料

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (0901) 古代の大陸側史料チェック

各文にあてはまる史料名を答えなさい

- (1)夫れ楽浪海中に倭人有り、分れて百余国を為す。歳時を以て来り献見すと云ふ。  
[ ]
- (2)建武中元二年、倭の奴国、貢を奉じて朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。光武、賜ふに印綬を以てす。  
[ ]
- (3)「……今汝を以て親魏倭王と為し、金印紫綬を仮し装封して帯方の太守に付して汝に假授せしむ。……銅鏡百枚……を賜ふなり」  
[ ]
- (4)百残・新羅は旧これ属民にして、由来朝貢す。しかるに倭、辛卯の年をもって来りて海を渡り、百残□□□羅を破りて、もって臣民となす。  
[ ]
- (5)昔より祖<sup>そでいみずか</sup>禰<sup>つらぬ</sup>躬<sup>つらぬ</sup>ら甲冑を擐<sup>つらぬ</sup>き、山川を跋涉し寧<sup>いどま</sup>処に違<sup>いどま</sup>あらず、東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国……  
[ ]
- (6)大業三年、其の王多利思比孤、使を遣わして朝貢す。……其の国書に曰く「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す、<sup>つつが</sup>恙<sup>つつが</sup>無きや云々」  
[ ]
- 〔語群〕 魏志倭人伝 漢書地理志 後漢書東夷伝  
隋書倭国伝 宋書倭国伝 高句麗好太王碑文

### 2 (0902) 古代の政治・社会関係の史料チェック

各文にあてはまる史料名を答えなさい

- (1)一に曰く、和をもって貴しとなし忤<sup>さか</sup>らふること無きを宗とせよ。  
[ ]
- (2)其の一に曰く、昔在の天皇等の立つる所の子代の民、処処の屯倉、及び別<sup>こと</sup>には臣・連・伴造・国造・村首の所有<sup>たもて</sup>の部曲<sup>や</sup>の民、処処の田荘を罷めよ。  
[ ]
- (3)其の新たに溝池を造り、開墾を営む者あらば、多少に限らず、給して三世に伝へしめん、若し旧の溝池を逐<sup>お</sup>はば、其の一身に給せん。  
[ ]
- (4)今より以後任に私財と為し三世一身を論ずること無く、威<sup>みなことごと</sup>悉<sup>みなことごと</sup>に永年取ること莫<sup>なか</sup>れ。  
[ ]
- (5)世間を憂<sup>よのなか</sup>しと耻<sup>やさ</sup>しと思へども、飛びたちかねつ鳥にしあらねば 『万葉集』  
[ ]
- (6)裁断せられんことを請ふ、当国の守藤原朝臣元命三箇年の内に責め取る非法の官物並びに濫行横法三十一箇条の愁状。 『宝生院文書』  
[ ]
- (7)太閤、下官を招き呼びて云く、和歌を読まむと欲す、必ず和すべし……「此の世をば我世とぞ思ふ望月のかけたることも無しと思へば」……  
[ ]
- (8)右、臣某、謹しみて……記録を案ずるに、大唐の凋弊之を載すること具<sup>つがさ</sup>なり。 『菅家文章』  
[ ]
- (9)されば入道相国のこしうと、平大納言時忠卿ののたまひけるは、「此一門にあらざらむ人は皆人非人なるべし」とぞのたまひける。  
[ ]
- (10)延久ノ記録所トテハジメテヨカレタリケルハ、諸国七道ノ所領ノ宣旨官符モナクテ公田ヲカスムル事一天四海の巨害ナリト、…… 『愚管抄』  
[ ]
- 〔語群〕 記録荘園券契所設置 大化改新の詔 『小右記』 三世一身法

3 (0903) 古代の文化関係の史料チェック

各文にあてはまる史料名を答えなさい

- (1)志しま癸しま嶋の天皇の御世の戊午の年十月十二日、百濟国主明王始めて仏像經教并びに僧等わたを度し奉る。 [ ]
- (2)欽明天皇十三年冬十月。百濟の聖明王……釈迦仏の金銅像一軀……經論若干卷を献る。 [ ]
- (3)宜しく天下の諸国をして各々つし敬んで七重の塔一区を造り、并びに金光明最勝王經、妙法蓮華經各一部を写さしむべし。 『続日本紀』 [ ]
- (4)夫れ天下之富を有つ者は朕也。天下之勢を有つ者も朕なり。 『続日本紀』 [ ]
- (5)夫れ往生極樂の教行は、濁世末代の目足なり。道俗貴賤、誰か帰せざる者あらんや。 [ ]

〔語群〕 『往生要集』 大仏造立の詔 国分寺造立の詔  
 仏教公伝(『日本書紀』) 仏教公伝(『上宮聖徳法王帝説』)

4 (0904) <関西学院大> 大化改新の詔と律令制

次の(A)~(C)の文を読み、設問に答えなさい。答えは頭書の記号をマークしなさい。

- (A) 昔在の天皇等の立てたまへる④( )の民、処々の㊦( ),及び別には臣・連・伴造・村首たもの所有てゐる㊧( )の民、処々の㊨( )を罷めよ。
- (B) 更に諸氏の族姓を改めて八色の姓を作り、以て天下の万の姓を混ぜむ。
- (C) 九月、乙亥の朔、諸国の司等に詔して曰く。凡そ戸籍を造ることは戸令に依れ。

〔設問〕

- ① (A)の④に相当するものを下記より選びなさい。 [ ]  
 a. 部曲 b. 名代 c. 子代 d. 公 e. 賤
- ② (A)の㊦に相当するものを下記より選びなさい。 [ ]  
 a. 佃 b. 口分田 c. 屯倉 d. 名田 e. 田庄
- ③ (A)の㊧に相当するものを下記より選びなさい。 [ ]  
 a. 部曲 b. 名代 c. 子代 d. 公 e. 賤
- ④ (A)の㊨に相当するものを下記より選びなさい。 [ ]  
 a. 佃 b. 口分田 c. 屯倉 d. 名田 e. 田庄
- ⑤ (A)の文は大化改新の詔の一節である。詔の発令された時の天皇は誰か。下記より選びなさい。 [ ]  
 a. 天智天皇 b. 皇極天皇 c. 天武天皇 d. 孝徳天皇  
 e. 持統天皇 f. 齐明天皇 g. 推古天皇 h. 文武天皇
- ⑥ (B)の「八色の姓」の第3番目の姓は何というか。下記より選びなさい。 [ ]  
 a. 臣 b. 連 c. 真人 d. 宿禰  
 e. 朝臣 f. 忌寸 g. 道師 h. 稻置
- ⑦ 「八色の姓」を制定した天皇は誰か。下記より選びなさい。 [ ]  
 a. 天智天皇 b. 皇極天皇 c. 天武天皇 d. 孝徳天皇  
 e. 持統天皇 f. 齐明天皇 g. 推古天皇 h. 文武天皇
- ⑧ (C)の文は設問⑦の天皇の次に皇位についた天皇の4年の記事である。この文にみえる「戸令」を取めている法令を次のうちから選びなさい。 [ ]  
 a. 大宝令 b. 延喜式 c. 飛鳥浄御原令  
 d. 養老令 e. 弘仁格 f. 近江令

- ⑨ 設問⑧の法令を施行した天皇は誰か。次のうちから選びなさい。 [ ]
- a. 天智天皇    b. 皇極天皇    c. 天武天皇    d. 孝徳天皇  
e. 持統天皇    f. 齊明天皇    g. 推古天皇    h. 文武天皇
- ⑩ (A)(B)(C)の文はいずれも同じ書物に記されている。その書物を下記より選びなさい。 [ ]
- a. 日本書紀    b. 続日本紀    c. 日本後紀  
d. 続日本後紀    e. 文徳実録    f. 三代実録

## 類題トレーニング(6090)

### 1 (6091) <早稲田大> 弥生時代の日中関係

次の文を読み、(A)、(B)のそれぞれにつき最も適当なものは何か。記号(1・2・3……)で答えなさい。

「後漢書」東夷伝にみえる(A) { 1. 楽浪の海中に倭人有り、分れて百余国と為る。歳時を以て来りて献見すと云う。 2. 安帝の永初元年、倭の国王帥升等、生口百六十人を献じ、請見を願う。 3. 景初二(三)年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣わして郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを求む。 } の記事は、だいたい(B) { 4. 紀元前2～1世紀 5. 紀元後1～2世紀 6. 紀元後3世紀 } の日本の様子的一端を伝えている。 (A)[ ] (B)[ ]

### 2 (6092) <関西学院大> 遣隋使と天皇の神格化

次の(A)、(B)の文を読み、それぞれ設問に答えなさい。

(A) ①九月辛巳、唐客裴世清、罷り帰る。(中略)爰に②天皇、③唐帝を聘す。其の辞に曰く「東天皇、敬みて西皇帝に白す。使人鴻臚寺の掌客裴世清等至りて、久しき憶方に解けぬ。季秋薄冷、尊如何、想うに清念ならん、此にも即ち常の如し。今大礼④蘇因高、大礼乎那利等を遣して往でしむ。謹みて白すこと具ならじ。」と。⑤

〔設問〕

- ① 西暦何年のことか。次より選びなさい。 [ ]  
 1. 602年 2. 607年 3. 608年 4. 614年 5. 618年
- ② 誰のことか。次より選びなさい。 [ ]  
 1. 推古天皇 2. 聖徳太子 3. 舒明天皇 4. 中大兄皇子 5. 孝徳天皇
- ③ 誰のことか。次より選びなさい。 [ ]  
 1. 隋の文帝 2. 隋の煬帝 3. 唐の高祖 4. 唐の太宗 5. 唐の高宗
- ④ 誰のことか。次より選びなさい。 [ ]  
 1. 来目皇子 2. 小野妹子 3. 吉士雄成 4. 犬上御田歊 5. 粟田真人
- ⑤ この文を載せている書を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 隋書 2. 旧唐書 3. 新唐書 4. 日本書紀 5. 上宮聖徳法王帝説

(B) ⑥おおきみは神にしませば水鳥のすだく水沼を⑦都となしつ。⑧⑨⑩

〔設問〕

- ⑥ 誰のことか。次より選びなさい。 [ ]  
 1. 孝徳天皇 2. 天智天皇 3. 天武天皇 4. 持統天皇 5. 元明天皇
- ⑦ どの宮都をさすか。次より選びなさい。 [ ]  
 1. 難波長柄豊碕宮 2. 近江大津宮 3. 飛鳥浄御原宮 4. 藤原京 5. 平城京
- ⑧ この歌はある事件ののちに歌われたものである。その事件を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 大化改新 2. 白村江の戦 3. 壬申の乱  
 4. 飛鳥浄御原令頒布 5. 武蔵国より和銅献上
- ⑨ またそれは西暦何年のことか。次より選びなさい。 [ ]  
 1. 645年 2. 663年 3. 672年 4. 689年 5. 708年
- ⑩ この歌を載せている書を次より選びなさい。 [ ]  
 1. 日本書紀 2. 万葉集 3. 続日本紀 4. 懐風藻 5. 古語拾遺

### 3 (6093) <関西学院大> 藤原仲麻呂の乱

次の史料を読み、( ) および下線を施した個所について設問に答えなさい。答はすべて頭書の記号をマークしなさい。

(天平宝字八年)九月壬子、軍士石村村主石楯<sup>いわれのすくり</sup>(①)を斬りて、首を②京師に伝う。(①)は、③近江朝の内大臣藤原朝臣(④)の曾孫、平城朝の贈太政大臣⑤武智麻呂の第二子なり。率性聡敏にして、ほぼ書記に渉る。大納言阿倍少麻呂に従いて算を学びて、尤も其の術に精し。内舎人より大学少允に遷る。天平六年従五位下を授けられて、歴任通頭なり。勝宝元年正三位大納言兼紫微令中衛大将に至る。枢機の政、独り掌握より出づ。是に由りて豪宗右族皆其の勢を妬む。宝字元年、(⑥)等謀りて之を除かんと欲す。事麁立に涉って、反って滅ぼす所と為る。其の年紫微内相に任ず。二年大保に拜せらる。(中略)四年⑦大師に転ぜらる。(中略)時に(⑧)常に禁掖に侍して、甚だ寵愛せらる。(①)之を患いて、懐<sup>おもい</sup>自ら安らからず。乃ち⑨高野天皇に諷すらく。(中略)遂に⑩兵を起して反す。

〔設問〕

- ① 誰のことか。下記の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 長屋王 b. 藤原広嗣 c. 橘奈良麻呂 d. 惠美押勝 e. 橘諸兄
- ② この時の「京師」とは、どの京をいうか。下記の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 大津京 b. 藤原京 c. 平城京 d. 恭仁京 e. 長岡京
- ③ 「近江朝」の天皇は誰か。下記の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 孝徳天皇 b. 天智天皇 c. 斉明天皇 d. 天武天皇 e. 持統天皇
- ④ ④( )に入れるべき人物の名を下記の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 鎌足 b. 不比等 c. 宇合 d. 房前 e. 麻呂
- ⑤ 「武智麻呂」は誰の子か。下記の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 鎌足 b. 不比等 c. 宇合 d. 房前 e. 麻呂
- ⑥ ⑥( )に入れるべき人物を下記の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 長屋王 b. 藤原広嗣 c. 橘奈良麻呂 d. 惠美押勝 e. 橘諸兄
- ⑦ 「大師」について最も適切な説明を下記の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 唐の三公の1つで、右大臣の唐名である。  
 b. 唐の三公の1つで、左大臣の唐名である。  
 c. 唐の三公の1つで、太政大臣の唐名である。  
 d. 大宰府の長官で、「師」は「帥」の誤りである。  
 e. 出家した後の僧位である。
- ⑧ ⑧( )に入れるべき人物を下記の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 玄昉 b. 吉備真備 c. 橘諸兄 d. 道鏡 e. 行基
- ⑨ 「高野天皇」とは孝謙天皇のことである。天皇は何天皇の子か。下記の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 淳仁天皇 b. 聖武天皇 c. 文武天皇 d. 元明天皇 e. 元正天皇
- ⑩ この乱は西暦何年か。下記の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 729年 b. 740年 c. 757年 d. 764年 e. 770年

4 (6094) <早稲田大> 藤原氏の台頭と関連事件

次の文を読み、下記の問い(1～6)に答えなさい。解答はすべて下記の語群の中から選び、その記号で記しなさい。

このイ不比等の大臣の御男君たち二人ぞおはしける。太郎は、武智麿ときこえて、左大臣までなり給へり。二郎は、房前と申て、宰相までなり給へり。(中略)さて不比等のおとどの男子二人又御弟とを四家となづけて、みな門わかちたまへり。その口武智麿を1( )となづけ、二郎房前をば2( )となづけ、御はらからのハ3( )の式部卿をば式家となづけ、その弟の麿をば4( )となづけ給てこれを藤氏の四家とはなづけられたるなりけり。この四家よりあまたのさまざまの国王・大臣・公卿おほくいで給てさかえおはします。しかあれどニ5( )のすゑ、いまだにえだひろごり給へり。

問1. 文中の空欄(1～5)に該当する語句は何か。

問2. 下線部分のイの人物が中心となって選進した法令を何というか。 [ ]



- 問3. 下線部分ロの人物の子で、道鏡と抗争して敗死したのは誰か。 [ ]
- 問4. (a) 下線部分ハの人物の子で、大宰府において挙兵して敗れたのは誰か。 [ ]  
 (b) その挙兵の原因となった政敵の一人は誰か。 [ ]
- 問5. (a) 下線部分ハの人物の孫で、造長岡宮使として活躍中に暗殺されたのは誰か。 [ ]  
 (b) またその子で、妹と共に平城上皇の復位を計画して敗れたのは誰か。 [ ]
- 問6. (a) 下線部分ニの繁栄の基礎をきずいた人物は誰か。 [ ]  
 (b) その人物が初めて任ぜられた令外官の一つは何か。 [ ]
- 〔語群〕 あ. 飛鳥浄御原令 い. 宇合 う. 近江令 え. 兼家 お. 仲麻呂  
 か. 蔵人頭 き. 玄昉 く. 光明子 け. 南家 こ. 鎌足  
 さ. 養老律令 し. 摂関家 す. 頼通 せ. 種継 そ. 大宝律令  
 た. 京家 ち. 時平 つ. 仲成 て. 勘解由使 と. 北家  
 な. 広嗣 に. 冬嗣 ぬ. 基経 ね. 良房 の. 道長  
 は. 奈良麻呂 ひ. 檢非違使 ふ. 百川 へ. 聖武天皇 ほ. 京極家  
 ま. 清麻呂 み. 今鏡 む. 中納言 め. 里内裏 も. 彈正台

5 (6095) <学習院大> 公地制度の崩壊

次の史料を読み、設問に答えなさい。

- a. 太政官奏すらく、頃者、百姓漸く多くして田地窄狭なり。望み請うらくは、天下に勅め課せて田疇を開闢せしめん。其の新に溝池を造りて開墾を営む者あらば、多少を限らず、給して三世に伝えしめん。若し旧の溝池を逐わば、其の一身に給せん、と。
- b. 去る天平神護元年三月六日諸国に下せる符に徧く、勅を奉るに、聞くが如くんば、天下の諸人競いて墾田を為り、勢力の家は百姓を駆使し、貧窮の百姓は自存するに暇あることなし。自今以後、一切に禁断して加墾せしむること勿れといえり。今、右大臣の宣を披るに徧く、勅を奉るに、自今以後、任に開墾せしめよ、と。
- c. 太政官奏して曰く、食の本たる、是れ民の天とする所、時に随いて策を設くるは治国の要政なり。望み請うらくは、農を勅め穀を積みて以て水旱に備え、仍りて所司に委ねて人夫を差発し、膏腴の地良田一百万町を開墾せん、と。
- d. 詔して曰く、聞くならく、墾田は養老七年の格に依るに、限満つるの後、例に依りて取め授く。是に由りて、農夫怠り倦み、開ける地復た荒る。自今以後、任に私財と為し、三世一身を論ずることなく、咸悉く永年取る莫れ、と。
- e. 勅すらく、今聞く、墾田は天平十五年の格に縁るに、自今以後、任に私財と為し、三世一身を論ずることなく、咸悉く永年取る莫れと。是に由りて天下の諸人、競いて墾田を為り、勢力の家は百姓を駆役し、貧窮の百姓は自存するに暇なし。自今以後、一切禁断して加墾せしむること勿れ。但し寺の先来定むる地開墾するの次は、禁ずる限りに在らず。又、当土の百姓の一・二町は亦宜しく之を許すべし、と。

〔設問〕

問1. 上記の五史料を年代順に配列し、頭書の符号で答えなさい。

- [ ]
2. (イ) 史料aの政策が発せられたときの政権担当者は誰か。 (ロ) この政策を一般に何と呼ぶか。 (イ)[ ] (ロ)[ ]
3. (イ) 史料bの「去る天平神護元年三月六日諸国に下せる符」とはb以外のどれを指しているか、頭書の符号で答えなさい。 (ロ) それとの対比において、本政策の立場を簡単に述べなさい。 (イ)[ ] (ロ)[ ]
4. 史料cの「百万町歩」の開墾について、所感を述べなさい。(25字程度)  
 -----  
 -----
5. (イ) 史料dにいう「養老七年の格」とはどれを指すか。頭書の符号で答えなさい。 (ロ) 史料dの政策を何とよぶか。 (イ)[ ] (ロ)[ ]

6. (イ) 史料eにいう「天平十五年の格」とはどれを指すか。(ロ) 史料eの法令を出した時の政権担当者は誰か。(イ)[ ] (ロ)[ ]

6 (6096) <明治大> 古代の著作・史料

次の史料A～Eを読んで、下記の設問に答えなさい。

- A. 風雑へ 雨降る夜の 雨雑へ 雪降る夜は 術もなく 寒くしあれば 堅塩を 取りつづしろ  
ひ 糟湯酒 うち噉ろひて 咳かひ 鼻びしびしに しかとあらぬ 鬚かき撫でて 我を除きて  
人は在らじと 誇ろへど 寒くしあれば 麻衾 引き被り(下略)
- B. 裁断せられんことを請ふ、(中略)三箇年内に責め取る非法の官物、並びに濫行横法卅一箇条の愁状  
一. 裁断せられんことを請ふ、例挙の外に、三箇年内に収納せる加徴の正税卅三万二千二百卅八束の息利十二万九千三百十四把一分の事(中略)  
一. 裁断せられんことを請ふ、交易と号して誣ひ取る絹・手作布・信濃布・麻布・漆・油・苧・茜・綿等の事(中略)  
以前の条の事、憲法の貴きを知らんがため言上すること件の如し。(下略)
- C. 是に天皇詔りたまひしく、「朕聞く、諸家の賞る帝紀及び本辞、既に正実に違ひ、多く虚偽を加ふと。(中略)故惟れ、帝紀を撰録し、旧辞を討覈して、偽りを削り実を定めて、後葉に流へむと欲ふ。」とのりたまひき。(下略)
- D. 寛仁二年、十月十六日乙巳、今日、女御藤原威子を以て皇后に立つるの日なり。(中略)太閤、下官を招き呼びて云ふ、和歌を読まんと欲す。必ず和すべし者。答へて云ふ、何ぞ和し奉らざらんやと。(中略)「此の世をば我が世とぞ思ふ望月の虧けたることも無しと思へば」。(下略)
- E. それ往生極楽の教行は、濁世末代の目足なり。道俗貴賤、誰か帰せざる者あらん。(中略)この故に、念仏の一門に依りて、いささか経論の要文を集む。これを披いてこれを修むるに、覚り易く行ひ易からん。惣べて十門あり。分ちて三巻となす。(下略)

〔設問〕

- (1) A～Eの史料名を下記の語群から選び、その記号を記入しなさい。

A[ ] B[ ] C[ ] D[ ] E[ ]

- 〔語群〕 1. 御堂関白記 2. 尾張国郡司百姓等解文 3. 古事記  
4. 神皇正統記 5. 性霊集 6. 貧窮問答歌 7. 小右記  
8. 往生要集 9. 憲法十七条 10. 日本三代実録

- (2) A～Eの史料に関係の深い人物を下記の語群から選び、その記号を記入しなさい。

A[ ] B[ ] C[ ] D[ ] E[ ]

- 〔語群〕 a. 空海 b. 北畠親房 c. 藤原元命 d. 源信 e. 藤原道長  
f. 稗田阿礼 g. 山上憶良 h. 藤原時平 i. 藤原実資 j. 既戸皇子

7 (6097) <同志社大> 古代の身分・位階制

次の史料を読んで、各史料の下に記された設問に答えなさい。答えは正確な漢字で記しなさい。(ただし、史料の原文は漢文である。)

- ア. 秋九月戊申。詔して曰く、群卿百寮及び諸の国造等各言ふ、或は帝皇之裔、或は異しくして之天降りりと。然れども三戈顕れ分れて以来、多く万歳を歴たり。是を以て一氏蕃息して、更に万姓と為り、其の実を知り難し。故に諸の氏姓の人等、沐浴齋戒して、各( )を為せと。

〔設問〕 この史料の( )は、人々の主張の真偽を判断するためにとられた方法である。その方法を何と云うか。 [ ]

- イ. 壬申。始て冠位を行ふ。大徳、小徳、大仁、小仁、大礼、小礼、大信、小信、大義、小義、大智、小智、并せて十二階。

〔設問〕 この冠位が制定された時の天皇はだれか。 [ ]

- ウ. 春二月丁亥。天皇大皇弟に命じて冠位の階名を換ふること及び氏の上、民部・家部等の事を宣

べしむ。其の冠は二十六階有り。

〔設問〕 この史料で「大皇弟」とよばれている皇子はだれか。 [ ]

エ。冬十月己卯朔。詔して曰く、更に諸氏の姓を改めて、( )の姓を作り、以て天下の万の姓を混かす。一を真人と曰ひ、二を朝臣と曰ひ、三を宿禰と曰ひ、四を忌寸と曰ひ、五を道師と曰ひ、六を臣と曰ひ、七を連と曰ひ、八を稻置と曰ふ。

〔設問〕 この史料の( )にあてはまる名辞は何か。 [ ]

オ。三月甲午。始て新令に依て官名位号を改め制す。(中略)始て冠を賜ふを停めて、易ふるに位記を以てす。

〔設問〕 この制度のもとで、五位以上の者の子・孫に、その父・祖父の位階に応じて与えられた特権を、何の制というか。 [ ]

## 第9日 古代の史料

### ●重要用語●

#### □石上神宮七支刀銘 (いそのかみじんぐうしちしとうめい)

奈良県天理市にある<sup>もののべ</sup>物部氏の氏神，石上神宮の宝物の刀身に刻まれた銘文。宝刀は刀身の両側に6枝を出しており，61字からなる銘文には，369年に百済王が倭王のためにつくったと記されている。最古の金石文。

#### □隅田八幡社人物画像鏡 (すだはちまんじんじゃじんぶつがぞうきょう)

和歌山県橋本市にある隅田八幡神社(八幡宮)に所蔵される仿製鏡。はじめの部分に「癸未八月日十大王年男弟王在意柴沙加宮時」とあり，大王は仁賢天皇あるいは允恭天皇との説がある。漢字仮名化の過程がみられる。

#### □仏教公伝の年代 (ぶっきょうこうでんのねんだい)

『日本書紀』は百済の<sup>くだら</sup>聖明王が，<sup>せんめい</sup>仏像や<sup>きんめい</sup>經典を欽明天皇に贈った年を欽明天皇13年(552)とするが，『上宮聖徳法王帝説』や『元興寺縁起』などでは欽明7年・戊午の年のこととする。欽明7年は546年，戊午は538年にあたり，年代が二重にかみあわないが，これは欽明即位前後の混乱が原因かもしれない。現在は仏教公伝を538年とする説が優勢となっている。

#### □律令制度 (りつりょうせいど)

律令格式を基本法とし，公地公民制を基礎とする中央集権的な政治体制。近江令・飛鳥浄御原律令を経て，大宝律令によって大成された制度で，一般には大化改新から平安末期までの支配体制をさす。中央の政治機構として太政官・神祇官の二官があり，太政官の下に中務・式部・治部・民部・兵部・刑部・大蔵・宮内の八省がおかれた。また地方には国司が派遣され，郡司が任命されて行政を司った。

#### □律令格式 (りつりょうきやくしき)

律令制下における基本的な諸法典の総称。律令は根本法典で，律は刑法，令は行政法・民法・商法などにあたる。格式は律令の補助法規で，格は律令の改訂増補，式は律令と格の施行細則である。

#### □五畿七道 (ごきしちどう)

律令制における地方の行政区分。都近くの大和・山城・河内・摂津・和泉の5国を畿内とし，他の国を東海・東山・北陸・山陰・山陽・南海・西海の7道に分け，それぞれ都からの道を通じさせた。

#### □天武天皇 (てんむてんのう) 630?~686

父は<sup>じよめい</sup>舒明天皇。母は<sup>こうぎやく</sup>皇極(齊明)天皇，<sup>じどう</sup>皇后は持統天皇。在位673~86年。即位前は<sup>おおあま</sup>大海人皇子といった<sup>てんじ</sup>兄天智天皇の改新政治を助けたが皇位継承問題で吉野に隠棲。天智の死後，<sup>おおとも</sup>大友皇子と<sup>じんしん</sup>対立し，<sup>あすかきよみはら</sup>壬申の乱(672年)に勝って，翌年飛鳥浄御原宮で即位した。豪族を抑えて皇親政治を確立し，<sup>やくさ</sup>律令編纂，<sup>かばね</sup>八色の姓制定，<sup>かまべ</sup>冠位制度拡充，<sup>へいと</sup>部曲・食封廃止，国史編纂着手などの改新政治を強力に推進した。皇統譜40代。

□聖武天皇の遷都（しょうむてんのうのせんと）

聖武天皇（在位 724～49 年）の 740 年（天平 12）に藤原広嗣が大宰府で反乱。乱は鎮定されたが政界の不安動揺は大きく、天皇は橘諸兄の進言によって、40 年に恭仁京（現京都府加茂町）、ついで玄昉の進言で 42 年に紫香楽宮（離宮、現滋賀県信楽町）、さらに 44 年には難波京に遷都し、45 年平城京に帰還した。

□近江令（おうみりょう）

668 年に制定された日本最初の法令。22 巻。天智天皇のとき、大化の改新の当局者藤原鎌足らによって編纂された。本文は現存せず、律が完成しなかったことは確実である。その存在を否定する説もある。

□飛鳥浄御原令（あすかきよみはらりょう）

天武天皇が飛鳥浄御原宮で、681 年（天武 10）に粟田真人らに命じて編纂させ、89 年（持統 3）に施行されたという。全 22 巻。その内容と、律の編纂の有無とは不詳。続く大宝律令は 701 年に施行された。

□藤原四家（ふじわらよんけ）

藤原不比等（659～720 年）の 4 人の子を祖とする家柄。武智麻呂は南家、房前は北家、宇合は式家、麻呂は京家をそれぞれ立てて、古代の政治的頂点を形成した。9 世紀初頭の冬嗣以降は、北家をもっとも繁栄した。

□摂関家（せつかんけ）

平安時代から江戸時代にかけて摂政・関白を出す資格をもった家柄。藤原氏一族のなかの北家、とくに初代の摂政となった良房の子孫に限られた。鎌倉時代に近衛・九条・二条・一条・鷹司の五摂家に分かれた。

□南都六宗（なんとろくしゅう）

奈良時代の仏教の 6 つの宗派。三論・成実・法相・俱舍・華嚴・律の 6 宗。宗は衆とも書かれる。のちの宗派とは異なって仏教の教義・哲学の研究集団であり、同一寺院内に複数の宗が共存した。のち天台・真言の 2 宗が開かれると、宗は同一教義を信奉する教団となり、南都六宗も教団化していった。

●発展用語●

□国分寺（こくぶんじ）

741 年（天平 13）聖武天皇は、仏教の力によって国家の平安鎮護をはかるため恭仁京で国分寺建立の詔を出し、国ごとに国府の近くに金光明四天王護国寺（僧寺）と法華滅罪寺（尼寺）を建てて七重塔をつくり、金光明最勝王経・妙法蓮華経を納め、各 20 僧 10 尼を配置した。今日に残る遺跡は少なくない。

□古事記（こじき）

712 年、太安万侶がまとめた史書。全 3 巻。天武天皇の命により稗田阿礼が口誦したものを安万侶が筆録した。大化の改新によって整備された国家体制を権威づけるため、それ

までにあった帝紀・旧辞・諸家の伝承などを検討再編したもので、神代から推古天皇<sup>すいこ</sup>までを天皇の尊厳を示す観点から修録している。

#### □風土記（ふどき）

713年（和銅6）、諸国に命じてつくらせた地誌。地名の由来・物産・伝承などが記載された。常陸・出雲・播磨・豊後・肥前の5風土記が現存し、『出雲風土記』は完本。他は散逸している。

#### □御堂関白記（みどうかんぱくき）

998年から1021年に至る藤原道長<sup>ふじわらのみちなが</sup>の日記。『法成寺入道左大臣日記』ともいう。全36巻あったと考えられているが、具注曆に漢文で書かれた自筆本14巻が残されており、藤原氏最盛期の好史料となっている。

#### □百万町歩開墾（ひゃくまんちょうぶかいこん）

722年（養老6）に律令政府が命じた良田百万町歩の開墾計画。口分田の不足を補うため、1人10日を限度に食糧支給・農具貸与で農民を使役した。陸奥国だけか全国か、陸田か水田かなどの諸説がある。

#### □皇朝十二銭（こうちょうじゅうにせん）

奈良から平安時代にかけて鑄造された銭貨で、本朝十二銭ともいう。和同開珎<sup>わどうかいほん</sup>（708年）、万年通宝<sup>まんねんつうほう</sup>（760年）、神功開宝<sup>じんこうかいほう</sup>（765年）、隆平永宝<sup>りゅうへいえいほう</sup>（796年）、富寿神宝<sup>ふじゅしんぼう</sup>（818年）、承和昌宝<sup>じょうわしょうほう</sup>（835年）、長年大宝<sup>ちやうねんたいほう</sup>（848年）、饒益神宝<sup>じょうえき</sup>（859年）、貞観永宝<sup>じょうがん</sup>（870年）、寛平大宝<sup>かんびょう</sup>（890年）、延喜通宝<sup>えんぎ</sup>（907年）、乾元大宝<sup>けんげん</sup>（958年）。これら鑄銭事業は、中国をまねた記念事業的性格が強く、本来の役割は十分には果たさなかった。

#### □平将門（たいらのまさかど） ?～940

平安中期の武将。鎮守府將軍良将<sup>よしまさ</sup>の子。下総を本拠として勢力をもち、父の遺領をめぐって一族と争った。これが内乱へと発展し、将門は猿島<sup>さしま</sup>に王城を構え、自らを新皇と称した（平将門の乱）。940年、平貞盛<sup>さだもり</sup>らに討たれた。

#### □藤原純友（ふじわらのすみとも） ?～941

平安中期の貴族。伊予掾。939年、瀬戸内海<sup>ひぶりしま</sup>の海賊と結び、任国の伊予国日振島を根拠地に反乱をおこした。讃岐・淡路などの国府を襲い、国司を追放し、さらには大宰府をおそった。東国の平将門<sup>たいらのまさかど</sup>の乱とともに朝廷を脅かしたが、鎮圧されて殺された。

#### □梁塵秘抄（りょうじんひしょう）

平安末期の歌謡集。後白河法皇<sup>ごしらかわ</sup>撰。全20巻のうち現存は巻1の抄出、巻2、口伝集巻10のみ。平安末期に流行した今様・催馬楽<sup>さいばら</sup>など雑芸歌を分類集成したもので、当時の風俗などを知るうえでの重要史料である。

## 第10日 総合問題

⇒類題トレーニング

### 1 (1001) <青山学院大> 古代の政治と反乱

次の各文の( )のなかに適当な語句をいれ、且つ下線をほどこした部分について、下記の間に答えなさい。

1. 1 律令制のもとでは、政府は全国土と全人民を支配するために、全国を1( )と2( )に分け、それを更に国、郡、里に分け、それぞれ国司、郡司、里長をおいた。
2. 2 律令制のもとにおける警察機関としては3( )があったが後に3 令外官として4( )が設けられた。
3. 天慶二年、関東で4 反乱をおこした5( )は、下総の6( )を内裏として、新皇と称した。
4. 永承六年、陸奥の安倍氏が反乱をおこすと、7( )は8( )に任命され、これの5 鎮圧に出掛けたが、苦戦の末、乱を平定した。この経過を主題にして、9( )が書かれた。
5. 藤原道長は、その子10( )とともに6 摂関政治の最盛期をつくり出した。

問1. 律令制のもとでは、全人民は良と賤民に大別された。次のなかから歴史的に正しいものをすべてえらびなさい。 [ ]

- イ. 賤民には全て口分田は与えられなかった。
- ロ. 賤民には良との結婚は許されていた。
- ハ. 皇室の陵墓を守衛する陵戸は賤民の一種であった。
- ニ. 賤民の一つ、奴婢は売買譲渡の対象になった。

問2. 律令制のもとで、各役所の幹部は大体四階級に分けられていた。次のうち国司の四階級はどれか。 [ ]

- イ. 守 介 掾 目    ロ. 卿 輔 丞 録    ハ. 伯 副 祐 史    ニ. 頭 助 允 属

問3. 次の語句のなかから令外官でないものをすべてえらびなさい。 [ ]

- イ. 大納言    ロ. 中納言    ハ. 少納言    ニ. 勘解由使    ホ. 蔵人

問4. この反乱を鎮定した人物を次のなかからすべてえらびなさい。 [ ]

- イ. 平貞盛    ロ. 平国香    ハ. 藤原秀郷    ニ. 源経基    ホ. 平高望

問5. この鎮圧に助力した人物をすべて次のなかからえらびなさい。 [ ]

- イ. 清原武則    ロ. 藤原清衡    ハ. 藤原秀衡    ニ. 源頼信

問6. 摂政・関白について、歴史的にみて正しいものをすべて次のなかからえらびなさい。 [ ]

- イ. 摂政のはじめは聖徳太子である。
- ロ. 臣下で摂政になったのは藤原基経が最初である。
- ハ. 摂政と関白の職務はほとんど同じであるが、天皇が幼少の時には摂政が、成人の後には関白がおかれた。
- ニ. 摂政も関白も律令制の官制のなかに含まれている。

### 2 (1002) <関西学院大> 原始・古代の土地制度など

下記のA～Jの各群の文章を読み、歴史事実として、ア、イのいずれも正しい場合には1をマークしなさい。アが正しく、イが誤っている場合には2をマークしなさい。アが誤っていて、イが正しい場合には3をマークしなさい。ア、イのいずれも誤っている場合には4をマークしなさい。

- A. ア. 日本では弥生時代に、本格的に水田稲作農耕が始まり、また、鉄・青銅器などの新しい文化が導入された。

- イ. 弥生時代の生活を伝える著名な遺跡として、岩宿・尖石・唐古・登呂遺跡などがある。  
〔 〕
- B. ア. 古墳は、仏教が伝来する以前の薄葬思想を背景とするもので、封土を築き、遺体とともに副葬品を納めた。  
イ. 古墳が各地に分布しているのは、当時の小国家分立という状況を反映するものであり、2世紀から4世紀にかけて、さかんに築造された。  
〔 〕
- C. ア. 大和朝廷による統一国家が完成されると、その国家機構のなかで、豪族たちは国造として、氏という同族集団を統轄した。  
イ. 氏には、部(部曲)と呼ばれる私有民が従属しており、彼らは氏上の需要に応じて、農産物その他の生産物や労働力を提供した。  
〔 〕
- D. ア. 大化の改新によって、皇族や豪族が私有する土地・人民を国家に収める公地公民制がとられ、その代わりに、皇族には屯倉、豪族には食封が与えられた。  
イ. 大化改新の詔には、戸籍・計帳・班田収授法や、調などの賦課についての規定がみられる。  
〔 〕
- E. ア. 律令制下、6歳以上の男女に口分田が与えられた。口分田の売買は禁止されたが、園地・宅地は許可を得れば売買することができた。  
イ. 農民は、租・庸・調・雑徭などを課せられた上に、租税の一種といえる義倉や出挙も負担しなければならなかった。  
〔 〕
- F. ア. 日本で最初に作られた貨幣は和同開珎である。これは唐制にならったものであり、当時の日本ではあまり流通しなかった。  
イ. 政府は蓄銭叙位令を出して、貨幣の使用を奨励した。以後、12世紀半ばに至るまで、12種類の貨幣(皇朝十二銭)が鑄造・使用された。  
〔 〕
- G. ア. 律令制下の重い負担にたえられない農民のなかには、戸籍を偽造したり、土地を捨てて逃亡・流浪したり、あるいは賦課を免れるため僧侶となるものも現われた。これは口分田の荒廃を招くこととなった。  
イ. 政府は開墾を奨励するため、三世一身の法や、墾田永世私有法を定め、ついで、口分田の荒廃・不足に対処するため、百万町歩開墾計画を立てた。これらの政策は、貴族・寺院・豪族の大土地私有を助長する結果となった。  
〔 〕
- H. ア. 貴族・寺院・豪族は、特権として与えられた公営田・官田に加えて、浮浪人や班田農民を使って開墾を進め、さらに農民の墾田を買収して土地を集積していった。これが自墾地系荘園(初期荘園)と呼ばれるものである。  
イ. やがて自墾地系荘園に代わって摂関政治・院政の展開という政治的状況を背景として、寄進地系荘園が急速に発展し、こうした政治形態を支える有力な経済的基盤となった。〔 〕
- I. ア. 荘園は、太政官や民部省の符を交付されることによって、不輸・不入の特権を獲得することができた。このような太政官や民部省から特権を保証された荘園を国免荘という。  
イ. 荘園の支配機構は多様であるが、一般的には、本家——領家——受領——預所・公文・下司——名主の形をとった。  
〔 〕
- J. ア. 在地の有力農民のなかには、田地を集積してかなりの土地を保有し、請作契約で農地の耕作をひきうけるものも現われた。これを田堵と呼ぶ。  
イ. 田堵の耕作権はしだいに強化されていった。彼らは、田地に自己の名を付して私有を強調するところから、その田地は名田と呼ばれるようになり、その所有者は名主と呼ばれるようになった。  
〔 〕

3 (1003) <同志社大> 古代の対外関係史

次の文中にある( )の部分にもっとも適した語句を下記の語群からえらび、番号で記入しなさい。また、文中の下線部分の片仮名を漢字に改め、記入しなさい。

- a. 中国の史書『①( )書東夷伝』には、西暦57年に倭のナ国が朝貢し、②( )帝から印綬をあたえられたとある。この印綬に該当すると推定される金印が18世紀末に筑前国の③( )島で発掘された。別の中国の史書によると、西暦239年に邪馬台国の女王が洛陽に使者をおくったとき、シンギワオウの称号をうけ、金印をあたえられたという。



- b. 弥生時代には、ほぼ同時に2種類の金属器がもたらされた。鉄器と、銅と④( )との合金である青銅器であった。青銅器は国産品も盛んに使われ、九州北部では⑤( )とドウカが、瀬戸内海の中部を中心にして⑥( )が、また近畿地方を中心に釣鐘形の青銅器がそれぞれ分布している。
- c. 最初のケントウシは、西暦630年に派遣された⑦( )である。その後、しばしば遭難したにもかかわらず、ケントウシには多くの留学生・留学僧がくわわり、文化の受容に貢献した。またこの使節は外国人をともなって帰ることがあった。なかでもガンジンは、苦難のすえ西暦754年に渡来し、東大寺にカイダンをひらくなどして、僧侶の守るべき規則を確立した。
- d. 白村江の戦いのあと間もなく、⑧( )が朝鮮半島を統一し、わが国に使者をおくって来たが、国交は回復しなかった。また新たに建国したボツカイ国は西暦727年に来朝してから195年間に34回も使節をおくって来た。この国は⑨( )の遺民を中心に靺鞨族をも包括したもので、わが国はその使節をうけいれるための客院を⑩( )に設けた。
- e. 藤原氏が全盛をきわめていた西暦1019年に、50余隻の船に乗った異賊が⑪( )をおかし、さらに博多などをおそって来た。幸いダザイフの権帥⑫( )のもとで地方の武士が奮戦して撃退した。この異賊ははじめ正体がわからなかったが、連れ去られていた日本人男女200余人が送還されるにおよび、⑬( )人であることが明らかになった。

〔漢字〕

- 〔語群〕 1. 前漢 2. 新羅 3. 晋 4. 後漢 5. 百済 6. 女真 7. 刀伊  
 8. 蒙古 9. 滋賀 10. 鷹 11. 志賀 12. 種子 13. 高句麗  
 14. 対馬・壱岐 15. 出羽・陸奥 16. 能登・越前 17. 肥後・日向 18. 銅剣  
 19. 銅鉾 20. 銅鐸 21. 銅鏡 22. 金 23. 船 24. 錫 25. 光文  
 26. 光武 27. 光孝 28. 菅原道真 29. 藤原隆信 30. 藤原隆家  
 31. 犬上御田鎌 32. 小野妹子

4 (1004) <同志社大> 古代文化の成立と発展

次の(1)~(3)の文中にある( )の部分にもっとも適した名辞を下記の語群からえらび、番号で答えなさい。また文中の下線部分について下記の設問(イ)~(ヌ)に答え、漢字で記しなさい。

- (1) 日本人が漢字に接した初期の遺物として、弥生時代には金印や貨泉、あるいはa( )の銘文などがあげられるが、当時その文字が理解されたかどうかは定かでない。しかし、朝鮮半島にあったb( )の滅亡により、4世紀の初めごろにその遺民がわが国に渡来したことが、文筆を職とする集団のうまれる機縁となったようである。埼玉県下の稲荷山古墳出土の鉄剣から発見されて話題となった(イ)銘文なども、5世紀後半から6世紀初頭には漢字を用いて文章をあらわす者が実在したことを物語っている。また応神天皇のとき百済からc( )が来朝して(ロ)畫物を献上したという伝説も、このような歴史的背景にもとづくものと思われる。
- (2) 飛鳥・奈良時代になると文字を記した遺物はにわかにも多くなる。7世紀に作られた(ハ)仏像の光背とか(ニ)續帳に記された銘文があるかと思うと、藤原京や平城京の遺跡からは墨で文字を記したd( )が発見されている。8世紀のものともなれば、紙に書かれた写経や戸籍・計帳などが急増し、なかでもe( )に伝わる古文書は総数1万2千点にもおよび、文字文化の普及度を示している。
- (3) 平安時代に入ると、文字を書き文章を作ることは貴族の一般的教養となり、大学でも(ホ)文章を修めるための学問が中心学科となった。さらに書を芸術として尊重する風潮もたかまって、f( )天皇らは(ヘ)唐風の書の上手としてたたえられた。(ト)9世紀の後半に仮名文字が発達したことは日用語の表現を容易にしたが、文学の世界ではg( )らの歌人たちがあらわれて和歌復興の気運をおこし、h( )天皇のころ宮廷ではじめられたi( )や献歌は、やがて宮廷の社交に欠くことのできない行事へと発展する。また10世紀に入るとj( )天皇のときに(チ)最初の勅撰和歌集が編集され、これまた室町時代におよぶ数多い勅撰和歌集の伝統をのこす先例となる。これと平行して書道も急速に和風化し、(リ・ヌ)小野道風らの出現によって優美な仮名の書風が確立されたことも注目に値する。

- 〔語群〕 1. 木簡 2. 銅鐸 3. 銅鏡 4. 聖明王 5. 歌合 6. 連歌  
7. 銅劍 8. 楽浪郡 9. 任那 10. 醍醐 11. 桓武 12. 大伴旅人  
13. 宇多 14. 嵯峨 15. 西行 16. 東寺 17. 正倉院 18. 法隆寺  
19. 在原業平 20. 王仁 21. 新羅

- 〔設問〕 (イ) この銘文に記される大王は、「宋書」に記される倭王武と同一人物ではないかと推定され、それはまた日本史上のある天皇に該当するという見方が多い。そのある天皇とは誰か。名を記しなさい。 [ ]
- (ロ) この人物がもたらした書物とは何か。書名をひとつ記しなさい。 [ ]
- (ハ) 7世紀前半の光背銘は数点存在しているが、その中には有名な仏師の名を伝える文章を刻むものがある。その仏師とは誰か。その名を記しなさい。 [ ]
- (ニ) この繡帳の銘文は、それがあある人物の死後の往生のありさまをしのんで作られたという製作の由来をのべている。その人物とは誰か。名を記しなさい。 [ ]
- (ホ) この学問を何とよぶか。その名称を記しなさい。 [ ]
- (ヘ) この天皇とともに唐風の書の名筆として並び称されたある僧侶の手紙が現存し、国宝に指定されている。その書帖を何とよぶか。名称を記しなさい。 [ ]
- (ト) このころあらわれた新しい和歌の先駆者6人を後に六歌仙とよぶようになるが、その中に女流歌人がひとりふくまれている。その女性の姓名を記しなさい。 [ ]
- (チ) この和歌集の編集にたずさわったのは誰か。そのひとりの姓名を記しなさい。 [ ]
- (リ) 小野道風とならんで三蹟のひとりとして数えられた人物で「離洛帖」をのこしたのは誰か。その姓名を記しなさい。 [ ]
- (ヌ) 同じく三蹟のうち、いまひとりの人物は藤原道長に近い縁者であったが、そのせいか道長によって高い評価をあたえられたひとりの仏師とも親交があった。その仏師とは誰か。名を記しなさい。 [ ]

5 (1005) <立命館大> 古代史上の諸文化期と文化遺産

次のA群は古代文化史上特色ある時代にかかわる史料(原文は漢文または和様漢文)、B群はその時代の文化についての説明、C群はその時代の文化遺産を含む語群である。これについて〔1〕～〔5〕の問いに答えなさい。

- A群 1 興死す。弟武立ち、自ら使持節・A( )倭 百済 新羅 任那 加羅 秦韓 慕韓七国諸軍事・安東大將軍・倭国王と称す。
- 2 聞くならく、墾田はB( )七年の格に依りて、限満つるの後、例に依りて収授す。是に由りて農夫怠倦して、開ける地復た荒る、と。
- 3 天下の地悉く一家の領となり、C( )は立錐の地も無き歎。悲しむべきの世なり。
- 4 建武中元二年、倭の奴国、貢を奉じて朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。D( ), 賜ふに印綬を以ってす。
- 5 (清和天皇の貞観八年八月)三日乙亥、左京の人備中権史生大初位下大宅首鷹取、大納言伴宿祢善男・右衛門佐伴宿祢中庸等、同じく謀りて火を行けてE( )を焼けりと告ぐ。
- 6 菟田野に葉獵す。……是の日に、諸臣の服の色、皆冠の色に随ふ。各々髻花著せり。即ち大徳・小徳は並に金を用ひ、大仁・小仁は豹の尾を用ひ、F( )より以下は鳥の尾を用ふ。
- B群 (a) 唐・高句麗・新羅が相次いで滅亡し、また多年にわたって摂取してきた大陸文化もひと通り消化され、日本の風土や人情にかなった文化がおこってきた。
- (b) 前漢・後漢の帯方郡の強い影響をうけて、九州北部はこの文化の先進地域としてさかえた。
- (c) 隋との国交によって南北朝時代の中国文化を摂取した。また百済・高句麗の文化の影響も大きい。百済の僧侶の惠聡がもたらした天文や暦法の知識は、朝廷の記録や土木技術の発展の画期となった。
- (d) 唐が衰退期にはいつていたことも関係して、唐の文化を移入するだけでなく、それをじゅ

うぶんに消化する傾向が強まった。有力な貴族らは、氏ごとに大学別曹(和氣氏の勸学院など)を設けて、一族の子弟を教育した。

(e) 朝鮮・中国との交流がさかんになり、日本列島に移住する人々の数も多くなった。大和政権はこれらの人々を、硬質土器(土師部)・高級絹織物(錦織部)・鉄器(鍛冶部)などの製作専門集団として組織した。

(f) 最盛期の唐の影響を強くうけて、国際色ゆたかな貴族文化がさかえた。漢文学が貴族の教養として重んじられ、淡海三船らの文人があらわれ、わが国現存最古の漢詩集『凌雲集』も編纂された。

- C群 ㉔ 巖島神社平家納経 ㉕ 稻荷山古墳出土辛亥年銘鉄剣 ㉖ 源氏物語絵巻  
㉗ 興福寺仏頭 ㉘ 志賀島出土金印 ㉙ 信貴山縁起絵巻  
㉚ 四天王寺扇面古写経 ㉛ 高松塚古墳壁画 ㉜ 鳥獸戯画  
㉝ 東大寺山古墳出土中平紀年銘大刀 ㉞ 伴大納言絵詞 ㉟ 風信帖  
㊱ 法隆寺阿弥陀三尊像 ㊲ 法隆寺玉虫厨子 ㊳ 法隆寺夢違観音像  
㊴ 薬師寺吉祥天画像 ㊵ 薬師寺東塔 ㊶ 離洛状

[1] A群の空欄A( )～F( )に適切な語句を入れなさい。

[2] A群1～6の出典名を下記のうちから選んで記しなさい。

---

漢書地理志 魏志倭人伝 後漢書倭伝 古事記 小右記 続日本紀 隋書倭国伝  
宋書倭国伝 日本後紀 日本三代実録 日本書紀 御堂関白記

[3] B群の下線部分の誤りを正しなさい。

---

[4] B群(a)～(f)はA群1～6のどの時代の説明か。数字で答えなさい。

{

[5] A群1～6の時代のもものをC群㉔～㉞から一つずつ選び、符号で答えなさい。

{

## 類題トレーニング(6100)

### 1 (6101) 〈青山学院大〉 古代の都と政治・文化

古代の都や宮殿に関する次の文の a, b……e の所に、最も適当と思う語句を考え出し、漢字で記入しなさい。a, b, e は漢字二字, c は漢字六字, d は漢字三字で記しなさい。また問 1 より問 10 に至る問題に答えなさい。

飛鳥時代には都は飛鳥地方にあることが多かったが、大化改新が起ると都は a ( ) に遷された。大化改新で活躍した中大兄皇子は、やがて即位して天智天皇となったが、この天皇は都を b ( ) に遷した。天智天皇の歿後、壬申の乱で勝利を得た大海人皇子は c ( ) で即位して、天武天皇となった。天武天皇の歿後、皇后が即位して持統天皇となった。この天皇はやがて、大和三山の間 d ( ) をつくり、そこに都を遷した。その後、e ( ) 天皇の時に都が平城京に遷された。

問 1. 平城宮の建物は、どのような建築様式で建てられていたか。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]

- ア. 柱の下には必ず礎石を置くという様式で建てられていた。
- イ. 屋根に瓦を葺き、柱の下には礎石を置くという様式で建てられていた。
- ウ. 柱の下に礎石を置くとは限らず、掘立柱で建てられたものも少なくなかった。

問 2. 都が平城京にさだめられてから、長岡京に遷されるまでに、どの位の年月がたったか。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]

- ア. 七十余年
- イ. 八十余年
- ウ. 約百年

問 3. 平城宮内で、天皇が日常生活をなさる場を何というか。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]

- ア. 内裏
- イ. 朝堂
- ウ. 曹司

問 4. 奈良時代には、平城京内に官吏や貴族の邸宅のほかに寺院があった。平城京内にあった寺院の名を、次の三つのうちから選びなさい。 [ ]

- ア. 東大寺
- イ. 大安寺
- ウ. 法隆寺

問 5. 奈良時代には、市場がつくられるようになっていた。平城京内には市場があったか。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]

- ア. 平城京には市場はなかった。
- イ. 初めは市場があったが、やがて法令が出て市場をおくことが禁ぜられた。
- ウ. 平城京のなかにも、市場があった。

問 6. 桓武天皇が山城国の長岡の地に新都を建設したとき、その建設長官が暗殺された。その建設長官とは誰か。次の三人のうちから選んで答えなさい。 [ ]

- ア. 藤原仲麻呂
- イ. 藤原種継
- ウ. 藤原百川

問 7. 桓武天皇が平安京を建設してからまもなく、平安京の或部分は湿地のため衰え、他の或部分は官衙・大邸宅・社寺が建ち、次第に発展した。その発展した部分とはどこか。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]

- ア. 上京
- イ. 右京
- ウ. 左京

問 8. 桓武天皇が平安京に都をさだめてから、源頼朝が鎌倉に幕府をひらくまでの、国政の中心が平安京にあった時代を、平安時代という。平安時代はどの位の長さをもっていたか。次の三つのうちから選んで答えなさい。 [ ]

- ア. 約200年
- イ. 約300年
- ウ. 約400年

問 9. 明治の初年に至るまで、都は大体京都にあったが、1180年に或人物が都を別な場所に遷したことがあった。その場所とはどこか。次の四つのうちから選んで答えなさい。 [ ]

- ア. 福原
- イ. 宇治
- ウ. 吉野
- エ. 粟津

問 10. 問 9 の問題で、都を遷した人物とは誰か。次の四人のうちから選んで答えなさい。 [ ]

- ア. 源頼政
- イ. 源頼朝
- ウ. 平重盛
- エ. 平清盛

# 第11日 論述問題

⇒類題トレーニング

**1** (1101) <千葉大> 縄文・弥生時代の社会と生活

次の設問について、150字以内でまとめなさい。

〔設問〕

縄文時代と弥生時代とを比較し、生産用具や経済生活の違いに注意し、それぞれの時代の特徴を説明しなさい。

\_\_\_\_\_ 50  
\_\_\_\_\_ 100  
\_\_\_\_\_ 150

〔ヒント〕 わかりにくいときは、次の語句をつかいなさい。

⇒縄文時代 狩猟・漁撈・採集 弥生時代 水稻農耕 階級社会 石器 骨角器  
金属器

**2** (1102) <京都府立大> 奈良時代の農民生活

律令政治が施行されはじめると、農民生活は、それ以前とどのように変わってきたか。8世紀初めから中ごろまでの農民生活について、以下の点に留意しながら説明しなさい。(250字程度)

①農村の行政組織 ②税の負担 ③生活慣習・信仰

\_\_\_\_\_ 50  
\_\_\_\_\_ 100  
\_\_\_\_\_ 150  
\_\_\_\_\_ 200  
\_\_\_\_\_ 250

〔ヒント〕 わかりにくいときは、次の語句をつかいなさい。

⇒国造 県主 国司 郡司 里長 租 庸 調 雑徭 出挙 豎穴住居  
国分寺 行基

3 (1103) <東京大> 奈良時代の政争と仏教

次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

聖武天皇は、741年、国分寺造立の詔を発し、国ごとに僧寺・尼寺を置く計画を発表した。中国でも、全国の諸州に寺院を置いた例があるが、国分寺の造立はそのたんなる模倣ではなく、7世紀後半以来の仏教の動きや、聖武天皇の治世下における複雑な政治・社会の動きと密接にかかわりあって行われたものであった。

〔設問〕

聖武天皇による国分寺造立の事業は、7世紀後半以来の仏教の動きや、当時の政治・社会の動きとどのように関連していたと考えられるか。200字以内(句読点も1字に数える)で説明しなさい。

	50
	100
	150
	200

〔ヒント〕 わかりにくいときは、次の語句をつかいなさい。

⇨天武・持統朝 仏教の国教化 国分寺造立 藤原広嗣の乱 鎮護国家

4 (1104) <筑波大> 平安時代の文化

下記の語句を用いて、平安時代の文化について具体的に300字以内で記しなさい。

末法思想、往生要集、平等院鳳凰堂

	50
	100
	150
	200
	250
	300

〔ヒント〕 わかりにくいときは、次の語句をつかいなさい。

⇨天台宗 真言宗 密教 浄土信仰

## 類題トレーニング(6110)

■ (6111) <筑波大> 大和時代の豪族の抗争

物部氏と蘇我氏の対立について250字以内で記しなさい。

	50
	100
	150
	200
	250

# 時代別 中世 9日間

単元別 第12日～第17日

史料問題 第18日

総合問題 第19日

論述問題 第20日



## 第12日 中世の政治と対外関係 1

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (1201) 最重要年代チェック

[ ]にあてはまる年代と語句を答えなさい

- (1) 1167年……[ ] , 太政大臣となる
- (2) [ ]年……侍所設置
- (3) [ ]年……頼朝, 東国沙汰権を獲得——十月宣旨
- (4) 1184年……[ ]・問注所を設置
- (5) 1185年……[ ]・地頭を設置
- (6) [ ]年……平氏滅亡
- (7) 1190年……頼朝[ ]に就任する
- (8) [ ]年……頼朝, 征夷大將軍に任命される
- (9) 1203年……[ ]が滅ぶ——頼家を修禪寺へ幽閉へ
- (10) 1205年……[ ]が滅ぶ
- (11) 1213年……[ ]が滅ぶ——義時, 侍所別当を兼任へ
- (12) [ ]年……承久の乱
- (13) 1232年……[ ]を制定
- (14) 1249年……[ ]を設置
- (15) [ ]年……文永の役——元寇
- (16) [ ]年……弘安の役——元寇
- (17) 1297年……[ ]を発布

### 2 (1202) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1) 1167年に武家で最初の太政大臣となり, 安徳天皇を擁立して権勢を強めた。 [ ]
- (2) 保元の乱に勝利し, のち5代の天皇の間院政を行った。 [ ]
- (3) 高倉天皇の皇子。壇の浦の戦で, 生母の建礼門院とともに入水した。 [ ]
- (4) 後白河天皇の第2皇子。1180年, 諸国に平氏打倒の<sup>りょうじ</sup>令旨を發した。 [ ]
- (5) 清和源氏の一族。1180年, 以仁王<sup>もちひと</sup>を奉じて平氏打倒に挙兵した。 [ ]
- (6) 1180年, 以仁王の令旨をうけて木曾で挙兵し, やがて入京した。 [ ]
- (7) 源義朝の子。平家打倒に活躍したが, 頼朝と不和となり, 奥州で自害した。 [ ]
- (8) 源義朝の子。1190年に右近衛大将, 1192年に征夷大將軍に任命された。 [ ]
- (9) 侍所の初代別当として活躍したが, のち北条氏に滅ぼされた。 [ ]
- (10) 公家出身で, 公文所(のち政所)の初代別当として活躍した。 [ ]
- (11) 源頼朝によって東国に招かれ, 問注所の初代執事として活躍した。 [ ]
- (12) 源頼朝の妻政子の父。初代執権となり, 北条氏台頭の基礎を築いた。 [ ]
- (13) 源頼朝の子。源家2代將軍となり, のち伊豆修禪寺で暗殺された。 [ ]
- (14) 源頼朝の次男で3代將軍。公暁<sup>くきょう</sup>により暗殺。『金槐<sup>きんがい</sup>和歌集』を残した。 [ ]
- (15) 源頼朝の妻で北条時政の娘。尼將軍として幕政を裁断した。 [ ]

- (16)源頼家の子で、3代将軍源実朝を鎌倉鶴岡八幡宮で暗殺した。〔 〕
- (17)源家将軍が3代で絶えた後、4代将軍として摂関家から迎えられた。〔 〕
- (18)北条時政の子で2代目執権となり、1213年に和田義盛を滅ぼした。〔 〕
- (19)上皇として幕府打倒を企て、1221年、北条義時追討の院宣を発した。〔 〕
- (20)北条義時の弟。承久の乱後、北条泰時とともに六波羅探題となった。〔 〕
- (21)北条義時の子で3代執権となり、1232年に御成敗式目を制定した。〔 〕
- (22)北条泰時の孫で5代執権となり、1249年に引付衆を設置した。〔 〕
- (23)北条時頼の子で8代執権となり、1274年・1281年の元寇を撃退した。〔 〕

3 (1203) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事 件〉

- (1)1180年、源頼朝は平家方の大庭景親らと交戦したが、敗北した。〔 〕
- (2)1180年、源範頼・義経軍が平維盛軍を夜襲し、平家を敗走させた。〔 〕
- (3)1221年、後鳥羽上皇の北条義時追討の院宣発布に対し幕府軍が挙兵した。〔 〕
- (4)1247年、北条時頼が三浦泰村を討ち、三浦氏一族が滅亡した事件。〔 〕
- (5)1274年、元軍が対馬・壱岐を侵し、博多に上陸。北条時宗が撃退した。〔 〕
- (6)1281年、元軍が東路軍と江南軍に分かれ、再び博多湾に侵攻した。〔 〕
- (7)1285年、安達泰盛が、御内人代表の内管領平頼綱に敗れた事件。〔 〕

〈事 項〉

- (1)1180年、御家人統率のため鎌倉に設けられた武家最初の政務機関。〔 〕
- (2)1184年に設置。のち政所。鎌倉幕府の一般財政・政務を司った。〔 〕
- (3)1184年に設置。訴訟や裁判事務をとりあつかった。初代執事は三善康信。〔 〕
- (4)鎌倉時代、将軍と主従関係を結んだ武士。将軍への奉公にはげんだ。〔 〕
- (5)将軍からうける御恩の1つ。父祖伝来の土地の所有権が認められた。〔 〕
- (6)将軍からうける御恩の1つ。御家人に新しく地頭職などが与えられた。〔 〕
- (7)1185年設置。有力御家人の中から1国に1人の割合で配置された。〔 〕
- (8)1185年設置。諸国の荘園や国衙領に配置。土地管理や年貢の徴収が任務。〔 〕
- (9)守護の任務である謀反人・殺害人の逮捕、大番催促の総称。〔 〕
- (10)鎌倉幕府の御家人に、皇居の警備などを交代で課した番役のこと。〔 〕
- (11)鎌倉幕府の財源の1つ。平家没官領など将軍が獲得した荘園のこと。〔 〕
- (12)鎌倉幕府の財源の1つで、頼朝に与えられた知行国のこと。〔 〕
- (13)将軍が諸所職の補任権を有した荘園や国衙領。財源の1つとなった。〔 〕
- (14)将軍補佐のために設けられた職で、北条氏が世襲で任についた。〔 〕
- (15)源家将軍のあと形式的に迎えられた将軍。九条頼経・頼嗣の2代。〔 〕
- (16)後鳥羽上皇が、北面の武士のほかに新たに設けた院警固の武士。〔 〕
- (17)承久の乱後、従来の京都守護にかわって新設された朝廷監視機関。〔 〕
- (18)1232年、北条泰時が制定した武家最初の成文法。51か条からなる。〔 〕
- (19)1249年、北条時頼が設けた機関で、裁判の公正・迅速をはかった。〔 〕
- (20)文永の役の直前に、北部九州沿岸の防備のために設けられた番役。〔 〕
- (21)元寇後、西国防備のため設けられた機関。北条氏一族が派遣された。〔 〕
- (22)執権北条氏と結び、その後見役として政務を処理した御内人の頭首。〔 〕
- (23)1297年、北条貞時のもとで御家人の窮乏を救うために出された法令。〔 〕

□(4)北条氏の嫡流の当主。2代執権北条義時が徳宗と称したのが始まり。〔 〕

**4** (1204) 重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

□(1)平清盛の3男。一門を率いて奮戦したが、壇の浦の戦で捕らえられた。〔 〕

□(2)頼朝以来の武将でのち北条氏と対立し、1205年に武蔵国二俣川で敗死した。〔 〕

□(3)評定衆として活躍したが、1247年に北条時頼と対立して滅ぼされた。〔 〕

□(4)チングス=ハンの孫で元の世祖。日本への侵攻を企てたが失敗した。〔 〕

**5** (1205) 重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項〉

□(1)皇后・皇太后・皇太子・親王らから発せられる命令文書のこと。〔 〕

□(2)本補地頭に対し、承久の乱後に補任された地頭。新補率法が適用された。〔 〕

□(3)鎌倉幕府が諸国に命じ、田畑の面積や領有者などを記録させた文書。〔 〕

□(4)1225年、北条泰時が設けた機関で、重要政務の決議などを行った。〔 〕

□(5)北条泰時のとき新設された執権補佐役。公文書に執権と連名で署名加判した。〔 〕

**6** (1206) 最重要地名チェック

各文にあてはまる地名・国名などを答えなさい

□(1)1177年、藤原成親や俊寛らが、この地で平氏打倒を計画した。〔 〕

□(2)1180年、平清盛は約半年間、淡川の下流のこの地に遷都した。〔 〕

□(3)1184年、源範頼・義経らが摂津国のこの地で平氏勢と交戦し、敗走させた。〔 〕

□(4)1185年、源義経らは敗走した平氏勢と、讃岐国のここで再び戦った。〔 〕

□(5)1185年、長門国のこの地でおきた源平最後の戦いで、平家一門が滅亡した。〔 〕

□(6)1219年、3代将軍源実朝は頼家の子公暁によってここで暗殺された。〔 〕

□(7)承久の乱後、後鳥羽天皇の皇子である順徳上皇がここに配流された。〔 〕

□(8)承久の乱後、後鳥羽天皇の皇子である土御門上皇は、自らここに赴いた。〔 〕

□(9)1271年、フビライが大都(北京)を都として建てた国で、1368年に滅亡した。〔 〕

**7** (1207) 〈成蹊大〉 鎌倉幕府の政治

次の文章を読み、設問に答えなさい。

源頼朝によって開かれた鎌倉幕府は、わが国で最初の武家政権であった。武家の棟梁たる征夷大將軍のもとに、幕府という武家独自の政治組織がつくられたが、それは従来の公家政権を一挙に打倒し、全国を制覇しようとしたものではなかった。幕府は朝廷より、国ごとに①守護、a(

)・荘園に地頭を設置する許可を得て、全国の軍事・警察権を握るという職能分担の形をとりながら、その職権をてこに武家の権力を全国に及ぼそうとした。初期の源氏將軍の時代は、まだその力が弱かったが、b( )を機に、公武の力関係が逆転し、北条執権のもとで、②幕府の法や組織が整備拡充され、幕府の全国への支配が強力におしすすめられていった。その北条執権政治は、北条得宗(嫡流)の専制化、北条一門による諸機関の独占化、③御家人の窮乏化、

c( )の横行などにより、13世紀後半とくに元寇のころから、しだいに矛盾を深め、

ついに後醍醐天皇を中心とする反幕勢力によって打倒された。

〔設問〕

(1) 空欄 a～c に該当する語を補いなさい。

(2) 下線部分①～③のそれぞれについて、以下の問に答えなさい。

① 守護の権限について、貞永式目には3つの規定があるが、それらを総称してなんというか。  
[ ]

②(a) 朝廷の監視と西国の御家人を統轄するために新たに設けられた機関を、下記のなかから  
選び、記号で答えなさい。 [ ]

(イ)京都守護 (ロ)引付衆 (ハ)評定衆 (ニ)六波羅探題

(ホ)鎮西探題 (ヘ)新補地頭 (ト)京都所司代

(b) 全国的な田地の面積、領有関係などを記録した土地台帳がつくられたが、その台帳を下  
記のなかから選び、記号で答えなさい。 [ ]

(イ)班田図 (ロ)名寄帳 (ハ)大田文 (ニ)校田帳

(ホ)検地帳 (ヘ)水帳 (ト)田畑貫高帳

③ 幕府の御家人救済策について、下記の文章のなかから該当するものを選び、記号で答えな  
さい。 [ ]

(イ) 御家人の6年以前の債務を破棄、5年以内のものは利息を下げて年賦返済させる。

(ロ) 御家人の所領の売買・質入れを禁じ、すでに売却された土地は無償返還させる(ただし、  
御家人が取得した所領については、取得後20年以内のものに限る)。さらに御家人に関する  
金銭訴訟は一切受け付けない。

(ハ) 金銭の貸借に関する訴訟は受理せず、当事者の折衝にまかせる。

(ニ) 御家人の債務は、貸借関係成立後3年以内の場合には無利息で年賦返済させ、それ以前  
のものは破棄する。また売却後20年以内の御家人の所領は、すべてこれを無償で返還させる。

## 類題トレーニング(6120)

### 1 (6121) <明治大> 鎌倉幕府の成立

次の文の( )にあてはまる最も適当な語を記入しなさい。

わが国の本格的な武家政治は、いまだ1( )の性格が強かった平氏政権が滅亡し、かつ最大の障害であった2( )が死去して、源頼朝が、3( )年に征夷大將軍に任ぜられたときに、名実ともに確立したといわれる。これより先頼朝は、鎌倉にあって幕府の開設に周到な準備をすすめ、4( )を掌どる公文所と問注所を設け、侍所とともに、基本的な行政機構とした。さらに京都にはのちに5( )となった京都守護をおき、九州にはのちに6( )となった九州追捕使をおいて、全国的な統治体制の確保をめざした。しかし、その経済的基盤をみれば、源頼朝が、大規模な7( )および8( )であったことは、平氏とまったく同様であった。

### 2 (6122) <明治大> 鎌倉幕府の封建制度

鎌倉幕府に関する下記の設問に簡潔に答えなさい。

問(1) 一般に土地給与をつうじてむすばれている主従関係を封建制度とよぶが、国家的制度としての封建制度がはじめて日本に成立したものとされているのは、どのような歴史的事実にもとづくか。

問(2) 幕府は封建制度にもとづく最初の政権であったが、この時代には京都の朝廷や公家・大寺社の力がまだ強く残っていた。したがって、政治の面でも、経済の面でも、特色のある支配形態が出現したが、それはどのような形態であったか。

問(3) 幕府の経済的基礎となっていたのは、関東御領・関東御分国などであったが、この事実にかぎっていうならば、幕府はどのような経済体制のうえにきずかれていたか。

問(4) 御家人の領地の安堵や給与はどのような形式によっておこなわれたか。

### 3 (6123) <上智大> 鎌倉期の執権政治

下記の文章を読み、空欄(1)~(10)をうめるのに最も適当と思われる語句を各語群のなかから選びなさい。もし該当するものがなければ、×にマークしなさい。

(1)( )の後、(2)( )は執権を補佐する役として連署をおき、(3)( )氏一族をこれにあて、御家人や政務を担当するものなかから代表者を選んで(4)( )とし、幕府の最高政務の決定や裁判の裁決にあたる合議体とした。また、(5)( )年に、体系的な武家法典というべき(6)( ) (7)( )ヶ条を制定した。それは武家社会の慣習や道徳律に基礎をおく(8)( )と呼ばれた法理を体現した成文法であって(9)( )を通じて御家人に伝達された。(2)( )の孫(10)( )はこの方針を一層徹底させ、裁判制度の確立につとめた。

[語群]

- (1) イ. 文永の役    ロ. 霜月騒動    ハ. 元弘の変    ニ. 承久の乱    ホ. 平禅門の乱  
 (2)・(10) イ. 北条高時    ロ. 北条時宗    ハ. 北条泰時    ニ. 北条時頼    ホ. 北条義時  
 (3) イ. 清原    ロ. 源    ハ. 北条    ニ. 大江    ホ. 足利  
 (4) イ. 政所奉行人    ロ. 評定衆    ハ. 引付衆    ニ. 内管領    ホ. 御内人  
 (5) イ. 1232    ロ. 1223    ハ. 1322    ニ. 1221    ホ. 1225  
 (6) イ. 御定書    ロ. 職原抄    ハ. 武家事紀    ニ. 御成敗式目    ホ. 建武式目  
 (7) イ. 17    ロ. 100    ハ. 21    ニ. 51    ホ. 31

- (8) イ. 文武両道    ロ. 仁義忠孝    ハ. 武家の習    ニ. 道理    ホ. 新儀  
 (9) イ. 公文所奉行人    ロ. 六波羅探題    ハ. 守護    ニ. 問注所    ホ. 公事奉行人

4 (6124) <関西学院大> 鎌倉幕府崩壊の過程

次の文章を読み、設問に答えなさい。

①②③( )のち、北条氏を中心とする支配体制をかためた幕府は、13世紀後半の2度にわたる蒙古襲来の危機も乗りきり、一見幕府体制を強固にしたかのように見えた。しかしその背後には、幕府を滅亡に導く力が育っていた。④( )は、分割相続による所領の細分化、⑤貨幣経済の発展による支出の増大、蒙古襲来に備えるための軍事費の負担などにより、しだいに⑥経済的に窮迫してきた。さらに⑦⑧北条氏による支配体制の強化は、④( )や在地領主層の離反・反発を招き、幕府の結束・統制は乱れてきたのである。そして京都では、皇位継承をめぐる内紛が起こり、これが幕府と京都政権との対立をひき起こし、その結果、⑨⑩反幕府・反北条勢力が結集されるに至った。

[設問]

- ① ( )に入るもっとも適切な語を選びなさい。 [ ]  
 ア. 正中の変    イ. 承久の乱    ウ. 源平争乱    エ. 霜月騒動    オ. 中先代の乱
- ② ①の事件のときの執権は誰か。下記より選びなさい。 [ ]  
 ア. 北条時政    イ. 北条高時    ウ. 北条泰時    エ. 北条時宗    オ. 北条義時
- ③ ①の事件ののち、幕府が設置したのを選びなさい。 [ ]  
 ア. 守護・地頭    イ. 管領    ウ. 六波羅探題    エ. 鎮西探題    オ. 引付衆
- ④ ( )に入るもっとも適切な語を選びなさい。 [ ]  
 ア. 惣領    イ. 御家人    ウ. 地頭    エ. 守護    オ. 国人
- ⑤ このころ、もっとも流通した銭貨を下記より選びなさい。 [ ]  
 ア. 宋銭    イ. 皇朝十二銭    ウ. 明銭    エ. 元銭    オ. 撰銭
- ⑥ これに対して、幕府はどのような救済策をとったか。下記より選びなさい。 [ ]  
 ア. 新補地頭の得分の制定    イ. 兵糧米の徴収を承認    ウ. 銭貨流通の抑制  
 エ. 永仁の徳政令    オ. 半済法
- ⑦ この支配体制を何というか。下記より選びなさい。 [ ]  
 ア. 執権体制    イ. 守護領国制    ウ. 幕藩体制    エ. 得宗専制    オ. 荘園制
- ⑧ この支配体制のなかで、実権を握ったものを下記より選びなさい。 [ ]  
 ア. 連署    イ. 内管領    ウ. 評定衆    エ. 管領    オ. 側用人
- ⑨ この中心人物は誰か。もっとも適切な人物を下記より選びなさい。 [ ]  
 ア. 後鳥羽天皇    イ. 後三条天皇    ウ. 足利尊氏    エ. 後醍醐天皇    オ. 新田義貞
- ⑩ 設問⑨の人物と、直接関係のないものを下記より選びなさい。 [ ]  
 ア. 建武式目    イ. 記録所    ウ. 楠木正成    エ. 大覚寺統    オ. 元弘の変

5 (6125) <関西学院大> 承久の乱

次の文を読み設問に答えなさい。

王者ノ軍ト云ハ、トガアルヲ討ジテ、キズナキヲバホロボサズ。①( )高官ニノボリ、②守護ノ職ヲ給、コレミナ③法皇ノ勅裁也。ワタクシニヌスメリトハサダメガタシ。④後室ソノ跡ヲハカラヒ、義時久ク彼ガ権ヲトリテ、人望ニソムカザリシカバ、下ニハイマダキズ有トイフベカラズ。一往ノイハレバカリニテ⑤⑥追討セラレンハ、⑦上ノ御トガトヤ申ベキ⑧⑨⑩。

[設問]

- ① 適当な人物を次より選びなさい。 [ ]  
 a. 足利尊氏    b. 北条高時    c. 源頼朝    d. 北条時政    e. 足利義満
- ② 設置された年代を次より選びなさい。 [ ]  
 a. 1156年    b. 1180年    c. 1185年    d. 1334年    e. 1401年
- ③ 誰をさすか。次より選びなさい。 [ ]

- a. 白河法皇    b. 鳥羽法皇    c. 後白河法皇    d. 光厳上皇    e. 後鳥羽法皇
- ④ 誰をさすか。次より選びなさい。 [    ]
- a. 北条政子    b. 足利義詮    c. 日野富子    d. 足利義教    e. 池禅尼
- ⑤ 具体的にはある兵乱をさす。それを次より選びなさい。 [    ]
- a. 承平の乱    b. 承久の乱    c. 元弘の変    d. 観応の擾乱    e. 治承の兵乱
- ⑥ またその起こった年代を次より選びなさい。 [    ]
- a. 1059年    b. 1180年    c. 1221年    d. 1333年    e. 1350年
- ⑦ 具体的には誰をさすか。次より選びなさい。 [    ]
- a. 平清盛    b. 後醍醐天皇    c. 後鳥羽上皇    d. 足利尊氏    e. 足利義満
- ⑧ この文の著者が主張していることを次の中より選びなさい。 [    ]
- a. 朝廷の政治は実効力を失っているのだから、武家に政治を委ねるべきである。  
 b. 万民の苦をやすめるのが王道なのだから、戦乱を好んではならない。  
 c. 武家政治は一日も早く廃し、天皇親政に戻すべきである。  
 d. 些少な事柄をとりあげて問題にし、武家の治政の功績を無視してはならない。  
 e. 王道を行うためには、武家の兵力を巧みに利用すべきである。
- ⑨ この文は南朝の精神的指導者といわれたある貴族の著書の一節である。その人物を次より選びなさい。 [    ]
- a. 吉田定房    b. 九条兼実    c. 北畠親房    d. 一条兼良    e. 吉田兼俱
- ⑩ またその書名を次より選びなさい。 [    ]
- a. 愚管抄    b. 梅松論    c. 大勢三転考    d. 神皇正統記    e. 樵談治要

**6** (6126) <早稲田大> 鎌倉幕府における公武の対立抗争

次の文、ならびに史料A～Eを読み、下記の問いに答えなさい。

源頼朝は平家を滅ぼした後、義経の逮捕と治安維持とを口実に、イ守護・地頭の設置を朝廷に認めさせ、武家政権の樹立につとめた。その後頼朝は征夷大將軍に任ぜられ、幕府を創設したが、京には依然として公家政権が存在していたから、幕府の権力は朝廷から与えられた旧平家の所領と、(1)(    )および家人の所領内に限られていた。しかし(2)(    )以後の幕府は、内にあるのは口執権勢力の強化をはかったが、他方外においては武士勢力が次第に公家のそれを侵すようになり、特に所領をめぐる紛争が頻発するようになった。そのような事態に対し、ハ幕府は公武の二元支配を前提とし、ニ社会の現実に即した成文法を定めた。それはその後長く武家法制の模範となった。

- A. 女子はすなわち悔い返さざるの文により不孝の罪業を憚るべからず。父母も亦敵対の論に及ぶを察して、所領を女子に譲るべからざるか。親子義絶の起りなり。(中略)女子若し向背の儀あらば父母もよろしく進退の意に任ずべし。
- B. 叛逆の卿相雲客并びに勇士の所領等の事、武州尋ね註する分、およそ三千余箇所なり。二品禅尼、件の没収地を以て勇敢勲功の浅深に随い、面々に之を賞し充つ。
- C. 十一月廿八日丁未(中略)伝え聞く、頼朝代官北条丸、今夜経房に調すべしと云々。定めて重事等を示すか。
- D. この式目は(中略)武家の人へのはからいのためばかりに候。これによりて京都の御沙汰、律令のおきて聊いささかもあらたむるべきにあらざ候也。
- E. 女人養子の事。右法意の如くば、これを許さずといえども、右大将家の御時以来、当世に至るまで、其の子なき女人ら所領を養子に譲り与える事、不易かたの法あげて計うべからず。(中略)評議の処もっとも信用に足れるか。

問1. 文中の下線部分イ～ニに最も関連のある史料の記号をそれぞれ一つ記しなさい。ただしニについては、アルファベット順に二つ記しなさい。

イ[    ]    ロ[    ]    ハ[    ]    ニ[    ]

問2. 文中の空欄(1)～(2)に該当する適当な語句を漢字で書きなさい。

(1)[    ]    (2)[    ]

問3. 史料B, C, Dに関連ある事項を、下記の語群1からそれぞれ一つ選び、その記号を記しな

さい。

B[ ] C[ ] D[ ]

問4. 史料A, Eの内容として正しいものを, 下記の語群2から二つずつ選び, その記号をアルファベット順に記しなさい。

A[ ] E[ ]

〔語群1〕 あ. 一条兼良 い. 愚管抄 う. 北条泰時 え. 建武式目 お. 樵談治要  
か. 九条兼実 き. 新補地頭 く. 分国法 け. 神皇正統記

〔語群2〕 a. 女子への所領譲渡を禁じた。  
b. 長子相続制を推進しようとした。  
c. 御家人の家柄の保全をはかった。  
d. 律令の精神を継承している。  
e. 両親の子に対する権限を強化しようとした。  
f. 女子が養子を迎えることを禁じた。  
g. 親が子に与えた所領は取り戻すことができないとした。  
h. 女子が養子を迎えることも認めた。  
i. 親子や一族の結束を重視した。

7 (6127) <慶應義塾大> 封建制度の成立

次の文章を読み, 下記の〔A〕, 〔B〕および〔C〕の設問に答えなさい。

封建制度という用語は, (イ)( )とは異なり独立して小経営を営む農民を, 所領の給付を媒介とする主従関係により結集した領主階級が, 軍事力を背景に支配し, かれらから(ロ)( )や夫役をとりたてる社会経済制度を意味する場合がある。西ヨーロッパでの封建制度の原型は, 古代ローマの(イ)( )制の崩壊, 変質と, ローマ社会とはやや異質の社会構造をもった(ハ)( )諸民族の移動とが相互に作用しあう戦乱の過程で形成された。そこでは, 農民の小経営の展開と, それを支配する領主階級内部での主従関係の形成とが, ほぼ歩調をあわせて進行したと考えられている。西ヨーロッパとはかなり異なる古代社会を経験した日本について封建制度を考える場合, 西ヨーロッパで通用した基準をそのまま適用することは困難である。農民による農業経営自立の日本におけるあり方, その程度, そしてそれに対する領主支配の実態など究明されるべき課題が多くある。たとえば, 鎌倉幕府時代の地頭は直営田をもち(ニ)( )などを使ってこれを耕作させていたが, この経営の性格規定, あるいはこれと一般農民による農業経営との関係などをめぐって論争が繰り返されてきた。

領主階級内部における主従関係形成の側面についても, とくに考慮せねばならない問題がある。それは, (ホ)( )制の全国的展開によって(ヘ)( )制の原則が有名無実化しつつあったとはいえ, 律令体制成立以降築かれてきた国家機構が厳然として存在していた事実である。(ホ)( )制の中で成長してきた武士達は, この国家機構の全面的否定ではなく, この利用, ある場合にはこれへの依存によってその支配体制を作りあげた。その端的な例を鎌倉幕府の成立過程にみることができる。1180年の挙兵後まもなく源頼朝は鎌倉に入り, かれに臣従する武士達すなわち(ト)( )を統率する機関として(1)(チ)( )を設けた。この時期からしばらくの間, 事実上の支配権を獲得しつつあった東国について, かれは武士達とかれらの父祖伝来の所領の保持を認めるいわゆる(リ)( )を媒介として主従関係を結んだ。ついで, (ヌ)( )追討を理由に守護, 地頭を諸国に設置する権利を得た頼朝は, これらへの(ト)( )の任命を通じて主従関係の強化をはかった。かれの死から約20年後の(2)(ル)( )をきっかけに, 地頭の設置範囲はさらに拡大した。こうして將軍-(ト)( )の主従関係は, 幕府が全国的軍事権, 警察権を掌握するにおよんで, 地頭などへの補任をめぐる関係として成立した。ところで, (リ)( )がそうであったように, 勲功などによって与えられたいわゆる(ヲ)( )も, 形式的には土地そのものを対象としたものではなかった。地頭職への任命などは, 事実上, 一種の(3)荘官職への任命を意味した。ここにみられるように, それは(ホ)( )制の職の体系の枠内で行なわれた。また幕府の経済的基盤も, (ワ)( ), (カ)( )とよばれた旧来の(ホ)( ), 知行国の秩序を土台としたものの上にあった。(4)守護の権限も, 直接的な(ヨ)( )の政務への介入ではなく, 国内の(ト)( )の統制, 治安維持に限定されていた。鎌倉幕府時代を通じ(タ)( )両政権が対立しつつも併存した背後には, このような旧来の国家機構保存の要素が, 幕府の権力構造に



内在していたのである。南北朝の内乱から室町幕府時代にかけて、各地の守護が、成長しつつあった在地の中小領主いわゆる(レ)( )を、自己の支配下におき(ソ)( )に成長する過程でも、(ヨ)( )機構の利用、(ヨ)( )領の実権把握が大きな鍵となった。

設問[A] (イ)～(ソ)にあてはまる最も適当な語を記入しなさい。

[B] 下線部分(1)～(4)についての設問の答を記入しなさい。

(1)(a) この機関の初代長官の姓名とその出身階層を答えなさい。

{ }

(b) その後、この機関に加えて2つの機関が1184年に設置された。それらの機関について整理表を完成させなさい。

機 関 名		
主 な 仕 事		
初代長官名 およびその 出身階層	-----	-----

(2) これ以後に任命された地頭を何と呼ぶか。その名称を答えなさい。{ }

(3) 新たに地頭として任命されることの多かった荘官の職名を答えなさい。

{ }

(4) 守護の基本的任務を総称して通常何というか。その名称を答えなさい。

{ }

[C] 上掲の文章を参考にしながら、日本における社会経済制度としての封建制度の成立をいつ頃におくべきか、またそのように判断する根拠は何かなどについて、貴君の自由な立場からの見解を60字以内でまとめなさい。(特定の見解だけを正解とするものではありません。)

---



---



---

## 第12日 中世の政治と対外関係 1

### ●重要用語●

#### □平清盛（たいらのきよもり） 1118～1181

平安末期の武将。忠盛<sup>ただもり</sup>の子。保元・平治の乱で活躍し、中央政界に進出した。1166年に内大臣、67年に太政大臣となり、藤原氏<sup>ふじわら</sup>に代わって実権を握り、平氏政権<sup>へいし</sup>を樹立した。また、娘徳子<sup>とくこ</sup>を高倉天皇<sup>たかくら</sup>の中宮とし一門の公卿16人、殿上人30余人、知行国30余国に及ぶ平氏の全盛時代を築いた。しかし、急速な貴族化により地方武士の支持を失い、また公家勢力の反感をも招いた。諸国の源氏<sup>げんじ</sup>が挙兵するなかで病死した。

#### □日宋貿易（にっそうぼうえき）

北宋建国は960年。南宋は1127～1279年。9世紀末の遣唐使廃止後も私貿易は行われ、北宋商人や日本人僧の往来で民間交渉は活発になった。12世紀後半には平氏政権が積極的で、平清盛<sup>たいらのきよもり</sup>は大輪田泊（兵庫港）を改修、音戸の瀬戸を拡張して瀬戸内海航路を整備し、日宋貿易をさかんにした。輸入は織物・香料・陶磁器・書籍・銅銭など、輸出は金・真珠・硫黄・木工芸品（漆器・蒔絵・扇）・刀剣など。鎌倉幕府は貿易を制限した。

#### □源頼朝（みなもとのよりとも） 1147～1199

義朝<sup>よしとも</sup>の3男。1180年（治承4）、配流先の伊豆で北条時政<sup>ほうじょうときまさ</sup>の助力を得て挙兵し、鎌倉を本拠として平氏と闘い、85年に壇の浦の戦いで滅亡させた。また一族の源義仲<sup>みなもとのよしなか</sup>と義経<sup>よしつね</sup>も討ち、92年に征夷大將軍となり、名実ともに武家の棟梁として鎌倉幕府を開いた。鎌倉には侍所・政所（公文所）・問注所などの諸機関を設け、85年に守護・地頭設置の勅許を得て幕府の基礎を固めた。妻政子<sup>まさこ</sup>は頼朝の死後、幕府の中心となった。

#### □鎌倉幕府（かまくらばくふ）

源頼朝<sup>みなもとのよりとも</sup>によって鎌倉に創立された最初の武家政権。成立時については、①1183年に頼朝が東国行政権を取得したとき、②85年に守護・地頭を設置したとき、③92年に頼朝が征夷大將軍に任命されたとき、などの諸説がある。中央機関として政所・侍所・問注所などがあり、また守護・地頭を設置して全国の軍事警察権を握った。頼朝の死後、北条氏<sup>ほうじょう</sup>が執権政治を確立した。1333年、公家勢力の反撃などにより滅亡した。

#### □守護（しゅご）

鎌倉・室町時代の地方制度上の職名。1185年に源頼朝<sup>みなもとのよりとも</sup>（1147～99年）が源義経<sup>よしつね</sup>、源行家<sup>ゆきいえ</sup>の追討を理由に後白河法皇<sup>ごしろがわ</sup>にせまって勅許を得て、地頭とともに設置したのが始まりで、のちに制度として固まった。国ごとに有力な御家人を任命し、国内の御家人の統率と警察をおもな任務とした。南北朝の抗争が始まり、中央の統制力が衰えるにつれて、守護の軍事力が強まり、荘園の経済力をも掌握して守護大名に成長していった。

#### □地頭（じとう）

もとは平安時代ごろから各地に成長してきた領主や地主をさした。鎌倉時代になって源頼朝<sup>みなもとのよりとも</sup>が後白河法皇<sup>ごしろがわ</sup>の許可を得て各地に地頭をおき、御家人として主従関係を結ばせ、土地の管理・税の徴収・警備などを行わせた（本補地頭）。また、承久の乱で戦功のあった

者を新たに地頭に任じた(新補地頭)。室町時代になり、守護の勢力が強まるにつれて、守護に仕えるようになり、地頭制度の意味はなくなった。

□北条政子(ほうじょうまさこ) 1157~1225

時政ときまさの娘。源頼朝みなもとのよりともが伊豆に配流されていたときに妻となった。頼朝よりい・実朝さねともの母。頼朝の死後、父や弟の義時よしときとはかって、將軍廃立や御家人の抑圧・打倒などを行い、京都から迎えた若い將軍を後見して尼將軍とよばれた。承久の乱に際し、頼朝以来の恩顧を説いて御家人らの動揺を鎮めた話は有名である。

□執権(しっけん)

鎌倉幕府では將軍を補佐し政務を統轄する役で、はじめ政所別当大江広元おおえのひろもとがその任にあたった。源頼朝みなもとのよりともの没後、広元と並んで北条時政ほうじょうときまさがこの職についた。1213年、北条義時よしときは侍所別当和田義盛わだよしもりを討って、政所・侍所の別当を兼任して執権と称し、完全に幕政を掌握、以後幕府滅亡まで北条氏がこれを世襲した。

□承久の乱(じょうきゅうのらん)

後鳥羽上皇(1180~1239年)を中心とする朝廷は、3代將軍実朝さねとも死後の鎌倉の政争に乗じ、1221年に執権北条義時ほうじょうよしとき追討の宣旨・院宣を発して軍事行動をおこしたが、幕府は北条政子まさこ・義時が御家人の結束を固め、大軍を派遣して京都を鎮圧、3上皇を配流し、天皇をかえ、上皇方の所領を没収、六波羅探題ろくはわたんたいをおいた。

□御成敗式目(ごせいばいしきもく)

鎌倉幕府が1232年(貞永元)に制定した日本で最初の武家法典。年号をとって貞永式目じょうえいともいう。執権北条泰時ほうじょうやすときが評定衆に編ませた。道理を基礎にし、先例を基準にして武家独特の基本法を確立しようとしたもので、全51条からなる。以降、室町幕府の法や戦国期の分国法、江戸幕府の法などに大きく影響した。

□永仁の徳政令(えいにんのとくせいれい)

1297年、鎌倉幕府が発布した徳政令。元寇後困窮した御家人の経済的な保護・救済を目的に、①御家人所領の売却・入質の禁止。②すでに売却した所領の無償取りもどしの認可(取得者が御家人で取得後20年以上経過したものは除く)。③御家人相手の金銭貸借関係の訴訟は受理しない。——などを示したが、かえって経済の混乱を招き、御家人への金融の道もふさぐことになったため、翌年撤回された。

□京都大番役(きょうとおおばんやく)

鎌倉幕府の御家人役の1つ。京都に勤番して皇居の警護を行うもので、侍所・六波羅探題が統轄した。守護が召集・引率にあたり、期間は6か月または3か月、私費で勤番した。

□関東御領(かんとうごりょう)

鎌倉幕府の將軍家領。幕府創立期に平氏から没収した500余か所の莊園よりともを頼朝が朝廷から与えられ、承久の乱後の没収地をこれに加えた。御家人に恩給され、また年貢・公事などは幕府財政の基礎となった。

□御恩・奉公(ごおん・ほうこう)

中世、封建社会における基本的主従関係。御恩は、本領安堵・新恩給与など、主君が家臣に与える恩恵をさし、奉公は、戦時の軍事的負担、平時の番役づとめなど、主君に対する

家臣の奉仕義務をさす。

●発展用語●

□元寇（げんこう）

13世紀に欧亜にまたがる大帝國をつくった蒙古(モンゴル)は1271年に元<sup>げん</sup>を建国。日本の服屬を求めたが、鎌倉幕府執權北条時宗<sup>ほうじょうときむね</sup>は拒絶した。74年(文永11)10月、元の大軍は博多湾に上陸したが、大暴風雨にあって退却(文永の役)。81年(弘安4)の再度の襲来も暴風が吹き荒れて敗退した(弘安の役)。この間幕府は武士を動員して防衛にあたったが、戦費負担は重く、恩賞の土地も十分でなかったため、御家人の不満が増大した。

□霜月騒動（しもつきそうどう）

鎌倉幕府執權北条氏嫡流得宗家の御内人(家臣団)の内管領(頭首)<sup>うちかんれい</sup>平頼綱<sup>たいらのよりつな</sup>は1285年、政敵であり有力御家人の安達泰盛<sup>あだちやすもり</sup>に謀反の罪をきせて滅ぼした。得宗家の専制強化と御家人離反を促す事件であった。

□新補地頭（しんぼじとう）

承久の乱(1221年)後、鎌倉幕府によって新たに任ぜられた地頭。承久の乱で倒幕側に組した者から没収した領地を、戦功のあった御家人に分与し、また従来地頭不在の所にも新たに地頭をおいた。新任の地頭には、11町ごとに1町の免田と反当り5升の加徴米が与えられた。地頭が領主化するにつれてその権限は強くなり、しだいに本補地頭(前からの地頭)と新補地頭の区別はなくなっていった。

□得宗（とくそう）

鎌倉幕府執權北条氏嫡流の家督をいう。2代執權義時の号徳宗(得宗)に始まる。時頼・時宗<sup>ときむね</sup>のころから得宗の私邸で一門や御内人(家臣団、頭首は内管領といった)の寄合を開いて重要政務を決し、また得宗領(所領)を拡大するなど専制化が進んだため、一般御家人の反発を深め、幕府衰亡の一因となった。

□六波羅探題（ろくはらたんたい）

鎌倉幕府の職名。1221年、承久の乱を契機に京都の南北両六波羅府におかれた長官。執權北条氏<sup>ほうじょう</sup>の一族から任命され、京都の守護、朝廷の監視、および西国(尾張以西のち、三河以西)の政務を担当・執行し、西国統制の要であった。1333年5月、後醍醐天皇<sup>ごたいご</sup>の討幕再挙に応じた足利尊氏<sup>あしかがたかうじ</sup>に攻め滅ぼされた。

□鎮西探題（ちんぜいたんたい）

鎌倉幕府が九州統轄のために設置した職制。前身は1185年に派遣された鎮西奉行。元寇後、九州の行政・軍事・裁判を統轄するために設置された。1293年に北条兼時・時家<sup>ほうじょうかねとき</sup>を派遣したのが始まりとする説と、北条実政<sup>さねまさ</sup>が派遣され、さら権限を強化した96年を実質的な設置年とする説がある。以後も北条氏一族より選ばれた者がその任にあたった。1333年、英時<sup>ひでとき</sup>の代に幕府滅亡とともに滅んだ。

□大犯三箇条（だいぼんさんかじょう）

鎌倉幕府が守護に与えた基本的な権限の呼称。源頼朝<sup>みなもとのよりとも</sup>のとき、守護は大番催促、謀叛(反)人・殺害人逮捕の3つの権限が与えられていた。1232年に制定された御成敗式目で、ほ

かに夜討・強盗・山賊・海賊逮捕もその権限に加えられたので、頼朝のときの3項を特別に大犯三箇条とよぶようになった。

□大輪田泊（おおわだのとまり）

現在の神戸港の一部で、奈良時代から瀬戸内海航路の要港として開けた。<sup>たいらのきよもり</sup>平清盛は港の波浪を避けるため前面に経島を築き、1180年に勅許を得て諸国に修築資財の調達を課したが、平家の滅亡で中止となった。

□吾妻鏡（あづまかがみ）

鎌倉幕府の創設期から中期までの事績を記した歴史書。<sup>みなもとのよひまさ</sup>源頼政の拳兵(1180年)に筆をおこし、<sup>むねたか</sup>第6代將軍宗尊親王の帰京(1266年)の記事で終わる。編年体で日記体裁をとり、和様漢文体で書かれている。編者は幕臣らしいが不明。原史料は幕府の記録文書、公家の日記、御家人の家伝文書ほか、『平家物語』などの文学作品まで広範囲にわたり、当時の政治および武家社会研究の最重要史料である。

□西面の武士（さいめんのぶし）

<sup>ことば</sup>後鳥羽上皇は武備の強化をはかり、既存の北面の武士のほか、武勇にすぐれたものを集めて、院(上皇・法皇)の御所の警備・警察のために西面の武士を新設した。承久の乱のち廃止となった。

□大番催促（おおばんさいそく）

鎌倉時代の守護の職権の1つ。「大番」(大番役)とは皇居の警護をさすことば。守護がその管轄国内の御家人を大番役につかせるための割当て・召集・引率などの業務をいい、国内の御家人の軍事指揮権につながる権限であった。大犯三箇条の1つ。

□大田文（おおたぶみ）

中世の国衙で作製した土地台帳をいう。多くは課税や土地争いの処理を目的として、各国の国司や、幕府の命を請けた守護が、国衙の在庁官人を指揮して作製させた。国内の公領・荘園ごとの田地の面積、領有の事情や関係、耕作の状況などが記されている。鎌倉時代の薩摩・大隅・日向・豊後・淡路・但馬・若狭・能登・常陸などの各地方の台帳が現存している。

□新補率法（しんぷりっぼう）

鎌倉時代、新補地頭の得分の率を定めた法令。1223年の制定。承久の乱後、新たに任せられた地頭には、得分について根拠となる先例のない場合が多く、混乱が生じたので、幕府はこの法令を定めて対処した。荘園・公領とも田畑11町ごとに地頭給田畑1町とし、1段別の加徴米5升の率にすると定めた。

□御内人（みうちびと）

鎌倉幕府執権得宗家の直属家臣。これに対して一般の御家人を外様とよび、<sup>とざま</sup>得宗が専制化するにつれて御内人と外様が対立するようになった。1285年の霜月騒動はその対立からおこった事件として有名。

## 第13日 中世の政治と対外関係 2

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (1301) 最重要年代チェック

{ }にあてはまる年代と語句を答えなさい

- (1){ }年……元弘の変
- (2) 1333年……鎌倉幕府滅亡, { }始まる
- (3){ }年……足利尊氏{ }を制定——施政方針
- (4){ }年……足利尊氏{ }に就任
- (5) 1341年……{ }船を派遣
- (6) 1350年……{ }おこる(～52)
- (7) 1391年……{ }の乱——山名氏清が敗死
- (8){ }年……南北朝合一
- (9) 1399年……{ }の乱——大内義弘が敗死
- (10) 1401年……足利義満{ }や肥富を明に派遣
- (11){ }年……勘合貿易始まる
- (12) 1416年……{ }の乱
- (13){ }年……応永の外寇
- (14) 1438年……{ }の乱——足利持氏を征討
- (15){ }年……{ }の乱——足利義教を暗殺
- (16) 1467年……{ }の乱(～77)
- (17){ }年……三浦さんぼの乱——居留日本人の暴動
- (18){ }年……{ }の乱——大内氏が貿易を独占へ

### 2 (1302) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)鎌倉幕府の14代執権。1331年の元弘の変で、後醍醐天皇を配流した。{ }
- (2)大覚寺統から即位し、建武の新政を中心的に推進した天皇。{ }
- (3)1333年、六波羅探題を攻略し、建武の新政に参加。室町幕府の初代将軍。  
{ }
- (4)上野こうづけの武将。清和源氏。1333年鎌倉を攻め、鎌倉幕府を滅ぼした。{ }
- (5)1331年、元弘の変に際し、北条氏に擁立された持明院統の天皇。{ }
- (6)1336年、足利尊氏が擁立した持明院統の天皇で、南朝と対立した。{ }
- (7)南朝の重臣として活躍し、常陸国で『神皇正統記』を著した。{ }
- (8)後醍醐天皇の皇子で征西将軍として九州を制圧したが、のち勢力は衰退した。  
{ }
- (9)足利尊氏側近の部将で執事として政治に参画し、のちに足利直義ただよしと対立した。  
{ }
- (10)足利尊氏の第4子で、初代鎌倉公方として活躍。執事に上杉氏を迎えた。  
{ }
- (11)1371年、九州探題として下向し、九州を制圧。歌人・文人としても活躍した。  
{ }
- (12)南北朝時代の守護大名。1391年の明德の乱で敗死した。六分一殿。{ }
- (13)室町幕府の3代将軍。花の御所を造営。1392年に南北朝を合一した。{ }

- (14)南朝最後の天皇で、北朝の後小松天皇に神器を譲り、南北朝を合一した。 [ ]
- (15)周防・長門など6か国の守護を兼ねた守護大名。1399年、応永の乱で敗死した。 [ ]
- (16)室町幕府4代将軍。上杉禅秀の乱を鎮定。勘合貿易を屈辱的として中止した。 [ ]
- (17)室町幕府6代将軍。万人恐怖といわれる政治を展開。嘉吉の乱で謀殺された。 [ ]
- (18)4代目鎌倉公方として幕府とたびたび衝突し、永享の乱をおこした。 [ ]
- (19)播磨の守護大名。1441年、嘉吉の乱で6代将軍足利義教を謀殺した。 [ ]
- (20)はじめ今川氏に依り、のち堀越公方を滅ぼして小田原に進出した。 [ ]
- (21)山口を中心に中国地方に勢力を伸ばした守護大名。陶晴賢の謀反で自殺した。 [ ]

### 3 (1303) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

<事 件>

- (1)1324年の後醍醐天皇ら公家側による討幕運動。事前に発覚し失敗した。 [ ]
- (2)1331年、後醍醐天皇は再度討幕運動をおこしたが、事前に発覚した。 [ ]
- (3)1335年、北条時行が鎌倉幕府の再興をはかって反乱をおこした。 [ ]
- (4)1350年に始まる北朝側の内紛。足利尊氏派と足利直義派が対立した。 [ ]
- (5)1391年、六分一殿と称された山名氏清が、足利義満軍に討伐された。 [ ]
- (6)1399年、6か国の守護を兼ねた大内義弘が、足利義満軍に討伐された。 [ ]
- (7)1419年、朝鮮が対馬を倭寇の根拠地とみなして突如として襲撃した。 [ ]
- (8)1438年、足利持氏が幕府に反乱して、将軍足利義教の軍に討伐された。 [ ]
- (9)1441年、将軍足利義教が、播磨守護赤松満祐によって謀殺された。 [ ]
- (10)1467年、将軍継嗣・管領家の家督相続問題などからおこった大乱。 [ ]
- (11)富山浦・乃而浦・塩浦に居住した日本人が、1510年におこした反乱。 [ ]
- (12)1523年、大内氏と細川氏が貿易の実権をめぐる衝突した。 [ ]

<事 項>

- (1)鎌倉時代後期、龜山天皇から発した皇統。のち南朝に発展した。 [ ]
- (2)鎌倉時代後期、後深草天皇から発した皇統。のち北朝に発展した。 [ ]
- (3)皇統対立の解決策。大覚寺統と持明院統から交互に皇位についた。 [ ]
- (4)鎌倉幕府滅亡後、大覚寺統から出た後醍醐天皇による政治のこと。 [ ]
- (5)建武の新政における機関で、おもに一般政務を行うために復活した。 [ ]
- (6)建武の新政における機関で、所領問題や訴訟をとりあつかった。 [ ]
- (7)建武の新政における機関で、武士の論功行賞をとりあつかった。 [ ]
- (8)建武の新政における機関で、おもに京都の治安や警察をとりあつかった。 [ ]
- (9)建武の新政による社会の混乱ぶりを今様風の名調子で風刺した落書。 [ ]
- (10)1336年、足利尊氏が二階堂是円・玄恵らの答申をもとに制定した。 [ ]
- (11)足利氏の一族で、管領に就任した細川・斯波・畠山3氏の総称。 [ ]
- (12)侍所長官で管領につぐ重要職。山名・赤松・一色・京極4氏が就任した。 [ ]
- (13)室町幕府が東国に設置し、関東10か国を統轄した。長官は鎌倉公方。 [ ]
- (14)室町幕府の直轄領。畿内を中心に全国に散在したが数は不明である。 [ ]
- (15)室町時代、日中間の貿易に用いられた証明符。中央から折半し、照合。 [ ]

- (16)室町時代，勘合(勘合符)と同様，日朝間の交易に用いられた証明符。〔 〕
- (17)戦国時代，越前の朝倉氏が制定した家法で，朝倉敏景十七箇条ともいう。〔 〕
- (18)戦国時代，陸奥の大名伊達<sup>たねむね</sup>種宗が制定した分国法で，刑法的色彩が濃い。〔 〕
- (19)戦国時代，駿河・遠江を領国とする今川氏が定めた分国法。〔 〕
- (20)甲州法度ともいわれる武田氏の分国法。きわめて軍事的色彩が濃い。〔 〕
- (21)大内氏が単発的に公布した50余りの法令を集大成した分国法。〔 〕
- (22)分国法に規定された内容で，喧嘩の当事者は理非に関係なく双方を処罰すること。〔 〕
- (23)戦国時代，小田原を本拠とする北条早雲が制定したといわれる家訓。〔 〕
- (24)下総国の結城<sup>ゆうきまさかつ</sup>政勝が制定した106条からなる分国法である。〔 〕
- (25)戦国時代，歩兵として軍役に服した雑兵。織田信長の鉄砲隊が典型である。〔 〕
- (26)土佐の長宗我部氏が制定した分国法。分国法中，最も新しく完備された。〔 〕

#### 4 (1304) 重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)河内国の豪族。建武中興に貢献したが，のち湊川の戦で敗死した。〔 〕
- (2)足利尊氏の弟。観応<sup>かんのう</sup>の擾乱<sup>じょうらん</sup>に際し，尊氏と対立し毒殺された。〔 〕
- (3)管領細川氏の家臣であったが，細川晴元を京都から追放した。〔 〕
- (4)三好<sup>ながよし</sup>長慶を滅ぼし，將軍足利義輝を殺害するなど，強盛を誇った。〔 〕
- (5)大内義隆の家臣であったが，1551年，義隆を自殺に追いこんだ。〔 〕

#### 5 (1305) 重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項〉

- (1)鎌倉公方の補佐役(=執事)で，代々上杉氏<sup>うへさき</sup>がその地位を世襲した。〔 〕
- (2)室町幕府が土倉業を営む者に課した税で，幕府の重要な財源となった。〔 〕
- (3)室町幕府が家屋の棟数に応じて戸ごとに課した税。農民より臨時に徴収した。〔 〕
- (4)室町幕府が田畑に対し段別に課した税。幕府の重要な財源となった。〔 〕

#### 6 (1306) 最重要地名チェック

各文にあてはまる地名を答えなさい

- (1)大覚寺統の後醍醐天皇はこの地に皇居を移し，北朝との対立を深めた。〔 〕
- (2)和泉国にある港町で，勘合貿易や南蛮貿易によって繁栄した。〔 〕
- (3)室町時代，九州探題が置かれた港町で，自治都市として繁栄した。〔 〕
- (4)大内氏の城下町として発達。出版事業などが行われた。京文化が流入した。〔 〕
- (5)越前の戦国大名朝倉氏の居館跡。周囲を山々に囲まれた要害の地。〔 〕

#### 7 (1307) 〈青山学院大〉 室町・戦国時代の戦乱・事変史

次の各文の( )のなかに下記の語群のなかから適当なものをえらびなさい。また下線をほどこした部分について下記の問いに答えなさい。



A. 足利義満は幕府の權威を確立するために、(1)有力守護の抑圧につとめた。これは義持、義教にもうけつがれ、義教は、はじめ1( )を滅したが、後には逆に2( )によって謀殺され、それ以後は幕府の勢は急速におとろえていった。また八代將軍3( )のぜいたくな生活や、相つぐ土木工事などのため、その財政もひっばくしていった。

B. 將軍義政には子がなく、弟4( )を後継者としていたが、夫人日野富子に5( )が生まれたので問題がおこった。前者は6( )を頼り、後者は7( )の力を借りた。両者の戦が京都で開かれた。これが(3)応仁の乱である。

C. 応仁の乱後、守護大名の多くは没落し、それに代って新しい勢力がおこった。例えば細川氏では、その実権が8( )に移り、斯波氏の場合には、織田氏や9( )にその領国が奪われていった。

D. 関東では、関東管領は10( )の古河公方と、11( )の堀越公方に分かれた。12( )から出た13( )は後者を滅して、14( )を本拠にして関東地方の大部分を、その手中におさめた。

E. 1428年、近江坂本の馬借が徳政を要求して蜂起したのが大規模な土一揆のはじまりという。一揆を利用して守護の支配を排除しようとした国一揆もおこった。山城の国一揆は有名である。これは15( )などを退陣させた。又1488年、加賀の一向一揆は守護16( )を敗死させた。

〔語群〕 ア. 足利尊氏    イ. 相模    ウ. 三好長慶    エ. 赤松満祐    オ. 足利義勝  
カ. 足利義視    キ. 足利義尚    ク. 伊勢    ケ. 朝倉義景    コ. 畠山義就  
サ. 細川勝元    シ. 山名持豊    ス. 足利義昭    セ. 小田原    ソ. 伊豆  
タ. 川越    チ. 朝倉敏景    ツ. 上杉謙信    テ. 北条早雲    ト. 足利成氏  
ナ. 北条氏康    ニ. 富樫政親    ヌ. 足利義澄    ネ. 鎌倉    ノ. 足利持氏  
ハ. 府中    ヒ. 駿河    フ. 足利義政    ヘ. 足利政知

問1. この抑圧策のためにおこった乱に(a)明徳の乱と(b)応永の乱があるが、討たれた守護は誰であったか、次のなかからえらびなさい。 (a){ } (b){ }

ア. 土岐氏    イ. 今川氏    ウ. 大内氏    エ. 山名氏    オ. 細川氏  
カ. 赤松氏    キ. 畠山氏    ク. 山内氏    ケ. 扇谷氏    コ. 上杉氏

問2. この事件のおこったのは何時か。次のなかからえらびなさい。 [ ]

ア. 1452年    イ. 1341年    ウ. 1399年    エ. 1390年  
オ. 1430年    カ. 1441年    キ. 1360年    ク. 1460年

問3. この乱のおこったのは何時か。次のなかからえらびなさい。 [ ]

ア. 1460年    イ. 1459年    ウ. 1503年    エ. 1515年  
オ. 1530年    カ. 1465年    キ. 1467年    ク. 1507年

## 類題トレーニング(6130)

### 1 (6131) <中央大> 建武の新政と観応の擾乱

次の文の空欄に入れるのに適当な語を漢字で記入しなさい。

(1 )天皇を祖とする(2 )の後醍醐天皇は、1324年幕政の乱れにつけいり、側近の(3 )・日野俊基、あるいは土岐頼兼らと討幕の計画をねったが、しかし、計画は事前に露頭し、(3 )は佐渡へ流された。この事件のことを(4

)という。そののち、後醍醐天皇は再度討幕を企てたがこれも失敗し、笠置におちた天皇は捕えられ隠岐に流された。1331年のこの事件を(5 )という。

しかし、天皇側に呼応して、たとえば、当時社会秩序を乱すことから(6 )とよばれたものの1人である楠木正成が河内で幕府軍と戦うなど、各地で反幕府の動きがおき、やがて足利尊氏は六波羅探題を攻撃し、新田義貞は鎌倉を攻め北条氏を滅ぼした。幕府が倒れると後醍醐天皇は京都へ帰り天皇親政を開始した。これを建武の新政という。天皇は行政・司法を統轄する中心機関として(7 )をおき、また、所領に関する訴訟などを扱う(8

)を設けた。(8 )は当初3番、のち8番で編成され、各番は長官である頭人と(9 )からなっている。

後醍醐天皇はつぎつぎと新しい政策を実施しようとしたが、それらは順調にすすまず、むしろ社会の混乱をひきおこした。その様子は「(10 )」に載せられた「此比都ニハヤル物、夜討強盗謀論旨」ではじまる著名な(11 )からよくうかがうことができる。このような不安定な政治状況のなかで、北条高時の遺児北条時行が鎌倉幕府再興をねらって兵をあげ、鎌倉に攻めこんだ。これを(12 )というが、この事件はすぐに足利尊氏に鎮圧され失敗した。

しかし、後醍醐天皇と足利尊氏の対立は深まり、1336年足利尊氏は(2 )と対立していた(13 )の光明天皇をたて、他方後醍醐天皇も吉野に朝廷を開き、ここに南北朝の対立がはじまった。軍事面では北朝方が優位にあったが、北朝方は内部対立があった。足利尊氏・高師直と(14 )の内紛は(15 )の擾乱ともよばれ、(14 )は高師直を殺害したが、(14 )もまた足利尊氏に毒殺された。

### 2 (6132) <関西学院大> 室町幕府の職制

次の文の( )の中に入れるべき最も適当な史的名辞を、下記の語群の中から選んで、その記号をマークしなさい。

室町幕府は将軍を補佐する①( )をおき、足利氏の一族である細川・畠山・②( )の3氏が交代で就任した。また、鎌倉幕府の組織を踏襲して、財政事務を主要な任務とする③( ), 軍事・京都の警備などを任務とする④( ), 記録・証文の保管などを主要な任務とする⑤( ), それに評定衆や引付衆なども置かれた。このうち④( )は、その長官を⑥( )といひ山城国の守護を兼務し、⑦( )・京極・一色・赤松の4氏が代々交代であたり、四職といわれた。地方には守護・地頭をおき、とくに鎌倉に⑧( )をおいて、この地方を重視し、初代長官に⑨( )がつき、これ以後その子孫がこの職を世襲した。このほか九州・奥羽には⑩( )がおかれた。

- a. 山名    b. 北条    c. 斯波    d. 大内    e. 足利基氏    f. 足利持氏  
g. 執事    h. 所司    i. 探題    j. 管領    k. 執権    l. 記録所    m. 政所  
n. 武者所    o. 侍所    p. 問注所    q. 雑訴決断所    r. 鎌倉府    s. 鎌倉将軍府  
t. 奉行

### 3 (6133) <関西大> 戦国大名の領国支配

次の文章の空欄1～10に入れるのに最も適当な語句を、漢字で記入しなさい。

室町時代には、(1 )の風潮がおこり、権力の座にあるものが内部から台頭した

新しい勢力にとってかわられたり、相続をめぐる争いが各地におこって骨肉相食む様相を呈したりしたが、(2)の乱後、戦国時代に入って、こうした傾向はますますはげしくなった。幕府の権力は地に落ち、将軍の支配力は(3)一国に及ぶにすぎなくなったといわれる。こうして地方では新興の戦国大名が諸国におこって、地侍・名主らを中心に地域の自治的結合を固めつつあった(4)の組織をも支配下に収めていった。相模(5)に本拠を構えて関東地方を経略した北条早雲とその子孫をはじめ、越後の守護代(6)氏から出て主君の名跡をついだ上杉謙信、油商人から身を起して(7)一国を経略した斎藤道三、安芸の一地頭からおこって中国地方の大部分を征服した(8)などは、その最もよい例である。戦国大名はまた家法を制定して分国の統治にあたった。今川氏の(9)や伊達氏の(10)などはその例である。

4 (6134) <中央大> 戦国大名と分国法

次あげる5氏は、戦国時代に、それぞれ特色のある家法(分国法)を制定した大名である。それらの家法の名を答えなさい。また、各大名が家法を制定した当時の居城の所在地を、現在の県名で答えなさい。

イ. 今川氏      ロ. 大内氏      ハ. 長宗我部氏      ニ. 結城氏      ホ. 六角(佐々木)氏

5 (6135) <関西学院大> 日明貿易

次の文を読み設問に答えなさい。

日本准三后①道義、書を大明皇帝陛下に<sup>たてまつ</sup>上る。日本国開闢以来、聘問を②上邦に通ぜざるなし。道義、幸に国鈞<sup>きん</sup>を乗り、海内<sup>おそ</sup>虞れなし。特に往古の規法に遵い、使肥富に③( )を相副え、好を通じて方物(細目略)を献ず。④⑤海島を搜尋し漂寄の者幾許の人を還す。道義誠惶誠恐頓首々々謹言。

⑥⑦応永八年五月十三日⑧⑨

(⑩善隣国宝記)

〔設問〕

- ① この名はある人物が出家してからの法名である。その人物を下記より選びなさい。 [ ]  
 イ. 足利義満      ロ. 足利義持      ハ. 足利義政
- ② いずれの国を指すか、下記より選びなさい。 [ ]  
 イ. 日本      ロ. 李氏朝鮮      ハ. 明
- ③ ある人物の名がここに記してあった。その名を下記より選びなさい。 [ ]  
 イ. 頼阿      ロ. 祖阿      ハ. 善阿
- ④ 実際は日本のある船団によって捕えられていた中国人を指す。この船団の名を下記より選びなさい。 [ ]  
 イ. 倭寇      ロ. 勘合船      ハ. 瀬戸内水軍
- ⑤ また明は洪武帝即位後まもなくこの船団の禁圧と国交の回復とを日本に求めて来たが、その時期を下記より選びなさい。 [ ]  
 イ. 14世紀前半      ロ. 14世紀後半      ハ. 15世紀前半
- ⑥ 西暦何年に当るか、下記より選びなさい。 [ ]  
 イ. 1368年      ロ. 1401年      ハ. 1432年
- ⑦ この年は①に答えた人物が応永の乱で有力守護大名を倒した年の翌々年に当る。その守護大名を下記より選びなさい。 [ ]  
 イ. 山名持豊      ロ. 大内義弘      ハ. 細川頼之
- ⑧ この大陸貿易は幕府の有力な財源のひとつであったが、こうした大陸貿易は①に答えた人物の祖父がある寺院造営の資金獲得のためにすでに行なったことがある。この祖父を下記より選びなさい。 [ ]  
 イ. 足利尊氏      ロ. 足利義詮      ハ. 足利義満
- ⑨ またその人物が造営した寺院の名を下記より選びなさい。 [ ]

- イ. 安国寺    ロ. 建仁寺    ハ. 天竜寺  
 ⑩ この書の著者の名を下記より選びなさい。 [    ]  
 イ. 瑞溪周鳳    ロ. 絶海中津    ハ. 夢窓疎石

6 (6136) <同志社大> 南北朝の動乱と応仁の乱

次の文中イ～タに該当する歴史的名辞を漢字で記入しなさい。天皇以外の人名は姓名を記入しなさい。また文中の1～14にもっともふさわしい名辞を下記の語群のなかからえらんで、その番号を記入しなさい。ただし、語句の使用は一回とはかぎらない。

鎌倉時代の中期以後、1242年から1246年まで在位した(イ)天皇の子孫が(1)統と(2)統との二つにわかれて皇位や皇室領荘園をめぐる争いをくりひろげた。幕府は調停者としてこれに介入し、両統が交互に皇位につくいわゆる両統(ロ)の方式が生まれた。(3)統からでて即位した(ハ)天皇は院政を廃し、(4)の治にならって天皇親政を復活し、(5)を再興し、倒幕を企てたが失敗して(ニ)に流された。鎌倉幕府滅亡後の建武の新政がわずか3年たらずで崩壊したのちのいわゆる南北朝の対立は(6)統の流れをくむ北朝と(7)統の流れをくむ南朝との対立であり、やがて、室町幕府の三代将軍(ホ)の時になって(8)朝の後小松天皇に(9)朝の(ヘ)天皇が皇位を譲る形で和議が成立し、以後皇位は(10)朝の子孫に伝わる結果となった。

室町幕府の末期には将軍継嗣をめぐる争いが生じた。これは、はじめ子のなかった足利義政が弟(ト)を後継と定めたが、そのちに妻(チ)が(リ)を生んだためである。この対立に管領(ヌ)と四職のひとり(ル)という幕府の有力者間の対立が結びつき、さらに同じく管領家の(11)家・(12)家の相続争いも加わり、諸国の大名も両派にわかれて対立し、1467年には(13)の乱に発展していった。関東でも足利尊氏の子(ヲ)にはじまる鎌倉府が伊豆の(ワ)公方と下総の(カ)公方とにわかれ、鎌倉御所を補佐していて関東管領とよばれていた(14)の家を世襲した上杉家も(ヨ)家と(タ)家とにわかれて対立した。

- 【語群】 1. 問注所    2. 三浦    3. 北    4. 執事    5. 東北院    6. 赤松  
 7. 延喜    8. 貞観    9. 畠山    10. 持明院    11. 応仁    12. 大覚寺  
 13. 南    14. 嘉吉    15. 記録所    16. 得宗    17. 斯波

7 (6137) <中央大> 元寇と日明関係

つぎの文章を読んで、文章中の空欄1～10に入れるのに最も適切な語を正確な漢字で記入しなさい。

1274年に約3万人の元・1( )の混成軍が日本を侵略した。元軍は対馬・2( )をおかし、博多湾に上陸してきた。元軍の新戦法と新兵器によって、わが国の御家人武士は苦戦し、一時は3( )の水城までも後退した。しかしわが武士たちの奇襲を警戒して夜になると船に引きあげた。たまたま大風が発生して大被害をうけ、敵兵は退去した。この戦いを4( )の役と呼んだ。

幕府は元軍の再来にそなえて、博多湾沿岸に上陸を防ぐための5( )を築かせ、水軍を補強していた。また九州地方の御家人を動員して、交代で沿岸警備にあたらせる6( )の制度を強化した。その後元は南宋を滅ぼして中国を統一すると、1281年約14万の兵を東路・江南両軍にわけて、再び日本侵略を試みた。わが国の御家人武士たちは、今度は防備もそなわっていたので遠征軍の上陸を防ぎ、逆に軽船ののって奇襲し、約2か月にわたる攻防戦をくりかえしていたが、そのうちまた大暴風雨によって遠征軍は大損害をうけ、ついに敗退した。元は更に三度目の日本侵略を計画したが、諸事情によって断念した。しかし幕府も西国一帯の防備をつづけ、御家人武士らの負担は重かったにもかかわらず、元軍と二度にわたって戦った彼らの戦功に対し、幕府は7( )の土地をあたえることがほとんどできず、御家人武士たちも戦費の支払いができず、生活は困窮をきわめた。

この戦いののち、日本と元との間には正式の国交はなかったが、貿易はなおさかんにつづけられていた。しかし日本の報復をおそれた元では、日本船との貿易を抑制するようになってくると、武

装商人団となって海賊化するものが生じ、中国・朝鮮の沿岸を荒すようになった。これを彼らは8( )と呼んでおそれていた。この海賊対策のこともあって明では日本と公式の貿易の再開を望むようになり、幕府も貿易の利益に注目し、1401年足利義満は海賊を取締らせ、日明貿易を始めることを決意し、正使僧9( ),副使として博多商人の肥富を明に派遣し、方物を献じて掠奪した中国人を送還した。その結果1404年に10( )を用いる日明貿易が開始されたのである。

## 第13日 中世の政治と対外関係 2

### ●重要用語●

#### □建武の新政（けんむのしんせい）

鎌倉幕府が倒れたのち後醍醐天皇<sup>ごたいご</sup>によって行われた復古政治。建武中興ともいう。1333年から35年までの2年半にわたる。新政府は院政・摂関政治を廃し、天皇親政体制をとった。中央に記録所・雑訴決断所などをおき、地方には国司・守護を併置した。新政は貴族の利益擁護を主眼にし、現実を軽視したため武士層の不満を招き、皇居造営事業などによる増税では農民層の不満をよび、短期間に瓦解した。

#### □南北朝の動乱（なんぼくちょうのどうらん）

南北朝時代の全国的な内乱。一般的には、1331年（元弘元）の元弘の変から、後醍醐天皇<sup>ごたいご</sup>による建武新政、足利尊氏<sup>あしかがたかうじ</sup>による室町幕府の創設を経て、92年の南北朝合一に至るまで、南朝（大覚寺統）と北朝（持明院統）に展開した内乱をいう。この内乱の過程で、守護が任国を領国化し、守護大名となった。

#### □室町時代（むろまちじだい）

一般には、1338年足利尊氏<sup>あしかがたかうじ</sup>による室町幕府創設から、1573年の幕府滅亡までの約240年の時代をさす。足利時代ともいう。なお、応仁の乱（1467～77年）後から1573年までを戦国時代として区別することもある。幕府権力が弱体で、守護大名が台頭してきた時代であった。また郷村制が成立し、土一揆などが頻発するなど庶民の力が伸長した。文化面では、能・狂言・連歌・御伽草子・茶道などが発達をみせた。

#### □応仁の乱（おうにんのらん）

1467年（応仁元）～77年、京都を中心に展開された大乱。8代將軍足利義満<sup>あしかがよしまさ</sup>の後嗣をめぐる養子義視<sup>よしみ</sup>と実子義尚<sup>よしひさ</sup>の争いが発端となり、斯波・畠山<sup>しば はたけやま</sup>両管領家の家督争いもからんで、義視を推す管領細川勝元<sup>ほそかわかつもと</sup>の率いる東軍と、義尚を推す四職山名持豊<sup>やまなもちとよ</sup>（宗全<sup>そうぜん</sup>）の率いる西軍が戦った。全国を二分する長期戦となり、京都は焦土と化し、將軍の権威はまったく失われることになった。この乱以後を戦国時代という。

#### □後醍醐天皇（ごだいごてんのう） 1288～1339

大覚寺統の天皇。両統迭立のなかで、持明院統の花園天皇<sup>はなぞの</sup>のあとを受けて即位。在位1318～39年。21年から親政を行い、北畠親房<sup>きたばたけちかふさ</sup>らの人材を登用、記録所を再興するなど政治の革新につとめた。24年の正中の変、31年の元弘の変と2度の討幕を試みたが失敗し、隠岐に流された。その後33年に隠岐を脱出、鎌倉幕府滅亡後には建武新政を行ったが2年余で瓦解、吉野にのがれて南朝を樹立し、北朝と対立した。皇統譜96代。

#### □足利尊氏（あしかがたかうじ） 1305～1358

下野国足利荘の源氏の豪族出身。はじめ高氏<sup>たかうじ</sup>となつた。後醍醐天皇<sup>ごたいご</sup>と鎌倉幕府が対立した時代の1333年（元弘3），六波羅探題を攻め滅ぼして建武新政第1の功臣となる。35年に鎌倉で天皇にそむき、36年に入京、一度は九州に敗走したが再入京して北朝の光明天皇<sup>こうみょう</sup>を立て、南朝の後醍醐と対立した。38年、征夷大將軍に任ぜられ、室町幕府を創設。

弟直義ただよしらと和戦をくりかえしつつ幕府の基礎を固めた。安国寺・利生塔・天龍寺などを建立。

#### □建武式目（けんむしきもく）

室町初期、足利尊氏あしかがたかうじが定めた幕府の施政方針。1336年に制定。幕政の参考にするための要目で、二階堂是円にかいどうぜえん・真恵兄弟しんえ、玄恵げんえらが尊氏の諮問に答えた形式をとり、17条からなる。当時の社会事情に即応したものが多くみられるが、鎌倉幕府の「御成敗式目」のような御家人に関する具体的な法令ではない。

#### □守護大名（しゅごだいみょう）

南北朝～室町時代に封建領主化した守護。守護は、鎌倉末期から国内の武士の組織化を強め、南北朝以降半済や守護請により荘園・公領を支配して国全体の領主権をもつ大名になった。しかし、幕府の権威に依存し、国内の武士との主従関係が弱く、応仁の乱以降、戦国大名の出現によりその多くは滅亡した。

#### □戦国大名（せんごくだいみょう）

戦国時代、約1世紀にわたって幕府に依存せずに領国支配を行った大名。応仁の乱(1467～77年)後、下剋上の風潮のなかで守護代・国人層が守護大名を倒して戦国大名に成長した者が多い。戦国大名は富国強兵策を推進し、城下町に国人層を家臣団として集住させ、また検地を行って年貢を確保した。

#### □倭寇（わこう）

13～16世紀ごろ、朝鮮半島や中国大陸沿岸を襲った海賊。北九州や瀬戸内海の漁民などが海賊化し、食料品や奴隷の略奪を行った。そのため高麗は衰亡を早め、李氏朝鮮にかわった。倭寇は勘合貿易が整うにつれて自然解消した(前期倭寇)。その後、16～17世紀にかけて出現した後期倭寇は、中国人らが大半であったらしく、ポルトガルとの密貿易をさかんに行っていたとされるが、明による厳重な防護策と、豊臣秀吉とよとみひでよしらの禁止令で衰退した。

#### □勘合貿易（かんごうぼうえき）

室町時代、勘合(勘合符)によって行われた日明貿易。1404年、足利義満あしかがよしみつのとき、倭寇取り締まりのため、勘合の有無により公私の船を区別する勘合貿易を始めた。4代將軍義持よしもちのとき、いったん中止されたが、32年6代將軍義教よしのりのとき再開された。貿易の実権はやがて幕府から大内氏おおうちや細川氏ほそかわに移り、両者の争いが続いた。おもな輸出品は銅・硫黄・金・刀剣・扇など、輸入品は銅銭のほか生糸・絹織物・綿糸などであった。

#### □雑訴決断所（ざっそけつだんしょ）

建武新政で新設された役所。記録所復活とともに設けられ、いずれも訴訟の裁決にあたった。前者が大事を扱うのに対し、決断所は小事を担当。職員には学問にすぐれた公家および武士を起用した。

#### □守護請（しゅごうけ）

室町時代、武士の侵略に悩んだ荘園領主や知行国主が、勢力のある守護に荘園を管理させ、そのかわりに一定率の年貢を納入させた制度。しかし守護は年貢の納入を渋り、しだいに任国を領国化していった。

#### □半済（はんぜい）

南北朝戦乱期の1352年、足利尊氏あしかがたかうじは、荘園や公領の年貢半分を、近江・美濃・尾張の3

国で1年間に限り、兵糧料として現地の武士に給与した。この建武式目追加の臨時徴税法はそれ以後守護や武士の絶好の口実となって恒常化し、全国に広がり、荘園侵略・領国化の方向をたどることとなった。

#### □下剋上（げこくじょう）

下位の者が、上位の者を押しつけて威勢をふるう風潮。とくに南北朝～戦国時代に顕著で、将軍は管領に、守護は守護代に、守護代はその家臣にというように実権が奪われた。土一揆も下剋上の1つ。

### ●発展用語●

#### □分国法（ぶんこくほう）

戦国大名が領国(分国)統治のために独自に制定した法令。家法・戦国家法ともいう。鎌倉幕府の御成敗式目(1232年)を母体としたものが多く、きびしい刑罰規定が特徴。大内家壁書(大内氏掟書)・今川仮名目録・塵芥集・甲州法度之次第(信玄家法)・長宗我部氏掟書(長宗我部元親百箇条)・朝倉孝景条々(朝倉敏景十七箇条)・早雲寺殿二十一箇条などがある。

#### □足利義満（あしかがよしみつ） 1358～1408

室町幕府の3代将軍。尊氏の孫。11歳で将軍となり、管領細川頼之の補佐を受けた。1378年には京都室町に花の御所を造営。有力守護の山名氏らを制圧し、92年に南北朝を合一。のち太政大臣に任ぜられ、大内氏を討ち、権力を拡大、室町幕府による全国統一を実現した。一方、97年には北山に山荘(金閣はその一部)を造営、五山文学・能楽などを保護し、北山文化を形成。また1401年には明との国交を回復し、1404年勘合貿易をおこした。

#### □足利義政（あしかがよしまさ） 1436～1490

室町幕府8代将軍。在職1449～73年。義教の子。実子がなく弟義視を後嗣とした翌年、実子義尚が生まれ、これが主因となって応仁の乱(1467～77年)をひきおこした。乱中、義尚に将軍職を譲り、東山山荘に銀閣を営んで隠棲、義政を中心に東山文化が形成された。

#### □明徳の乱（めいとくのらん）

室町幕府の四職家の1つである山名氏は、一門で11か国の守護職を兼ね、六分一殿(全国の6分の1が領国の意)とよばれる大勢力となった。3代将軍義満は、その勢力を弱めるため、山名一族の内紛を利用して挑発、1391年(明徳2)に反乱をおこした山名氏清らを討ち滅ぼした。乱後、山名氏は3国守護に転落。

#### □永享の乱（えいきょうのらん）

1438年(永享10)、鎌倉公方足利持氏が室町幕府にそむいた事件。29年、足利義教が6代将軍になると、かねてより将軍職を望んでいた持氏は義教に反抗、さらにこれを戒めた関東管領上杉憲実とも不和となった。38年、幕府は持氏討伐のため今川・武田・小笠原氏らの大軍を派遣、39年に持氏は自殺した。

#### □鎌倉公方（かまくらくぼう）

室町時代の鎌倉府の長官。1349年、足利尊氏の4男基氏が東国の鎮めとして鎌倉に入ったことに始まる。4代持氏に至り京都将軍家および関東管領上杉氏双方との対立が深まり



永享の乱となるが、1439年に敗死し、鎌倉府は90年で滅亡した。持氏の4男成氏は、55年に下総古河に移り、古河公方と称した。

□嘉吉の乱（かきつものらん）

1441年（嘉吉元）、播磨守護赤松満祐が6代将軍足利義教を殺し、満祐も幕府軍に討たれた事件。義教が有力守護大名を抑えて幕府の権威を高めようとしたので、満祐はこれに対する危機感から、義教を自邸に招いて謀殺した。管領細川持之が討伐軍をおこし、満祐は山名持豊の大軍に攻められ自殺した。

□応永の乱（おうえいのらん）

1399年（応永6）、大内義弘が室町幕府に対しておこした反乱。義弘は6国の守護を兼ね、また朝鮮貿易によって富を蓄積し、守護として最大の勢力となったために、足利義満と対立した。99年、義弘は鎌倉公方の足利満兼らと結んで乱をおこしたが敗死した。義満の大守護抑制政策の1つであった。

□足利義教（あしかがよしのり） 1394～1441

義満の4男。天台座主から還俗し、室町幕府6代将軍となった。1438年、対立的な鎌倉公方足利持氏を永享の乱で討ち、一色・土岐氏ら守護を滅ぼして万人恐怖の政治を行い、41年に赤松満祐に謀殺された（嘉吉の乱）。

□赤松満祐（あかまつみつすけ） 1381～1441

室町中期の武将。播磨の守護。将軍足利義教が所領を奪ったので危機感をもち、1441年に義教を京都の自邸に招いて謀殺し、播磨に帰った。のち、細川持之・山名持豊らの幕府軍に攻められて自殺した。

□応永の外寇（おうえいのがいこう）

李氏朝鮮は、1419年（応永26）倭寇の害を断とうとして、その本拠の1つと思われた対馬に1万7千の大軍をもって来襲したが、激戦10日間、守護宗貞盛の防戦で撤退した。まもなく室町幕府との和解が成り立ち、以後、宗氏の調停のもとに、1種の勘合貿易（通信符による）が行われるようになった。

## 第14日 中世の社会

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (1401) 最重要年代チェック

{ }にあてはまる年代と語句を答えなさい

- (1) 1426年……近江坂本の{ } }
- (2) 1428年……{ }の土一揆
- (3){ }年……播磨の土一揆
- (4){ }年……嘉吉の乱
- (5) 1441年……{ }の土一揆——地侍が指導
- (6){ }年……山城国一揆——国人が中心, 8年間の自治
- (7){ }年……加賀の{ } (~1580)

### 2 (1402) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)加賀の守護大名。1488年の一向一揆で高尾城を囲まれて自殺した。 { }

### 3 (1403) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

<事 件>

- (1)近江の馬借一揆が発端となり,1428年,山城から畿内一帯に波及した。 { }
- (2)1429年, 播磨国で守護軍の退去を要求しておこった土一揆。 { }
- (3)1441年, 嘉吉の乱の直後, 京都を中心に地侍たちがおこした土一揆。 { }
- (4)1485年, 南山城の国人たちが, 畠山氏両軍を国外に退去させた国一揆。 { }
- (5)1488年, 守護富樫政親を倒し, 以後約100年間, 国内支配を行った。 { }

<事項-鎌倉時代>

- (1)所有地で, 現実に土地や人民を支配する領主のこと。 { }
- (2)武士の荘園侵略手段の1つ。地頭が年貢の徴収を請負った制度。 { }
- (3)武士の荘園侵略手段の1つ。領主と地頭が土地を二分して支配した。 { }
- (4)武士の結合形態。一族を率いる惣領と家子・家人の結びつきをいう。 { }
- (5)武家一族の宗家の長。所領をすべて惣領するという意味が転化した。 { }
- (6)武家社会における惣領制において, 家督相続人である嫡子以外の子。 { }
- (7)武士の守るべき道徳のこと。弓馬の道, 弓矢の習などともいわれる。 { }
- (8)鎌倉時代, 武士の間でさかんに行われた, 弓を用いる3種の技芸の総称。 { }
- (9)騎射三物の1つで, 放たれた犬を馬上から追いかけて射る技芸。 { }
- (10)騎射三物の1つで, 一定間隔に並べられた的を馬上から射る技芸。 { }
- (11)騎射三物の1つで, 的のかわりに笠をさげ, 馬上から射る技芸。 { }
- (12)武士の相続形態の1種。嫡子以外の庶子らも財産を分与される形態。 { }
- (13)荘園の中で領主らが, 下人を耕作に使役させる直接経営地のこと。 { }
- (14)荘園内部で佃など領主・荘官らの直接経営地を耕作した隷属農民。 { }
- (15)律令制下の租にあたる貢租。毎年領主に納め, その率を斗代という。 { }
- (16)律令制下の調にあたる貢納物の1種で, 特産物や手工業品で納めた。 { }
- (17)律令制下の歳役や雑徭にあたる人夫役で, 貢租の運搬などに従った。 { }
- (18)1297年発布の法令。質入・売却された御家人所領を無償返却させた。 { }

〈事項－南北朝～戦国時代〉

- (1) 守護が領主から荘園の経営を任せられ、一定の年貢納入を請負う制度。〔 〕
- (2) 荘園からあがる年貢の半分を、守護に兵糧米として分け与える制度。〔 〕
- (3) 地方に土着し、荘園制を利用して勢力を拡大し、領主層に成長した武士。〔 〕
- (4) 南北朝時代からしだいに発達した名主層を中心とする地縁的な結合形態。〔 〕
- (5) 薪炭や用材、肥料としての刈敷用の草をとるために指定された山野地。〔 〕
- (6) 郷村の名主や百姓が、惣村の結合力を利用して年貢徴収を請負う制度。〔 〕
- (7) 惣の自治的制度を運営するために、村民の代表が集まって開いた。〔 〕
- (8) 寄合によって、入会地の管理や違反・罰則などを規定したもの。〔 〕
- (9) 惣村の自治的政治を運営する役人の1つ。他に番頭や沙汰<sup>さた</sup>人がある。〔 〕
- (10) 正規の手続きを経ず訴え出ること。僧兵の入京や農民の年貢減免要求など。〔 〕
- (11) 農民が、領主に対して耕作を放棄したりして消極的に抵抗する方法。〔 〕
- (12) 惣村を基盤に先進地域で頻発した、経済闘争を主とする農民の抵抗形態。〔 〕
- (13) 畿内周辺地域でおこった、交通業者を中心とする土一揆のこと。〔 〕
- (14) 畿内周辺地域でおこった土一揆で、徳政令の発布を要求するもの。〔 〕
- (15) 地方の国人たちが、自分たちの権益を守ろうとして結成した一揆。〔 〕
- (16) 戦国時代、浄土真宗(一向宗)門徒の国人や僧侶、農民が連合して蜂起した。〔 〕
- (17) 浄土真宗の寺院の境内に発達した都市で、武装的性格が強い。〔 〕

4 (1404) 重要事件・事項チェック

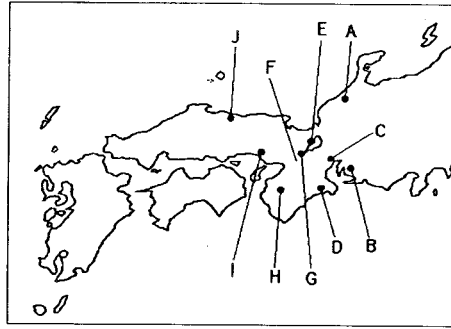
各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項〉

- (1) 矢倉や塀などの防御施設を備えた、武士の住宅建築様式。〔 〕
- (2) 武芸の修練のために、獣を追い出して弓矢で仕止める大規模な狩猟。〔 〕
- (3) 鎌倉時代、武家の間に広まった婚姻形態で、女が男の家に入ること。〔 〕
- (4) 鎌倉時代の身分制の中で、武士以外の一般庶民や農・商工民のこと。〔 〕
- (5) 荘園領主や名主から土地を借りて耕作(請作)をする農民。〔 〕
- (6) 神社の氏子組織で、氏神の祭祀や豊作祈願を行った。惣結合の中心。〔 〕
- (7) 農民の抵抗形態の1つで、領主に対して年貢の減免などを嘆願した。〔 〕
- (8) 惣が数か村、郷として連合したもの。荘園制下の村落と区別してよぶ。〔 〕
- (9) 惣の成員でありながら大名などと主従関係を結び、侍身分を得た者。〔 〕
- (10) 古代から江戸時代まで行われた処罰法。犯罪者の関係者も処罰した。〔 〕
- (11) 古代から江戸時代まで行われた処罰法。犯罪者の親族も処罰した。〔 〕

5 (1405) 最重要地名チェック

ことがらにあてはまる記号を地図から選んで答えなさい



- (1)東郷荘(下地中分の絵図) [ ]
- (2)阿氏河荘(地頭湯浅氏の非法) [ ]
- (3)正長の土一揆(徳政を要求) [ ]
- (4)嘉吉の土一揆(嘉吉の乱直後) [ ]
- (5)近江坂本の馬借一揆 [ ]
- (6)加賀の一向一揆(富樫政親をたおす) [ ]
- (7)山城国一揆(8年間の自治) [ ]
- (8)播磨の土一揆 [ ]
- (9)三河の一向一揆 [ ]
- (10)長島の一向一揆 [ ]

6 (1406) <明治大> 中世における庶民勢力の台頭

次の文章を読み( )の中に入る適当な語句を漢字で記入しなさい。

鎌倉時代から室町時代にかけて武士の権力の強大化、農民の自立化、さらには農業生産力の上昇によって農村は大きく変貌していった。荘園領主と地頭・武士との間で荘園管理をめぐる紛争がたえず、荘園領主の支配権は狭まっていった。たとえば地頭に荘園を管理させる①( )、さらには地頭と折半して土地・農民を支配する②( )などが多くみられるようになった。そしてしだいに荘園は崩壊していった。いっぽう農民側においては中小名主の台頭、作人層の出現によって村落単位で自治的性格を強めていった。それが惣村である。惣村では村落民が肥料や燃料などのための共同利用地である③( )を保有し、また灌漑用水などを自主的に管理していった。惣村では④( )などと称する自治法を定め、これに違反するものに対しては相応の処罰をするいわゆる⑤( )を行うことがあった。この惣村は名主層、有力百姓層によって運営された。彼らは⑥( )などとよばれた。また村落結合の結節点としての神社の祭祀組織⑦( )などもつくられる場合があった。惣村を形成し連帯を強化した農民は年貢減免要求、不法な代官の罷免を要求するなどして自分たちの生活を守ろうとした。そのために強訴、耕作を放棄する逃散など、さらには一揆にまでおよんだ。1428年近江で蜂起した一揆は興福寺大乘院の僧⑧( )の書いた日記『大乘院日記目録』のなかで「凡そ亡国の基、これに過ぐべからず、日本開白以来、土民蜂起是れ初めなり」と述べているように大規模なものであった。その後においても1485年に⑨( )に引きいられて農民が蜂起し、畠山政長・義就の両軍の退却、新関の撤廃などを要求した山城国一揆、1488年に守護⑩( )を倒し、1世紀近く加賀一国を支配した一向一揆などが大規模なものである。

## 類題トレーニング(6140)

### 1 (6141) <関西学院大> 鎌倉時代の荘園制の変遷

次の文章を読み、設問に答えなさい。

ア( )の解体にともない、本格的に発展した荘園制に変質をもたらす重要な契機となったのは、鎌倉幕府の成立である。源朝頼による守護・地頭の設置、ついでイ( )ののちのウ( )の設置などにより、幕府はこれまでの東国政権的性格を脱し、畿内・西国へ支配権を拡大した。そして幕府に統轄される御家人は、①荘園・国衙領にその勢力を伸張していった。こうした状況のもとで御家人と②荘官との間では、土地・農民の支配をめぐる激しい対立がひき起こされるようになった。彼らの収取の対象となる当時の農村は、エ( )・小百姓・下人らによって構成されていた。農民は、荘園領主に対する年貢・公事・オ( )のほか、御家人や荘官の得分であるカ( )も納入しなければならなかった。しかも御家人や荘官は、カ( )以外にさまざまな名目をつけて、農民に負担を負わせた。しかしながら③農業技術の進歩とともに、農民はしだいに力をつけ、不当な課役やきびしい取立てに対し④抵抗を始めるようになったのである。

[設問]

A. 空欄のア～カは、下記の中からそれぞれもっとも適当なものを選んで、頭書の記号をマークしなさい。該当するものがないときはeをマークしなさい。

ア. a. 院政    b. 律令体制    c. 摂関政治    d. 平氏政権    [   ]

イ. a. 治承・寿永の乱    b. 源義経の追捕    c. 奥州藤原氏の滅亡    d. 比企の乱    [   ]

ウ. a. 関東御領    b. 新補地頭    c. 本補地頭    d. 鎮西探題    [   ]

エ. a. 名主    b. 田堵    c. 所従    d. 良民    [   ]

オ. a. 段銭    b. 賃租    c. 夫役    d. 定免    [   ]

カ. a. 加地子    b. 加徴米    c. 兵糧米    d. 役料    [   ]

B. 下線①～④について、それぞれ設問に答えなさい。答は頭書の記号をマークしなさい。該当するものがないときはeをマークしなさい。

① 下地中分のほかに、彼らが勢力を拡大していった手段を選びなさい。    [   ]

a. 成功    b. 半済    c. 守護請    d. 地頭請

② 下記の中で、荘官職でないのはどれか。    [   ]

a. 郎等(党)    b. 預所    c. 公文    d. 下司

③ 当時の農業技術の進歩を示すものはどれか。正しいものを選びなさい。    [   ]

a. 麦を裏作とする二期作が発展した。

b. 牛馬の使用が普及した。

c. 干<sup>ほしか</sup>鯛・草木灰・刈敷など、肥料が使用された。

d. 鎌・鋤・千齒<sup>ちご</sup>抜きなど、農具の改良がおこなわれた。

④ 当時の農民の抵抗の手段のうち最初のものはどれか。    [   ]

a. 土一揆    b. 国一揆    c. 徳政一揆    d. 百姓一揆

### 2 (6142) <日本大> 南北朝～室町の農村

次の問題文を読み、文中の空欄(1    )～(5    )に下記の〔語群〕から、もっとも適合する語を選び、その記号を記入しなさい。

問題文

南北朝の動乱期から室町時代にかけて、畿内やその周辺の地域では、小百姓や下人がそれぞれ独立して小規模の農業を営むことが一般的になり、これらの農民の相互の結びつきが強くなると、(1    )とよばれる村落の自治組織が発達した。このような村落では、農民が共同で利用する入会

地や用水の管理も農民が共同で行ない、村の重要事項は(2 )によって決定した。村内では(3 )とよばれる有力名主が指導者となって自治が運営され、領主や守護の支配に抵抗し、武装して立ちあがり、(4 )をおこすこともあった。また(5 )といって領主への年貢納入を請負うことも広く行なわれた。

- 〔語群〕 A. 地下人 B. 惣 C. 村人の投票 D. 下地中分 E. 土一揆  
 F. 輪番制 G. 年寄 H. 寄親 I. 村請 J. 半済 K. 地下請  
 L. 惣領制 M. 守護請 N. 越訴 O. 村民の寄合 P. 会合衆  
 Q. 庄屋 R. 指導者の独断

3 (6143) <関西学院大> 室町期の一揆

次の文を読み設問に答えなさい。

土一揆は、南北朝の動乱期をへて荘園領主の勢力が衰え、守護大名の成長していく過程の中で、農業の進歩によって自立してきた農民たちが、その団結の力で荘園領主や守護大名に対抗し、自己の経済的な利益を守ろうとして蜂起したものである。このうち、①正長の土一揆はわが国最初の土民蜂起といわれているが、②近江の③馬借一揆にはじまり、畿内及びその近国にまで波及し、酒屋、④土倉、寺院などをおそい中央を動揺させた。⑤山城の国一揆では守護⑥( )氏の内争を機に、⑦( )や農民が立ち上り、前後8年間にわたって⑧一国を支配する勢いを示した。加賀の一向一揆は、浄土真宗を信ずる農民の一揆で、その力をついに守護⑨( )氏を倒し、⑩教団による支配が約1世紀間にわたるものであった。

〔設問〕

- ① このおこった年を次の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 1354年 b. 1428年 c. 1457年
- ② 中心となった地を次の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 膳所 b. 坂本 c. 高島
- ③ 下記よりこの語を最もよく説明していると思われるものを1つ選びなさい。 [ ]  
 a. 鎌倉末期より広く出現した運送業者、馬の背を利用して物資を輸送した。  
 b. 鎌倉から南北朝ころにかけて出現した高利貸。名主、僧侶出身者が多い。  
 c. 平安末期から出現した専門の運送業、倉庫業者。
- ④ 下記よりこの語を最もよく説明していると思われるものを1つ選びなさい。 [ ]  
 a. 荘園から徴収した年貢の保管・輸送に当たった者で、港に倉を多く所有したところからこの名を持つ。  
 b. 店頭に商品を並べて販売した商人。鎌倉末より盛んとなった。商品保管の倉を持っていたところからこう呼ばれた。  
 c. 鎌倉、室町時代の金融業者。質物保管のための土蔵からおこった名。
- ⑤ この一揆のおこった時期を次の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 14世紀後半 b. 15世紀前半 c. 15世紀後半
- ⑥ 何氏か、次の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 細川(氏) b. 畠山(氏) c. 斯波(氏)
- ⑦ 最も適当な語を次の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 国人 b. 馬借 c. 土民
- ⑧ 山城国一揆で申合せたとりきめの1つを次の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 荘園領主の土地はすべて農民のものとする。  
 b. 守護によって新しく設けられた関所はすべて廃する。  
 c. 守護以外の武士の国内に入ることを禁ずる。
- ⑨ 何氏か、次の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 朝倉(氏) b. 富樫(氏) c. 小杉(氏)
- ⑩ 教団の中心寺院の名を次の中より選びなさい。 [ ]  
 a. 本願寺 b. 永平寺 c. 興福寺大乘院

4 (6144) <関西学院大> 武士の荘園侵略

次の文は阿<sup>あてがわ</sup>氏河荘民の訴状である。この文を読み設問に答えなさい。

御材木ノコト、アルイワ①地頭ノ京上、アルイワ下向トマウシ、②カクノコトクノ人フヲ、地頭ノカタエセメツカワレ候ヘハ、テマヒマ候ワス候、ソノノコリ、ワツカニモレノコリテ候人フヲ、③材木ノ山出シエ、イテタテ候ヘハ、④テウマウノアトノ麦マケト候テ、ヲイモトシ候イヌ、俺等カコノ麦マカヌモノナラハ、メコトモヲヲイコメ、ミミヲキリ、ハナヲソキ、カミヲキリテ、アマニナシテ、縄ホタシヲウチテ、⑤サエナマント候ウテ、セメセンコウセラレ候アイタ、⑥御材木イヨイヨヲソナワリ候イヌ、ソノウエ百姓ノ⑦在家一字、地頭殿エ毀取り候イヌ⑧⑨⑩

〔設問〕

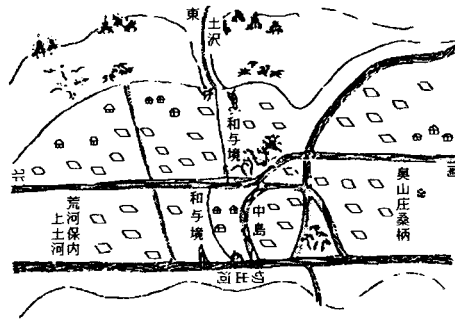
- ① 具体的に如何なることを指すか。次の中より選びなさい。 [ ]  
イ. 義経追捕のため京上すること。  
ロ. 承久の乱で京上すること。  
ハ. 京都大番役で京上すること。
- ② このような労役提供を何というか。次の中より選びなさい。 [ ]  
イ. 夫役 ロ. 雑徭 ハ. 公事
- ③ このように現物で領主に納める雑税を何というか。次の中より選びなさい。 [ ]  
イ. 年貢 ロ. 公事 ハ. 夫役
- ④ この言葉と内容的に一致する語を次の中より選びなさい。 [ ]  
イ. 逃散 ロ. 飢饉 ハ. 火災
- ⑤ こうした行為をとるのは誰か。次の中より選びなさい。 [ ]  
イ. 荘官 ロ. 荘園領主 ハ. 地頭
- ⑥ 誰に納める材木か。次の中より選びなさい。  
イ. 荘官 ロ. 荘園領主 ハ. 地頭
- ⑦ この言葉と内容的に一致する語を次の中より選びなさい。 [ ]  
イ. 在所一円 ロ. 家屋敷一軒 ハ. 耕地全体
- ⑧ この荘園の所在国名を次の中より選びなさい。 [ ]  
イ. 河内国 ロ. 伊勢国 ハ. 紀伊国
- ⑨ ⑧に答えた国は、律令制下の行政組織のいずれに属するか。次の中より選びなさい。 [ ]  
イ. 畿内 ロ. 東海道 ハ. 南海道
- ⑩ この訴状の出された時期を次の中より選びなさい。 [ ]  
イ. 12世紀前半 ロ. 13世紀後半 ハ. 14世紀後半

5 (6145) <千葉大> 荘園と境界紛争

次の荘園絵図をみて、設問に答えなさい。

〔設問1〕 この絵図はいつ頃の様子を示すものか。次のうちから、正しいものを選びなさい。答は、番号で答えなさい。 [ ]

1. 平安時代前期    2. 平安時代後期    3. 鎌倉時代前期  
4. 鎌倉時代後期    5. 室町時代前期    6. 室町時代後期



※ 絵図には修正したところがある。  
また保は国術領の一単位である。

〔設問2〕 この絵図から歴史的にいかなる状況を読みとることができるか。50字以内で説明しなさい。

6 (6146) 〈同志社大〉 平安から室町の農業の発達

次の文章は農業の発達にかんするものである。これを読んで( )の中にもっとも適当な語句を下記の語群からえらび、その記号を記しなさい。語句の使用は1回限りとする。

平安時代の耕地にはa( )と称されて、一定の期間耕作を中止して地力の回復を図るといふ不安定な耕地が多かった。そのために、農業生産を高めるには耕地面積を増大させる荒野の開発が、有力農民や在地領主によって進められた。のちに鎌倉幕府に用いられた法律用語の解説書で、訴訟文書の用例を示した「沙汰未練書」の中の「b( )とは、往昔以来、開発領主として、武家の御下文を賜わる人の事なり」という規定は、このことを示している。鎌倉時代、在地領主は粗放な農業経営を安定させようと、強制的に農民の労働力を投入しようとした。紀伊国のc( )荘において地頭が「ミ、ヲキリ、ハナヲソキ」という暴力により、農民を駆使しようとしたことは有名である。またこの荘園では「テウマウノアトムキマケト候テ、ヲイモトシ候イヌ」という事件もあり、鎌倉幕府の追加法に「諸国の百姓、田稻を刈り取るの後、其の跡に麦を蒔き、田麦と号す」とあるように、二毛作はd( )期以来普及してきた。在地領主の屋敷は一般的にはe( )と呼ばれ、屋敷内の池や川から周辺の門田に配水された。在地領主は用水の統制をおこなったが、領主勢力の弱い地域では一般の農民が用水の管理に参加し、村落間や村落内に給水秩序を確立していった。鎌倉時代から室町時代にかけての農業技術の発展は多品種の作物を生み、稲は比較的寒冷な東国に栽培されたf( )、畿内のg( )に加えて、全国的にh( )が普及していったといわれ、農民はよりすぐれた品種によって、自然災害や病虫害の危険を防ごうとしたのである。肥料も青草を作物にしきこむi( )や、速効性の人糞尿、カリ・燐酸肥料であるj( )の普及が、耕地の安定性を高め、農耕具の改良とあいまって農業生産の発展はいちじるしいものがあった。

- 〔語群〕 1. 守護 2. 乾田 3. 阿氏(弓)河 4. 鎌倉時代中 5. 堀之内  
6. 晩稲 7. ゆい 8. 御家人 9. 東郷 10. 刈敷 11. 御内人  
12. 早稲 13. 干鰯 14. 平安時代後 15. 年荒 16. 逃散 17. 中稲  
18. 甲乙人 19. 奥山 20. 草木灰 21. 油かす 22. 佃 23. 沙汰人  
24. 平安時代中 25. 迫田 26. 米場 27. 千齒扱 28. 正作田



## 第14日 中世の社会

### ●重要用語●

#### □郷村制（ごうそんせい）

中世のなかばから荘園村落にかわって形成され始め、江戸期に及んだ農村社会の体制。中世のものを惣村、近世のものを郷村とする説もある。生産力が向上し、力をもった農民は乙名らの村役人を中心に、自治的組織の惣村を形成した。複数の村が自治的に団結したものもあり、年貢納入の共同請負方式が始まり、領主らの不法には一揆などで抵抗した。近世初期には武装解除され、江戸幕藩体制に組み込まれていった。

#### □正長の土一揆（しょうちょうのつちいっき）

1428年（正長元）、近江坂本の馬借（運送業者）が、徳政を要求して一揆をおこし、続いて京都周辺の土民が蜂起して酒屋・土倉・寺院等を襲い、質物を奪い借用証文を破棄した。大規模で本格的な一揆で、土一揆の始まりとされる。一揆は各地に波及し、翌年には守護赤松氏と戦う播磨の土一揆がおこった。

#### □嘉吉の土一揆（かきつのつちいっき）

1441年、嘉吉の乱の直後に京都でおこった土一揆。嘉吉の乱で將軍足利義教が赤松満祐に殺され、幕府軍が赤松討伐に出陣した隙について、下級武士に指導された近江の馬借を中心とする数万の農民が蜂起し、京都の出入口をおさえ、酒屋・土倉・寺院等を襲い、幕府に徳政令の発令を要求し、その目的を達した。

#### □山城国一揆（やましろのくにいっき）

応仁の乱（1467～77年）後も、畠山義就と政長が南山城で戦ったが、1485年、同地方の国人（土豪的な領主）は農民の協力も得て寄合を開き、36人の代表者を選んで、両畠山軍の退去を要求するとともに、国人の合議による山城国の自治的運営などをとりきめた。この自治体は惣国とよばれ約10年間続いた。

#### □加賀の一向一揆（かがのいっこういっき）

蓮如の出現により、北陸地方で急速に普及した浄土真宗（一向宗）は、農民も国人（土豪的領主）をも門徒とし、村々の支配権を握った。1488年、加賀の門徒は守護の富樫政親と戦って自殺させた。加賀1国は山科本願寺の領国となり、以降約1世紀にわたり、門徒の農民・国人と坊主との合議で支配された。

#### □下地中分（したじちゅうぶん）

中世、荘園を地頭と荘園領主で分割支配すること。鎌倉時代中期、地頭の年貢・土地横領などで荘園領主との間に紛争が絶えなくなったため、荘園を二分し、互いにその領有を認めて侵犯を避けようとした。その後、下地中分は急速に増加し、地頭が荘園支配権をいっそう強化して、荘園制の衰退を導いた。

#### □地頭請（じとううけ）

鎌倉時代、国衙領や荘園内に地頭が配置されると、地頭と領主や国衙との間に、年貢の納入や土地支配権をめぐる争いが頻発した。このため地頭と領主・国衙の紛争防止の手段として、年貢を地頭の請負制にして土地の支配を地頭に一任する方法がとられるようになった。

た。これを地頭請または地頭請所といった。しかし、これにより地頭の領地侵害は激化し、領主の荘園支配力は減退した。

#### □地下請（じげうけ）

荘園の年貢・公事の納入を、百姓が共同で請け負うこと。鎌倉時代中期以後、守護・地頭の力が強くなり、荘園領主への年貢を横取りするようになったため、領主が年貢確保のために始めたが、室町時代になると、すべての年貢・公事を百姓が請け負うことが広く行われるようになった。百姓請ともいう。

#### □一向一揆（いっこういっき）

戦国時代、一向宗（浄土真宗）門徒による一揆。国人・名主・農民らの惣村的結合で組織を強化した門徒が、領国支配の強化をはかる守護大名・戦国大名と対立しておこした。北陸・東海・畿内などで頻発し、1580年に石山本願寺が織田信長おだのぶながに降伏するまで続いた。とくに1488年の加賀一向一揆は有名。

#### □土一揆（つちいっき）

「どいっき」ともいう。土民一揆の略か。室町中期、農民を中心に土着の武士層こくじん（国人）も加わって、年貢や公事・夫役の減免や徳政発布などの経済的要求を掲げて支配層に反抗した。荘園制の崩壊、郷村制の成立、貨幣経済の農村への浸透などがその背景となった。1428年の正長の土一揆は大規模・本格的で、徳政を要求して京都に乱入し、畿内近国に波及した。15世紀末には戦国大名の強圧下に鎮静化に向かった。

#### □悪党（あくとう）

鎌倉時代から南北朝時代にかけて、幕府や荘園領主に反抗して活動した中小武士団・地頭らの呼び名。幕府の取り締まりも効果は少なく、幕府の支配体制や荘園制を揺るがした。  
くすのきまさしげ  
楠木正成もその1人という。

#### □国人（こくじん）

南北朝～戦国時代の在地領主。もとは国衙領の有力名主層をさす。鎌倉中期以後は地頭・荘官・有力名主をさし、室町時代には守護大名の被官や国一揆の中核ともなり、のち戦国大名の家臣団に結集した。

#### □徳政（とくせい）

もともと課役免除などの善政をいうが、1297年に鎌倉幕府が出した御家人救済の永仁の徳政令のころから、債権債務の破棄令発布を意味するようになった。15世紀の土一揆は徳政を要求する徳政一揆が多かった。

### ●発展用語●

#### □惣（そう）

南北朝時代から室町時代にかけて発達した農民の自治組織。畿内およびその周辺の比較的生産力の高い地域から広まった。入会地・灌漑施設の管理や、戦乱からの防衛などを目的として形成され、その最小単位は村で、有力名主のなかから選ばれた長おどな・年寄おどな・乙名・沙汰人らを中心として運営された。

#### □寄合（よりあい）

南北朝時代ごろから発達した惣を自治的に運営するために設けられた協議体。有力名主が中心となって定期的に会合し、村掟・農事いりあい・入会などの共同行事を定めた。ときには一揆

の決定もした。

□宮座（みやざ）

おもに中世にみられる村落の祭祀組織。座員は上層名主や富裕民で、長老はおとな衆または年寄衆などとよばれた。座や惣の母胎として近畿地方を中心に盛行した。近世に入ると氏子全員が参加する氏子制が主流となった。

□講（こう）

宗教的・経済的な組織。本来は学僧による経論講読の会を意味したが、やがて1種の信仰集団をさすようになった。中世、相互金融の役割も果たし、近世には頼母子講など経済的な講組織があらわれた。

□頼母子（たのもし）

鎌倉時代以降の共済的な金融制度。無<sup>むじん</sup>尽ともいう。発起人である親と講中(仲間)が一定の金子や米を出し合い、くじ引き・入札などで順次掛金・掛米を借りる仕組みで、江戸時代に盛行した。

□会合衆（えごうしゅう）

室町時代の都市の自治組織の指導者。一般には富裕な商人数名～十数名の合議制で町政を運営。年寄・老中ともよばれる。堺の会合衆は著名で、納屋衆ともよばれた。伊勢国の桑名・大湊などにもあった。

□阿氏河荘（あてがわのしょう）

和歌山県有田郡の有田川沿いにあり、寂楽寺領から円満院領、のち高野山領となった荘園。「ミ、ヲキリ、ハナヲソキ」という地頭の暴力的支配の窮状を訴えた、1275年の上村百姓のカタカナ言上状は有名。

□分一銭（ぶいちせん）

室町幕府の徳政令のなかには、債権・債務の5分の1または10分の1を幕府に上納させて、債権の確認や債務の破棄を認めるものがあつた。これは分一徳政とよばれて、1454年から行われたもので、徳政要求の一揆との関連が強い。

□貫高（かんだか）

年貢の収納高を銭で表し、一定の土地の広さを示す方法。商品経済が広まり始めた鎌倉時代ごろからおこつた。貫高は、土地の収穫高とは直接関係はなく、同一面積で同一収穫高のある土地でも、税率が違えば貫高は異なる。江戸時代に用いられた石高は一定の土地の収穫高をもとにしたもの。

□凡下（ぼんげ）

鎌倉時代の庶民の呼称。甲乙人ともいい、公武階級に属さない農民・商工業者をさす。幕府法上、侍とは厳重に区別され、乗馬の禁止や服装の制限などがあつた。刑法上でも差別を受けた。

□下人（げにん）

平安～鎌倉時代に、荘園内の武士・荘官・名主などの私有地の耕作・雑事などに使役された隷属民。相続・売買の対象とされた。中世後期からしだいに自立し、一家を営む者も出てきた。

## 第15日 中世の産業経済

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (1501) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項－鎌倉時代〉

- (1)鎌倉時代に畿内や山陽道などで行われた、麦を裏作とする農業形態。〔 〕
- (2)中世に一般化した肥料の1種。刈り取った草を地中に埋めて腐敗させた。〔 〕
- (3)鎌倉時代以降、月に数回の割合で荘園内や交通の要地などで開かれた市。〔 〕
- (4)鎌倉時代に一般化した定期市で、月に3回の割合で開設された。〔 〕
- (5)日宋間の私貿易で大陸から流入した銅銭。国内でさかんに流通した。〔 〕
- (6)鎌倉時代から南北朝時代にかけてあらわれた専門の高利貸業者。〔 〕
- (7)遠隔地間の交易・取引に手形を用いる制度。13世紀初期に始まった。<sup>かえぎに</sup>替銭ともいう。〔 〕
- (8)多くは港湾などにおかれ、荘園から徴収した年貢を保管・輸送した。〔 〕
- (9)鎌倉時代、無尽などとともに発達した庶民金融・相互金融制度。〔 〕

〈事項－南北朝～戦国時代〉

- (1)早稲・中稲などともに、稲の収穫時期の差を示す品種の区別。〔 〕
- (2)室町時代、先進地域にみられた農業形態で、稲と大麦・小麦とそばなどを耕作した。〔 〕
- (3)平安時代末期以降にさかんとなった商人で、呼び売りして歩く者。〔 〕
- (4)室町時代にさかんになった商人で、背負道具をもち行商に出る人々。〔 〕
- (5)室町時代に発達した定期市で、月6回の割合で開かれた。〔 〕
- (6)室町時代、京都の三条や七条などに開設された、米専門の市場。〔 〕
- (7)中世に発展した商業形態の1つで、店頭に棚を出して販売する所。〔 〕
- (8)浄土真宗の寺院の境内に発達した町で、石山本願寺などが有名。〔 〕
- (9)戦国時代、大名の居城(城郭)を中心に発達した計画的な都市。〔 〕
- (10)桑名・兵庫などのように、海上交通の要地に発達した港湾都市。〔 〕
- (11)善光寺の長野などのように、寺社の門前市から発達した都市。〔 〕
- (12)宿駅を中心に発達した町。室町時代は島田宿・三河矢作宿などが有名。〔 〕
- (13)中世に発達した商工業者の同業組合のこと。本所の保護をうけた。〔 〕
- (14)石清水八幡宮を本所とした、灯油用の<sup>えごま</sup>荏胡麻油の大規模な座。〔 〕
- (15)北野神社を本所として発達した座。<sup>きおんしゃ</sup>祇園社の綿座などとともに有名。〔 〕
- (16)勘合貿易でわが国に輸入された銅銭。標準的貨幣として流通した。〔 〕
- (17)室町時代後期以降、領国内の土地の広さを銭納による年貢で統一的に表示した方法。〔 〕
- (18)室町時代、京都や奈良を中心に発達した金融業者。倉役を負担した。〔 〕
- (19)鎌倉時代から発達した酒造業者で、その多くは土倉業を兼ねていた。〔 〕
- (20)室町時代、死者の供養のために建築修理費として寺に寄進した銭。〔 〕
- (21)取引の円滑化をはかるため、室町幕府や戦国大名が発布した法令。〔 〕
- (22)問丸が専門の卸売商人に発展したもので、交通の要地におかれた。〔 〕

□23 大津や坂本など交通の要地に発達した、馬を主体とする交通運輸業者。

[ ]

□24 中世、幕府や寺社・公家などが、交通税をとるために設置した。

[ ]

**2** (1502) 重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項〉

□(1) 祇園社に隷属した賤民で、行商や弓矢の製作などに従事した。

[ ]

□(2) 開設された市での特定商人の販売座席のこと。販売を独占した。

[ ]

□(3) 流通した多くの銭貨のなかから、悪銭を嫌い、良銭を選びとること。

[ ]

□(4) 馬借とともに中世に活躍した交通運輸業者で、荷車が使用された。

[ ]

□(5) 北陸や瀬戸内の沿岸を中心に、海上行商や輸送を行った船。

[ ]

□(6) 室町時代、土倉に課された税で、幕府の重要な財源の1つ。

[ ]

□(7) 室町時代、酒屋に課された税で、幕府の重要な財源の1つ。

[ ]

□(8) 堺の町政を自治的に運営した36人の豪商。その多くは貿易商人。

[ ]

□(9) 京都などにみられ、自治的・自衛的共同体を結んだ商工業者のこと。

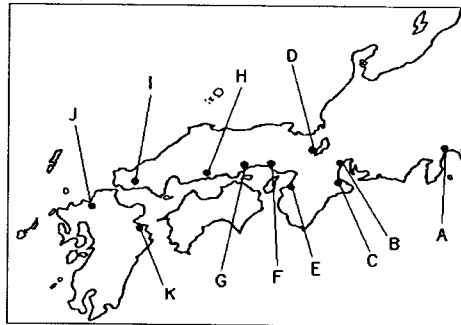
[ ]

□(10) 博多では、12人の豪商らが月ごとに交代で役につき執政された。

[ ]

**3** (1503) 最重要地名チェック

ことがらにあてはまる記号を地図から選んで答えなさい



□(1) 福岡荘(一遍上人絵伝には福岡の市)

[ ]

□(2) 堺(和泉国の港町, 会合衆による自治)

[ ]

□(3) 博多(筑前国の港町, 日明貿易)

[ ]

□(4) 府内(大友氏の城下町, 現在の大大分市)

[ ]

□(5) 山口(大内氏の城下町)

[ ]

□(6) 宇治・山田(伊勢神宮の門前町)

[ ]

□(7) 小田原(北条氏の城下町)

[ ]

□(8) 桑名(伊勢湾にのぞむ港町, 十楽の津)

[ ]

□(9) 坂本(延暦寺の門前町, 馬借の拠点)

[ ]

**4** (1504) 重要地名チェック

ことがらにあてはまる地名を答えなさい

□(1) 和泉国の港町。会合衆による自治が行われ、勘合貿易などで栄えた。

[ ]

□(2) 筑前国の港町で、12人の豪商が自治的運営にあたった。

[ ]

□(3) 大内氏の城下町。京文化が流入し、出版事業などが行われた。

[ ]

□(4) 石山本願寺の寺内町。江戸時代には「天下の台所」といわれた。

[ ]

□(5) 伊勢神宮の門前町。武士や庶民に伊勢信仰が広まるにつれ発展した。

[ ]

□(6) 延暦寺の門前町。年貢や物資が集積し、馬借の拠点として発展した。

[ ]

□(7) 平安時代末期の大輪田泊のこと。中世を通じて畿内の要港として発展。

[ ]

- (8)北条氏の城下町。江戸時代には東海道の宿場町として繁栄した。 [ ]
- (9)薩摩半島南西部の港町。対明・琉球貿易の拠点として繁栄した。 [ ]

5 (1505) <聖心女子大> 中世の社会経済

次の文章の空欄に適切な語句を入れなさい。

中世になると、稲の収穫後の水田に1( )を裏作する二毛作が、2( )地方やその周辺に行われ、次第に各地に普及していった。都市の近郊では野菜の栽培も盛んになり、各地で開墾や灌漑施設の整備がすすめられ、農業の技術も進んで生産が増加した。手工業も発達し、各地に生産の中心地が生まれてきた。紙は東海地方の3( )国や、中国地方の4( )国、陶器は尾張国の5( )、油は山城国の6( )などが生産地としてよく知られている。農業や手工業の発達に伴い、商業も盛んになり、月に三回ひらかれる7( )、さらには六回ひらかれる8( )のような定期市がみられるようになり、都市には常設の9( )が発達した。荘園の年貢の保管・輸送などを行う10( )が交通の要地におこり、のちには、商品の卸売を専業に営む11( )が多くあらわれた。商工業の盛んな地方には、公家・寺社を12( )としてあおぎ、その保護をうける商工業者の座が結成された。商工業の発達は、交通・運輸の発達をうながし、13( )・14( )という運送専業者が、近江国の15( )・16( )のような、京都や奈良に近い交通の要地に出現した。貨幣もひろく流通したが、それはわが国で鑄造されたものではなく、17( )の国や、その後の18( )の国から輸入した銅銭であった。のちに輸入が減少すると、粗悪な国内産の私鑄銭などが出まわり、良質の銭を選ぶ19( )が行われて経済的混乱がおきたので、取引きの円滑をはかる政策がとられたりした。貨幣の流通がすすむにつれて、20( )といわれた金融業者があらわれ、のちには、21( )・22( )が幕府の保護をうけて金融業を営んでいた。こうした中世の経済発展をになった多種多様な職人や商人の働く姿は、たとえば23( )に描かれた絵などにみることができる。

## 類題トレーニング(6150)

### 1 (6151) <立命館大> 鎌倉時代の産業・経済の発展

次の文章の空欄A( )～O( )に、適当な語句を次の語群の中から選んで符号で答えなさい。

鎌倉時代のわが国は、貴族や武士が住み、また大きな神社や寺院が集まっていた京都・奈良・A( )などの都市のほかには、港湾や河川の要衝に小都市が発達しつつあったくらいで、そのほとんどが農村や漁村で占められていた。山間部の村落では林業もさかんとなり、B( )は日本からの重要な輸出品でもあった。漁業も発達して新しい漁法もあみだされた。しかしなんといっても生産活動の中心は、やはり農業であった。谷池を築く技術も発達して、比較的小規模な池が数多く築造され、扇状地帯での開墾が進んだ。稲の品種改良に支えられてC( )地方など温暖な地域でのD( )もさかんとなり、施肥の改良、『松崎天神縁起絵巻』や『大山寺縁起絵巻』にも描かれているようなE( )も普及し、生産力がたかまった。また前代にさかんに行われていた穂首刈りの方法はほとんど消滅して、F( )の方法がそれに代わり、これによって脱穀作業が高度化した。このようにして稲の収穫量は増加したが、その大半はG( )として都市に送られ、貴族・武士・神官・僧侶などの生活にあてられたり、職人による手工業生産の原料となった。鎌倉時代で注目しなければならないのは畑作の発展であり、麦のほかに桑・<sup>こうぞ</sup>楮・藍・H( )などがさかんに栽培され、I( )・真綿・麻布・和紙・染料・J( )などが農民の副業として発展した。畠・菜園や河川などでの特産物はK( )として領主に納めねばならなかったが、現物ではなく銭にかえて納めることが多くなり、そのために各地に市場が設けられていった。鎌倉時代の市場は月にL( )開かれるのが普通であった。『一遍上人絵伝』には備前国M( )における市日のにぎやかなありさまが描かれている。特産物は原料のまま都市に流入することも多く、それがまた職人による手工業生産を活発にした。同業職人の組織をN( )といい、O( )を本所とする大山崎油座はその典型である。

- ㊶裏作 ㊷鎌倉 ㊸夫役 ㊹地子 ㊺3回 ㊻硫黄 ㊼牛耕 ㊽八坂神社 ㊾座  
 ㊿木綿 ㊽公事 ㊿瀬戸内 ㊿木炭 ㊽年貢 ㊿楽座 ㊿6回 ㊿桂胡麻 ㊿福岡荘  
 ㊿博多 ㊿奥山荘 ㊿油 ㊿材木 ㊿焼畑 ㊿生糸 ㊿二毛作 ㊿北野神社  
 ㊿根刈り ㊿正税 ㊿株仲間 ㊿庄内 ㊿煙草 ㊿二期作 ㊿黒田荘 ㊿堺 ㊿金肥  
 ㊿石清水八幡宮

### 2 (6152) <中央大> 室町時代の農業・商業の発達

次の文章の空欄に適切なものを、( ) (A)～(G)は下の語群からえらびその記号を、( ) (あ)～(う)は語句を正確な漢字で記入しなさい。また下の設問に答えなさい。

動乱のあいついだ南北朝そして室町時代に、農民・商工民の活動はさかんとなった。農業の中心は水稻耕作であるが、その品種改良はすすみ日本最古の農書といわれる((A) )には早稲・中稲・晩稲の品種が計60種ほど記されている。反当り収穫量は平均して1石前後であるが、農業先進地域の畿内では3石に達したところもあった。米・麦の二毛作も普及し、((B) )後来日した朝鮮使節宋希環によれば、畿内では米・麦・((C) )の三毛作も行われていたという。水稻にもっとも重要な水は村の自治組織(あ)( )の管理のもとに分水され、また川や溜池から水をくみあげる((D) )も伝来している。また15世紀はじめに来日した朝鮮使節朴瑞生は((E) )を利用して回転させ水をあげる水車を記録している。畑作物も多様化し、都市周辺では各種の蔬菜がつくられ、また茶・木綿などの商品作物の生産も新興、二毛作ときには三毛作が畑でも行われてきた。これらは農民の間に牛馬が普及して畜耕が行われ、肥料も(い)(

)・草木灰のほかに((F) )・人糞尿など速効性肥料が一般的に使用されるようになったことと密接に結びついている。農業技術の進歩による生産力の急激な増大は、農業経営や農民層の分化に大きな影響を及ぼした。東国では((G) )・門田などとよばれる領主直営地を分割して小作させるようになり、先進地域の畿内などでは小名主が多く派生し、かれらが自作するかまたは

作人に貸与する形態が多くなった。前代の荘園制的な自給経済体制は急速におとろえ、年貢・(う)( )・夫役の銭納化も伴って商品経済化へと傾いていくのである。

〔語群〕 ア.百姓伝記 イ.沙石集 ウ.清良記 エ.すっぽん櫃 オ.龍骨車  
カ.龍尾車 キ.踏車 ク.人力 ケ.水力 コ.牛力 サ.厩肥 シ.油かす  
ス.魚肥 セ.三浦の乱 ソ.寧波の乱 タ.応永の外寇 チ.弘安の役  
ツ.大豆 テ.小豆 ト.ソバ ナ.本田 ニ.墾田 ヌ.新田 ネ.佃

- 〔設問〕 (1) この時代、年貢の率のことを何といいましたか。 [ ]  
(2) 名主の得分のことを何といいましたか。 [ ]  
(3) 製塩業もさかんとり主として揚浜法がつかわれましたが、室町時代の末、潮の干満を利用した方法が考えられました。これを何といいますか。 [ ]  
(4) 明の採鋳冶金術を学んだ神谷寿禎が天文2(1533)年灰吹法による精錬をはじめ産出を飛躍的に増大させた鋳山は下の何れですか。番号で答えなさい。 [ ]  
1. 相川金山 2. 大森银山 3. 院内银山 4. 伊豆金山  
(5) 室町時代の生産物の産地を多数記した手紙をのせたものとして有名なものは下の何れですか。番号で答えなさい。 [ ]  
1. 十訓抄 2. 実語教 3. 庭訓往来 4. 尺素往来 5. 職人尺絵 6. 七十一番職人歌合

3 (6153) 〈立命館大〉 中世の都市と商業

次の文章を読んで、空欄A( )～E( )に最も適当な語句を入れ、下線部分(a)～(g)について問いに答えなさい。

日本中世において都市はいちじるしく発達した。古代律令国家の都城として建設されたA( )に起源をもつ奈良は、都が平安京に遷ったのちも、東大寺・B( )・春日神社などの大寺社があり、その(a)門前町として発展した。京都には朝廷があり、公家政権を荷う貴族が集住し、C( )寺・清水寺・(b)北野神社などが平安時代に、平安京内や平安京のごく近接した地域に創建されて、寺社に關係する人びとが増加した。(c)鎌倉時代以後になっても、京都では新しい寺院が次々と建立され、また(d)武士も公務や私用のため、京都に滞在する機会が多くなり、中世におけるわが国最大の都市となった。高度な技術をもつ手工業者や、荘園年貢や各地の産物を取り扱う商人も次第に増加し、いわゆる下京は、そのような人びとが中心になって町づくりが進められた。京都周辺には、各地から送られてくる物資を中継したり、(e)特殊な手工業に支えられた小都市も発展し、(f)特定な商品を集散する大きな市場も営まれた。また、物資の運送・保管を業とするD( )も発達し、専門の運送業者であるE( )・(g)馬借も活躍した。

- (a) 1429(永享1)年に徳政一揆の起こった門前町はどこか。 [ ]  
(b) 北野神社の神人が独占していた座は何か。 [ ]  
(c) 龜山天皇の離宮跡が禅宗寺院になったが、それは何という寺か。 [ ]  
(d) 京都滞在を必要とする鎌倉幕府御家人の公務を何というか。またその公務のため、京都に在勤する期間はどのくらいか。 [ ] [ ]  
(e) 石清水八幡宮を本所とする油座があった場所はどこか。 [ ]  
(f) 主として塩や魚を取り扱う市場があった場所はどこか。 [ ]  
(g) 正長の土一揆蜂起のきっかけをつくった馬借が居住していた場所はどこか。 [ ]

4 (6154) 〈立命館大〉 中世の社会経済・産業

次の〔1〕～〔4〕の文章を読み、空欄に最も適当な語句を入れなさい。また、下線部分に誤りがあれば正し、誤りがなければ○印をつけなさい。

〔1〕 鎌倉時代には、商工業者の同業組合ともいべき座の制度が盛んになり、公家・寺社などを本所とおおぎ、その權威にたよって商品の製造・販売における独占権を獲得した。離宮八幡宮を本所とするA( )座、祇園社を本所とするB( )座などが有名である。

〔2〕 (イ)足利義政は、15世紀初頭、明国とのあいだに貿易の途をひらいた。貿易船にはC(



- )を所持させ、明国の倭寇取締りや私貿易禁止政策に協力した。日本の主な輸入品は銅銭であり、のちに生糸・綿糸・絹織物などが増加した。 [ ]
- [3] (ロ)15世紀には、土一揆とよばれる農民の武力蜂起が見られるようになった。足利義教死亡後に起こったD( )の土一揆は特に大規模なものであり、幕府は徳政令の発布を余儀なくされた。その後幕府は、徳政令発布に際しE( )の徴収を行ったりして幕府の収入増加を図るようになった。 [ ]
- [4] 室町時代から戦国時代にかけて産業はめざましく発展した。農業では、米の収穫量が著しく増加し、鉱業では、佐渡・石見などの金・銀採掘がすすんだ。製紙業も各地で行なわれ、美濃の美濃紙、播磨のF( )紙などが知られる。金属工業では、なべ・かまなどの日用品や農具がつくられたほか、G( )が日明貿易の輸出品としてつくられた。
- この時期には都市の発展もめざましく、寺社を中心として門前町がさかえ、大名居城の周囲には城下町が形成された。また海上交通の発展にともない港町も発達した。門前町としては、伊勢神宮の門前町であるH( )、比叡山延暦寺の門前町であるI( )などがある。港町では、和泉のJ( )、筑前のK( )が大陸との貿易港として発展した。

5 (6155) <同志社大> 中世都市の発達

次の(a)~(e)の文章は鎌倉時代から戦国時代にかけて発展した都市についてのべたものである。それぞれの文章に該当する都市名を下記の語群よりえらび番号で記入しなさい。また、(ア)~(オ)の下線を施した部分に関する設問の答えを漢字で記入しなさい。

- (a) この町は、中世を通じて瀬戸内海沿岸の港町として発展した都市である。荘園から徴収した年貢の保管・輸送・販売に従事した(ア)業者や近くの荘園の領主である高野山などが中心となって町の繁栄につとめた。室町時代には守護山名氏の勢力下にあつて、遣明船なども入港するようになり一層発展した。応仁の乱後は毛利氏の直轄地となった。 [ ]
- (b) この町は、平安時代からすでに都市化していたが、鎌倉時代にはいり、この地の神社信仰が武士・庶民の間に広まるにつれて参詣人が増加し、室町時代には人口3万人以上と推定されるほどのにぎわいをみせた(イ)都市である。町政は、はじめ度会・荒木田の2神官によって統轄されていたが、中世末には有力町民によって運営されるようになった。 [ ]
- (c) この町は、中世には海道の宿駅ではあつたが、さほど名をあらわさず、明応4年(1495)(ウ)ある戦国大名がこの地を拠点とするようになってから大いに発展した都市である。その大名は、以後5代にわたってこの地に拠り、城下町づくりを行なつた。その繁栄ぶりは京都に比しても劣らないほどで、当時、南関東最大の都市であつた。 [ ]
- (d) この町は、延暦寺と深い関係をもつたとともに、北陸・山陰地方から京都・奈良にむかう交通の要所にあつたために大いに栄えた都市である。この地の交通業者である馬借が中心となつておこした(エ)徳政一揆は、山科・醍醐の農民をもまきこんだ大規模なもので、はやい時期の土民蜂起として有名である。 [ ]
- (e) この町は、鎌倉時代には一宿駅にしかすぎなかつたが、応仁の乱のころを境として日明貿易の根拠地となり大いに発展した都市である。16世紀には南蛮貿易で活況を呈し、宣教師達によって“日本のベニス”としてたたえられた。豊臣秀吉につかえ、文禄・慶長の役には2度とも先鋒をつとめ、加藤清正とともに武名をあげた(オ)武将は、この地の豪商の出身といわれている。 [ ]

[語群] 1.小田原 2.倉敷 3.博多 4.堺 5.鎌倉 6.宇治山田 7.奈良  
8.尾道 9.坂本 10.小浜 11.平野 12.長野 13.赤間関 14.箱根 15.長浜

- [設問] (ア) このような業者は一般に何とよばれていたか、その名称を記しなさい。 [ ]
- (イ) このような宗教都市は一般に何とよばれたか、その名称を記しなさい。 [ ]
- (ウ) この戦国大名の姓名を記しなさい。 [ ]
- (エ) この一揆のおこつた年の和年号を記しなさい。 [ ]
- (オ) この武将の姓名を記しなさい。 [ ]

## 第15日 中世の産業経済

### ●重要用語●

#### □座（ざ）

中世社会で、朝廷・公家・寺社の特権に依存した商工業者の団体。座の構成員は商品の製造・販売・運送などで独占的特権をもっていた。戦国時代になって諸大名は各々の城下町や領域の繁栄と領国財政を確保するために、座の中世的特権を廃し、楽市・楽座を設けて商業の自由化によって繁栄をはかった。

#### □楽市・楽座（らくいち・らくざ）

戦国から安土桃山期にかけて諸国大名が行った商工業自由化政策。公家・寺社と結んだ座（同業者団体）の独占を解体し、楽に商取引ができるようにした。領国城下町の経済繁栄と商業支配が目的。六角定頼ろっかくさだよりの1549年(天文18)実施が早い例。織田信長おだのぶながは68年に美濃加納いちの市、77年(天正5)には安土城下いちに実施した。

#### □門前町（もんぜんまち）

中世以降、大きな寺院や神社の門前に形成された。僧侶・神官の集住と、参詣者や祭礼のために商店・宿屋などができ、市いちが開かれ商工業が発達した。宇治・山田や奈良、坂本、長野、琴平、成田など。

#### □城下町（じょうかまち）

中世末から近世にかけて、大名の居城を中心に形成された。兵農分離後の武士団と商工業者を城下に集めて領国の中心とした。同業同種の集团的居住地構成が多く、侍町・寺町・職人町・町人町などに分かれ、大工町・鍛冶町・連雀(尺)町・青物町・伝馬町などの名が今に残る。近代都市に発展したものが多い。

#### □寺内町（じないちょう）

中世末期にとくに浄土真宗本願寺派の大寺院の境内に形成された。濠をめぐらして土居で囲み、柵を設け、居住の僧侶や信徒を、他宗派や領主の攻撃から守った。石山本願寺のそれは大阪市の原型となった。

#### □堺（さかい）

摂津・河内・和泉3国の境に開けた商港で、南北朝時代には畿内と瀬戸内海を結ぶ要衝として、諸勢力の争奪点となった。室町時代には日明貿易で栄え、納屋衆による自治が行われた。これがやがて36人の会合衆による町政に発展、自由都市的色彩を濃くした。しかし1569年、織田信長おだのぶながはこれを直轄領とし、豊臣秀吉とよとみひでよしは小西隆佐こにしりゅうさらの堺の豪商を重用したが、町勢は衰えた。江戸幕府は直轄領として堺奉行を設置。

#### □博多（はかた）

福岡市東部の地名。古くは那大津なのおおつなどとよばれた。古代には屯倉みやけがおかれ、朝鮮半島・隋・唐交易の中心であり、中世には日宋貿易・勘合貿易の拠点であった。江戸時代には福岡城下に隣接する商業都市として栄えた。

□天龍寺船（てんりゅうじぶね）

1341年、足利尊氏・直義は天龍寺（後醍醐天皇の冥福を祈るため建立）の造営費を調達するため貿易船を元に派遣した。この前後、建長寺・鎌倉大仏・住吉神社などの寺社造営料唐船が同主旨で派遣された。

□宋銭（そうせん）

中国の宋代（960～1279年）に鑄造された銅銭。日宋貿易により平安末期にもたらされ、13世紀には大量に輸入されて、皇朝十二銭以降停滞していた日本の貨幣流通を再びさかんにした。のちの元・明銭とともに、再び国内鑄造が始まり、貨幣統一がはかられる戦国末期まで使用され、日本中世の貨幣経済の発展に大きな役割を果たした。

□永楽銭（えいらくせん）

明の貨幣永楽通宝という銅銭で、永楽帝の1411年から本格的に鑄造されたとされている。室町期の日明貿易で日本にもたらされ、同じ明銭の洪武銭・宣徳銭などとともに標準貨幣として広く流通した。江戸初期（17世紀はじめ）には通用が禁じられた。

□関銭（せきせん）

中世、関所で徴収した通過税。当初は、交通路の施設、寺院の補修費にあてるのが目的であった。室町時代、荘園制の衰退にともない、公家・寺院や幕府などが重要な財源として関所を乱設して徴収し、商業の発達を妨げた。

□棟別銭（むなべつせん）

中世、国家的重要事業の費用調達のため、家屋1棟ごとに地域的に一律に課した臨時税。室町期には、幕府にとって段銭（田畑に課税）とともに重要な財源となり、守護などもこれにならい、恒常化した。

□段銭（たんせん）

反銭に同じ。米で徴収の場合は段（反）米。国家的重要事業の費用調達のため、田畑1反ごとに地域的に一律に課した臨時の税。室町幕府は守護に命じて銭で賦課した。守護が臨時に徴収する守護段銭もあった。

□酒屋（さかや）

中世の酒造業者。鎌倉時代に入ってふえ始め、14～15世紀には京都に300軒余が存在するに至った。高利貸を兼ねる酒屋も多く、室町幕府はこれに多額の酒屋役を課し、重要な財源とした。

□土倉（どそう）

「とくら、どくら、つちくら」などとも読む。鎌倉・室町時代の高利貸業者。室町時代に著しく発展し、京都・奈良・近江坂本などに多くを数えた。室町幕府は土倉や酒屋に保護と特権を与え、その代償として巨額の倉役・酒屋役を徴収することで重要な財源とした。徳政一揆にあたっては、つねに襲撃の対象とされた。

●発展用語●

□問丸（といまる）

中世、港湾や重要都市に居住し、物資の運送・管理・販売などに従事した業者。はじめは荘園領主に隷属して、年貢米の運送・管理などにあたっていた。のちに淀などの重要な港では、富裕な問丸が領主から独立して活躍するようになり、とくに商業取引のさかんな地

では委託販売を行った。室町時代には商品の中継取引に重要な役割を果たし、また内陸にも発達していった。近世の間屋は、この後身である。

#### □馬借・車借（ばしゃく・しゃしゃく）

中世、馬によって物資を輸送した運送業者を馬借といい、荷車で運ぶ車借は馬借の補助的役割を果たした。鎌倉末期から発達した。最初は農民が農閑期に従事していたが、しだいに商人的性格をおびるようになり、なかでも近江の大津や坂本の馬借が栄えた。土一揆では多くの馬借・車借が活躍した。

#### □借上（かしあげ）

鎌倉期に出現した金融業者。語源については、身分の高い者が低い商人などから借り上げたところから、利率が高いことから、古代の出挙いこの和訓など、諸説あり、「かりあげ」ともいった。高利・無担保で、はじめは米、のち金銭が対象。困窮の御家人が所領を取りあげられる原因となったため、幕府は地頭が借上に所領を売ったり代官としたりすることを1239年以来禁じた。97年には永仁の徳政令を出したが効果は少なかった。14世紀には土倉どそうが借上にとってかわった。

#### □草木灰（そうもくばい）

「そうもくかい」、肥灰ともいう。わらや野草などを焼いてつくった肥料で、古代から用いられた。鎌倉中期以降は二毛作の普及などにもなって、さかんに用いられるようになった。カリや磷酸含有量が多いことが特徴である。

#### □刈敷（かりしき）

作物の生長を促す肥料としては、古代から刈草を田に踏み込む刈敷が主肥であった。平安末期からこれに草木灰・堆肥・厩肥などが加わり、人糞尿も補助的に用いられた。総称して自給肥料という。

#### □本所（ほんじょ）

室町時代の座の領有者をいう。座の手工業者や商業者から座銭をとり、財源とした。石清水八幡宮は大山崎離宮八幡宮の油座の本所であり、そのほか京都祇園社と綿座、京都北野神社と麴座などが有名。

#### □宇治・山田（うじ・やまだ）

三重県伊勢市の旧名。伊勢神宮の門前町。内宮の門前町宇治と外宮の門前町山田からなる。平安初期から発達し、中世に伊勢信仰が広まるとともに参詣人がふえた。江戸時代は幕府の直轄領となった。

#### □坂本（さかもと）

比叡山延暦寺の門前町。滋賀県大津市坂本。比叡山の山麓で琵琶湖に臨む。平安中期以後に延暦寺荘園の年貢・物産の集積地として栄え、室町時代には琵琶湖水運の要地として馬借の拠点となった。織田信長の比叡山焼き打ちと同時に焼かれたが、明智光秀の城下町として復活した。しかし、秀吉の政権獲得後にこの地に封じられた浅野長政は、居城を大津に移したために衰退した。

#### □三斎市（さんさいいち）

中世～近世、毎月3回開かれた定期市。鎌倉中期以降、全国的に普及したもので、例えば3日、13日、23日と定期的に開かれた。室町時代、商品流通の発達にもなって、六斎市・九斎市に発展した。

□油座（あぶらざ）

中世に発展した座の1つ。胡麻・荳胡麻を原料とする油の製造・販売を行う商人の座で、鎌倉時代から室町時代にかけて本所の保護のもとに活躍した。京都の大山崎離宮八幡宮の油座は有名である。

□綿座（わたざ）

鎌倉～室町時代、京都の祇園社を本所とした座の1つ。毎年、祇園会の祭礼に神供米を献上するなどして営業の独占権を得た。本座・新座の対立、並存期を経て、本座が存続した。商品は木綿ではなく真綿。

□稲の種類（いねのしゅるい）

稲には大きく分けて、<sup>わせ</sup>早稲・<sup>おくて</sup>晩稲・<sup>なかて</sup>中稲がある。早稲は早くみのる稲をいい、晩稲は最も成長・成熟の遅い稲をいう。その中間に成熟する稲を中稲という。中世、冷害の危険の多い東国では早稲が、その危険の少ない畿内では晩稲が普及したが、風水害に備え、各地で収穫期の異なる品種をとりまぜて栽培し、中稲と組み合わせることが多かったため、全国的には中稲が最も普及していったといわれる。

□福岡荘（ふくおかのしょう）

備前国(岡山県)にあった荘園。<sup>みなもとのよりとも</sup>源頼朝が平家からの没収領として預ったのち院に寄進。さらにそののちの1299年に地頭請所となった。「一遍上人絵伝」には、この荘園内の鎌倉時代の市場の様子が活写されている。

## 第16日 中世の仏教

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (1601) 最重要年代チェック

{ }にあてはまる年代と語句を答えなさい

- (1) 1175年……法然{ }を開く
- (2) 1191年……{ }臨濟宗を伝える
- (3) 1224年……{ }浄土真宗を開く
- (4) 1227年……道元{ }を伝える
- (5){ }年……日蓮{ }(法華宗)を開く
- (6) 1274年……{ }時宗を開く
- (7) 1342年……室町幕府{ }の制を定める
- (8) 1471年……{ }越前吉崎に道場を設立する
- (9){ }年……加賀の一向一揆, 守護富樫氏を倒す
- (10) 1536年……{ }の乱

### 2 (1602) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)美作国の出身。はじめ比叡山延暦寺に学び, 1175年に浄土宗を開いた。{ }
- (2)法然の弟子で, 1224年に『教行信証』を著し, 浄土真宗を開いた。{ }
- (3)はじめ比叡山で学び, のち入宋して臨濟宗を伝え, 茶も将来した。{ }
- (4)入宋して曹洞宗を伝え, 権力から遠ざかって越前に永平寺を創建した。{ }
- (5)安房小湊の出身で, 1253年に日蓮宗を開き法華経至上主義をとった。{ }
- (6)浄土宗を学び, のち諸国を遊行し, 踊念仏を始めた。捨聖ともいわれる。{ }
- (7)北条時頼に招かれた南宋の僧で, 鎌倉に建長寺を開山した。{ }
- (8)北条時宗に招かれた南宋の僧で, 鎌倉に円覚寺を開山した。{ }
- (9)新仏教に対し, 法相宗の立場から浄土宗をきびしく批判した。{ }
- (10)華嚴宗を中興した僧。著書『摧邪輪』で浄土宗をきびしく批判した。{ }
- (11)興正菩薩とも称された律宗の僧で, 奈良西大寺を中心に活躍した。{ }
- (12)叡尊の弟子。奈良に北山十八間戸を創建するなど社会事業に尽力。{ }
- (13)伊勢外宮の神官で, 鎌倉時代末期に伊勢神道を確立した。{ }

### 3 (1603) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事 項〉

- (1)法然が, 専修念仏の立場から開いた宗派。京都知恩院を本山とする。{ }
- (2)親鸞が, 悪人正機・信心・絶対他力を主張して開いた宗派である。{ }
- (3)日蓮が声高に南無妙法蓮華経を唱えて開いた宗派。法華宗ともいう。{ }
- (4)栄西は, 禅が国家にとって必要であると, この書物で主張した。{ }
- (5)法然の思想を最もよく示している書物で, 浄土宗の真髓を網羅した。{ }
- (6)親鸞が著した書物で, 浄土真宗の理念を細やかに述べている。{ }
- (7)「善人なをもて往生す, いはんや悪人をや」という親鸞の往生思想。{ }

- (8)日蓮の代表的な著作。そのなかで他宗をきびしく排撃している。 [ ]
- (9)道元の主要著書。曹洞禅の本質や理念、規範について述べている。 [ ]
- (10)一遍によって開かれた宗派で、別名を臨命終時宗といわれる。 [ ]
- (11)一遍の法語類を集めて成立した語録で、彼の思想がよく表れている。 [ ]
- (12)律宗の僧忍性が奈良に開いた、病人の救済をするための施設。 [ ]
- (13)臨済宗の開祖栄西が、大陸から将来した茶の効用を述べた書物。 [ ]
- (14)阿弥陀如来の名号「南無阿弥陀仏」を念ずること。一念・多念の別がある。 [ ]
- (15)日蓮宗の中心思想で、唱える「南無妙法蓮華経」とその行為。 [ ]
- (16)鎌倉時代の末期にあらわれた反本地垂迹説。神主仏徒とする思想。 [ ]
- (17)『類聚神祇本源』とならぶ、伊勢神道(度会神道)の根本教典。 [ ]
- (18)「神風」のように、日本は神がまもっているとする神道的な考え方。 [ ]

**4 (1604) 重要人物チェック**

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)親鸞の死後、異説を正すために、その弟子は『歎異抄』を著した。 [ ]
- (2)1299年に来日した元の僧で、執権北条貞時らの帰依をうけた。 [ ]
- (3)道元の弟子で、道元の教えを『正法眼蔵随聞記』にまとめた。 [ ]
- (4)本願寺第8世で、浄土真宗中興の祖といわれる。越前に吉崎道場を構えた。 [ ]
- (5)室町時代の日蓮宗の僧で『立正治国論』を著した。鍋冠り上人といわれた。 [ ]
- (6)臨済宗の僧で足利尊氏らの帰依をうけ、天龍寺を開山した。 [ ]
- (7)足利尊氏らの保護をうけた日蓮宗の僧で、京都に教線を拡大した。 [ ]
- (8)吉田神社の神官で、根葉果実論などを主張して唯一神道を提唱した。 [ ]

**5 (1605) 重要事件・事項チェック**

各文にあてはまる語句を答えなさい

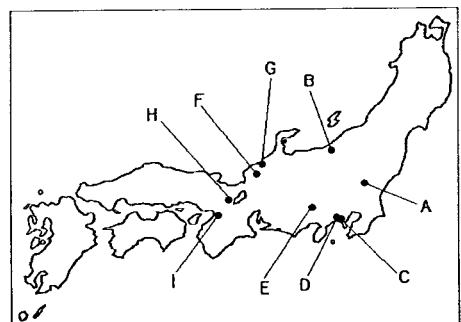
<事 項>

- (1)臨済宗寺院、天龍寺・相国寺・建仁寺・東福寺・万寿寺の総称。 [ ]
- (2)臨済宗寺院、建長寺・円覚寺・寿福寺・浄智寺・浄妙寺の総称。 [ ]
- (3)本願寺を中心とする浄土真宗の1派。蓮如が出て急速に発展した。 [ ]
- (4)蓮如が浄土真宗の布教のために、信者や講にあてた手紙のこと。 [ ]
- (5)室町幕府が宋の官寺の制をもとに行った、臨済宗寺院の格づけ。 [ ]
- (6)吉田兼俱が反本地垂迹説の立場で、儒教・仏教をとり入れて大成した神道。 [ ]
- (7)信仰者の団体のこと。この組織を利用しながら布教が拡大された。 [ ]

**6 (1606) 最重要地名チェック**

ことがらにあてはまる記号を地図から選んで答えなさい

- (1)建長寺・円覚寺(蘭溪道隆・無学祖元) [ ]
- (2)永平寺(曹洞宗総本山) [ ]
- (3)本願寺(浄土真宗総本山) [ ]
- (4)久遠寺(日蓮宗総本山) [ ]
- (5)清浄光寺(時宗総本山) [ ]
- (6)吉崎道場(蓮如・布教活動の拠点) [ ]
- (7)石山本願寺(1496年創建) [ ]
- (8)専修寺(浄土真宗高田派の本山、のち伊勢に移る) [ ]



7 (1607) 重要地名チェック

ことがらにあてはまる地名・寺名を答えなさい

- (1)1207年,法然は念仏を禁止され,この地に配流されたがのち許された。〔 〕
- (2)鎌倉新仏教の開祖の多くが学んだ,古代仏教の聖域の寺である。〔 〕
- (3)道元は名利に近づこうとせず,この寺を雪深い越前に構えた。〔 〕
- (4)親鸞は法然の法難とともに,北国のこの国に流され,のち関東で布教した。〔 〕

8 (1608) <明治大> 鎌倉時代の新仏教

次の文中の( )内に,もっとも適当と思われる語を記し,さらに下線を施した部分について下記の問いに答えなさい。

古代社会が崩壊し,社会の秩序が変わってゆくと,動乱のなかで心のよりどころをなくした人々の悩みにこたえようとして,(イ)新しい仏教がうみだされた。この仏教革新の動きは,(ロ)これまでの仏教のあり方を根本的にかえるもので,日本における宗教改革とみる学説もある。

旧仏教にたいする批判を最初にとりあげたのは法然である。彼は,すべての人は平等に救われねばならぬ,それは阿弥陀如来の慈悲の力によってのみ達せられると説いた。法然の教えは浄土宗として発展した。親鸞は師の説をうけつぎ,さらに発展させ,悪人を救うことこそ阿弥陀如来の願いであるという(1)( )の思想に到達した。彼の教えは次の時代には(2)( )とよばれる大教団に発展した。また,一遍は伊勢や熊野の信仰をとりいれ,(3)( )とよばれる教団をうみだした。

古い退廃した仏教への批判は,他方で中国宋代の仏教への関心となってあらわれた。当時宋でさかえていた(4)( )が,栄西(臨濟宗),道元(曹洞宗)らによって伝えられた。いっぽう,日蓮は,これらの動きと異なり,天台宗の根本経典である(5)( )こそ唯一の正しい教えであると説き,次の時代には大きな力をもつ教団を形成した。

信心と実践を重んじる新仏教に刺戟されて,旧仏教のなかにも,反省と改革の動きがあらわれてきた。

この時代になると(ハ)神仏習合はすすみ,密教思想で神道を説明する(6)( )がとえられ,さらに,(ニ)仏教に対抗しようとする神道説もあらわれた。

問(イ) 民衆の魂の救済をめざす新仏教の思想は次のいずれか。〔 〕

- (a) 密教的な一元的現実肯定の本覚思想。
- (b) 源信『往生要集』に示されたような現実否定,来世浄土の思想。
- (c) 承久の乱を境として,大勢は現実否定的から現実肯定的へと移行する。

問(ロ) 古代仏教のあり方はどのようなものであったか。次の二点にわけて述べなさい。

- (a) 国家との関係

\_\_\_\_\_

- (b) 社会的機能

\_\_\_\_\_

問(ハ) 神仏習合とはどのようなことをいうか。

\_\_\_\_\_

問(ニ) その具体例を記しなさい。

\_\_\_\_\_



## 類題トレーニング(6160)

### 1 (6161) 〈青山学院大〉 鎌倉時代の仏教

鎌倉時代の仏教に関する次の文章のうちの1, 2……10の所に最も適当と思う語句を、語句群から選んで入れなさい。5には三字のものを選びなさい。また問1から問10に至る問題に答えなさい。

鎌倉時代は、それ以前の古い仏教のほかに、新しい仏教ができあがった時期であった。その新しい仏教は、日本人によって日本人に合うものとしてつくられた日本的仏教であった。それは多くの教えのうちから一つだけをえらぶ(1 )、一つのことだけに力を注ぐ(2 )、誰にでもたやすく行うことができる(3 )という三つの性格を持つことを特徴としていた。

そういう新仏教の一つとして、法華宗ができた。それは、(4 )の五字のうちには、仏のあらゆる善行・功德がこめられているから、御題目を唱えれば仏の功德を受け、仏と同じ境地になれるというものであった。このような教えを説く日蓮の仏教には、(5 )を大切にし、それに頼っていこうとする人々のやり方と、祈禱によって利益を得ようとする(6 )のやり方と、一途にものごとをやろうとするやり方との三つが総合されている。

日蓮の仏教は、ひたすら御題目を唱える所に中心があり、それは(7 )といわれる。これは法然の(8 )の影響によって始められたらしい。日蓮の檀徒のうちには、武士が少なくなかった。そのような武士が武蔵国に造った寺が(9 )であり、下総国に造った寺が(10 )である。

〔語句群〕 ア. 専修念仏    イ. 専修唱題    ウ. 専修打坐    エ. 池上本門寺  
 オ. 身延山久遠寺    カ. 永平寺    キ. 中山法華経寺    ク. 法華経  
 ケ. 華嚴経    コ. 妙法蓮華経    サ. 浄土教    シ. 密教  
 ス. 易行性    セ. 撰択性    ソ. 専修性

問1. 鎌倉新仏教は、古代末期の動乱の時期、或はその直後に生まれた第一次新仏教と、北条氏が執権として幕府の実権を握っていた時期に生まれた第二次新仏教との二つに分けられる。第一次新仏教に属するものには、どのようなものがあるか。次の三つのうちから選びなさい。〔 〕

ア. 浄土宗    イ. 浄土真宗    ウ. 時宗

問2. 法然の著書には、どのようなものがあるか。次の三つのうちから選んで答えなさい。〔 〕

ア. 正法眼蔵    イ. 教行信証    ウ. 撰択本願念仏集

問3. 同じく禅宗である臨済宗と曹洞宗とに関する、次の三つの記述のうち、正しいと思うものを一つ選びなさい。〔 〕

ア. どちらも禅宗であって、その教えには全く違いがない。  
 イ. 臨済宗は公案の解決を修行の主眼とするが、曹洞宗は坐禅そのものを重視する。  
 ウ. 臨済宗は坐禅そのものを主眼とするが、曹洞宗は公案の解決を重視する。

問4. 建長寺の開山は誰か。次の三つのうちから選んで答えなさい。〔 〕

ア. 夢窓疎石    イ. 蘭溪道隆    ウ. 無学祖元

問5. 時宗の中心寺院は、何という寺院か。次の四つのうちから選んで答えなさい。〔 〕

ア. 清浄光寺    イ. 極楽寺    ウ. 浄智寺    エ. 知恩院

問6. 日蓮が鎌倉幕府に「立正安国論」を差し出したときの、幕府の執権は誰であったか。次の四つのうちから選んで答えなさい。〔 〕

ア. 北条時宗    イ. 北条貞時    ウ. 北条時頼    エ. 北条泰時

問7. 律宗の僧で、戒律の尊重を説き、南都仏教の復興に努力したのは誰か。次の三つのうちから選んで答えなさい。〔 〕

ア. 叡尊    イ. 明恵    ウ. 宗性

問8. 東大寺の僧で、学問の興隆に努め、旧仏教の復興に功績があったのは誰か。次の三つのうちから選んで答えなさい。〔 〕

ア. 貞慶    イ. 凝然    ウ. 忍性

問9. 次に挙げる新仏教の開祖三人のうち、最もおそく生まれたのは誰か。〔 〕

ア. 一遍 イ. 日蓮 ウ. 道元  
 問10. 「伊勢神道」とは何か。それについて正しいと思う答えを、次の三つのうちから選びなさい。 [ ]

- ア. 鎌倉新仏教の影響を受けてできた、独自の神道理論である。
- イ. 反本地垂迹説にもとづき、神道を中心に、儒教・仏教を統合しようとするものである。
- ウ. 日本の神道を、朱子学を用いて解釈しようとするものである。

2 (6162) <立命館大> 古代・中世の仏教史

次の文章の空欄(1)～(15)に入れる適当な語句を、文章の下の語句群①～⑳から選んで符号で答えなさい。また下線(a)～(d)についての問いにも答えなさい。

平安中・後期、来世の極楽往生を説く浄土教の盛行をたすけたのは(1)( )思想の流布であった。政治的・社会的変動にともなう社会不安に加え、12世紀末(2)( )という未曾有の内乱が勃発すると、この思想は眼前の恐怖として人びとに認識され、宗教に救いを求める気持ちは、いよいよ切実なものとなっていった。こういう時代の要求にこたえて生まれたのが鎌倉新仏教であり、その第一声を放ったのが(3)( )である。彼は浄土教の教えをさらに発展させて(4)( )を説き、浄土宗をひらいた。彼の主著『(5)( )』は、その帰依者である(6)( )の求めにより書かれたという。(a)親鸞はさらに一歩進めて(7)( )説を唱え(b)浄土真宗の開祖となった。『歎異抄』は弟子(8)( )の編述と伝えられる。同じく浄土教の系統に属する(9)( )は時宗をおこし、(10)( )をひろめた。時宗教団の人びとは(11)( )とも呼ばれた。

同じく新仏教としての共通性をもつ反面、以上の(c)浄土教系諸宗派と対照的な性格をあわせもっていたのが禅宗である。最初に(12)( )を伝えたのは栄西であるが、その著書『(13)( )』は、(d)旧仏教側の攻撃にたいして自己の立場を弁護するために書かれたものという。栄西につづいて(14)( )も曹洞宗を伝えた。『(15)( )』は彼の法語を集録した書物である。

- ①遊行衆 ②日蓮 ③教行信証 ④道元 ⑤末法 ⑥法然 ⑦法相宗 ⑧極楽
- ⑨往生要集 ⑩熊谷直実 ⑪正法眼蔵 ⑫立正安国論 ⑬慈円 ⑭一遍 ⑮祖元
- ⑯治承・寿永の乱 ⑰良忍 ⑱臨済宗 ⑲往生衆 ⑳本地垂迹 ㉑悪人正機
- ㉒興禅護国論 ㉓専修念仏 ㉔承平・天慶の乱 ㉕応仁の乱 ㉖讖緯 ㉗坊主衆
- ㉘高弁 ㉙唯円 ㉚九条兼実 ㉛踊念仏 ㉜選択本願念仏集 ㉝融通念仏
- ㉞華嚴宗 ㉟喫茶養生記 ㊱源信

- (a) 親鸞は1207(承元元)年の越後配流以後、みずから非僧非俗の愚禿と称して妻帯した。親鸞の妻の名を記しなさい。 [ ]
- (b) 別に何宗といわれるか。 [ ]
- (c) どのような点で対照的か。浄土教系諸宗と禅宗、それぞれの教義にそくして説明しなさい(50字程度)。

(d) 鎌倉後期の旧仏教側の人物で、鎌倉に入って光泉寺・極楽寺をひらき、貧民救済・施療などの社会事業に尽力した僧侶の名を記しなさい。 [ ]

3 (6163) <早稲田大> 室町時代の臨済宗

次の文を読み、A・B・C・Dの空欄にはいる最も適切な語句を記入しなさい。  
 建武新政より約四分の三世紀の間は、A( )禅が全盛を迎えた時代であったが、この時期に最もはなばなしく活躍したのはB( )とその法系の人びとであった。彼は生れながらの偉大な布教家で、後醍醐天皇や北朝の光厳院・光明院の尊信をうけ、ことに足利尊氏・直義兄弟の帰依をうけたことから、尊氏にすすめて国ごとにC( )を建立させたほか、後醍醐天皇の冥福を祈るために天竜寺を造営させてその開山となった。その法系からは、政治的手腕にすぐれていた春屋妙葩や、D( )の双壁といわれた義堂周信・絶海中津などが輩出している。

**4** (6164) 〈青山学院大〉 一向宗と寺内町

次の文の1, 2……10の所に最も適当な語句を, 下記の語句群のうちから選び, その符号を記しなさい。またa, b……eの所に最も適当な語句を考え出して, それを漢字で記しなさい。

戦国時代のはじめ頃, 本願寺に(1 )が出現し, 近畿・(2 )・(3 )の諸地方に本願寺派の勢力が発展した。(4 )の組織をつくって団結した人々は, 一揆を起こして(5 )とも戦うほどの勢力となってきた。長享二年の加賀の(6 )は守護大名(7 )を倒して, 加賀一国の支配権を握るほどであった。

十五世紀中頃から十六世紀の中頃にいたる頃, 一向宗の道場などで, 境内に宿坊がつくられ, 道路ができ, 町が形成された。これが(a )である。加賀と越前との国境に位置していた(b )などには, 文明五, 六年頃には宿坊が二, 三百軒も並んでいた。大和の今井の(a )のように土塁と(c )でかこまれたものもあった。河内の富田林の(a )には(8 )・(9 )など多種類の商工業者が定住して, (10 )がつけられた。大坂の石山本願寺は, 十一年間にわたる(d )との戦いの後に紀州に移った。

時代が進むに従って, このような(a )は次第に戦国大名などによって掌握され, その住民は(e )に吸収されていった。

- 〔語句群〕 ア. 九州 イ. 北陸 ウ. 東海 エ. 東北 オ. 親鸞  
カ. 覚如 キ. 蓮如 ク. 富樫政親 ケ. 戦国大名  
コ. 一向一揆 サ. 講 シ. 鍛冶屋 ス. 大工 セ. 町場

**5** (6165) 〈山梨学院大〉 親鸞と浄土真宗

次の文を読み, 問に答えなさい。

歎 異 抄

⑤善人なおもて往生をとぐ。いはんや⑥悪人をや。しかるに世のひとつねにいはいく, 悪人なお往生す, いかにいはいはんや善人をやと。……⑦煩惱具足のわれらは, いづれの行にても生死をはなるゝことあるべからざるをあはれみたまひて, 願ををこしたまふ本意, 悪人成仏のためなれば, 他力をたのみたてまつる悪人, もともと往生の正因なり。よて善人だにこそ往生すれ, まして悪人はと, おほせさぶらひき。

- ① これは, 誰の作といわれるか。 [ ]  
② 作者は, 誰の弟子か。 [ ]  
③ ②の師は, 誰か。 [ ]  
④ ②の宗の名は, 何か。 [ ]  
⑤ 善人とは, いかなる人か。 [ ]  
⑥ 悪人とは, いかなる人か。 [ ]  
⑦ 煩惱具足とは, どういうことか。 [ ]  
⑧ この宗派の説くところを簡単に記しなさい。

⑨ この他の鎌倉新仏教の5宗派を記しなさい。

⑩ 平安仏教の2宗名を記しなさい。 [ ] [ ]

**6** (6166) 〈早稲田大〉 鎌倉仏教とその開祖

次の(A)～(F)について, 下記の問1～4に答えなさい。

(A)時宗 (B)浄土宗 (C)浄土真宗 (D)曹洞宗 (E)法華宗 (F)臨済宗

問1. (A)～(F)について, 開祖はそれぞれ誰か。次の人名群から選び, 記号で答えなさい。

[ ]  
い. 重源 ろ. 貞慶 は. 道元 に. 虎関師錬 ほ. 無住 へ. 栄西 と. 俊菴  
ち. 一遍 り. 慈円 ぬ. 叡尊 る. 蘭溪道隆 を. 日蓮 わ. 高弁 か. 親鸞  
よ. 無学祖元 た. 仙覚 れ. 忍性 そ. 唯円 つ. 法然 ね. 浄光

問2. (A)~(F)の開祖について、それぞれに最も関係の深い史料を次のなかからひとつずつ選び、記号で答えなさい。

[ ]

ア. 法華経を以て国土を祈らば、上一人より下万民に至るまで悉く悦び榮え給ふべき鎮護国家の**大白法**也。(白法=仏法)

イ. 参禅は身心脱落なり。祇管打坐して始めて得たり。焼香・礼拝・念仏・修儀・看経を要せず。

ウ. 往生浄土のためにはただ信心をさきとす。そのほかをばかへりみざるなり。往生ほどの一大事、凡夫のはからふべきことにあらず、ひとすぢに如来にまかせたてまつるべし。

エ. この宗は戒をもって**初**とし、禅をもって**究**とす。もし破戒のものも、悔心もて悪を止めば、すなわち禅人と号せん。

オ. 南無阿弥陀仏、往生の**業**には念仏を先とす。

カ. 南無阿弥陀仏には、臨終なし、平生なし。三世**常恒**の法なり。出息入息をまたざるゆゑに、当体の一念を臨終と定むる也。然ば念々臨終なり、念々往生なり。(当体=ありのまま)

問3. (A)~(F)の開祖について、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍したのは誰と誰か。宗派を開いた年代順に、問1の人名群の記号で答えなさい。 [ ]

問4. 次のア~エについて、それぞれ最も関係の深い人名を問1の人名群からひとつずつ選び、記号で答えなさい。

[ ]

ア. 沙石集    イ. 元亨釈書    ウ. 愚管抄    エ. 万葉集註釈

## 第16日 中世の仏教

### ●重要用語●

#### □浄土教（じょうどきょう）

阿弥陀仏にすがり、死後極楽浄土に往生することを願う宗教。インドに発し、中国を経て飛鳥時代ごろ日本に伝わった。10世紀末、源信が『往生要集』を著して浄土思想を広め、平安末期に法然が専修念仏を唱えて浄土宗を開いた。弟子の親鸞がその教えを徹底した『教行信証』を著し、浄土真宗をおこした。武士・農民層に広まり、室町時代後期には、農民運動と結びついて一向一揆をひきおこすまでに発展した。

#### □浄土宗（じょうどしゅう）

1175年、法然房源空が開いた鎌倉新仏教の1派。「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、老若男女貴賤を問わず浄土に往生できると説いた。貴族階級から武士・農民など広い層に急速に広まったため、旧仏教の弾圧を受け、たびたび念仏を禁止された。弟子から親鸞をはじめ多くの名僧が出た。総本山は知恩院。

#### □法然（ほうねん） 1133～1212

浄土宗の開祖。諱は源空。円光大師。美作に生まれ、比叡山で天台宗を学んだが、源信の『往生要集』などに啓発され、43歳で開宗。専修念仏による往生を説き、京都の東山吉水に住んで、貴族・武士・庶民の帰依を集めた。旧仏教側の圧迫で讃岐に流されたが、のち許されて帰京。『選択本願念仏集』を著した。

#### □浄土真宗（じょうどしんしゅう）

鎌倉初期に親鸞が開いた新仏教宗派。真宗・一向宗ともいう。さきに浄土宗を開いた師法然の教えを深め、徹底し、絶対他力の信仰と悪人正機説を唱えた。宗勢は農民層を中心に広がり、室町中期、本願寺8世蓮如のときには、山科本願寺を中心に近畿・北陸・東海で急速に発展、1488年の加賀一向一揆をはじめ門徒の一揆が続発した。16世紀前半、石山本願寺に本拠を移し、16世紀後半、11世顕如のときには織田信長とも対決した。江戸初期、東西両本願寺に分派。

#### □親鸞（しんらん） 1173～1262

浄土真宗の開祖。日野有範の子といわれ、慈円のもとで得度、法然の門に入る。1207年、法然とともに法難（弾圧）にあい、越後に流された。のち許されて常陸に赴き、20余年間に多くの門弟を育て、晩年は京都に帰った。他力信仰を説き、悪人も救われるという悪人正機説を唱え、『教行信証』を著した。また親鸞の法語を弟子がまとめた『歎異抄』は真宗の教義の基本とされる。

#### □曹洞宗（そうとうしゅう）

禅宗の1派。1227年、宋より帰国した道元が開宗。法華経を修めること、坐禅による修行に重点がおかれた。越前の永平寺を根本道場として地方に広まり、戦国期から江戸初期にかけて全国的に発展した。

□道元（どうげん） 1200～1253

内大臣久我通親の子。比叡山で天台を学び、建仁寺で禅を修めた。1223年、宋に渡って長翁如浄に教えを受け、27年に帰国。43年、越前の志比庄に大仏寺（のち永平寺と改称）を建て、日本における曹洞宗の開祖となった。法華経を諸経の基とし、坐禅による修行を重んじた。『正法眼蔵』は、31年以降20年余の説法を集大成したもの。

□臨済宗（りんざいしゅう）

唐の臨済義玄を開祖とする禅宗の1つ。鎌倉初期に栄西によって伝えられ、鎌倉～室町時代には幕府の保護を得て京都五山・鎌倉五山を中心に栄えた。室町幕府滅亡後、五山派が衰えてからは、地方大名の信仰を得ていた大応派が勢力をのばした。江戸中期には白隠慧鶴が多くの門人を育成し、現代に至る。

□日蓮宗（法華宗）（にちれんしゅう（ほっけしゅう））

鎌倉仏教の1つで、1253年に日蓮が開宗。「南無妙法蓮華経」を唱えれば救いが得られるとし、他宗を排撃した。そのため圧迫を受けたが、弟子らの布教活動により東国を中心に広まった。15世紀には京都の民衆の間に熱心な信者を得て、他宗の締め出しをはかったりしたが、1536年の天文法華の乱で一時は京を追われた。

□日蓮（にちれん） 1222～1282

日蓮宗の開祖。安房の生まれ。はじめ天台宗を学び、鎌倉・叡山・奈良・高野山などで修行ののち、1253年、清澄山に帰って日蓮宗を開いた。仏法の真髄は法華経にありと説き、辻説法で他宗を攻撃、『立正安国論』で鎌倉幕政を批判して、はじめ伊豆、のち佐渡へ流された。晩年は身延山に住み、武蔵国（現東京都）池上で死去。立正大師。

□時宗（じしゅう）

鎌倉中期、一遍が開いた浄土教の1派。阿弥陀経を根本経典とした。日常を臨終とし、全国行脚をし、踊り念仏で念仏を広めた。熊野・伊勢の信仰とも結びつき、武士・庶民の間に多くの信者を得た。臨命終時宗ともいう。

□一遍（いっぺん） 1239～1289

鎌倉中期の僧で時宗の開祖。伊予出身。比叡山で天台宗を、西弘寺で浄土教を学んだ。全国を念仏遍歴し、民衆に念仏踊を推奨、遊行上人と称された。各層に信仰され、死後、『一遍上人語録』を門弟が集成。

□教行信証（きょうぎょうしんしょう）

正しくは『顕浄土真実教行証文類』。親鸞の主著で、浄土真宗の根本教典。真実教・真実行・真実信・真実証・真仏土・化身土の6部からなり、経典の文句を引用し、解説を付している。1224年の成立という。

□悪人正機説（あくにんしょうきせつ）

鎌倉初期に浄土真宗を開いた親鸞が説いた念仏の真髄。罪深く煩惱の強い衆生（悪人）を救って成仏させるのが、阿弥陀仏の本願であるから、悪人こそ往生の正因であり、弥陀をたのみまいらせ念仏を唱えれば、必ず救済されるとする。「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」と『歎異抄』にある。

□ 選択本願念仏集（せんじ(ち)やくほんがねんぶつしゅう）

九条兼実くじょうかねざねの依頼によって、1198年に法然ほうねんが著した仏教書。『選択集』ともいう。1巻。念仏は正行しょうぎょうであり、末代相應の法門であると説く。他力本願の妙諦を示し、浄土宗の根本教典とされる。

□ 正法眼蔵（しょうぼうげんぞう）

鎌倉中期の法語集。95巻。道元どうげん著。1231～53年にかけて、興聖寺・永平寺などで説いた法語を収録したもの。禅の本質を、その伝統や規範にふれ、詳細に論じた曹洞宗の根本教典である。

□ 正法眼蔵随聞記（しょうぼうげんぞうずいもんき）

道元どうげんの法語を弟子の懷奘えいしょうが筆録した書物。6巻からなる。道元が宋から帰国し、興聖寺に住した1234年から38年ころの、弟子との問答や夜話などが平易に記されている。曹洞宗で最古の教典である。

□ 興禅護国論（こうぜんごこくろん）

鎌倉初期、栄西えいさいの著した宗教書。1198年成立、3巻。臨済宗伝道に際し、既成仏教界からの疑惑や非難にこたえて禅の大綱を示し、禅宗こそ護国に必要なものであると論じている。

● 発展用語 ●

□ 五山十刹の制（ござんじっさつのせい）

南宋の官寺を参考にした臨済宗の寺格制度。鎌倉時代の五山の制の内容は明らかではない。建武の新政以後、改正がくりかえされ、1386年に足利義満あしかがよしみつによって、南禅寺の下に京都五山(天龍・相国・建仁・東福・万寿寺)、鎌倉五山(建長・円覚・寿福・浄智・浄妙寺)と、両地の十刹が最終的に定められた。

□ 京都五山（きょうとござん）

五山は南宋の官寺制にならった臨済宗寺院の寺格。室町幕府が制度化した。足利義満あしかがよしみつが相国寺を建立後、南禅寺を別格に昇格。(別格)南禅寺・1293年創建、もとは亀山天皇の離宮。(第1位)天龍寺・1339年足利尊氏たかうじ創建。(第2位)相国寺・1383年足利義満創建。(第3位)建仁寺・1202年源頼家みなもとのよりいへの後援で栄西えいさいが創建。(第4位)東福寺・1235年九条道家くじょうみちいへ創建。(第5位)万寿寺・六条御堂を1261年改名。

□ 鎌倉五山（かまくらござん）

南宋の制度にならったもので、北条氏ほうじょうが選定し、足利義満あしかがよしみつが制度化した。(第1位)建長寺・1253年北条時頼ときより創建、(第2位)円覚寺・1282年北条時宗ときね創建、(第3位)寿福寺・1200年北条政子まさこ創建、(第4位)浄智寺・1283年ごろ北条宗政夫人むねまさ創建、(第5位)浄妙寺・1188年足利義兼よしかね創建。

□ 天文法華の乱（てんぶんほっけのらん）

「てんもんほっけのらん」とも読む。京都の法華宗信徒はしばしば法華一揆をおこし、1532年(天文元)には細川晴元ほそかわはるもとの山科本願寺攻めに参加して焼き討ちし、市内の自主管理権を握った。36年には延暦寺僧侶の説法を論破したことがきっかけとなって、延暦寺僧徒が

法華信徒を襲撃したため京都の21の寺が焼け、法華宗は42年まで禁教状態におかれた。

□蓮如（れんにょ） 1415～1499

浄土真宗（一向宗）の中興の祖といわれる。本願寺8代の法主となり、御文（御文章）という平易な文書伝道と講組織を通じて活動した。比叡山に圧迫されて、本拠を近江堅田から越前吉崎に移し、北陸一帯に急速に宗勢を広めた。のち山科で全国門徒を教化し、1496年には大坂の石山本願寺を開いた。

□吉崎（よしざき）

現在の福井県坂井郡金津町の一地区。室町中期、越前の吉崎道場（御坊）の寺内町。1471年、蓮如がこの地に浄土真宗の寺を設け、北国教化の拠点として発展したが、75年に蓮如が畿内に帰ったのちは衰えた。

□夢窓疎石（むそうそせき） 1275～1351

伊勢出身。臨済宗の僧で、標準的な宗風を立て足利尊氏・直義、北条貞時、後醍醐天皇ら広く公武の帰依を集めた。尊氏に勧めて諸国に安国寺と利生塔を建て、後醍醐天皇慰霊の天龍寺を京都に開山、また甲斐の恵林寺・京都の臨川寺などを開創した。弟子も多く国師号を受けた。著書『夢中問答』など。

□蘭溪道隆（らんけいどうりゅう） 1213～1278

1246年に宋より来日し、臨済宗を広めた僧。泉涌寺来迎院・寿福寺などに寄寓、53年（建長5）に北条時頼の帰依を受けて建長寺を開山した。のち建仁寺に転住したが再び建長寺に帰った。『大覚禅師語録』3巻がある。

□伊勢神道（いせしんとう）

鎌倉時代、伊勢神宮におこった神道説。度会神道・神宮神道ともいう。外宮の神官度会氏が外宮の地位向上をめざし、儒教・仏教を加えた反本地垂迹説を主張、14世紀初めには度会家行によって大成された。

□重源（ちょうげん） 1121～1206

鎌倉初期の浄土宗の僧。俊乗坊という。はじめ醍醐寺で真言宗を、のち法然に浄土教を学んだ。1167年以降3度入宋。81年東大寺再建の大勧進に補せられ、諸国を遊行勧進して東大寺再建に尽力した。

□明恵（みょうえ） 1173～1232

高弁ともいう。紀伊出身。文覚に密教を、東大寺で華嚴を学び、1206年に栴尾の高山寺を再興した。戒律を重んじ、華嚴宗中興の祖といわれ、当時の新仏教である法然の専修念仏を『摧邪輪』で批判した。後鳥羽上皇・北条泰時をはじめ上下の尊信が厚く、また栄西について禅も究め、栄西が伝えた茶を栴尾で栽培した。



## 第17日 中世の文化

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### ■ (1701) 最重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

〈鎌倉時代〉

- (1)北条義時の孫。評定衆として活躍し、武蔵国に金沢文庫を開設した。〔 〕
- (2)関東で活躍した天台僧。『万葉集』を研究し『万葉集註釈』を著した。〔 〕
- (3)古典研究者として活躍し、民間初の『日本書紀』注釈書を著した。〔 〕
- (4)平安時代末期から鎌倉時代初期の歌人で『千載和歌集』を撰じた。〔 〕
- (5)藤原俊成の子で『新古今和歌集』の撰者の1人として活躍した。〔 〕
- (6)歌人として知られ、各地を遍歴し『山家集』にすぐれた歌を残した。〔 〕
- (7)藤原為家の妻。所領問題で鎌倉へ赴き、紀行文『十六夜日記』を著した。〔 〕
- (8)晩年に出家し草庵に隠棲、仏教の無常観を盛りこんで『方丈記』を著した。〔 〕
- (9)吉田神社神官の子であったが、のちに出家して『徒然草』を著した。〔 〕
- (10)天台座主。九条兼実の弟。わが国最初の歴史哲学書『愚管抄』を著した。〔 〕
- (11)一山一寧らに師事した臨済僧。最初の仏教史『元亨釈書』を著した。〔 〕
- (12)入宋して榮西とともに帰朝し、大仏様(天竺様)をとり入れて東大寺伽藍を再興した。〔 〕
- (13)鎌倉時代初期に活躍した奈良仏師(慶派)の代表。興福寺無著像を製作した。〔 〕
- (14)運慶の弟子ともいわれる仏師。運慶とともに東大寺金剛力士像を製作した。〔 〕
- (15)運慶の子。六波羅蜜寺の空也上人像など、肖像彫刻の代表作を多く残した。〔 〕
- (16)鎌倉時代初期の絵師。似絵の傑作といわれる源頼朝像などを描いた。〔 〕
- (17)鎌倉時代初期の絵師。水無瀬宮の後鳥羽上皇像などの傑作を残した。〔 〕
- (18)伏見天皇の皇子。宋・元の書風をとり入れ、新たに青蓮院流を開いた。〔 〕
- (19)近衛天皇から贈られた号を家名とした、京都の甲冑製作の名家。〔 〕
- (20)道元とともに入宋し、帰国後、尾張国に窯を開き、瀬戸焼を始めた。〔 〕
- 〈南北朝～戦国時代〉
- (1)南朝の重臣で、『神皇正統記』を著し、後村上天皇に献上した。〔 〕
- (2)室町時代に出た二条派の歌人で、15世紀後期に古今伝授を確立した。〔 〕
- (3)室町時代の学者。『公事根源』や『樵談治要』などを著した。〔 〕
- (4)肥後の菊池氏や薩摩の島津氏に招かれ、儒学を講じた。薩南学派の祖。〔 〕
- (5)土佐の吉良氏に仕え、朱子学を講じた儒学者。南学の基礎をつくる。〔 〕
- (6)鎌倉公方足利持氏の執事であったが、のちに対立。足利学校を再興した。〔 〕
- (7)観世座の祖。田楽や曲舞をとり入れて、猿楽能を大成した。〔 〕
- (8)観阿弥の子。父とともに猿楽能を大成。芸術論『花伝書』を著した。〔 〕

- (9)南北朝期の公家。和歌・連歌にすぐれ『菟玖波集』などを編纂した。〔 〕
- (10)正風連歌を確立し、『新撰菟玖波集』『水無瀬三吟百韻』などを編集した。〔 〕
- (11)俳諧連歌を確立し、自由な精神を重んじて『犬筑波集』を編集した。〔 〕
- (12)相国寺の僧。周文に師事し、のち山口を本拠に活動。水墨画を大成した。〔 〕

**2** (1702) 最重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事 項〉

- (1)鎌倉時代、北条実時が武蔵国称名寺の境内に開いた私設図書館。〔 〕
- (2)公家や武家の儀式・典礼・年中行事・官職などを研究する学問のこと。〔 〕
- (3)東大寺再建にあたって重源が採用した、南宋の寺院建築様式。〔 〕
- (4)円覚寺舍利殿などに用いられた建築様式で、宋から移入された。〔 〕
- (5)大仏様(天竺様)や禅宗様(唐様)などに対し、それ以前の日本的建築様式をいう。〔 〕
- (6)観心寺本堂などにみられる建築様式の1つで、新和様ともいわれる。〔 〕
- (7)鎌倉時代の武家精神を反映し、写実性に富んだ大和絵の肖像画。〔 〕
- (8)従来の世尊寺流にかわり、尊円法親王が創始した書道の流派。〔 〕
- (9)13世紀、加藤景正が創始した焼物。瀬戸を中心に生産された。〔 〕
- (10)禅僧らによる漢詩文学。南北朝期から室町時代にかけて発達した。〔 〕
- (11)『古今和歌集』の歌にある一定の語句などを秘伝として弟子に授けること。〔 〕
- (12)室町時代、観阿弥・世阿弥父子によって大成された芸能・演劇。〔 〕
- (13)大和の春日神社に奉仕・従属した観世・宝生・金剛・金春の4座の総称。〔 〕
- (14)室町時代、能の合間に上演した庶民劇。猿楽の喜劇味から発達した。〔 〕
- (15)和歌の上の句と下の句とを連ねて唱和する文芸で、室町時代に盛行した。〔 〕
- (16)室町後期に盛行した小歌や宴曲、民間の童謡など310首余りを収めたもの。〔 〕
- (17)『酒呑童子』『物臭太郎』など、室町時代に流行した庶民的な短編物語。〔 〕
- (18)村田珠光が創始した、草庵での茶芸。のち茶道として大成された。〔 〕
- (19)足利義満が京都の北山に営んだ三層の楼閣。1397年に上棟された。〔 〕
- (20)足利義政が1489年、金閣にならって京都の東山に営んだ二層の楼閣。〔 〕
- (21)元来は禅僧の書斎。室町時代に成立した建築様式で、床・襖などを用いる。〔 〕
- (22)慈照寺境内にある足利義政の持仏堂。書院造の典型として知られる。〔 〕
- (23)水を用いず、砂と石で山水自然を表現する禅宗寺院の作庭様式。〔 〕
- (24)墨の濃淡によって禅の悟りの境地を描く、東洋独特の絵画として発達。〔 〕

**3** (1703) 重要人物チェック

各文にあてはまる人物名を答えなさい

- (1)鎌倉時代に活躍した臨濟宗の僧。13世紀後期に『沙石集』を著した。〔 〕
- (2)室町時代中期に活躍した茶匠で、従来の茶会を茶道にまで高めた。〔 〕
- (3)戦国時代に活躍した堺の茶人で、侘び茶を簡素化し千利休に伝えた。〔 〕
- (4)室町時代初期に活躍した禅僧。水墨画にも通じ「瓢鮎図」を描いた。〔 〕
- (5)室町幕府の御用絵師をつとめ、「大仙院花鳥図」などを描いた。〔 〕
- (6)室町時代後期、足利義政に仕え、彫金家・彫刻家として名声を得た。〔 〕

□(7)室町時代，朝廷絵所預や幕府の絵師をつとめ，土佐派を中興した。〔 〕

**4** (1704) 重要事件・事項チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

〈事項〉

- (1)八代集最後の作品集。後鳥羽上皇の命により藤原定家らが編纂した。〔 〕
- (2)源実朝の私歌集。力強い万葉調の歌が多く集められている。〔 〕
- (3)中世説話文学の代表的作品で，1254年，橋成季によって著された。〔 〕
- (4)鎌倉幕府が編纂した歴史書。源頼政の挙兵から1266年までを記す。〔 〕
- (5)源平の兵火で焼かれたのち再建された，大仏様(天竺様)の代表的建造物。〔 〕
- (6)鎌倉五山の1つである円覚寺境内にある，禅宗様(唐様)建築の代表的建造物。〔 〕
- (7)一遍の生涯を描いた鎌倉時代後期の絵巻物。円伊の筆といわれる。〔 〕
- (8)藤原信実の作とされる絵巻物。北野神社の由来などを描写している。〔 〕
- (9)元寇の様子を示した絵巻物で，竹崎季長の活躍ぶりが描かれている。〔 〕
- (10)地方武士の生活を描いた，鎌倉時代後期の絵巻物。浅野家旧蔵。〔 〕
- (11)北畠親房が常陸國小田城中で執筆し，後村上天皇に献上した歴史書。〔 〕
- (12)14世紀後期に成立した軍記物で，南北朝の動乱について記したもの。〔 〕
- (13)南北朝期の内乱を，北朝・足利氏側の立場で描いた歴史書である。〔 〕
- (14)世阿弥によって著された能楽の理論書で『風姿花伝』ともいわれる。〔 〕
- (15)宗祇・肖柏・宗長の3人が，水無瀬宮前で詠んだ百句の連歌集。〔 〕
- (16)一般に「山水長巻」ともよばれる雪舟の代表作。1486年に成立した。〔 〕

**5** (1705) 〈早稲田大〉 鎌倉文化

次の文の空所1～6に該当する最も適当な語を記しなさい。

- (1) 鎌倉時代中期に，北条実時によって，武蔵国に私設図書館として(1) 〔 〕が開設された。
- (2) 鎌倉時代末期に，(2) 〔 〕によって，漢文体のわが国最初の仏教史が著わされた。
- (3) 将軍源実朝は，(3) 〔 〕に和歌を学び，万葉調の和歌集(4) 〔 〕をのこし，異色の武人として名高い。
- (4) 鎌倉時代の特色を示す画法に(5) 〔 〕があり，京都神護寺の源頼朝像や平重盛像はその傑作である。
- (5) 宋から伝えられた建築様式に唐様があって，禅宗寺院に用いられたが，(6) 〔 〕舍利殿はその代表例である。

**6** (1706) 〈上智大〉 室町時代の文化

次の文章を読んで，下記の間1・2に答えなさい。

室町時代には，金閣を建てた将軍1〔a. 尊氏 b. 義満 c. 義政 d. 義昭〕の時代の北山文化，銀閣を建てた将軍2〔a. 尊氏 b. 義満 c. 義政 d. 義昭〕の時代の東山文化が形成された。この時代の文化は，よりひろく庶民的性格を加え地域的な拡がりを見せ，今日の日本人の行動原理や，日本文化を構成する多くのものを生んだ。衣食の面では木綿の普及，一日三食制や日本食の一般化がみられ，住宅建築では3〔a. 一木造 b. 寝殿造 c. 蔵造 d. 書院造〕が用いられるようになり，日本式住宅の基本型となった。生け花とならんで発達した侘び茶の方式は4〔a. 武野紹鷗 b. 古田織部 c. 村田珠光 d. 千利休〕によって生み出された。5〔a. 人形浄瑠璃 b. 能 c. 歌舞伎 d. 舞楽〕はこの時代を通じて親しまれた演劇で，その真髄を述べた芸能論が6〔a. 世阿弥 b. 本阿弥 c. 観阿弥 d. 金春禅竹〕の，7〔a. 閑吟集 b. 猿蓑 c. 文正草子 d. 花伝書〕である。宗教の分野では，8〔a. 天台・曹洞 b. 天台・真言 c. 曹洞・日蓮 d. 臨済・曹洞〕の旧仏教にかわって，武士や農民・商工業者などの幅広い信仰をえた鎌倉仏教の各宗が発達をつづけた。浄土真宗は

9[a. 日親 b. 黙庵 c. 栄西 d. 蓮如]の活躍によって発展し、各地で一向一揆をおこして大名に対抗した。

問1. 文中の1[ ]～9[ ]の語句から最も適当なものを選びなさい。

問2. 下記の語群のうち室町時代に関係のないものを選び、その符号の組合わせの正しいものを次から選びなさい。 [ ]

(a)エカスツナ (b)アカサテノ (c)エクストニ

(d)アクシテナ (e)イクシトナ (f)イケサテノ

[語群] ア. 愚管抄 イ. 梅松論 ウ. 太平記 エ. 増鏡 オ. 神皇正統記  
カ. 新撰菟玖波集 キ. 水無瀬三吟百韻 ク. 金槐和歌集 ケ. 閑吟集  
コ. 菟玖波集 サ. 明兆 シ. 藤原隆信 ス. 狩野正信 セ. 雪舟 ソ. 如拙  
タ. 絶海中津 チ. 一条兼良 ツ. 二条良基 テ. 三条実美 ト. 吉田兼俱  
ナ. 契沖 ニ. 宗祇 ヌ. 山崎宗鑑 ネ. 東常縁 ノ. 桂庵玄樹

## 類題トレーニング(6170)

### 1 (6171) <関西学院大> 鎌倉時代の美術

次の(A)～(E)の文を読み、歴史的に正ければ0を、誤っていれば1をマークしなさい。また下線①～⑤について設問に答えなさい。

- (A) 東大寺再建に力を尽くした栄西が採用した建築様式は、南宋の寺院建築を範とした①天竺様といわれるものであった。 [ ]
- (B) ②運慶は③鎌倉初期に活躍した奈良仏師の代表で、写実的かつ剛健な手法により、東大寺や興福寺の再興に彫刻面で貢献した。 [ ]
- (C) 一遍上人絵伝は、④鎌倉後期の絵巻物で⑤円伊の作であり、写実的手法で自然や庶民生活を描いている。 [ ]
- (D) 粟田口吉光は鎌倉後期の京都の刀工で、鎌倉の岡崎正宗とともに、当代の名刀鍛冶の双璧と謳われた。 [ ]
- (E) 尊円法親王は宋の書風をとり入れて世尊寺流という書道一派を創始した。この派は当時の書道の主流となり、江戸時代に御家流に発展した。 [ ]

[設問]

- ① 天竺様の代表的建築を次より選びなさい。 [ ]  
 イ. 円覚寺舍利殿    ロ. 浄土寺浄土堂    ハ. 観心寺金堂    ニ. 興福寺北円堂
- ② 運慶の作品を次より選びなさい。 [ ]  
 イ. 興福寺無著・世親像    ロ. 東大寺執金剛神像  
 ハ. 蓮華王院千手観音像    ニ. 興福寺天燈鬼像
- ③ 次の仏師のうち、鎌倉時代には活躍しなかった人物を選びなさい。 [ ]  
 イ. 康弁    ロ. 康勝    ハ. 定朝    ニ. 快慶
- ④ 次の絵画のうち、鎌倉時代のものを選びなさい。 [ ]  
 イ. 高野山聖衆来迎図    ロ. 平治物語絵巻    ハ. 扇面古写経    ニ. 職人尽図屏風
- ⑤ 次の人物のうち、鎌倉時代の画家を選びなさい。 [ ]  
 イ. 藤原隆信    ロ. 巨勢金岡    ハ. 長谷川等伯    ニ. 住吉具慶

### 2 (6172) <立命館大> 室町時代の文化史

次の文章を読んで、空欄A( )～Y( )に適切な語句を入れなさい。

室町時代の文化は、北山文化と東山文化に代表される。この両文化の呼称は、將軍足利義満および義政が京都北山および東山にそれぞれ別荘を営んだところからきており、両文化を象徴するものがそのそれぞれの別荘に建てられた金閣と銀閣である。おなじ楼閣建築でありながら、義満の金閣はA( )とB( )の建築様式を折衷した豪華なもので、公家の伝統文化と大陸の文化の摂取に積極的であった北山時代の一面を表わしており、義政の銀閣(ないし東求堂)は寺院建築と住宅建築とが融合したC( )をとり入れて清閑の趣きを備えていて、諸文化の統一が進んだ東山時代の特色をみせている。

義満は禅宗を保護し、宋の官寺の制にならって五山の制度を整えた。京都では、天竜・相国・建仁・D( )・E( )の5寺のうえにF( )をおき、鎌倉では、建長・円覚・寿福・G( )・H( )の5寺と定めた。これら五山の禅僧たちは、外交の面でも、また学問や詩文の分野でも活躍したが、やがて東山時代になると五山以外の林下の諸寺、曹洞宗のI( )・J( )や、臨済宗ではK( )およびL( )が中心となって地方への禅宗の布教に努めるようになり、蓮如の浄土真宗や日親の日蓮宗の布教に対応することとなる。

禅僧によって伝えられた水墨画は、はじめM( )やN( )の名手が出てその基礎を築き、やがてO( )によって大陸の模倣の域を脱した新しい境地

がひらかれて日本画に一時期を画することになる。P( )・Q( )の父子が水墨画と大和絵の画風を融合したR( )の基をひらいたのもおなじ頃である。

民間の芸能である猿楽は、金春・観世・S( )・T( )の大和四座などの座によって発展したが、そのなかから出たU( )・V( )の父子は義満の保護を受け、猿楽能を完成し、以後能は寺社の手をはなれ武家の援助のもとに伝承されるようになった。茶数奇や茶寄合で愛好された茶の湯は、W( )によって侘び茶として統一され、花ではX( )が流行して東山文化に彩りをそえた。このほか幸若舞・古浄瑠璃・盆踊り・小歌などの芸能も庶民にもてはやされ、民間の歌謡を集めたY( )の成立や、宗祇による正風連歌、山崎宗鑑による俳諧連歌の創始など、文芸の世界でも時代の進展とともに庶民化の傾向がようやく顕著になってきたのである。

### 3 (6173) 〈慶應義塾大〉 室町文化

次の文章は、ある時代の文化について述べたものである。文章を読み、それぞれの空欄に下の語群からもっとも適当な語を選びその番号を記入しなさい。

この時代には中央の文化が地域的に広まったばかりでなく、階層的にも庶民にまで普及していった。文化の担い手としては都市の町衆や郷村の上層農民があらわれ、庶民の文化を発展させた。こうしたことの背景には、商工業の発展にともなって、城下町のほかに港町や門前町などの都市が目ざましく発達したこと、農民の自治組織である郷村制が成立したことをあげることができよう。港町の堺や博多などでは町衆による自治がみられた。富と自由を有する町衆を中心として、伝統にとらわれない文化が発達したのである。

この時代には庶民の間にもa( )がひろく流行した。宗祇は各地を歩いてこの道の普及につとめ、やがてb( )を撰して幽玄を旨とするc( )を確立した。しかし、それはしだいに規則にこだわるようになって定型化し、その特色とする自由でおおらかな気風が失われていった。こうした傾向に対して、滑稽・洒脱を旨とするd( )がe( )らの手によってはじめられ、しだいにこのまれるようになった。

このころから一般に愛好された短編の物語にf( )がある。これは王朝時代の物語文学、神仏の本地を説く仏教説話、民間の説話・伝承などが集成されてつくられたものと考えられているが、たとえば庶民を主人公としたg( )のように、彼らの夢と願いを空想の世界に描き出したものが多い。また当時ひとびとに愛唱されたh( )を集めたi( )も作られた。

この時代に観阿弥・世阿弥父子によって完成された演劇に、民間芸能としてあった猿楽をもとに出来上がった能(猿楽能)がある。これに用いられる仮面は「神・男・女・狂・鬼」の五種に大別される。j( )は「女」の一つで、若い女性をかたどるものである。世阿弥らの芸はその女婿k( )らによって受け継がれた。また、能の合い間に演じられた狂言には、大名・山伏・僧侶などを風刺するものも多い。

- 〔語群〕 01. 絵巻物 02. 十二類絵巻 03. 桃井幸若丸 04. 仮名草子 05. 小歌  
06. 般若 07. 芭蕉 08. 古今集 09. 金春禅竹 10. 小唄 11. 三人法師  
12. いろは歌 13. 二条良基 14. 小面 15. 文正草子 16. 新古今集  
17. 高三隆達 18. 今様 19. 菟玖波集 20. 閑吟集 21. 酒吞童子  
22. 俳諧 23. 犬筑波集(新撰犬筑波集) 24. 庭訓往来 25. 俳諧連歌  
26. お伽草子 27. 愚管抄 28. 和歌 29. 山崎宗鑑 30. 浮世草子  
31. 正風連歌 32. 新撰菟玖波集 33. 梁塵秘抄 34. 連歌

### 4 (6174) 〈同志社大〉 鎌倉～室町時代の文化史

次の1～10の短文は、鎌倉～室町時代に成立した書物や絵巻物などを簡単に解説したものである。その書物または絵巻物の題名を漢字で記しなさい。また、1, 2, 4, 7, 9, 10の作品を成立の年代順に左から右へ並べ、その番号を記入しなさい。但し、1の成立は4番目である。

〔年代順〕

1. この書は、当時閑白であった編者が、古代から編者の時代までの天皇以下、公家・武家・僧侶・庶民ら530余人の作品を集めたものである。完成の翌年には「勅撰集」に準ぜられ、この作品集

- にもられた文学のジャンルに和歌と同等な地位が確認された。 [ ]
2. この書は、摂関家出身の著者が、神武天皇から承久の変ころまでの歴史を書いたものだが、たんに歴史の事実を記すだけではなく、歴史のうつりかわりを「道理」の変化として説いているところに特色がある。 [ ]
3. この書は南北朝の戦乱をその内容としたものであるが、その体裁は『大鏡』にはじまる鏡物にならない、『大鏡』が藤原道長の栄華を語ったのにたいして、足利尊氏を主人公としてその徳を称えることを意図して書かれたものである。 [ ]
4. この書は、撰上された年の9月に早くも鎌倉に伝えられ、源実朝に大きな影響を与えた歌集である。源実朝は万葉調の和歌を作ったことだけが強調されがちだが、じつは万葉調の歌はかれの全作品の約1割にしからず、大部分は王朝風の歌であって、この歌集はかれの生涯の愛読書であった。 [ ]
5. この書は、手紙の模範文を12カ月に配して集めたもので、武士や庶民の日常生活に必要な用語を基本的に用いており、長く初等教科書として使用された。室町時代の初めころにつくられたものといわれている。 [ ]
6. この書は、師の教えを弟子が書きしるしたもので、有名な「善人なおもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」ということばは、この書物に書きとめられているものである。 [ ]
7. この書は、父の遺訓を著者じしんの体験や意見を加えて整理したもので、能の美を「花」の語でとらえた能の演技指導書である。 [ ]
8. この絵巻は、菅原道真の生涯とその死後の崇りを劇的に語り、その崇りを鎮めるための神社創建の次第や、神としてまつられたのちの靈験などを語ろうとした大作であるが、完成されずに未完成のかたちで今日に伝えられている。 [ ]
9. この画卷は、それまでの絵巻物とはやや性格を異にし、代表的な水墨画家として知られる僧侶の晩年の作品で、春夏秋冬の風景を淡彩をもちいて長々とえがいたものである。 [ ]
10. この絵巻は、肥後の御家人の竹崎季長が自分の勲功を描かせたもので、すでに当時、火薬などの用いられている様子もえがかれている。 [ ]

5 (6175) <中央大> 鎌倉・室町時代の文学と思想

古代から中世への過渡期の文化についての次の文章をよみ、下線の部分に関する下記の設問(1)～(6)に、それぞれさだめられた方法で答えなさい。

没落してゆく階級によって文化が健全な発展の道を進むことはむずかしい。13世紀のはじめの(1)新古今和歌集以後の和歌は、しだいに創造力を失ってゆき、内容のない秘伝を尊重して、流派争いに身をやつすなど末期的症状を示してくる。やがて和歌の変形である連歌、またその一分枝である(2)俳諧などが、韻文界の主流をしめるようになる。

これに対して新しい時代の息吹きを生き生きと伝える作品は、局限された貴族の間だけで形成された平安時代の物語などにはない、大衆的ないし民族的古典としての性格をもって登場してくる。たとえば平家物語がそれである。その著名な冒頭の一節「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響あり、娑羅雙樹の花の色、盛者必衰のこわりをあらわす。おごれる人も久しからず、唯春の夜の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵に同じ。」は、物語全体が(3)浄土教的無常観によっていどられていることを、象徴的に示しているようであるが、他方その巻五「都遷り」の中で、「旧都をば既にうかれぬ、(4)新都は未<sup>いまだ</sup>事行かず」と、その有様をのべている個所などには、そののちわずか半年たらずで、都は京に戻るとはいえ、やはり新しい時代への展望が示されているように思われる。その点で同じ遷都について、「古京はすでに荒れて、新都はいまだ成らず」とのべた(5)方丈記と比べると、わずかな表現のちがいであっても、両者の世界に(6)異質的なものを読みとることができるのではあるまいか。

問(1) この遷都の1人で「明月記」の作者の名前を漢字四字で記しなさい。

[ ]

- 問(2) 17世紀の後半に、俳諧を大成させた人の名前を漢字四字で記しなさい。  
 { }  
 問(3) 10世紀の末に、この思想を説いた書物の名前を漢字四字で記しなさい。  
 { }  
 問(4) 新都とはどこか。その地名を漢字二字で記しなさい。  
 { }  
 問(5) この書物の著者の名前を漢字三字で記しなさい。  
 { }  
 問(6) 平家物語が方丈記に対して、同じ過渡期の文学作品であるにもかかわらず異質なものとされるのは、どういう点か。平家物語があつかった内容とその享受のしかたの二点に限って、50字以内でのべなさい。(句読点も一字に数える。)
- 
- 

6 (6176) <慶應義塾大> 鎌倉時代の文化

つぎの文は1203年に復興成った1大寺の供養にあたって読まれた2上皇の願文の一部を要約したものである。これを読み、質問1～10について答えなさい。(解答はいずれも漢字で書かねばいけない) 「この寺は、3わが祖先の御願によって創建されたものである。以後400余年を経て、4軍勢の手で焼打された。しかし、5一人の聖僧が勸進上人となってその復興にあたり、国も費用と後援を惜しまず、つぎつぎに6金堂や7本尊以下の造営修理が進められ、8内外の名匠が尽力したおかげで、ここに復興の業が成った。これを見ると、建築はそれぞれ普通の規模であるが、その意匠には9新たな工夫が加えられており、仏像の粧よそおいは旧の通りであるが、仰ぎ見れば新時代の風が備わっている。なお本尊はその身長が十丈七尺、10南大門の金剛力士は高さが二丈六尺である。」

- [質問] 1. 大寺の名称 2. 上皇とは誰れか 3. 「わが祖先」とは誰れか  
 4. 軍勢の氏の名 5. 聖僧の名 6. 金堂の俗称 7. 本尊の名称  
 8. 復興に協力した中国人の名 9. 新しい建築様式の名称  
 10. 金剛力士像の作者2人の名
- 
-



## 第17日 中世の文化

### ●重要用語●

#### □鎌倉文化（かまくらぶんか）

京都の朝廷公家政権と鎌倉の武家政権が併存し、新興武家勢力が伸びていった時代相を反映し、雄渾・素朴ななかにも、世相の変遷にともなう哀歎・情趣をもったものが多い。大仏様(天竺様)と称する宋風建築様式、禪宗様(唐様)と称する禪宗建築、力感溢れる写実的仏像、『新古今和歌集』『方丈記』などの和歌随筆、『平家物語』などの軍記物、『愚管抄』などの歴史書、『春日権現験記』などの絵巻物——等が現存する。

#### □北山文化（きたやまぶんか）

室町前期、3代将軍足利義満あしかがよしみつが京都北山に山荘(金閣)を営んだことにちなみ、その時代(14世紀後半～15世紀初頭)を中心とした文化をいう。伝統的公家文化と大陸文化と新興武家文化との融合が特徴。五山の禅僧を中心にした五山文学が栄え、宋・元風の水墨画が発展し、建築では和様・禅宗様折衷の金閣ができた。また古来の猿楽や田楽が能・狂言に大成され、連歌や御伽草子が流行をみせた。15世紀後半以降の東山文化と対比される。

#### □東山文化（ひがしやまぶんか）

足利義満あしかがよしまさの時代を中心とする室町中期の文化で、義政の東山山荘の銀閣はその象徴的存在である。北山文化に続くものであるが、主観的・象徴的な様式が重要視され、わび・さびなどの簡素な美を重んじたのがその特徴である。内容としては朱子学・五山文学の発達、連歌の流行、雪舟せつしゅうの水墨画、金春禅竹こんばるぜんちくの能楽、時絵まきえ・茶道・華道の普及などがあげられる。また、大徳寺大仙院・龍安寺などの名園もつくられた。

#### □愚管抄（ぐかんしょう）

僧慈円じえん(1155～1225年)が1220年に著した歴史書。7巻からなり、神武天皇じんむから順徳天皇じゅんとくまでを叙述。仏教の末法思想と道理の理念による史観が貫かれている。道理がすたれ、武家の進出によって不安定になった時代に対処して、武家政治を肯定し、公家の地位を保持するための心構えを説いたもの。

#### □金沢文庫（かねさわ(かなざわ)ぶんこ）

13世紀なかば、鎌倉北条氏の一族である北条実時ほうじょうざねときが、武蔵金沢(現横浜市)の称名寺境内に建てた文庫。和漢の書を集めて僧俗に公開し、ここで講義も行われた。中世の図書館の代表とされる。

#### □足利学校（あしかががっこう）

鎌倉初期の創設らしいが、15世紀中葉に鎌倉公方執事、のちに関東管領もつとめた上杉憲実うえすぎのりざねが再興。栃木県足利市所在。全盛期の学生数は3000人に及んだ。キリスト教の宣教師によって「坂東の大学」と称され、江戸幕府も保護した。中世唯一の学校とされる。

#### □金閣（きんかく）

京都鹿苑寺内の3層の建物。1397年、足利義満あしかがよしみつが西園寺家さいおんじの山荘を譲り受けて新築したもの。初層は寝殿造の法水殿、中層は武家造の観音殿、上層は禅宗仏殿風室からなり、屋根に鳳凰がおかれている。全体に金箔が張られているので金閣といわれる。1950年、放

火により焼失したが、55年に再建された。

□銀閣（ぎんかく）

1489年、將軍足利義政が京都東山につくった山荘の遺構。現在の慈照寺観音殿で、はじめ銀箔を張る予定だったのでこの名がある。仏殿と書院造の住宅が結合した建物で、東山文化を象徴する貴重なもの。

□禅宗様建築（ぜんしゅうようけんちく）

鎌倉時代、禅宗の伝来とともに宋より伝えられた禅宗伽藍の建築様式。唐様ともいう。従来の和様と異なり、木割が細く軒反が強く、屋根の勾配は急である。円覚寺舍利殿は代表的な遺構である。

□大仏様（だいぶつよう）

鎌倉時代初期の建築様式。天竺様ともいう。中国の宋代の建築様式を受けたもので、東大寺再建のとき俊乗坊重源がとり入れた。禅宗寺院建築の禅宗様と対比され、素朴さと力強さが特色。代表的遺構として東大寺南大門、兵庫県の浄土寺浄土堂などが現存する。鎌倉時代末期には和様や禅宗様と融合した折衷様があらわれた。

□似絵（にせえ）

平安後期から鎌倉初期に流行した写実的な大和絵肖像画。現実的風潮と当時の個人崇拜の傾向により発達し、藤原隆能・隆信・信実などの画師が出た。隆信の神護寺蔵「平重盛像」「源頼朝像」、信実の「後鳥羽上皇御影」などが代表作として名高い。鎌倉中期以降、禅宗の肖像画である頂相が出現したため衰退した。

□運慶（うんけい） 生没年不詳

鎌倉初期の仏師。康慶の子。東大寺・興福寺の再建にたずさわった。剛健で写実的な作風は、鎌倉彫刻の規範となった。代表作は円成寺の大日如来像、東大寺南大門の金剛力士像、興福寺北円堂の無著・世親像など。

□雪舟（せっしゅう） 1420～1506

備中出身。室町期の代表的画僧。相国寺の周文に山水画を学び、1467年に大内氏の便船で明に渡った。69年に帰国し、応仁の乱後、大内氏の居城山口の雲谷庵や益田の医光寺に住んで活動した。「四季山水図巻(山水長巻)」や「秋冬山水図」などの格調の高い名作を描き、水墨画を大成した。

●発展用語●

□水墨画（すいぼくが）

墨の濃淡のみで立体感や色彩感を表現する東洋独特の画法。中国の唐代に始まり宋代に盛行した。破墨と潑墨の2系統がある。日本へは鎌倉中期に伝わり、室町期の如拙・周文・雪舟によって最も栄えた。江戸中期には池大雅・与謝蕪村・田能村竹田らの南画がおこり、明治期には富岡鉄斎らが活躍した。

□連歌（れんが）

和歌の上の句と下の句を、複数の人が次々に詠み連ねてゆく日本独自の詩歌の形式。平安

期に短連歌が流行、鎌倉時代には長連歌に発展した。南北朝期の二条良基が連歌新式を定め、そのあと、宗祇らによって室町中期に正風連歌が栄えた。室町末期の山崎宗鑑以降、連歌の1様式の俳諧連歌がさかんになった。

#### □書院造（しよいんづくり）

鎌倉末期に始まり安土桃山～江戸期に流行。平安期の寝殿造と相対して日本の2大住宅様式とされる。接客空間を中心におき、その主室に床・棚・付書院・帳台構えをおいて飾り、別に玄関を設けるのが特色である。今日の日本風住宅の源流となった。東山山荘（のちの慈照寺）の東求堂・西本願寺書院などが代表といわれる。

#### □神皇正統記（じんのうしょうとうき）

北畠親房（1293～1354年）の著書。1339年成立。神代から後村上天皇までの歴史の記述を通して、南朝の正統性を論じたもの。儒教的政治理念を基本として、神道・仏教の思想的影響を受けた歴史観で貫かれている。“正理”の観点から院政、武家政治を批判・評価しており、後世の史書への影響も大きい。

#### □梅松論（ばいしょうろん）

南北朝時代の歴史書。著者は足利尊氏側近の武将といわれる。室町幕府創立に至る過程を尊氏の側立って述べ、室町幕府の正統性を強調している。比較的史実に忠実であり、史料として貴重である。

#### □新古今和歌集（しんこきんわかしゅう）

後鳥羽上皇の命による勅撰和歌集で、1205年の成立。20巻、約1900首。藤原定家・家隆らの撰。おもな作者は撰者のほか西行・慈円・藤原俊成・式子内親王・後鳥羽上皇らで、当代歌人の作を多く採った。優雅で繊細な歌風と、本歌取・三句切・体言止などの独特な技法は、新古今調といわれ、過去の栄華を追想する公家の心情をしのばせる。『万葉集』『古今和歌集』とともに3大歌集として後世尊重された。

#### □新撰菟玖波集（しんせんつくばしゅう）

1495年に完成した室町期の連歌の准勅撰集。宗祇を中心に猪苗代兼載・三条西実隆や武家も参加して編集し、『菟玖波集』（1356年）以降の251人、2053句を選び、伝統主義的な正風連歌を集大成した。

#### □有職故実（ゆうそくこじつ）

公家・武家の生活における官制・法制から衣服・調度・飲食・住居・年中行事・礼式・風俗習慣・言語・遊芸など、とくに儀礼行事上の方式をさし、またそれらを整理する学問をいう。公家関係を有職、武家関係を故実とする説もある。公家については平安期から整理体系化され『西宮記』（「さいきゅうき」、「せいきゅうき」ともいう、源高明の著）『江家次第』（著者は大江匡房）が著された。武家は室町期以降で江戸期にさかんになり、伊勢氏・小笠原氏が専門とした。

#### □狩野元信（かのうもとのぶ） 1476～1559

号永仙。狩野派の始祖正信の長男。水墨画と大和絵をミックスして新画法を築き、狩野派の基礎を確立した。足利将軍家をはじめ公家・武家・寺院・町衆の広い支持を得た。大徳寺大仙院「花鳥図」などの代表作がある。

□加藤景正（かとうかげまさ） 生没年不詳

鎌倉時代の陶工。伝記不詳。一説に道元<sup>どうげん</sup>とともに入宋し、陶法を学んで帰国したのち、尾張瀬戸に良土を発見、開窯したという。通称藤四郎<sup>とうしろう</sup>といい、子孫も代々藤四郎と称した。陶工の祖とされる。

□増鏡（ますかがみ）

南北朝時代に成立の歴史物語。二条良基<sup>にじょうよしもと</sup>著といわれる。20章。後鳥羽天皇<sup>ごとぼ</sup>の誕生から後醍醐天皇<sup>ごだいご</sup>の京都還幸までの1180～1333年について、公家の立場に立って編年体で描いている。四鏡の最後に数えられる。

## 第18日 中世の史料

⇒類題トレーニング

⇒用語チェック

### 1 (1801) 中世の政治・外交関係の史料チェック

各文にあてはまる史料名を答えなさい

□(1)一、諸国守護人奉行の事。右、右大将家の御時、定めおかるる所は、大番催促、謀叛・殺人等の事也。 [ ]

□(2)この状は……あまねく人に心えやすからせんために、武家の人へのはからひのためはかりに候。これによりて京都の御沙汰、律令のおきて、<sup>いささか</sup>聊もあらたまるへきにあらす候也。 [ ]

□(3)一、質券売買地の事。右、地頭・御家人の買得地に於いては、本条を守り、廿箇年を過ぐれば、本主取返すに及ばず…… [ ]

□(4)古の興廃を改て、今の例は昔の新儀なり、朕か新儀は、未来の先例たるへしとて、新なる勅裁漸々きこえけり。『梅松論』 [ ]

□(5)日本准三后某、大明皇帝陛下に書を<sup>たてまつ</sup>上る。日本国開闢以来、上邦に聘問を通ぜざるなし。『善隣国宝記』 [ ]

□(6)喧嘩の事は非におよばず成敗を加ふべし。但し、取り懸ると<sup>いへど</sup>雖も、堪忍せしむるの輩に於ては、罪科に処すべからず。『甲州法度之次第』 [ ]

〔語群〕 日明貿易 永仁の徳政令 御成敗式目 建武の新政 泰時消息文 分国法

### 2 (1802) 中世の社会関係の史料チェック

各文にあてはまる語句を答えなさい

□(1)ヲンサイモクノコト、アルイワチトウノキヤウシヤウ、アルイワチカフトマウシ…… [ ]

□(2)此比都ニハヤル物、夜討、強盜、<sup>にせ</sup>謀論旨、召人、早馬、<sup>そらさわぎ</sup>虚騒動…… 『建武年間記』 [ ]

□(3)正長元年九月 日、一天下の土民蜂起す。……凡そ亡国の基、これに過ぐべからず。日本開白以来、土民蜂起これ初め也。『大乘院日記目録』 [ ]

□(4)正長元年ヨリサキ者、カンヘ四カンカウニヲキメアルヘカラス [ ]

□(5)今日山城国人集会す。……同じく一國中土民等群衆す。……但し又下極上のいたりなり『大乘院寺社雑事記』 [ ]

□(6)文明六年十一月朔日、加賀国の一尙宗土民、侍分と確執す。侍分悉く以て土民方より国中を払わる。……守護代打たれおわんぬ [ ]

□(7)汝やしる都は野辺の夕雲雀 あがるを見ても落るなみだは [ ]

□(8)日本全国当堺の町より安全なる所なく、他の諸国に於て動乱あるも、此町には嘗てなく、敗者も勝者も此町に來住すれば皆平和に生活し…… [ ]

〔語群〕 正長の土一揆 加賀国一向一揆 山城国一揆 応仁の乱 二条河原落書 紀伊国阿氏河莊民訴状 柳生の徳政碑文 自由都市堺(耶蘇会士日本通信)

### 3 (1803) 中世の文化関係のチェック

各文にあてはまる史料名を答えなさい

□(1)大日本者神国也。<sup>あまつみおや</sup>天祖 ハジメテ基ヲヒラキ、日神ナガク統ヲ伝給フ。我国ノミ此事アリ。異朝ニハ其タグヒナン。此故ニ神国ト云也。 [ ]

□(2)示云ク、<sup>しかんたざ</sup>只管打坐也、或ハ閣上、或ハ楼下ニシテ、常坐ヲイトナム、人ニ交リ物語ヲセズ……  
常ニ独坐ヲ好ム也。 [ ]

□(3)「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや。……他力をたのみたてまつる悪人、もとも往生の正因なり……」 [ ]

□(4)若し先ず国土を安んじて現当を祈らんと欲せば、速やかに情慮を廻らし、<sup>いそぎ</sup>忿て対治を加へよ。  
[ ]

〔語群〕 立正安国論 歎異抄 神皇正統記 正法眼蔵随聞記

4 (1804) 〈立命館大〉 鎌倉・室町時代の史書と宗教書

次の文章は、鎌倉時代～南北朝時代の宗教書や歴史書の一節である。これを読んで下の問に答えなさい。

〔1〕 世ノ道理ノウツリユク事ヲタテムニハ、一切ノ法ハタゞ道理ト云ニ文字ガモツナリ。其外ニハナニモナキ也。

〔2〕 念仏を信ぜむ人は、たとひ一代の法を能<sup>よくよく</sup>々学すとも、一文不知の愚鈍の身になして、<sup>あま</sup>尼入道の無智のともがらに同<sup>おなじく</sup>して、智者のふるまひをせずして、ただ一向に念仏すべし。

〔3〕 凡王土ニハラマレテ、忠ヲイタシ命ヲスツルハ人臣ノ道ナリ。<sup>かならず</sup>必コレヲ身ノ高名トオモフベキニアラズ。シカレドモ後ノ人ヲハゲマシ、其アトヲアハレミテ賞セラルハ、君ノ御政ナリ。下トシテキヲヒアラソヒ申ベキニアラヌニヤ。

〔4〕 汝、早く信仰の寸心を改めて、速かに<sup>じつじょう</sup>実乗の一善に帰せよ。然れば則ち三界は皆仏国なり、仏国其れ衰へんや。十方は悉く宝土なり、宝土何ぞ<sup>やぶ</sup>壊れんや。国に衰微なく土に<sup>ほえ</sup>破壊なくんば、身は是れ安全にして、心は是れ<sup>ぜんじょう</sup>禅定ならん。此の詞此の言信ずべし崇むべし。

〔5〕 弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて、往生をばとぐるなりと信じて、念仏まうさんとおもひたつこゝろのおこるとき、すなはち、<sup>せつしゆふしや</sup>攝取不捨の利益にあづけしめたまふなり。弥陀の本願には、老少善悪の人をえらばれず、たゞ信心を要とす、とするべし。

〔6〕 示云く、只管打坐也。或は閣上、或は楼下にして、常坐をいとなむ。人に交り物語をせず、<sup>ろう</sup>聾者の如く<sup>あ</sup>瘖者の如くにして、常に独坐を好む也。

〔7〕 元弘三年の今は天下一統に成しこそめづらしけれ。君の御聖断、延喜・天曆のむかしに立帰りて、武家安寧に比屋謳歌し、いつしか諸国に国司・守護を定め、<sup>けいそうんかく</sup>卿相雲客各其の位階に登りし<sup>てい</sup>躰、まことに目出度かりし善政なり。

(a) 出典は何か、書名を記しなさい。

(b) 作者を記しなさい。〔7〕を除く。

(c) それぞれの文章の内容に最も適当な語句を①～⑨から選び、符号で答えなさい。

- ①末法思想 ②禅定門 ③建武新政 ④題目唱和 ⑤南北合一 ⑥悪人正機  
⑦専修念仏 ⑧道理の展開 ⑨法華至上 ⑩神国思想 ⑪他力本願 ⑫儒教思想

## 類題トレーニング(6180)

### 1 (6181) <日本大> 貞永式目

次の〔史料〕をよみ、各設問にたいする答えとして最も適当な語を、それぞれの語群より選び、その番号を記しなさい。

〔史料〕 御式目事、雑務御せいばいのあひだ、(中略)むねとほうりやうのものにつきて、そのさたあるべきにて候に、み中にはそのみちをうかゞいしりたるもの、千人万人が中にひとりだにもありがたく候、(中略)しさいを、しらぬものゝさたしおきて候らんことを、ときにのぞみて、ほうりやうにひきいれてかんがへ候はゞ、鹿あなほりたるやまにいりて、しらずしておちいらんがごとくに候はんか、このゆゑにや候けん、大将殿の御時ほうりやうをもとめて御せいばいなど候はず。

- 問1. この史料は、御成敗式目の意図を説明した消息(書状)の一節である。この消息の発信人は、だれか。 [ ]
1. 北条時頼 2. 北条義時 3. 北条時政 4. 北条泰時
- 問2. この消息の宛先人は、だれか。 [ ]
1. 北条重時 2. 大江広元 3. 梶原景時 4. 伊賀光時
- 問3. 史料の中にある「ほうりやう」とは、どれにあたるか。 [ ]
1. 律令法 2. 武家法 3. 慣習法 4. 分国法
- 問4. この消息が作られたのは、いつか。 [ ]
1. 1213年 2. 1221年 3. 1232年 4. 1253年
- 問5. ここに引用した「式目」の作成意図は、どれにあたるか。 [ ]
1. 式目を全国に適用したい 2. 式目をもって律令法にかえたい  
3. 武家に適した法を作りたい 4. 武家に山野に対する支配権をもたせたい
- 問6. 史料の中にある「大将殿」とは、だれのことか。 [ ]
1. 源義朝 2. 源範頼 3. 源義経 4. 源頼朝
- 問7. この消息作成当時の将軍は、だれか。 [ ]
1. 藤原頼経 2. 藤原頼嗣 3. 源実朝 4. 宗尊親王
- 問8. 御成敗式目の作成に参加したのは、だれか。 [ ]
1. 三浦義澄 2. 三善康連 3. 平頼綱 4. 和田義盛

### 2 (6182) <早稲田大> 御成敗式目・建武新政

次の(1)、(2)の文を読み、下記の問AおよびBに答えなさい。ただし問Aに対する答えは正しい漢字または算用数字で記し、問Bに対する答えは、それぞれの問いの次の語群から、該当する事項を選び、その記号を記しなさい。

(1) 八月十日、午戌、d 武州造らしめ給うイ( )、其の篇を終えらる。a 五十箇条也。今日以後 訴訟の是非は、固く此の法を守りて、裁許せらる可きの由定めらると云々。是れ則ちb 淡海公の律令に比す可き歟。彼は海内の龜鑑、是れは関東の鴻宝なり。 (原和様漢文)

(2) 総ジテe 此君笠置へ落サセ給シトキ、解官停任セラレシ人々、死罪流刑ニ逢シ其子孫、<sup>こゝかしこ</sup>此彼ヨリ召出サレ、一時ニ<sup>ちつかい</sup>整懐(ふさいだ心)ヲ開ケリ。(中略)世ノ盛衰時ノ転変、歎クニ叶ハヌ習トハ知ナガラ、今ノ如クニテ公家一統ノ天下ナラバ、諸国ノ地頭、御家人ハ皆奴婢、雑人ノ如クニテ有ベン。アハレイカナル不思議モ出来テ、c 武家四海ノ権ヲ執ル世ノ中ニ又ナレカシト思フ人ノミ多カリケリ。

問A.

1. (1)の文の空欄イ( )に該当する事柄は何か。 [ ]

2. (1)の文の下線部分 a は、実際には何箇条か。 [ ]
3. (1)の文の下線部分 b は何をさすか。 [ ]
4. (2)の文はどのような事件の直後のことを記したもののか。 [ ]
5. (2)の文は何世紀初めのことを記したもののか。 [ ]
6. (2)の文の下線部分 c の世論に乘じ、これを実現したのは誰か。 [ ]

問B.

1. (1)の文の下線部分 d は誰のことか。 [ ]  
 あ. 源頼朝    い. 北条義時    う. 北条時政    え. 北条泰時
2. (1)の文の出典は何か。 [ ]  
 あ. 吾妻鏡    い. 神皇正統記    う. 愚管抄    え. 大鏡
3. (2)の文の下線部分 e は誰のことか。 [ ]  
 あ. 後鳥羽天皇    い. 後醍醐天皇    う. 後白河天皇    え. 後村上天皇
4. (2)の文の出典は何か。 [ ]  
 あ. 増鏡    い. 梅松論    う. 太平記    え. 玉葉

3 (6183) <関西学院大> 新補地頭・半濟法

次の史料を読み、設問に答えなさい。答はすべて頭書の記号をマークしなさい。

A. ①去々年の兵乱以後、諸国の莊園郷保に補せらるる所の地頭、沙汰の条々。

一. 得分の事

右、宣旨の状のごとくんば、<sup>けりょう</sup>仮令(注)、田畠各拾一町の内、十町は、②( )・国司の分、一町は地頭の分、広博狭小を嫌はず、③この率法をもって免給の上、④加徴は段別に⑤( )を宛て行はるべしと云々。 (注)仮令=たとえば

[設問]

1. 下線①の兵乱は何をさすか。 [ ]  
 ア. 平氏滅亡    イ. 元寇    ウ. 承久の乱    エ. 保元の乱
2. 空欄②を補いなさい。 [ ]  
 ア. 領家    イ. 守護    ウ. 朝廷    エ. 幕府
3. 下線③の率法が適用されるものは何と呼ばれるか。 [ ]  
 ア. 関東御家人    イ. 西国御家人    ウ. 本補地頭    エ. 新補地頭
4. 下線④の加徴とは、どのようなものか。 [ ]  
 ア. 領主に納める年貢に加えて夫役が課せられること。  
 イ. 雑役を免除される代わりに、別に徴収される米のこと。  
 ウ. 年貢以外に、地頭に納める小作料のこと。  
 エ. 領主に納める年貢以外に、地頭などが徴収する米。
5. 空欄⑤を補いなさい。 [ ]  
 ア. 1升    イ. 5升    ウ. 1斗    エ. 5斗

B. 次に近江・美濃・尾張三箇国、本所領半分の事、兵糧料所として当年一作、軍勢に預け置くべきの由、守護人等に相触れ<sup>おわ</sup>訖んぬ。半分においては、宜しく本所に分け渡すべし。もし預り人、事を左右に寄せ、去り渡さざれば、一円本所に返付すべし。

[設問]この法令に関する、正しいものを5つ選びなさい。 [ ]

- ア. 幕府はこの法令により、本所勢力と武士勢力を均衡させて、両勢力を統合し、その上に立とうとした。
- イ. この法令は、南北朝動乱期に発せられた。
- ウ. 幕府はこの法令により、さらに西国支配を強化するに至った。
- エ. この法令の結果、守護請がさかんに行われ、守護による一国支配、すなわち知行国制が進展した。
- オ. 守護が管国内の武士を被官化して、守護領国制を進展させる条件を与えることとなった。
- カ. 幕府の専制的な体制に反発し、反幕勢力が結集する結果となった。



- キ. 1年に限って、臨時に施行されたが、やがて恒常的なものとなった。
- ク. 幕府は、本所勢力に譲歩・妥協することによって、政権の安定を計った。
- ケ. 下地中分が急激に進行し、本所勢力がこれに反発したので、翌年、幕府はこの法令を撤回した。
- コ. 適用範囲は当初の3カ国から8カ国へ、ついで諸国に拡大されていった。
- サ. この法令は、蒙古襲来にさいし、御家人の軍事費に当てるため施行された。
- シ. この法令は、元弘の変にさいして施行された。
- ス. この法令の適用範囲は御家人に限られ、非御家人は除外された。
- セ. 貨幣経済の発達にともなう御家人の窮乏を救済することが、この法令施行の目的のひとつであった。
- ソ. この法令の結果、守護による荘園・国衙領の押領がいつそう進んだ。

**4** (6184) <関西学院大> 室町幕府の機構

次の史料を読み、設問に答えなさい。

凡そ①②( )は、公武の警固を致し、路邊の検断を行ない、随分の重職也。これに依り③④⑤当代の始め、⑥山名左京兆(時氏)・⑦今川予州(貞世)、其已後、妙観院右京兆(細川頼元)・⑧⑨⑩長禅寺右金吾(畠山基国)等、補任せらる。其の外、諸大名、或いは器量に依り、或いは分限に随い、任用せらるるか。

[設問]

- ① ( )に相当するものを下記より選びなさい。 [ ]
  - A. 守護 B. 管領 C. 侍所 D. 検非違使 E. 政所
- ② また①に記したものの長官は、のちに4氏のうちから任命された。下記の氏の中から4氏以外のものを選びなさい。 [ ]
  - A. 山名氏 B. 大内氏 C. 一色氏 D. 京極氏 E. 赤松氏
- ③ 何時代のことか。下記より選びなさい。 [ ]
  - A. 鎌倉時代 B. 江戸時代 C. 室町時代 D. 南北朝時代 E. 織豊政権時代
- ④ このときの政権が制定した法令を下記より選びなさい。 [ ]
  - A. 貞永式目 B. 武家諸法度 C. 身分統制令 D. 建武式目 E. 公事方御定書
- ⑤ このときの政権の財政基盤のうち、適切でないものを下記より選びなさい。 [ ]
  - A. 段銭 B. 御料所 C. 酒屋・土倉役 D. 関東御領 E. 日明貿易
- ⑥ 山名氏の子孫が起こした内乱を下記より選びなさい。 [ ]
  - A. 禅秀の乱 B. 永享の乱 C. 応永の乱 D. 嘉吉の乱 E. 明徳の乱
- ⑦ 今川貞世(了俊)が任命され、このときの政権の安定に功績のあった官職はどれか。下記より選びなさい。 [ ]
  - A. 九州探題 B. 奥州探題 C. 六波羅探題 D. 関東管領 E. 鎌倉公方
- ⑧ 畠山氏の子孫の相続争いがきっかけとなって始まった内乱はいつ起こったか。下記より選びなさい。 [ ]
  - A. 1416年 B. 1428年 C. 1439年 D. 1467年 E. 1488年
- ⑨ 設問⑧の内乱と関係あるものを下記より選びなさい。 [ ]
  - A. 正長の土一揆 B. 応永の外寇 C. 大内義弘 D. 赤松満祐 E. 山城の国一揆
- ⑩ 設問⑧の内乱のころ、一向宗の中心人物として、布教の拡大化をはかったのは誰か。下記より選びなさい。 [ ]
  - A. 宗祇 B. 蓮如 C. 日親 D. 夢窓 E. 義堂

**5** (6185) <学習院大> 室町時代の政治・社会上の争乱

次の史料を読んで、下記の設問に答えなさい。

- (A) 文明六年十一月朔日、加賀国の一向宗土民、侍分と確執す、侍分悉く以て土民方より国中を払わる。守護代、侍方に合力の間、守護代(こすぎ)打たれおわんぬ。一向宗方二千人ばかり打た

れおわんぬ、國中焼け失せおわんぬ。

- (B) 正長元年九月十八日、今曉、当所醍醐の地下人等、徳政と号して蜂起し、方々の借書等悉く責め出して之を焼くと云々。凡そ徳政の事、江州の沙汰より出づる也。
- (C) 永享十一年二月十五日、早旦、室町殿に参賀す、(中略)関東の事すでに無為に属す。鎌倉左兵衛督( )卿切腹の由、注進の故なり。(中略)管領上杉房州、上意に随うべきの間、之を申す。仍りて武衛切腹、近習少々同じく切腹と云々、天下太平、幸甚々々。
- (D) 御合体の事、連々、兼熙卿を以て申し合わせ候ところ、入眼の糸、珍重に候。三種の神器、帰座あるべきの上は、御讓国の儀をなすべきの旨、其の意を得候。今より以後、兩朝御流、相代々御讓位と、治定せしめ候いおわんぬ。
- (E) 山門ノ衆徒、今三好滅亡ナリ、ヨキ時分ナリト、一同ニ会議会合シテ、京ノ法華宗ヲ退治ノ為ニ、末寺末山を催シ、三千余人、天文五年丙申七月廿六日ヨリ攻カカリ、二十一箇寺残ラズ火ヲ放ツ。法華宗徒モ檀徒ヲカタラヒ、ココヲ先途ト防ギケレドモ叶ワズシテ、所々ニテ一千余人打死ス、寺々モ同廿七日マデニ皆焼失セリ。

〔設問〕

イ. 上記史料を年代順に配列するとどうなるか(符号順)、下記からえらび番号で答えなさい。

[ ]

1. DBCAE 2. BDACE 3. BADCE 4. DBAEC 5. ABDEC

ロ. (B)の「凡そ徳政の事、江州の沙汰より出づる也」とは具体的にどのような事実を示すか、下記からえらんで番号で答えなさい。

[ ]

1. 近江の守護佐々木氏が徳政令を發布した。
2. 近江随一の大寺院延暦寺が徳政令を出した。
3. 遠江の守護今川氏が徳政令を發布した。
4. 遠江浜松の間丸らが徳政を要求して立ち上った。
5. 近江坂本の馬借らが徳政を要求して立ち上った。

ハ. (C)の( )に入る人名を下記からえらんで、番号で答えなさい。

[ ]

1. 尊氏 2. 基氏 3. 成氏 4. 持氏 5. 泰氏

ニ. (C)の「上杉房州」とは誰か、下記からえらんで、番号で答えなさい。

[ ]

1. 憲実 2. 景虎 3. 憲房 4. 憲政 5. 氏憲

ホ. (E)の「山門」とは何か。

[ ]

1. 法隆寺 2. 興福寺 3. 離宮八幡宮 4. 三井寺 5. 延暦寺

ヘ. 上記史料と関係深いものを下記の語群からえらび番号で答えなさい。

[ ]

1. 両統迭立 2. 天文法華の乱 3. 加賀一向一揆 4. 醍醐徳政令
5. 上杉禅秀の乱 6. 正長土一揆 7. 三好・松永の乱 8. 石山合戦
9. 永享の乱 10. 南北合一

6 (6186) <関西学院大> 鎌倉時代の仏教

次の文を読み設問に答えなさい。

A. 若し先づ国土を安んじて現当を祈らんと欲せば、速かに情慮を廻らし、<sup>いそぎ</sup>念<sup>いそぎ</sup>て対治を加へよ。

所以は何ん。薬師経の七難の内、五難忽ち起りて二難猶残れり、所以①他国<sup>ひつ</sup>侵逼の難、自界叛の難なり、……若し残る所の難、悪法の科に依って並び起り競ひ来らば、其の時何んか為んや。②③④

B. 煩惱具足のわれらは、いづれの行にても生死をはなるることあるべからざるをあはれみたまひて、願をおこしたまふ本意、悪人成仏のためなれば、⑤他力<sup>ひつ</sup>をたのみたてまつる悪人、もとも往生の正因なり。よて善人だにこそ往生すれ、まして悪人はと、おほせさふらひき。⑥⑦⑧

C. ⑨只管打坐也、或ハ閣上、或ハ楼下ニシテ、常坐ヲイトナム、人ニ交リ物語ヲセズ、……常ニ独坐ヲ好ム也。⑩

〔設問〕 ① この難は史実としてまもなくおこった。それを下記より選びなさい。

[ ]

- イ. 竜口の法難    ロ. 元寇    ハ. 元弘の乱    ニ. 建武中興    ホ. 和田の乱
- ② この文の著者は誰か。下記より選びなさい。 [    ]
- イ. 法然    ロ. 栄西    ハ. 日蓮    ニ. 道元    ホ. 親鸞
- ③ またその著者の開いた宗派を下記より選びなさい。 [    ]
- イ. 浄土宗    ロ. 臨済宗    ハ. 法華宗    ニ. 曹洞宗    ホ. 浄土真宗
- ④ 上文はいかなる著作の中の文か。下記より選びなさい。 [    ]
- イ. 選択本願念仏集    ロ. 興禅護国論    ハ. 立正安国論    ニ. 正法眼蔵随聞記  
ホ. 歎異抄
- ⑤ この考え方は一般に何といわれているか。下記より選びなさい。 [    ]
- イ. 善人往生説    ロ. 悪人正機説    ハ. 浄土信仰    ニ. 阿弥陀来迎    ホ. 悪人救済説
- ⑥ この文に収められている思想を主張した人物を下記より選びなさい。 [    ]
- イ. 法然    ロ. 親鸞    ハ. 日蓮    ニ. 栄西    ホ. 道元
- ⑦ この文は何という著作の中の文か。下記より選びなさい。 [    ]
- イ. 選択本願念仏集    ロ. 歎異抄    ハ. 立正安国論    ニ. 興禅護国論  
ホ. 正法眼蔵随聞記
- ⑧ またその著者を下記より選びなさい。 [    ]
- イ. 法然    ロ. 親鸞    ハ. 唯円    ニ. 懷奘    ホ. 日蓮
- ⑨ この読み方を下記より選びなさい。 [    ]
- イ. ひたすらうちすう    ロ. ただかんだしぎす    ハ. ただかんだしすわる  
ニ. しかんたざ    ホ. しかんだしぎす
- ⑩ この文は何という著作の中の文か。下記より選びなさい。 [    ]
- イ. 選択本願念仏集    ロ. 歎異抄    ハ. 興禅護国論    ニ. 正法眼蔵随聞記  
ホ. 立正安国論

## 第18日 中世の史料

### ●重要用語●

#### □北条泰時（ほうじょうやすとき） 1183～1242

<sup>よしとき</sup>義時の長子で鎌倉幕府第3代執権。1221年、承久の乱に幕府軍を率いて上京し、初代六波羅探題となった。24年、父の死により執権となり、25年に評定衆を設置して合議体制をとり、32年には御成敗式目を制定し、武家政治を確立した。

#### □歎異抄（たんにしょう）

鎌倉時代の仏教書。浄土真宗の開祖親鸞（<sup>しんらん</sup>1173～1262年）の法語を編集したもの。編者は弟子の唯円（<sup>ゆいえん</sup>）と伝えられる。親鸞の没後、その教義に種々の異説が出たため、正統な教義を示すために編集されたもので、全編18章のうち前半9章は親鸞の法語、他は異義に対する編者の判断を示す。人はひたすら念仏を唱えることによって救われる、なかでも悪人ほど救われる、とする悪人正機説は本書の眼目である。

#### □二条河原落書（にじょうがわららくしょ）

1334年、京都二条河原に立てられ、建武政権下の混乱した世相を風刺した落書。『建武年間記』に収められている。成り上がり武士の様子、公武寄合政権の無秩序など、当時の政治・世相を知る貴重な史料。

#### □評定衆（ひょうじょうしゅう）

鎌倉・室町幕府の職名。1225年に鎌倉幕府の執権北条泰時（<sup>ほうじょうやすとき</sup>）が設けた制度で、幕府の最高機関。執権とともに評定に列席して政務を合議・決定した。北条一門・大江・中原・三善家（<sup>おおえ なかはら みよし</sup>）および有力御家人14～15名を任命。室町幕府も同様の制度を採用したが、鎌倉末期以降、形式化してその実質は失われていた。

#### □引付衆（ひきつけしゅう）

鎌倉・室町幕府の職名。1249年、北条時頼（<sup>ほうじょうときより</sup>）が執権のときに設置された引付を構成する職員のこと。御家人たちの領地に関する訴訟を担当し、裁判の公正と迅速化をはかった。その長を引付頭人（<sup>とうにん</sup>）といい、評定衆から選ばれた。室町幕府もこれを引き継いだ。中期ごろ引付が廃止されて名目だけのものになった。

#### □両統迭立（りょうとうてつりつ）

鎌倉時代の後期、後醍醐天皇（<sup>ごさか</sup>）のあと、皇統は皇子後深草天皇（<sup>ごふかくさ</sup>）（持明院統）・龜山天皇（<sup>かめやま</sup>）（大覚寺統、後深草の弟）とに分かれたが、当時の上皇院政との関連、皇室所領の帰属問題がからみ、そのうえ幕府との間のかけひきなどもあって、深刻で複雑な対立となった。1317年（文保元）の文保の和談により、両統交互の皇位継承となったが、大覚寺統の後醍醐天皇（<sup>ごたいご</sup>）のとき、原則は再び崩れ、そののち南北両朝の対立へと進んだ。

#### □御料所（ごりょうしょ）

中世以降、禁裏（朝廷）や、幕府の所領・所職をいう。禁裏御料所、仙洞（上皇）御料所、公方御料所など。それぞれ所領者の経済的基盤となった。江戸幕府の直轄地は天領・御料などともよばれた。

□鎌倉府（かまくらふ）

室町幕府が鎌倉においた地方機関。足利尊氏あしかがたかうじが1349年に4男基氏もとうじを鎌倉府の長官、鎌倉公方として東国を管轄させて以来、基氏の子孫が世襲。管轄地域は関東8国と甲斐・伊豆、のちに陸奥・出羽が加えられた。公方の下の執事を関東管領うえすぎといい、上杉氏によって世襲された。1438～39年の永享の乱で衰退。

□能楽（のうがく）

室町時代に大成された歌舞劇。鎌倉時代、猿楽から猿楽の能がおこり、田楽から田楽の能がおこった。室町時代に入り、將軍足利義満あしかがよしみつの保護を得て、結崎座かんあみの観阿弥がこれらを総合し、その子世阿弥ぜあみが幽玄の美を加えて大成した。出し物は脇能物・修羅物・鬘物・現在物・切能物などに分かれ、およそ350番がある。

□五山文学（ござんぶんがく）

鎌倉末期から室町時代にかけて、京都・鎌倉五山を中心に発達した漢文学。一山一寧いつさんいちねい・虎関師錬こかんしれん・義堂周信ぎどうしゅうしん・絶海中津ぜつかいちゅうしんらが法語・儒学・漢詩文などで活躍した。とくに義堂と絶海は五山文学の双璧とされる。

□立正安国論（りっしょうあんこくろん）

1260年、日蓮にちれん39歳のときの著作。問答体。天災地変が続くのは邪宗流行のためで、このままでは国民は墮落し、国土は地獄となる。正法を立てることにより安穩をはかるほかはない、と説く。個人の救済より社会の救済へ目を向けよ、という日蓮信教の出発点となった。執権北条時頼ほうじょうときよりに呈したが忌避され、日蓮は伊豆に流された。

□慈円（じえん） 1155～1225

藤原忠通ふじわらのただみちの子で、天台座主をつとめた学僧。歌人としても有名。兄の関白九条兼実くじょうかねねとともに源頼朝みなもとのよりともと親交があり、『愚管抄』（1220年）を著して政治や歴史へのすぐれた見解を述べている。書道や和歌にも秀で、『新古今和歌集』には91首もの作品が選ばれた。家集『拾玉集』もある。

□塵芥集（じんかいしゅう）

奥州の戦国大名、伊達氏だてが制定した分国法。1536年に伊達植宗たねむねが定めたもので、1巻、171条。分国法のなかでは最大のもので、形式・体裁は鎌倉幕府の御成敗式目（1232年）と酷似している。

□甲州法度之次第（こうしゅうはつどのしだい）

甲斐の戦国大名、武田氏たけだが制定した分国法。甲州法度しんげんかほう、信玄家法ともいう。上下2巻。上巻は1547年に武田信玄が定めた55条に若干の追加を含むもので、下巻は家訓。家臣団統制の規定など武断的な色彩が強い。

□大乘院日記目録（だいじょういんにつきもくろく）

奈良の興福寺大乘院の日記類を、同院門跡尋尊もんぜきじんそん（1430～1508年、関白一条兼良いちじょうかねらの子）が抄出、編纂した記録。1065～1504年の間を記す。山城国一揆や土一揆の記述があり、室町時代の貴重な文献資料。

●発展用語●

□蒙古襲来絵詞（もうこしゅうらいえことば）

肥後の御家人、竹崎季長たけざきすえながが13世紀末、元寇のときの戦功の様子を記録させたもの。  
土佐長隆とさながたか筆といわれるが不詳。全2巻で、それぞれに文永の役と弘安の役が描かれ、迫力のある精密な描写で史料価値が高い。

□樵談治要（しょうだんちよう）

室町期の代表的な学者・歌人で有職故実に通じた一条兼良いちじょうかねよし（1402～81年）が、1480年に將軍足利義尚あしかがよしひさの所望により政治の要道を説いた意見書。公家の保守的政治思想と、当時の政治・世相の実情がわかる。

□金槐和歌集（きんかいわかしゅう）

鎌倉幕府3代將軍源実朝みなもとのさねともの歌集。藤原定家ふじわらのていかに歌を学んだ実朝は、万葉調のリアリズムを復興させ、独自の格調高い歌を詠んだ。『鎌倉右大臣家集』ともよばれ、663首が収められている。金は鎌の字の部分、槐は大臣の唐名を槐門といったことにちなむ。

□十六夜日記（いざよいにつき）

阿比尼あぶつにの紀行文学。1巻。1282年ころ成立。夫の藤原為家ふじわらのためいえ死後、実子為相ためすけと継子為氏ためうじとの間に所領争いがおこり、79年、その訴訟のために鎌倉に下ったときの東海道の風物などが記述されている。10月16日の夜に出発したことから名づけられたもの。

□松永久秀（まつながひさひで） 1510～1577

阿波の人、あるいは近江の人といわれるが不詳。三好長慶みよしながよしに仕えて家老となる。長慶死後の1565年、13代將軍足利義輝あしかがよしてるを殺し、京都・奈良・堺を支配。三好家と争って、67年に東大寺大仏殿を焼き打ちした。翌68年には織田信長おだのぶながに降伏したが、のちにそむいて攻められ、信貴山しきさんで戦死した。三好長慶とともに下剋上の典型的な人物とされる。

□本領安堵（ほんりょうあんど）

中世、將軍が御家人に先祖伝来の私領領有権を保障すること。鎌倉時代、御家人は開發領主の子孫として先祖伝来の私領を保有しており、幕府はその領有権を承認するとともに、御家人をその地の地頭に任命した。

□坊津（ぼうのつ）

現在の鹿児島県川辺郡坊津町かわなべ。古くから南方海上交通の要港として栄え、室町時代、島津氏しまづの中国・琉球貿易の拠点となった。とくに15世紀以後、遣明船の寄港で繁栄し、日本三津の1つに数えられた。

□二毛作（にもうさく）

畑の豆と麦の二毛作は平安後期からとされ、水田の稲と麦の二毛作は13世紀中葉には紀州から西日本一帯に行われていたという。中世末の15世紀には組み合わせも多様化し、かなり普及したようである。

□九条兼実（くじょうかねざね） 1149～1207

平安末～鎌倉初期の公卿。藤原忠通ふじわらのただみちの子。源頼朝みなもとのよりともの推薦を受けて、1186年に摂政、91

年に関白となった。院政を抑えて朝廷を支配したが、96年には土御門通親つちみかどみちかにより失脚させられ、出家して法然ほうねんに帰依した。学問・和歌にすぐれた才を示し、日記『玉葉』ぎよくようは自分が政務についた時期の政局の動きなどを詳細に記述した重要史料。

□治承・寿永の乱（じしょう・じゅえいのらん）

源平合戦ともいう。源氏の平氏打倒の戦いをさす。1180年の富士川の戦い、83年の礪波山の戦いなどを経て源平両軍の決戦となり、一の谷・屋島・壇の浦の諸戦で平氏は滅亡、鎌倉幕府成立により内乱は終結した。

□富樫政親（とがしまさちか） 1455?～1488

鎌倉末期より加賀守護をつとめる家に生まれた。1464年に大叔父富樫泰高やすたかより加賀南半国守護を譲られたが、応仁の乱の続く74年に本願寺門徒と結んで北半国を復し、加賀1国を支配した。のち門徒弾圧に転じたため20万の一向一揆軍と戦い、高尾城に敗死した。以降約100年間、加賀は本願寺門徒の支配下にあった。

□藤原隆信（ふじわらのたかのぶ） 1142～1205

歌人の藤原定家ふじわらのていかの異父兄にせえ。似絵（肖像画）にすぐれ、京都神護寺蔵の「源頼朝像」「平重盛像」はその作といわれる。画風は子の信実のぶざねに伝えられた。和歌にもすぐれ、家集を残した。法然ほうねんについて出家。

□日野富子（ひのとみこ） 1440～1496

室町8代将軍足利義政あしかがよしまさの妻。はじめ男子がなく、義政の弟義視よしみが将軍継嗣となったが、そのあと出生した義尚よしひさを将軍にしようとする富子よしみこが、山名持豊やまなもちとよを頼ったため、義視の後見ほそかわかつもと細川勝元と対立し、応仁の乱の原因となった。義尚を後見して政治に介入、関所新設・高利貸しなどで蓄財し、幕府の権威を落とすとされる。

□菟玖波集（つくばしゅう）

二条良基にじょうよしもとらが撰した最初の連歌集で、1356年に成立。57年には勅撰に準ぜられ、連歌が和歌と対等の地位を築くことになった。作者には公家のほかに、足利尊氏あしかがたかうじ・足利義詮よしあきら・佐々木高氏ささきたかうじらの武家も多い。

□庭訓往来（ていきんおうらい）

手紙文の形式をとった教科書を往来物という。本書は25通の手紙を1月～12月にふり分けて編集することによって、武士や庶民の日常生活の心得や衣食住に必要な知識を記している。南北朝末期から室町初期にかけて成立したと考えられ、江戸時代まで武士・庶民の教科書・手習い本として広く用いられた。作者不明。

## 第19日 総合問題

⇒類題トレーニング

### 1 (1901) <中央大> 鎌倉・室町時代の政治と外交

つぎの各文の一節((A)~(J))と結びつけると、歴史的に正しい説明となるような文を下記(イ~レ)の中から選び出し、その記号を記入しなさい。

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| (A) 北条時政の子 義時は [ ]    | (B) 北条義時の子 泰時は [ ] |
| (C) 北条泰時の孫 時頼は [ ]    | (D) 北条時頼の子 時宗は [ ] |
| (E) 室町幕府をたてた足利尊氏は [ ] | (F) 足利尊氏の弟 直義は [ ] |
| (G) 足利尊氏の子 基氏は [ ]    | (H) 足利義満の子 義持は [ ] |
| (I) 足利義持の弟 義教は [ ]    | (J) 鎌倉公方足利持氏は [ ]  |

- イ 朱印船貿易をさかんに行なった。
- ロ 永享の乱に際して自殺した。
- ハ 引付衆をおいて裁判制度を整備・充実した。
- ニ 関東管領として東国を統轄した。
- ホ 御家人安達泰盛らの一族をほろぼした。
- ヘ 鎌倉公方として東国を統轄し、子孫が鎌倉でこの職を世襲した。
- ト 守護として勢力のあった山名氏清を討伐した。
- チ 天龍寺船を派遣して造寺の費用を調達した。
- リ 執権として元の侵攻に対処した。
- ヌ 管領となって幕府の実権をにぎった。
- ル 大内義弘を堺においてほろぼした。
- ヲ 明との国交・貿易を一時中止した。
- ワ 高師直らと対立し、観応の擾乱とよばれる抗争をひきおこした。
- カ 評定衆をおいて政務・裁判を合議によって処理する制度を整えた。
- ヨ 源頼朝の遠縁にあたる九条頼経を迎えて、実朝のあとをつがせた。
- タ 永仁の徳政令を発して御家人の窮乏を救おうとした。
- レ 有力守護を抑圧する政策をとり、家臣赤松満祐に謀殺されるに至った。

### 2 (1902) <早稲田大> 中世の諸事件と文化

次の短文(あ)~(そ)中より、歴史的記述として正しいものを5つ選び、その記号を記入しなさい。

- (あ) 室町幕府は、両統の争いの解決法として、両統迭立の方策を案出したが、大覚寺統から皇位についた後醍醐天皇は、両統迭立の打破を意図した。
- (い) 鎌倉幕府の得宗専制に不満を抱いた武士たちは、鎌倉で挙兵した足利尊氏の下に馳せ参じた。
- (う) 観応の擾乱と称される足利尊氏と足利直義との対立抗争で、尊氏はみずから擁立した北朝を無視して南朝に降った。
- (え) 弘安4年、東路軍と江南軍に分かれて襲来したモンゴル軍は、肥前国鷹島付近で合流し、博多湾へ進撃しようとしたが、大暴風に襲われ、壊滅的打撃をうけて敗退した。
- (お) 建武新政府の政策に不満を抱いた武士たちは、京都で挙兵した足利直義の下に馳せ参じた。
- (か) 鎌倉幕府は、両統の争いの解決法として、両統迭立の方策を案出したが、持明院統から皇位についた後醍醐天皇は、両統迭立の打破を意図した。
- (き) 二条良基によって、俳諧連歌がさかんとなり、俳諧の余興として連歌が行われるようになった。
- (く) 鎌倉幕府は、両統の争いの解決法として、両統迭立の方策を案出したが、大覚寺統から皇位についた後醍醐天皇は、両統迭立の打破を意図した。
- (け) 建武新政府の政策に不満を抱いた武士たちは、鎌倉で挙兵した足利尊氏の下に馳せ参じた。



- (こ) 観応の擾乱と称される足利尊氏と新田義貞との対立抗争で、義貞はみずから擁立した南朝を無視して北朝に降った。
- (さ) 宗祇によって、正風連歌がさかんとなり、連歌の余興として俳諧が行われるようになった。
- (し) 文永11年に襲来したモンゴル軍は、博多湾沿岸に築かれた石築地のため、上陸に失敗し敗退した。
- (す) 山崎宗鑑によって、俳諧連歌がさかんとなり、連歌の余興として俳諧が行われるようになった。
- (せ) 観応の擾乱と称される足利尊氏と新田義貞との対立抗争で、義貞はみずから擁立した南朝を無視して北朝に降り、後小松天皇を擁立した。
- (そ) モンゴル襲来後起きた霜月騒動で、有力御家人三浦氏一族が滅亡し、以後内管領が幕府の政治を左右するようになった。 [ ]

3 (1903) <青山学院大> 室町時代の対外貿易

次の問題文について、下記の問に答えなさい。

14世紀の後半、元王朝をたおし、新たに明国をたてた1( )は、まもなくわが国に使節を派遣し、イ( )の禁圧をもとめ、来貢をうながした。これに対し足利2( )(a)は明国との国交を開き、公的な貿易船であることを証明する口( )による公式の貿易を開始した。この対明貿易は朝貢の形をとっていたため、將軍3( )はこれをきらって貿易を中止したが、將軍4( )のときに再開され、5( )に1回の割で貿易船が派遣された。幕府は貿易船の船主となった守護大名や寺社、有力商人らの利益に対して6( )を課し、幕府財政の一助とした。幕府の権威が衰えるとともに、対明貿易は幕府の手をはなれ、その權益をめぐって、堺の商人と結んだ7( )と博多の商人と結んだ8( )とが対立し、(b)1523年に中国で起った流血事件の結果、後者が対明貿易をほぼ独占するようになった。後者の城下町9( )は大いに栄え、宣教師ハ( )が日本最初の教会堂をたてたのもこの地である。

一方朝鮮半島においても、14世紀の末頃、武将10( )が高麗をたおして新しい国をたてたが、やがてわが国との正式な貿易をはじめた。この貿易においても(c)対明貿易と同様な公認証が発行され、その実際は対馬の11( )が統制していた。朝鮮側の開港地には日本人の居留地があり、外交や交易の為のニ( )が置かれ、活発な交流があったが、その後、朝鮮側の政策に変更がおこり、これに不満をもった(d)在留日本人が1510年に暴動をおこし、以後次第に日朝貿易はおとろえていった。

ちょうどこの頃、沖縄では中山、南山、北山の三王国が対立していたが、中山の12( )によって統一され、琉球王朝が成立した。琉球国はその地理的位置を利用して、とくに南方諸地域との中継貿易を盛んに行い、大いに発展した。

問1. 問題文中の空欄1( )から12( )までに該当するものを下記の語群の中から選びなさい。

- 〔語群〕 ア. 李成桂 イ. 10年 ウ. 義教 エ. 防府 オ. 義政 カ. 大内氏  
 キ. 津料 ク. 朱元璋 ケ. 5年 コ. 宗氏 サ. 細川氏 シ. 大友氏  
 ス. 義持 セ. 山口 ソ. 尊氏 タ. 李世民 チ. 朱舜水 ツ. 義満  
 テ. 尚氏 ト. 萩 ナ. 抽分銭 ニ. 山名氏 ヌ. 3年

問2. 問題文中の空欄イ( )からニ( )までに適切な語を補いなさい。

問3. 下線(a)は西暦何年のことであったか。 [ ]

問4. 下線(b)の事件は中国の開港地でおこったが、その開港地の名前を答えなさい。 [ ]

問5. 下線(c)の公認証は何と呼ばれていたか。 [ ]

問6. 下線(d)の暴動は通常何と呼ばれているか。 [ ]

問7. 対明貿易の開始以前に、後醍醐天皇の冥福をいのるために建てられる寺院の建立費用を得る目的で中国に派遣された貿易船を何と呼んでいるか。 [ ]

4 (1904) <関西学院大> 鎌倉仏教

次のA～Eの文を読み、各設問に答えよ。答は頭書の記号をマークしなさい。

- A. 栄西は比叡山に登って台密を修め、1168年・1187年の2回、宋に渡り、臨濟禪を修学して帰朝した。2代将軍頼家の帰依を受け、京都に建仁寺を建立した。主著に①( )のほか、3代将軍実朝に献上した「喫茶養生記」などがある。道元は、初め天台を修め、ついで建仁寺で禪を学んだ。彼は、法華経を諸経の基になる經典であるとし、これを修めることと坐禅による修行とに力点を置いた。主著は②( )で、1231年から20年余の間に説法を集大成したものである。
- B. 道元は国家権力との安易な結合をしりぞけたので、曹洞宗はただちに大きな弘通をみるにいたらなかった。しかし、臨濟禪の方は貴族・武士のいずれにも歓迎された。北条時頼は③( )から蘭溪道隆を招いて建長寺を、北条時宗は④( )を招いて円覚寺をそれぞれ鎌倉に建て、鎌倉幕府の御家人にも禪を学ぶものが増加していった。
- C. 鎌倉新仏教が信仰を深化する方向に進んだのは、現実をありのままにみつめることから出発したことによる。こうした態度は造形美術の世界にもあらわれ、絵画では、人間の個性を写實的に描いた肖像画として⑤似絵を生んでいるし、彫刻でも東大寺南大門の金剛力士像や、⑥( )の無著・世親像などの写實的作品をつくり出した。
- D. 鎌倉仏教は変動する時勢の動きに乗り、14世紀末から15世紀にかけて大いにその教線を拡大し、民衆の間に深く根をおろしていった。ことに15世紀中ごろにあらわれた日蓮宗の⑦( )と浄土真宗の蓮如によって、前者は都市の商人層の間に、後者は地方の農民層の間にひろまっていった。とくに蓮如のひきいる本願寺教団の勢力は、各地で⑧一向一揆を起こして、武士の支配的地位をおびやかしていった。
- E. 室町時代にはいつてから水墨画が禅僧の間で愛好され、めざましく発達した。水墨画の基礎は明兆・⑨如拙・周文らによってきずかれ、⑩( )によって大成された。

〔設問〕 ① ( )に相当するものを下記より選びなさい。 [ ]

イ. 正法眼蔵    ロ. 摧邪輪    ハ. 興禅護国論    ニ. 元亨釈書

② ( )に相当するものを下記より選びなさい。 [ ]

イ. 正法眼蔵    ロ. 摧邪輪    ハ. 興禅護国論    ニ. 元亨釈書

③ ( )に入る王朝名を下記より選びなさい。 [ ]

イ. 唐    ロ. 宋    ハ. 明    ニ. 清

④ ( )に入る僧侶を下記より選びなさい。 [ ]

イ. 一山一寧    ロ. 夢窓疎石    ハ. 中巖円月    ニ. 無学祖元

⑤ 源頼朝像を描いたのは誰か。下記より選びなさい。 [ ]

イ. 高階隆兼    ロ. 藤原隆信    ハ. 藤原隆能    ニ. 鳥羽僧正

⑥ ( )に入る寺院名を下記より選びなさい。 [ ]

イ. 薬師寺    ロ. 法隆寺    ハ. 興福寺    ニ. 東大寺

⑦ ( )に入る僧侶を下記より選びなさい。 [ ]

イ. 日親    ロ. 日像    ハ. 覚如    ニ. 慈円

⑧ 1488年、一向一揆のためにたおされた守護は誰か。下記より選びなさい。 [ ]

イ. 畠山政長    ロ. 斯波義敏    ハ. 山名持豊    ニ. 富樫政親

⑨ 彼の作品を下記より選びなさい。 [ ]

イ. 瓢鮎図    ロ. 四季山水図巻    ハ. 寒山図    ニ. 洛中洛外図屏風

⑩ ( )に入る人物を下記より選びなさい。 [ ]

イ. 土佐光信    ロ. 狩野正信    ハ. 雪舟    ニ. 狩野永徳

##### 5 (1905) <慶應義塾大> 室町時代の商工業と庶民文化

次の文章を読み、下記の[A]および[B]の設問に答えなさい。

室町時代に入ると庶民の活躍が目覚ましいものとなるが、それを端的に示すのは経済生活である。経済の基盤であった農業は鎌倉後期以来著しく生産力を増大させてきていたが、この時代に至って二毛作が一般化し、(a)商品作物が増加するなど順調な伸びをみせた。また、漁業、(1)手工業、やや遅れて鉱業の発展もみられ、こうした産業の発達は、必然的に商業活動の活発化を促すものであった。(2)貨幣の流通が盛んになり、為替制度も普及し、交通も発達するなど、人々の経済活動は確実に広がっていった。

こうした経済生活の進展は、それにかかわる人々の間の社会的つながりにも影響を与えた。まず

農村部では、荘園の枠を越えた自然村落的な地縁的結合である(3)惣ができ、これを基盤にして郷村制が成立した。惣も郷村制も、農業生産力の発達を支えにした農民の意識の向上を反映したもので、なかには(b)領主の不当な支配に対する抵抗を組織するものもあった。また都市部においても、商工業の発達が刺激になって、(4)新たな展開が見られはじめた。特に戦国期に入ると、(5)戦国大名の殖産興業策によって発達が促され、新たに都市としての形態をもつに至ったものも少なくなく、各地において(6)経済活動の拠点としての地位を確立させていった。

こうした農村部ならびに都市部における庶民の抬頭は、当時の文化にも現われている。文化に対する庶民の影響は鎌倉時代にみられだすが、この時代にはそれが一層浸透したといえる。特に、応仁の乱によって都を逃れた(c)文化人が地方に文化を持ち込んだが、農業ならびに商工業の発達により、(7)地方がこのもち込まれた文化を吸収・普及させ得る力を備えていた。ここに(d)庶民文化が広く開花した因がある。

〔設問〕〔A〕 下線部(1)～(7)については、( )の中にあてはまる適当な語を記入しなさい。

- (1) 手工業は、鋳物業、織物業、製紙業、醸造業、製陶業などが各地で発展し、特産品を生み出すものもあった。例えば、織物業では京都の(あ)( )、製紙業では播磨の(い)( )、製陶業では備前の(う)( )などが有名である。
- (2) 当時流通した貨幣は(え)( )に代表される明銭が主であったが、輸入銭の減少時には粗悪な私鑄銭が出まわったため、幕府や戦国大名は(お)( )令を出して交換率の維持や流通貨幣の制限につとめた。
- (3) 惣は農民の自治的連合組織であり、(か)( )と呼ばれた話し合いの場を開き、規約まで備えていたが、この規約は一般に(き)( )と呼ばれた。
- (4) 商業都市ばかりでなく、戦国大名の城下町を主とした政治都市や、宗教の新たな展開を背景にした宗教都市などもつくられていった。宗教都市には、寺社に隣接して形成される(く)( )と、寺院の境内を中心に形成される(け)( )がある。
- (5) 戦国大名の採った商工業政策としては楽市・楽座が重要であったが、それが意図していたことを80字以内で述べなさい。

- 
- 
- 
- (6) 対外貿易で富を蓄えた堺や博多などでは、豪商を中心にした自治が行なわれた。特に有名なのが堺のそれで、36人の(こ)( )による自治体制がしかれ、自由都市の観を呈したが、彼らが倉庫業兼廻船業者である(さ)( )の有力者に限られていたところに限界があった。

- (7) 文化の地方伝播の代表例としては、大内氏の城下町で西の京都と呼ばれた(し)( )がある。

〔B〕 下線部(a)～(d)については、( )の中にあてはまる適当な語を下記の語群から選び、その番号を記入しなさい。

- (a) 商品作物としては蔬菜類の他、桑・荏胡麻・棉花・麻・楮など手工業原料の栽培も行なわれた。このうち荏胡麻は(イ)( )、棉花は(ロ)( )、麻は(ハ)( )が代表的な栽培地であった。
- (b) これは土一揆となって各地で起きるが、正長の土一揆、嘉吉の土一揆などが大規模なものであった。それぞれ起こった年は西暦で(ニ)( )年と(ホ)( )年である。
- (c) こうした文化人の中には、薩摩において薩南学派の基礎を築いた(ヘ)( )、土佐にあって海南学派の基礎を築いた(ト)( )などがある。
- (d) 庶民に浸透した文化としては、連歌・能・狂言・御伽草子・幸若舞・古浄瑠璃・盆踊り・小歌などがある。特に連歌は、応安新式を制定した(チ)( )によって確立され、「水無瀬三吟百韻」で有名な(リ)( )によって芸術性を高められたが、戦国期になると形式化し、山崎宗鑑らの俳諧連歌へと移っていった。

〔語群〕 01. 越後 02. 伊勢 03. 甲斐 04. 河内 05. 三河 06. 近江

07. 尾張 08. 相模 09. 三陸 10. 瀬戸内 11. 信濃 12. 山城  
13. 1428 14. 1429 15. 1432 16. 1441 17. 1457 18. 1463  
19. 1478 20. 1485 21. 藤原明衡 22. 玄惠 23. 義堂周信  
24. 後藤祐乘 25. 林宗二 26. 一条兼良 27. 桂庵玄樹 28. 北畠親房  
29. 南村梅軒 30. 夢窓疎石 31. 二条良基 32. 三条西実隆 33. 周文  
34. 宗祇 35. 吉田兼俱 36. 絶海中津

## 類題トレーニング(6190)

### 1 (6191) <青山学院大> 室町時代の政治・経済・文化

次の各文の( )のなかに下記の語群のなかから適当なものをえらび、且つ下記の問に答えなさい。

1. 1333年(元弘三)6月、1( )は京都に帰り、1幕府の擁立した2( )を廃し、新政権を樹立した。この新政権は中央に2記録所、雑訴決断所、3武者所、3( )などを置き、公家、武家を問わず、家柄にとらわれず、人材を登用した。
2. 室町幕府では將軍の補佐役として4( )があり、斯波、細川、5( )の三家から選任されるようになっていた。
3. 室町幕府では、各国には6( )がいたほか、奥州、羽州、九州には、それぞれ7( )がおかれた。とくに、後者には足利一門の者が任命され、同族による全国支配の体制がととのえられた。

4. 4足利義政の継嗣問題に端を発して5応仁の乱がおこった。8( )を擁立した細川勝元と9( )を推した10( )が中心となって、諸国の大名が両派に分かれて争ったのである。

〔語群〕 ア. 後醍醐天皇    イ. 山名持豊    ウ. 後深草天皇    エ. 光厳天皇    オ. 探題  
 カ. 問注所    キ. 赤松満祐    ク. 守護    ケ. 執権    コ. 畠山    サ. 足利義教  
 シ. 山名氏清    ス. 恩賞方    セ. 公文所    ソ. 公方    タ. 管領    チ. 足利義視  
 ツ. 足利義尚    テ. 一色    ト. 連署    ナ. 足利義持    ニ. 光明天皇    ヌ. 赤松

問1. この幕府というのは鎌倉幕府(ア)か、室町幕府(イ)か。 [ ]

問2. この記録所が行う職務として、次の中から正しいものをえらびなさい。 [ ]

ア. 日本全国にわたる戸籍をつくり、これを記録しておく役所である。

イ. 重要問題を天皇が統裁する所である。

ウ. 公文書を管理する役所である。

エ. 政府の役人の人事を取り扱う役所である。

問3. この武者所について、もっとも適当と思われるものを、次のなかからえらびなさい。 [ ]

ア. その長官を頭人といふ、最初、楠木正成が任命された。

イ. 主に京都の治安維持の仕事をする役所である。

ウ. 武官の人事や軍事を司る役所である。

エ. 御家人の統率、軍事、警察の任にあたる役所である。

問4. 足利義政の時代の文化は東山文化といわれる。次の各項のうち、東山文化に属すると思われるものをえらびなさい。 [ ]

ア. 人工的で象徴的な手法に徹した竜安寺の石庭は、この時代の代表的なものである。

イ. 明との交渉により、中国の陶磁器も入ってきて、日本でも、この時期に始めて佐賀県有田などで磁器の生産が始まった。

ウ. この時代の絵巻物の代表的なものとして、信貴山縁起絵巻がある。

エ. この時代になると、千利休などがあらわれて、茶の湯が非常にさかんになった。

問5. 次の各項のうちから、応仁の乱より後におこったものをえらびなさい。 [ ]

ア. 足利持氏が反乱し、戦は関東全域に広がったが、上杉憲実が幕府方についたため、持氏は自殺して乱は終わった。

イ. 室町時代には多くの土一揆がおこった。その最初の大規模なものは、正長の土一揆とよばれるものであった。

ウ. 南山城地方で国人が連合して一揆をおこした。山城の国一揆という。

エ. 日本中世唯一の学校施設である足利学校が創設された。

2 (6192) <青山学院大> 中世の座と関連事項

問1. 地図上の①(地名)②～④(神社)は座ときわめて関係が深い。①～④に適切な語を入れなさい。

---

---

問2. 座について概述し、座の事例を地図の①～④に記入した語をすべて用いて述べなさい。(200字以内)

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



問3. 各文は地図上の①, ③, ④に関連のある事項である。( )のなかに適切な語を入れなさい。

(a) ①の近くには、後鳥羽上皇を祭る水無瀬宮があるが、1488年に1( )がここで弟子たちと詠んだ歌集に2( )がある。

(b) ③に蔵する3( )絵巻は、4( )の一生を描いたものである。

(c) ③, ④の祭礼は、疫病や5( )をしずめるために、平安時代からはじまった6( )の代表的なものである。

# 第20日 論述問題

⇒類題トレーニング

## 1 (2001) <筑波大> 鎌倉時代後期の政治

下記の語句を用いて、鎌倉時代後期の政治史について300字以内で述べなさい。

霜月騒動, 評定衆, 得宗専制

\_\_\_\_\_ 50

\_\_\_\_\_ 100

\_\_\_\_\_ 150

\_\_\_\_\_ 200

\_\_\_\_\_ 250

\_\_\_\_\_ 300

**ヒント** わかりにくいときは、次の語句をつかいなさい。

⇒内管領 平頼綱 安達泰盛 御内人

## 2 (2002) <筑波大> 徳政一揆

次の史料(A)・(B)を読み、徳政令、私徳政の語を用いて、当時の社会情勢について400字以内で論じなさい。

(A) 一、天下の土民蜂起す、徳政と号し、酒屋・土倉・寺院等を破却せしめ、雑物等恣に之を取り、借錢等悉く之を破る、管領之を成敗す、凡そ亡国の基、之に過ぐべからず、日本開<sup>(かいびやく)</sup>白以来、土民蜂起是れ初なり (『大乘院日記目録』, 原文漢文)

(B) 正長元年ヨリサキ者、カンヘ四カンカウ(神戸四箇郷)ニ、ヨキメ(負目)アルヘカラス (奈良市柳生, 碑文)

\_\_\_\_\_ 50

\_\_\_\_\_ 100

\_\_\_\_\_ 150

\_\_\_\_\_ 200

250

300

350

400

**ヒント** わかりにくいときは、次の語句をつかいなさい。

⇒正長の土一揆 郷村制 馬借 酒屋 土倉 嘉吉の乱

**3** (2003) <一橋大> 戦国大名の領国支配

日本史の大まかな時代区分としては、鎌倉・室町時代を中世、江戸時代を近世と称し、いずれも封建社会とするのが一般的なとらえ方である。しかし、おなじく封建社会といっても、中世と近世とでは、社会と経済の仕組や諸階級・諸身分のありように大きな相違がある。そして、このようなとらえ方からすると、戦国大名の領国支配は、中世的性格をなお保ちながらも、近世へと移る過渡的特徴が顕著になってきているものといえよう。この過渡的特徴が戦国大名の領国支配においてどのように現れているかを説明しなさい。そのさい、(i)家臣団支配、(ii)分国法、(iii)農民・農村対策、(iv)城下町と商工業対策などにふれて解答するように留意しなさい。(300字以内)

50

100

150

200

250

300

**ヒント** わかりにくいときは、次の語句をつかいなさい。

⇒逃散 指出し 検地 楽市・楽座



4 (2004) <筑波大> 建武新政下の社会・文化

「二条河原落書(建武年間記)」があらわす社会・文化の様相について300字以内で記しなさい。

	50
	100
	150
	200
	250
	300

**ヒント** わかりにくいときは、次の語句をつかいなさい。

⇒本領安堵 訴訟人 下剋上 連歌

## 類題トレーニング(6200)

### 1 (6201) <筑波大> 応仁の乱

次の史料は『樵談治要』の一節である。これを読み、①記者は誰か、②いかなる事情で書かれたか、③この史料からうかがえる時代相・社会情勢・記者の立場、の三点について300字以内で記しなさい。

一足がるといふ者長く停止せらるべき事。

昔より天下の乱るゝことは侍れど、足がるといふことは旧記などにもしるさざる名目也。平家のかぶろといふ事をこそめづらしきためしに申侍れ、此たびはじめて出来れる足がるは超過したる悪党也。其故は洛中洛外の諸社・諸寺・五山十刹・公家・門跡の滅亡はかれらが所行也。かたきのたて籠たらん所にきては力なし。さもなき所々を打やぶり、或は火をかけて財宝をみさくる事は、ひとへにひる強盗といふべし。(中略)さもこそ下剋上の世ならめ、外国の聞えも恥づべき事成べし。

	50
	100
	150
	200
	250
	300



# 大学受験デイリープログラム 日本史80日間

巻	章	日数	タイトル
第1巻	時代別48日間 —原始・古代11日間—	第1日	先土器～古墳時代の社会と文化
		第2日	古代国家の形成と対外関係
		第3日	律令国家の形成と律令制度
		第4日	律令政治の変容と対外関係
		第5日	摂関政治と院政
		第6日	古代社会の変容
		第7日	古代の仏教
		第8日	古代の文化
		第9日	古代の史料
		第10日	総合問題
		第11日	論述問題
	時代別48日間 —中世9日間—	第12日	中世の政治と対外関係1—鎌倉時代—
		第13日	中世の政治と対外関係2—室町時代—
		第14日	中世の社会
		第15日	中世の産業経済
		第16日	中世の仏教
		第17日	中世の文化
		第18日	中世の史料
		第19日	総合問題
		第20日	論述問題
第2巻	時代別48日間 —近世14日間—	第21日	織豊政権
		第22日	幕藩体制の成立1
		第23日	幕藩体制の成立2
		第24日	近世初期外交と鎖国
		第25日	近世の産業
		第26日	近世の経済
		第27日	幕政の改革
		第28日	近世の文化
		第29日	近世の学問・思想・教育
		第30日	幕藩体制の動揺
		第31日	列強の接近と開国
		第32日	近世の史料
		第33日	総合問題
		第34日	論述問題
第3巻	時代別48日間 —近現代14日間—	第35日	幕末～維新の政治と対外関係
		第36日	幕末～明治前期の産業と経済
		第37日	自由民権運動と立憲政治
		第38日	資本主義の成立
		第39日	条約改正と大陸進出
		第40日	明治の文化
		第41日	大正時代の政治と国際関係
		第42日	大正～昭和前期の社会と文化
		第43日	経済恐慌と政党政治の歩み
		第44日	ファシズム～第二次世界大戦
		第45日	戦後の日本
		第46日	近現代の史料
		第47日	総合問題
		第48日	論述問題

巻	章	日数	タイトル
第4巻	部門別20日間 ①	第49日	政治史1—政治制度—
		第50日	政治史2—法制—
		第51日	政治史3—議会政治史—
		第52日	政治史4—事件・政権の推移—
		第53日	対外関係史1—古代～近世の対外関係—
		第54日	対外関係史2—近代の国別交渉史—
		第55日	対外関係史3—近代の国際関係と条約—
		第56日	社会経済史1—土地制度史—
		第57日	社会経済史2—社会史—
		第58日	社会経済史3—社会運動史—
		第59日	社会経済史4—諸産業・商業史—
		第60日	社会経済史5—貨幣・交通史など—
		第61日	社会経済史6—近代経済史—
第5巻	部門別20日間 ②	第62日	文化史1—宗教史—
		第63日	文化史2—学問・思想史—
		第64日	文化史3—教育史—
		第65日	文化史4—文芸・ジャーナリズム史—
		第66日	文化史5—美術・工芸・建築史—
		第67日	文化史6—時代と文化・外来文化など—
		第68日	地域史
		第69日	人物問題1—系図—
	観点別7日間	第70日	人物問題2—事績—
		第71日	地図と地名
		第72日	年表とできごと
		第73日	史料の総合問題
		第74日	グラフ・図表問題
		第75日	総合問題
		総合演習	第76日
	第77日		総合演習(2)—記述中心の問題—
	第78日		総合演習(3)—史料重視の問題—
第79日	総合演習(4)—発展的な難問—		
第80日	総合演習(5)—論述問題—		
付録	第1回	総仕上げチェック(1)	
	第2回	総仕上げチェック(2)	
	第3回	総仕上げチェック(3)	
	第4回	総仕上げチェック(4)	
	第5回	総仕上げチェック(5)	

TRAINING PAPER  
**DAILY PROGRAM**

大学受験デイリープログラム 80日

高校3年 日本史